2001年度

履　修　要　綱

白鷗大学　経営学部

ビジネス コミュニケーション学科

２００１年度

履修要綱

Ⅰ 教育目標

Ⅱ 科目履修案内

Ⅲ 講義内容

A 外国語科目

B 教養科目

C 専門科目

D 教職課程科目
随意科目

Ⅳ 学内配置図

Ⅴ 索　　引

経営学部

ビジネス コミュニケーション学科

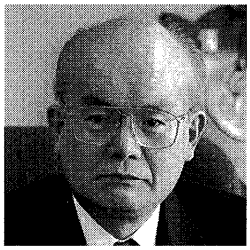
2001(平成13)年度 年間行事予定表

前期（4月1日～9月16日）

	日	月	火	水	木	金	土	おもな行事予定
4月	1	2	3	4	5	6	7	4月 2日（月） 入学式　ガイダンス(1) 3日（火） 健康診断／1年生（男子）　コンピュータ基礎実習 4日（水） 英語テスト　ガイダンス(2) 5日（木） 健康診断／1年生（女子）　ガイダンス(3) 6日（金）・7日（土） 新入生オリエンテーション 9日（月） 前期授業開始 16日（月）・17日（火） 履修登録日（全学生） 19日（木） 履修登録予備日　＊未提出の理由を裏付ける第三者の「証明書」必要。 29日（日） みどりの日 30日（月） みどりの日 振替休
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	㉙	㉚						
5月			①	②	③	④	⑤	5月 1日（火） 開学記念日 振替休 2日（水） 休業日 3日（木） 憲法記念日 4日（金） 国民の休日 5日（土） 子供の日 28日（月）・29日（火） スポーツ大会
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	7月 17日（火） 前期授業終了 18日（水）・20日（金）・21日（土） 補講期間・海の日 23日（月）～31日（火） 前期定期試験期間
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	⑳	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
8月				1	2	3	4	8月 1日（水） 夏期休暇開始
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
9月							1	9月 15日（土） 敬老の日 16日（日） 夏期休暇終了 17日（月） 後期授業開始 23日（日） 秋分の日 24日（月） 振替休
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	⑮	
	16	17	18	19	20	21	22	
	㉓	㉔	25	26	27	28	29	
	30							

注）― 線内：ガイダンス、授業・試験期間　○印：祝祭日、振替休、開学記念日等

後期（9月17日～3月31日）								
	日	月	火	水	木	金	土	おもな行事予定
10月			1	2	3	4	5	6	10月 8日（月）体育の日
	7	⑧	9	10	11	12	13	20日（土）父母懇談会
	14	15	16	17	18	19	20	25日（木）午後：準備
	21	22	23	24	25	26	27	26日（金）終日：準備
	28	29	30	31				27日（土）〜28日（日）白鷗祭
								29日（月）終日：後片付け
								30日（火）28日の代休
11月						1	2	③	11月 3日（土）文化の日
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	23日（金）勤労感謝の日
	18	19	20	21	22	㉓	24	留学生シンポジウム
	25	26	27	28	29	30		
12月								1	12月 19日（水）〜22日（土）補講期間
	2	3	4	5	6	7	8	23日（日）天皇誕生日
	9	10	11	12	13	14	15	24日（月）振替休
	16	17	18	19	20	21	22	25日（火）冬期休暇開始
	㉓	㉔	25	26	27	28	29	
	30	31						
1月				1	2	3	4	5	1月 5日（土）冬期休暇終了
	6	7	8	9	10	11	12	7日（月）後期授業再開
	13	⑭	15	16	17	18	19	14日（月）成人の日
	20	21	22	23	24	25	26	19日（土）〜20日（日）大学入試センター試験（休講）
	27	28	29	30	31			21日（月）後期授業終了
								22日（火）〜2月2日（土）後期（学年末）定期試験期間
2月							1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	4日（月）春期休講開始
	10	⑪	12	13	14	15	16	11日（月）建国記念日
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28			
3月							1	2	3月 15日（金）卒業式・謝恩会（予定）
	3	4	5	6	7	8	9	21日（木）春分の日
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	㉑	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

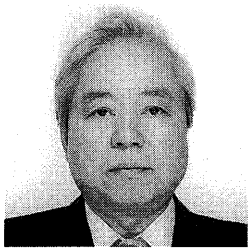


大学とは何んだろうか

学長　小山宙丸

諸君は、今青春の真只中にいる。その只中にいる諸君は、その青春の意味をあまり考えないかも知れない。けれども青春は人生の花の時期なのだ。その花の時の中心を形づくるのが、大学時代だ。大学では、高校時代と違って、自分で決めてゆくことが、ぐんと多くなる。これは当然で、社会人になる第一歩なのだ。受身でいてはいけない。大学のうわずみだけをなめて、時間をすごしてしまうのは、大変残念だ。大学は、諸君がみずから問題を立ててそれに取り組むなら諸君の問題に応じて、いくらでも応えてくれるところなのだ。サークルやスポーツにも全力でぶつかっていってほしい。大学の諸機関をフルに利用し、時に応じて、青年期の大事な4年間をそこに身をおく大学とは何だろうか、何をするところだろうかを考えて欲しいのだ。大学時代の大事なことに多くの人が、過ぎてしまってから気づく。花は愛惜に散るのだ。

大きく眼を開くと、今年は百年の変わり目である。さらに大きく見れば、千年の変わり目でもある。今、日本は不況に苦しみ、そして教育にも苦しんでいる。それ故、自分を見つめ、そして時代の流れにも、充分に注目してほしい。現代は、そうはいっても、もっとも興味ある時代でもあるのだから。日本の行末をみつめ、自からもその中に身をおく一人となってほしい。



目標を早期に定め、実践力・思考力を磨こう。

経営学部長　佐　野　　真

新世紀を迎え、思川のほとりの白鷗大学キャンパスに熱き希望と大志を抱いて舞い降りた新入生諸君を熱烈に歓迎するものである。

新入生諸君にまず第一に望みたいのは大学で何を学び、将来どのような進路を選択するか、という具体的目標をできるだけ早期に定めることである。

21世紀の世界は、経済、文化、社会などすべての分野でグローバル化、ボーダーレス化の進展とインターネットを基盤としたネットワーク社会の急激な展開が不可避である。本学経営学部の新学科「ビジネスコミュニケーション学科（以下略称BC学科）」はまさにこうした時代の必然的要請に応えるべく開設されたもので、「BC学科」の３本柱である「プラクティカルな英語能力」「情報処理スキル」「ビジネス専門知識」のいわば“マルチ能力”の修得が諸君らに期待されている。こうした多角的、実践的な技能・知識を身に付けた諸君には国際ビジネス最前線でのキャリアとネットワークエンジニアへの道が開かれている。

本学経営学部経営学科における教育目標は「国際社会と地域社会に貢献し得る人材の育成」であり、これに沿った、社会に役立つ実学的なカリキュラム編成に重点がおかれている。したがって諸君は専門分野での理論的知識の学習ばかりではなく、社会へでてからそれらを活用し得る実践的能力、仕事能力を磨くことも大学で学ぶ上での重要な課題であることを銘記していてほしい。しかし、いま一つ、大学で学ぶということで忘れてはならないのは、あらゆる問題に「なぜ？」と問いかける積極的な姿勢、物事についての自主的な判断力の涵養である。複雑極まりない時代状況を的確に捉え、既成のパラダイムを打ち破る変革志向が要請されている今日においてはなおさらそれらは必要不可欠と言える。

この点、本学経営学部は、経営学、会計学など専門分野のほか一般教育科目、語学の分野にも経験を積んだ個性豊かな教員に恵まれている。諸君はこうした教員との個人的対話を積極的に試みることで人間的にも自己を高めることが可能なのである。これらすべては学生諸君一人一人の熱意、自主性にかかっているのである。

研鑽を積み、教養を磨き、実践的能力を身に付け、青春を燃焼させて充実した４年間の大学生活を送ることでたくましさを増した若きカモメの学生諸君が思川のほとりのキャンパスから雄々しく世界へ飛翔していくことを切に望んでいる。

目　　次

Ⅰ　教育目標 …… 1

1　教育目標　　2　教育の体系

Ⅱ　科目履修案内

A　教育課程 …… 7

1　単位の計算　　2　単位の認定・評価
3　授業科目の区分・性格および開講形態　　4　履修年次
5　年間最高履修単位　6　進級について　7　修業年限および在学年限　8　卒業要件

B　履修の規準

1　各科目群の履修方法 …… 11

(1)　基礎ゼミナール　　(2)　Ⅰ群：外国語科目の履修方法
(3)　Ⅱ群：教養科目の履修方法　　(4)　Ⅰ・Ⅱ群：留学生に係わる科目の履修方法
(5)　Ⅲ群：総合科目の履修方法　　(6)　Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群：専門科目の履修方法
(7)　Ⅶ群：特講・ゼミナール・卒業研究の履修方法　(8)　自由選択科目について
(9)　随意科目の履修について　　(10)　他大学・他学部等履修可能科目について

2　再履修について

C　SAP（海外留学プログラム）について …… 28

D　履修モデルプラン …… 30

E　教職課程 …… 37

1　基礎資格と取得単位数　　2　諸注意事項

F　履修の手続き（履修登録および履修確認） …… 44

1　履修登録に際しての注意　　2　履修届の提出期日・提出方法
3　『履修届』作成上の注意（記入方法）　4　履修登録科目の確認について

G　試験および成績 …… 51

1　試験について　　2　成績の評価・発表について　　3　卒業発表

Ⅲ　講義内容

基礎ゼミナール …… 58
A　外国語科目 …… 59
B　教養科目 …… 78
C　専門科目 …… 153
D　教職課程科目 …… 276
随意科目

Ⅳ　学内配置図 …… 287

Ⅴ　索　　引 …… 305

Ⅰ　教　育　目　標

1．教育目標

＊英語で話したり、ｅ-mail を使って外国の人びととコミュニケーションできる。
＊複数のコンピュータのアプリケーションを使って、仕事を正確にスピーディーにこなすことができる。
＊プランを自分で企画し、プレゼンテーションできる。

社会は、こういう能力を君たちに求めている。

経営学部は、国際的に活躍できる人材を育成することを教育目標として、多くの人材を輩出してきたが、今年開設されたビジネス コミュニケーション学科（以下、略称BC学科）は、英語とコンピュータの運用能力を身に付け、経営、経済の専門知識と国際感覚をもった人材を育成することに重点を置く。

21世紀の世界は、経済活動、文化活動などすべての人間の活動がいっそうグローバル化、ボーダレス化し、インターネットを基盤としたネットワーク社会が急激に展開してゆくとみられる。デジタル革命は、ポスト工業化（脱工業化）社会をいっそう進展させ、知的・サービス社会へ向けて科学技術、ビジネス、政治経済、ライフスタイルを劇的に変えてゆくに違いない。

今まで以上に、国際的なコミュニケーション能力が要求されると同時に、ひとりひとりの知的創造性や社会へのサービス提供能力、磨かれた個性が要求される時代になる。

ＢＣ学科のカリキュラムは

1　グローバル化に対応した実践的英語コミュニケーション能力の育成
2　情報化社会に対応したインターネットやコンピュータの運用能力の育成
3　グローバル化のもとで新しい企業行動、投資行動などを理解し、企業経営をグローバルな視点から展開する基礎能力、さらには新しい形態の事業を創設していける企業家精神と実践的行動が可能となる基礎能力の育成

を目標に掲げ、構成されている。

君たちは、BC学科の第一期生である。
自分の将来目標を早めに決めて、ステップ バイ ステップ 自分の能力を高めていくこと。
教職員は、真面目に努力する君たちをサポートし、アドバイスを惜しまない。

2．教育の体系

本学科は、諸君が学びやすいように、カリキュラムを体系的に用意している。
履修モデルを参考にして、着実に学ぶこと。

①「基礎ゼミナール」（導入教育）

大学での学び方の訓練を行うのが「基礎ゼミナール」である。勉強の目標の立て方、履修計画の立て方をアドバイスし、レポートの書き方、討論の仕方など 大学で学ぶために必要な基礎的なことを身につける.。また、図書館や情報センターの利用の仕方をアドバイスする。
１年生の前期にクラス分けされるので、必ず出席しなければならない。
この単位を取ることは、“SAP（海外留学プログラム）”の受講資格条件となる。

②「外国語科目」（第Ⅰ群）

大別すると必修英語科目、選択英語科目、選択第二外国語科目が含まれている。
英語のカリキュラムは必修科目を Core（核）に外国語科目の履修方法の項で詳述する３つの Phase（段階）から構成されており実践的コミュニケーション能力の向上を目的としている。
必修英語科目はPlacement Test（配置テスト）の結果を基にそれぞれの学生に適した難度の授業を受講できるようにしてあるので、努力する意志さえあれば入学時点での英語力を不安視する必要がないことが特色である。
選択英語には必修科目の授業では十分カバーできない分野や、中ー上級レベルの言語活動を目指した科目が用意されている。
選択第二外国語科目は主に初心者ー中級者を対象に開講されており、専門科目や英語科目の学習でまだ余力のある学生は受講してほしい。

③「教養科目」（Ⅱ・Ⅲ群）

ここには、専門科目を学ぶ上で不可欠で重要な学問が揃えてある。
哲学・文学・自然科学・歴史学・社会学・政治学・健康科学などである。これらは、社会人として必要な教養として身につける必要のある科目である。

④「専門科目」（Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ群）

ここには、専門知識を学ぶ各領域の科目がたくさん配置されている。
必修科目・選択必修科目で基礎的・基本的な科目を学び、さらに選択科目で応用的な分野へステップアップする。専門科目には、10の分野がある。自分の学習目標に従って選択して履修すること。
ゼミナールには、「（専門）ゼミナール」と「教養ゼミナール」（Ⅲ群）が用意されている。
多くの学生が積極的に履修することを期待している。

⑤「SAP（海外留学プログラム）」

正式名称：Hakuoh University Study Abroad Program〔**白鷗大学海外留学プログラム**〕
通　　称：SAP〔**エス・エイ・ピー**〕

SAP（エス・エイ・ピー）はBC学科の全学生を対象とした海外留学制度である。原則として２年次後期に約３ヶ月間、英語圏でのホームステイや寮生活をしながら大学付属の英語集中講座に通学する。母国語でない英語を媒体としながらも双方向のコミュニケーションスタイルに慣れ、その結果として多くの日本人が苦手としている発信の重要性を直接体験していき英語コミュニケーション能力を高めてもらう。２年次前期までに培った英語基礎力を実践の場で試してみるチャンスであると同時に留学後の更なる英語学習の前提となるプログラムである。

II　科目履修案内

A. 教　育　課　程

――単位制と単位について――

本学における授業科目の履修については、文部省の「大学設置基準」に定められた単位制に基づいて行われる。単位制とは、所定の科目を履修することにより、それらの科目ごとに定められている単位を順次取得し、原則として４ヶ年の在学期間のうちに卒業に必要な単位を取得する制度である。
単位制における単位とは、その科目を修得するのに必要な学修時間を示したものであるが、**１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。**単に授業を受けるだけではなく、教室において行われる学修指導に留意し、授業の準備のための学修時間をも重視しながら、自主的に研究を進める必要がある。
こうして単位を集積し、卒業の要件を満たしていくことになる。
従って、卒業の要件を満たしていくうえでの、最も基本的な事項なので、単位制についての正しい理解が要求される。

1．単位の計算

単位の計算　単位計算は、次の区分によるものとする。

講義・演習の科目：毎週１回（90分）で通年授業（30週）――― ４単位
毎週２回（90分）で半期授業（15週）――― ４単位
毎週１回（90分）で半期授業（15週）――― ２単位

2．単位の認定・評価

単位の認定　履修した単位の認定は、原則として定期試験の結果によるが、授業科目によっては教室における授業時間中の筆記試験、レポートの提出、平素の学修状況等により、総合的に考慮して判定することがある。

成績の評価　学業成績の評価は、次のようになる。
評価対象外とは、未受験または出席不良などの場合をいう。

判　定	合　格				不合格	失　格
評　価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	評価対象外
	S	A	B	C	D	H

3．授業科目の区分・性格および開講形態

授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

Ⅰ群：外国語科目
Ⅱ群：教 養 科 目
Ⅲ群：教養ゼミナール・総合科目
Ⅳ群：専門必修科目
Ⅴ群：専門選択必修科目
Ⅵ群：専門選択科目
Ⅶ群：上記以外の科目
随意：随 意 科 目

科目区分の性格

授業科目の性格は、次のように区分される。

(1) 必 修 科 目：必ず履修しなければならない科目。

(2) 選択必修科目：定められた一定の範囲の中から、必要な科目数だけ必ず履修しなければならない科目
※専門科目のうち、卒業所要単位数を超えて取得した“選択必修科目”の単位は選択科目に算入できる。ただし当然のことながら、“選択必修科目”と“選択科目”の両方に算入することはできない。

(3) 選 択 科 目：選択自由な科目

(4) 随 意 科 目：卒業所要単位には含まれない講師の自発的な開設科目

開 講 形 態　本学では、平成11年度よりセメスター制を導入している。

セメスター制

1年間を2つの学期に分割し、授業科目をその学期ごとに完結する授業形態をいう。
すなわち、セメスター制の下での1年は、前期・後期の独立した学期から構成されるため、定期試験・成績発表は学期ごとに行われる。
該当年度の「時間割」は年度始めに公示し、履修登録は4月中旬に実施する。

セメスター制への移行に伴い、授業形態を大別すると次のようになる。

4単位科目：
①週1回（90分）で通年授業（30週）
例)「通年科目」：外国語科目・ゼミナールはこの開講形態。
②週2回（90分）で半期授業（15週）
例）主に4単位の講義科目がこの形態をとる。

2単位科目：
①週1回（90分）で半期授業（15週）
例）主に2単位の講義科目がこの形態をとる。

4．履　修　年　次

履修年次　授業科目により、履修できる年次が決められている。これらの科目については、高学年の学生が低学年の授業科目を履修することはできるが、低学年の学生は高学年の授業科目を履修することはできない。
科目の性質によりステップを踏んで履修した方が学修効果が上がるものがあるため、『履修要綱』を参照し、学修手順に十分配慮して履修することが望ましい。

5．年間最高履修単位

年間最高履修単位

年間最高履修単位とは、１年間に取得できる単位の上限を示す。
年間最高履修単位は40単位である。
すなわち、年間に40単位を超える単位は取得できない。〔教職、随意科目は含まない。〕

6．進級について

進級要件　進級要件は特に定めない。従って、休学等の場合を除き４年次まで進級する。
４年間で卒業所要単位を充足できない場合は、4年次に留まることになる。

7．修業年限および在学年限

修業年限　修業年限は４年とする。
在学年限　在学年限は、特別な場合を除き８年とする。〔『学則』参照のこと。〕
３年次編入学者・転部者の在学年限は、４年を超えることはできない。

8．卒　業　要　件

卒業認定　4年以上在学し、下記の科目・分野ごとの所要単位以上を取得した者に教授会の議を経て学長が卒業を認定する。卒業を認定された者には、卒業証書が授与されると共に、学士（経営学）の学位が与えられる。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">科　目　群　名</th><th colspan="4">卒　業　所　要　単　位　数</th></tr>
<tr><th>必修</th><th>選択</th><th>自由選択</th><th>合　計</th></tr>
<tr><td rowspan="3">Ⅰ群：外国語科目</td><td>(1)第一外国語［必修英語］</td><td>14</td><td rowspan="4">30
～</td><td rowspan="8">20
単
位
以
上</td><td rowspan="8">124
単
位
以
上</td></tr>
<tr><td>(2)第二外国語［選択英語］</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>(3)選択外国語</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅱ群：教養科目</td><td>10</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅲ群：総合科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅳ群：専門科目（必修）</td><td>20</td><td rowspan="3">74
～</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅴ群：専門科目（選必）</td><td>12</td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅵ群：専門科目（選択）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">Ⅶ群：上記以外の科目</td><td>外書講読・特講・ゼミナール・卒業研究</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

卒業見込証明書の発行条件

「卒業見込証明書」については、白鷗大学の4年次に在籍する学生で、4月1日以降 正規に卒業が見込まれる者に対して発行する。

B. 履　修　の　規　準

――― 各科目の履修方法について ―――

大学の授業科目は、Ⅰ群：外国語科目・Ⅱ群：教養科目・Ⅲ群：総合科目・Ⅳ群：専門科目（必修）・Ⅴ群：専門科目（選必）・Ⅵ群：専門科目（選択）・Ⅶ群：上記以外の科目に区分され、各群で取得しなければいけない単位数が学則によってきめられている。
そしてさらに、各区分の中には細かな規定があり、それに従って単位を取得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。
そこで、ここでは開設授業科目やその単位、履修年次、そして卒業するために必要な単位数などを表にして示してあるので、熟読すること。

1．各科目群の履修方法

(1)　基礎ゼミナール

「基礎ゼミナール」は、大学教育の前提となる大学における「学び方」を学ぶための「導入教育」である。1年生の前期にクラス分けされるので、必ず履修しなければならない。
大学の授業は、高校の「お仕着せ」型の教育とは違い、勉強の目標を自分で考え、履修計画を立て、その計画に従って勉強していくものである。また、レポートを書いたり、討論をしながら学ぶ授業が多くなり、図書館で本を探したり、インターネットで情報を検索することも必要となってくる。
そのために、大学での学び方の訓練を行うのが「基礎ゼミナール」である。

※この科目を履修し単位を取得することが“SAP（海外留学プログラム）”の前提条件の1つになっているので、1年次に必ず取得すること。

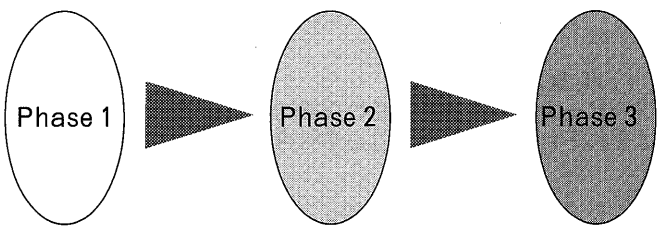
「基礎ゼミナール」のクラスは4年間継続し、担任の先生は学生諸君の学習や個人的な悩み事の相談、進路相談などにも応じることになっている。担任の先生の研究室を積極的に訪ねること。

(2)　Ⅰ群：外国語科目の履修方法

英　語

● **指導方針**

本学科の英語カリキュラムは後に示すPhase 1、Phase 2、Phase 3と呼ばれる3つの段階が含まれており、実践的英語コミュニケーション能力の養成を主目的として編成されている。



［基礎拡充期］　［実践利用期］　［確認応用期］

Phase 1
カリキュラム上 第1段階に位置づけられるPhase 1では学生の基礎英語力の拡充と英語コミュニケーションに対する不安払拭を目指して指導していく。特に必修科目に対しては、入学時点の英語習熟度によるクラス編成が取られるので学生の英語力に適した授業を提供して理解度・満足度ともに高めていきたい。

Phase 2
第2段階のPhase 2はSAP（留学）期間中となる。多くの学生にとって初めての体験となるであろう英語圏への留学では、学習・生活両方に英語コミュニケーションが必要となり様々な問題にも直面することになるであろう。しかし、困難を克服する体験をすることこそ英語コミュニケーションに対する“正しい態度”―― 間違いを恐れず発信する姿勢 ―― を身につける最良の方法であるので、Phase 1で習得した英語の基本を活かして何事に対しても積極的に臨んでもらいたい。

Phase 3
Phase 1とPhase 2で培った基礎英語力と英語コミュニケーションに対する自信を基盤として、総合的な英語コミュニケーション能力を高めてもらいたい。必修科目の英語VI（Oral English）だけでなく選択英語科目を並行して受講してもらいReading、Writing能力もさらに伸ばし、この段階での主目的であるTOEICでの目標得点到達をぜひ果たしてもらえるよう指導していく。また、SAP（留学）期間に英語力とコミュニケーション能力が伸びた学生の知的好奇心を満足させるため、経営学等専門科目授業の一部を英語のネイティブスピーカーが担当していくことも予定している。

● 習熟度別クラス編成
本学科の学生を対象に入学直後に英語力測定試験を実施する。この結果と英検等の英語関連資格を考慮して学生はHigh Intermediate（中級上位）、Low Intermediate（中級下位）、Beginning（初級）のいずれかのレベルに相当するクラスに配置される。習熟度別クラス編成をする主な目的は、教育効果を最大にすることと適正レベルでの受講をすることで、授業に対する満足度を高めてもらうことにある。学生を英語力で差別するために習熟度別クラス編成をしているのではないことは十分理解してもらいたい。それぞれのレベルの卒業時点までのTOEICとSTEP（英検）での到達目標を表に示しておく。

レ　ベ　ル	TOEIC	STEP（英　検）
High intermediate （中級上位）	730 点	Pre 1 （準1級）
Low intermediate （中級下位）	600 点	2 （2級）
Beginning （初級）	470 点	Pre 2 （準2級）

なお、2年次必修科目の英語Vに対するクラス分けは、1年次終了時で見直され、3年次必修科目の英語VIに対するクラス分けも、2年次の終了時に見直される。

● 科目の関連
Oral（英語Ⅰ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅸ）
英語ネイティブスピーカーによる英会話の授業である。
英語Ⅰ、Ⅴ、Ⅵはそれぞれ1、2、3年次の必修科目、Ⅸは中・上級の選択科目である。

英文法（英語Ⅱ）
専門的なものでなく、コミュニケーションの道具としての基本的な文法知識の修得を目指す1年次の必修科目である。読み、書き、聞き、話す活動を融合させた授業展開をする。

Reading（英語III、X）
英語を和訳することなく英語のまま理解するトレーニングを行う。英語IIIは1年次必修科目、Xは中級レベルの選択科目である。

Writing（英語IV、XI）
日本文を英文に直すという方法でなく、ある話題について自分の考えを英語で表現するトレーニングをする。口頭発表の機会を設け、ライティングがスムーズにスピーチにつながるよう配慮する。英語IVは1年次必修科目、XIは中級レベルの選択科目である。

Vocabulary（英語VII）
海外旅行や留学の際に必要になると思われる語彙を中心に学習する。その際、接頭語、接尾語など単語を構成する要素にも注目する。選択科目であるが、留学準備という意味でも1年次に履修しておくことが望ましい。

英語の音声（英語VIII）
音声学の基礎的理論に触れながら発音練習、聞き取り訓練を行う選択科目である。

● 英語検定試験対策

※ 科目群に関わらず英語関連資格試験を表示。

最近、英検やTOEICのスコアを社員の採用や入社後の昇進条件として課す企業が増加している。将来の可能性を英語によってせばめられないようにするためにも、積極的な検定試験の受験が望まれる。

TOEIC Listening I・II
TOEICの出題傾向にあわせた聴き取り教材の演習・解説を行う。Iの授業では、比較的難度の低いパート1からパート3での得点アップにフォーカスを当てリスニングセクションで235点以上の得点を目指す。IIの授業では、まとまった量を聴かされた上でその内容を問われるパート4での得点を高めることをねらい、複数の英文から構成されるアナウンスや天気予報などを聴き、リスニングセクションで300点以上の得点ができることを目指す。

TOEIC Reading I・II
出題傾向に合わせた教材を用いて演習・解説を行う。Iの授業では、パート5とパート6で問われる文法・語法・構文・熟語・単語に関する知識を増やすことにフォーカスを当て、リーディングセクションで235点以上の得点を目指す。IIの授業では、パート7で出される文章に対する読解の技術を学び解答速度を高め、リーディングセクションで300点以上の得点を目指す。

STEP Preparation (2)
英検2級の出題傾向（たとえば、2級では熟語の知識を問われることが多い）をとらえ、それに対して準備を行っていき2級合格を目指す。2次試験での面接対策も取りいれた指導を行っていく。

STEP Preparation (pre 1)
英検準1級は、2級と比べると単語のレベルがかなり高くなる。このため、この授業では語彙力の増強を念頭に置いた指導が行われる。また、2次試験対策として4コマ漫画を英語で説明する練習も可能な限り取り入れ、準1級合格を目指す。

TOEFL Preparation
正規留学を希望する学生に課されるTOEFLの試験対策授業である。TOEICが日常生活やビジネスシーンでの英語が中心となっているのに対し、TOEFLは専門的、学術的な文章が出題されるのが特徴であり、この出題傾向に即した準備ができるよう授業は進められる。国内・海外を問わず大学院への進学を考えている学生にも適した科目である。

● SAP（海外留学プログラム）

後に詳述するが、２年次後期に海外留学することになっている。
これは英語を目的としてでなく、手段として学習する絶好の機会であり、留学前には英語学習への動機を与え、帰国後もさらなる学習への刺激となるものである。
しかし、留学が成功するか否かは各学生が自分自身にどれだけ厳しくできるかの１点にかかっている。日本人同士で固まって授業時以外は日本語しか話さないということでは留学している意味がない。息抜きは必要であるが積極的に異文化に溶け込んでいく勇気を見せてもらいたい。

※ 次の科目を１年次に取得していることを、“SAP（海外留学プログラム）”の前提とする。

①「基礎ゼミナール」　（２単位）
②「英語Ⅰ～Ⅳ」　　（１年次必修英語・10単位）
③ Ⅳ群：専門必修科目（１年次全必修　・14単位）

＊学生全員に面接を実施し、留学への適性を判断する。

選択外国語

英語以外にも選択の外国語として以下のものを用意している。

ドイツ語（Ⅰ～Ⅳ）　フランス語（Ⅰ～Ⅳ）　中国語（Ⅰ～Ⅳ）　スペイン語（Ⅰ～Ⅳ）
コリア語　ロシア語

それぞれⅠは入門レベル、Ⅱは初級レベル、Ⅲは中級レベル、Ⅳはその発展である。
コリア語、ロシア語は基礎入門レベルのみの開講となる。

外国語科目配当表

	科　　目	単位	年次	担　　当　　者	摘　　要
必修英語	英語Ⅰ（Oral）	4	1	W.スミダ　D.ワタナベ　M.シャック R.ポーリー　H.マルヤマ　L.ラインボールド	「英語Ⅰ」は週2コマ ①必修科目（14単位） ※通年科目
	英語Ⅱ（英文法）	2	1	藤森吉之	
	英語Ⅲ（Reading）	2	1	M.シャック	
	英語Ⅳ（Writing）	2	1	W.スミダ　新川清治　D.ワタナベ 向井千代子　R.ポーリー	
	英語Ⅴ（Oral）	2	2	（2年次開講科目）	
	英語Ⅵ（Oral）	2	3	（3年次開講科目）	
選択英語	英語Ⅶ（Vocabulary）	2	1	新川清治	②（Ⅱ群を含む） ①＋②＋③ ＝30単位以上
	英語Ⅷ（英語の音声）	2	1	松井恭子（藤森吉之）	
	英語Ⅸ（Oral）	2	2	（2年次開講科目）	
	英語Ⅹ（Reading）	2	2		
	英語Ⅺ（Writing）	2	2		
	TOEIC Reading Ⅰ	1	2		
	TOEIC Listening Ⅰ	1	2		
	TOEIC Reading Ⅱ	1	2		
	TOEIC Listening Ⅱ	1	2		
選択外国語	ドイツ語Ⅰ	4	1	的場哲朗	③（Ⅱ群を含む） ①＋②＋③ ＝30単位以上
	フランス語Ⅰ	4	1	C.アマン	
	中国語Ⅰ	4	1	陳　順和	
	スペイン語Ⅰ	4	1	髙橋節子	
	ドイツ語Ⅱ	4	2	（2年次開講科目）	
	フランス語Ⅱ	4	2		
	中国語Ⅱ	4	2		
	スペイン語Ⅱ	4	2		
	ドイツ語Ⅲ	4	2		
	フランス語Ⅲ	4	2		
	中国語Ⅲ	4	2		
	スペイン語Ⅲ	4	2		
	ドイツ語Ⅳ	4	2		
	フランス語Ⅳ	4	2		
	中国語Ⅳ	4	2		
	スペイン語Ⅳ	4	2		
	コリア語	2	2		
	ロシア語	2	2		

Ⅰ群：外国語科目／卒業所要単位

外国語科目
- ① 第一外国語（必修英語）必修14単位
  - 1年次必修（10単位）：「英語Ⅰ(4)」「英語ⅡⅢⅣ(各2)」
  - 2年次必修（2単位）：「英語Ⅴ(4)」
  - 3年次必修（2単位）：「英語Ⅵ(2)」
- ② 第一外国語（選択英語）
- ③ 第二外国語（選択外国語）

②＋③＋③（Ⅱ群：教養科目と併せて）
＝30単位以上

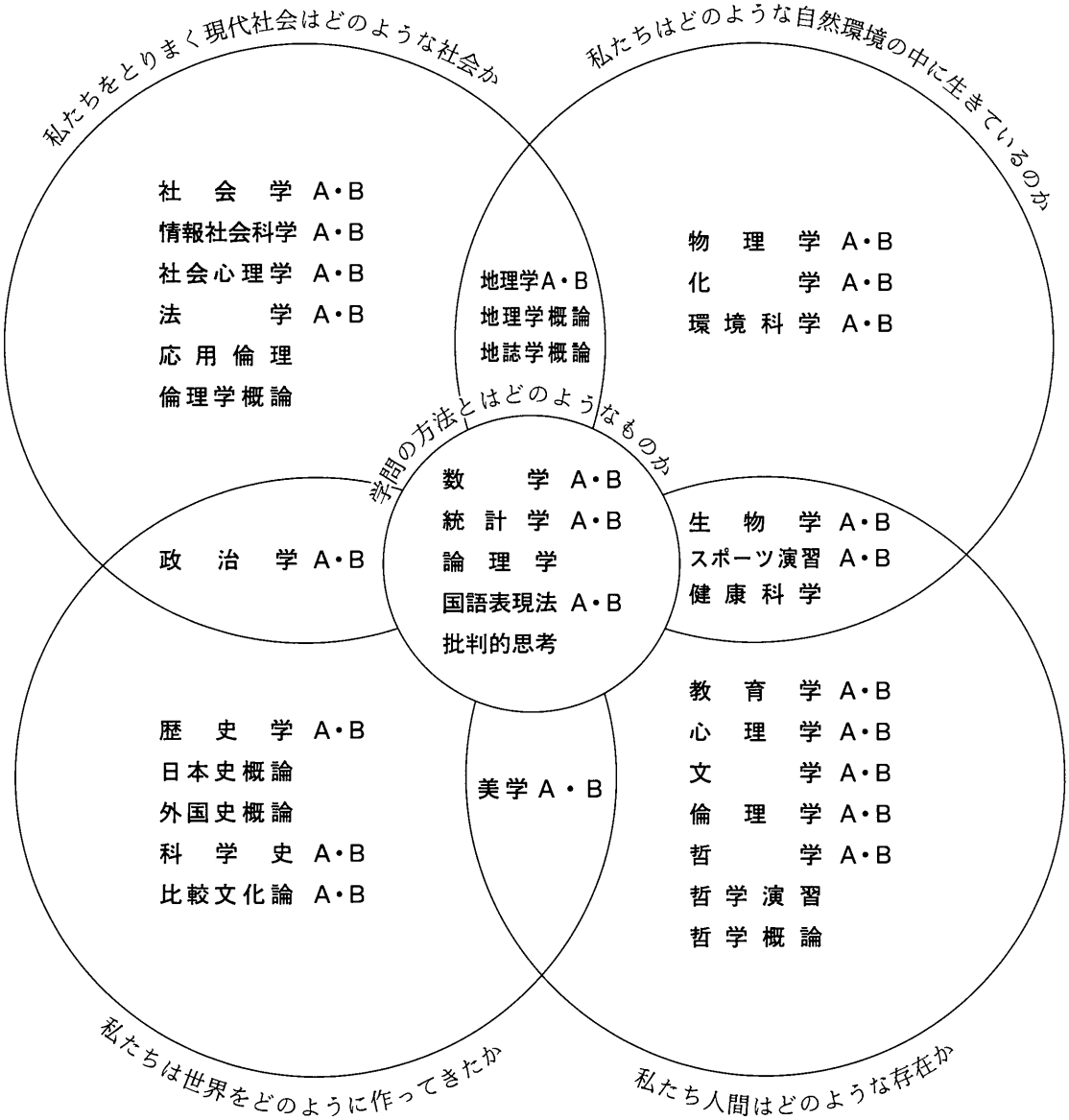
(3) II群：教養科目の履修方法

教養科目一覧表

科目	単位	年次	担当者	科目	単位	年次	担当者	摘要
歴史学A	2		三浦(顕)・村尾	統計学A	2		沖津 直	
歴史学B	2		三浦(顕)・村尾	統計学B	2		沖津 直	
日本史概論	2		村尾元忠	心理学A	2		神戸・中谷	
外国史概論	2		松嶌明男(清水正義)	心理学B	2		神戸・中谷	
地理学A	2		奥澤信行	社会心理学A	2		細田一秋	
地理学B	2		奥澤信行	社会心理学B	2		細田一秋	
地理学概論	2		奥澤信行	政治学A	2		福岡政行	
地誌学概論	2		奥澤信行	政治学B	2		福岡政行	
倫理学A	2		的場哲朗	情報社会科学A	2		森川信男	
倫理学B	2		的場哲朗	情報社会科学B	2		森川信男	
応用倫理	2		渡辺 忠	教育学A	2		萩原元昭	
倫理学概論	2		的場哲朗	教育学B	2		萩原元昭	
哲学A	2		渡辺 忠	環境科学A	2		石倉洋子	
哲学B	2		渡辺 忠	環境科学B	2		石倉洋子	④
哲学概論	2	1～	渡辺 忠	※数学A	4	1～	黒澤和人	
＊哲学演習	4		渡辺 忠	＊数学B	4		(平成13年度休講)	
文学A	2		向井千代子	物理学A	2		師 啓二	
文学B	2		針生 進	物理学B	2		師 啓二	
＊論理学	4		渡辺 忠	化学A	2		石倉洋子	
批判的思考	2		渡辺 忠	化学B	2		石倉洋子	
国語表現法A	2		青柳好信	生物学A	2		上田高嘉	
国語表現法B	2		青柳好信	生物学B	2		上田高嘉	
美学A	2		塚原哲夫	科学史A	2		石倉洋子	
美学B	2		塚原哲夫	科学史B	2		石倉洋子	
比較文化論A	2		小山宙丸					
比較文化論B	2		小山宙丸					
社会学A	2		山本・今野					
社会学B	2		山本・今野	☆スポーツ演習A	2		竹島・野間	
法学A	2		鋤本豊博	☆スポーツ演習B	2		竹島・野間	
法学B	2		鋤本豊博	☆健康科学	2		竹島・野間	

注）＊：半期（週2コマ）開講の授業科目
※：通年（週1コマ）開講の授業科目
「スポーツ演習」は、実技科目のため受講者数を調整することがある。
初回授業には必ず出席し、担当教員の指示に従うこと。（顔写真：縦4×横3cm1枚必要）
☆：履修上限（6単位）

II群［教養科目］の見取り図



(4) Ⅰ・Ⅱ群：留学生に係わる科目の履修方法

留学生科目として本学では、『日本語』『日本事情』を開講している。
卒業要件が一般学生、および留学生でも入学年度により異なるので注意すること。

日 本 語　留学生は、外国語科目として『日本語』を履修することが望ましい。

科目	単位	年次	担当者	摘要
日本語Ⅰ（会話・初級）	2	1～	山田 あき子	取得した単位は③選択外国語に集計される。
日本語Ⅱ（読解・初級）	2	1～	山田 あき子	
日本語Ⅲ（作文・初級）	2	1～	坂本 悦子	
日本語Ⅳ（会話・上級）	2	1～	山田 あき子	
日本語Ⅴ（読解・上級）	2	1～	金柿 玲子	
日本語Ⅵ（作文・上級）	2	1～	金柿・坂本	
日本語Ⅶ（総合：レポート作成・討論）	2	1～	金柿 玲子	

日本事情　留学生は、『日本事情』を履修することが望ましい。
「日本事情Ⅰ～Ⅳ」のうち、4科目（8単位）までⅡ群：教養科目に振り替え可。
同一教員で同一内容の授業は重複して履修することはできない。

科目	単位	年次	担当者	摘要
日本事情Ⅰ（社会・経済）	2	1～	樋口 兼次	4科目（8単位）までⅡ群：教養科目に振り替え可。
日本事情Ⅱ（歴史・政治）	2	1～	蔡 柱國	
日本事情Ⅲ（文化・文学）	2	1～	坂本 悦子	
日本事情Ⅳ（生活・風物）	2	1～	堀 眞由美	

(5) Ⅲ群：総合科目の履修方法

総合科目配当表

科目	単位	年次	担当者	摘要
総合科目Ⅰ	2	2～	（2年次開講科目）	
総合科目Ⅱ	4	2～		
教養ゼミナールⅠ	4	3	（3年次開講科目）	
教養ゼミナールⅡ	4	3		
卒業研究	4	4	（4年次開講科目）	

総 合 科 目　総合科目は、複数の学問領域に関連していて特定の枠に限定しにくい主題や、きわめて新しいためカリキュラム中の通常科目では扱えないような今日的主題などを講義する科目である。
原則として、複数の教員により単年度で開講される。
経営学部では、他とは独立した科目群に置かれ、取得した単位は、“自由選択”の単位に含まれる。

教養ゼミナール　教養ゼミナールは、教養科目を担当する教員の開くゼミナールである。学部の狭義の専門とは異なる分野の勉強を専門的に学ぶことができる。
経営学部では専門科目のゼミナールと区別して独立の科目群に置かれるが、履修上の扱いは専門ゼミナールと同様となる。
教養ゼミナールと専門ゼミナールを重複履修することはできない。
2年間同一教員の指導のもとで特定のテーマについて学修し、研究を深めていくことが原則（所属は1ゼミナール）。

※ 履修年次が3年次～のため、具体的なゼミナール名は記載していない。
※ 専門ゼミナールと併せて募集期間を設定するので、掲示に注意すること。

卒　業　研　究　履修年次は4年。同一ゼミナールを2年間履修した学生のみ履修することができる。
単位の認定は原則ゼミナール指導教員が行う。
3-4年ゼミナールを履修することになるため、ゼミナールⅡと並行して4年次に「卒業研究」を履修することになる。

(6) Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群：専門科目の履修方法

専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目の３種類に分かれている。
これらを合わせて最低74単位以上履修しなければならない。
選択必修単位（12単位）を超えて取得した単位数は、自動的に選択科目に算入される。
ただし、当然のことながら選択必修科目と選択科目の両方に算入することはできない。

専門教育科目

必修科目：	20	単位
選択必修科目：	12	単位
選択科目：	42	単位以上
合計：	74	単位以上

① 必修科目

必修科目には、BC学科の学生全員が必ず身につけておかなければならない９つの基本科目が用意されている。

- 経営学の基礎を学ぶための科目 … 経営基本論Ⅰ・Ⅱ
- 実用的な英語の基本を学ぶための科目 … 英語・情報リテラシー、国際ビジネス英語Ⅰ
- 情報の基礎を学ぶための科目 … 現代情報科学
- 国際的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基本を学ぶための科目 … ﾒﾃﾞｨｱ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
  異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論Ⅰ、人間関係論

Ⅳ群：専門科目［必修］一覧表

年次	ｾﾒｽﾀｰ	科目名	単位	担当者	卒業要件
１年	前期	経営基本論Ⅰ	2	森本三男　鷹野宏行	９科目 20単位
		英語・情報リテラシー	2	藤森吉之　J.ミラー　H.マルヤマ　小林正人	
		メディア コミュニケーション	2	菅谷　実	
		異文化コミュニケーション論Ⅰ	2	佐野　真	
	後期	経営基本論Ⅱ	2	沖津　直　藤井　健	
		ネットワーク コミュニケーション	2	菅谷　実	
		現代情報科学	2	樋口和彦	
２年	前期	国際ビジネス英語Ⅰ	4	（２年次開講科目）	
		人間関係論	2	（２年次開講科目）	

② 選 択 必 修

選択必修科目には、BC学科の学生が身につけるべき重要な21の科目が用意されている。
必要な科目をバランス良く履修することが必要であるが、自分の学習計画や進路を考えながら特に学びたい領域を選択し、重点的に履修して欲しい。

- 高度情報化社会、グローバル経済における経済、経営を見る目を養うための科目
  … ネットワーク社会の経済学、ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ など
- ＩＴ革命のもとで発展しているニュービジネスを学ぶための科目 … インターネット起業論
- 貿易や国際取引を学ぶための科目 … 貿易商務論、国際金融論など
- 世界を見る目を養うための科目 … 国際関係論
  (先進国からイスラム世界・アジア・ロシアなど各地域の講座を完備。)
- 実用的な英語能力を高めるための科目 … 国際ビジネス英語Ⅱ、時事英語など

Ｖ群：専門科目［選択必修］一覧

年次	セメスター	科目名	単位	担当者	認定上限	卒業要件
1～	半期	マネジメント コミュニケーションⅠ	2	藤井　健		12単位以上 認定上限を超えた取得単位数は、選択科目に算入。
	半期	マネジメント コミュニケーションⅡ	2	(平成13年度休講)		
	半期	インターネット起業論	2	(平成13年度休講)		
	半期	ネットワーク社会の経済学Ⅰ	2	大内秀明		
	半期	ネットワーク社会の経済学Ⅱ	2	大内秀明		
	半期	国際関係論(概論)	2	波多野裕造	★認定上限 2科目4単位	
	半期	国際関係論(西欧)	2	波多野裕造		
	半期	国際関係論(東欧)	2	佐野　真		
	半期	国際関係論(ロシア)	2	佐野　真		
	半期	国際関係論(イスラム世界)	2	平山健太郎		
	半期	国際関係論(中東湾岸)	2	平山健太郎		
	半期	国際関係論(東北アジア)	2	堀　宏		
	半期	国際関係論(東南アジア)	2	堀　宏		
	半期	国際関係論(アメリカ)	2	高畑昭男		
	半期	国際金融論	2	今井　澂		
	半期	多国籍企業論	2	藤井　健		
	半期	貿易商務論Ⅰ	2	塚越千由		
	半期	貿易商務論Ⅱ	2	塚越千由		
	半期	時事英語Ⅰ	2	平山健太郎　堀　宏		
	半期	時事英語Ⅱ	2	平山健太郎　堀　宏		
	半期	国際ビジネス英語Ⅱ	2	(平成13年度休講)		

③ 選 択 科 目

選択科目は、大きく９つのジャンルで構成されている。
自分の学習計画や進路を考えながら特に学びたい領域を選択し、重点的に履修して欲しい。

- 経営学関係　… 経営学・企業論・経営管理論・商学 の科目区分に含まれる科目
- 国際経営関係　… 国際経営論、国際関係論、外書講読 等
- ビジネス英語関係 … 国際ビジネス英語Ⅱ、時事英語 等
- 情報論関係　… 情報管理論、情報処理演習、情報処理特論、情報通信システム論 等

以上のほか、経営関係に必要な法学、経済学、会計学などの専門科目が用意されている。

VI群：専門科目［選択］一覧表

区分	科目名	単位	担当者
経営学	＊経営学	4	黒田・栁川
	＊経営組織論	4	(平成13年度休講)
	経営戦略論	4	栁川高行
	経営学史Ⅰ	2	栁川高行
	経営学史Ⅱ	2	栁川高行
	経営史Ⅰ	2	片岡豊
	経営史Ⅱ	2	片岡豊
	日本経営史Ⅰ	2	片岡豊
	日本経営史Ⅱ	2	片岡豊
	ベンチャー起業論	2	鹿住倫世
	ベンチャー経営論	2	鹿住倫世
	秘書学	2	堀眞由美
	ＮＰＯ論	2	樋口(兼)・山岸
企業論	＊中小企業論	4	樋口兼次
	＊企業ネットワーク論	4	山田徳彦
	公益事業業論Ⅰ	2	蟻生俊夫
	公益事業業論Ⅱ	2	蟻生俊夫
	企業論	2	山田(徳)・蟻生
	＊交通論	4	山田徳彦
経営管理総論	＊経営管理総論	4	黒田勉
	＊労務管理論	4	張承玖
	＊財務管理論	4	樋口和彦
	生産管理論Ⅰ	2	三浦達司
	生産管理論Ⅱ	2	三浦達司
	産業・組織心理学	2	岸田孝弥
	＊品質管理論	4	安藤満生
	クオリティマネジメントⅠ	2	安藤満生
	クオリティマネジメントⅡ	2	安藤満生
情報論	マスコミュニケーション論	2	(平成13年度休講)
	情報管理論Ⅰ	2	舩田眞里子
	情報管理論Ⅱ	2	舩田眞里子
	＊計数管理論	4	黒澤和人
	情報処理演習A-Ⅰ	2	舩田眞里子
	情報処理演習A-Ⅱ	2	舩田眞里子
	情報処理演習B-Ⅰ	2	山下勇一
	情報処理演習B-Ⅱ	2	山下勇一
	情報処理特論A-Ⅰ	2	森川信男
	情報処理特論A-Ⅱ	2	森川信男
	情報処理特論B-Ⅰ	2	山下勇一
	情報処理特論B-Ⅱ	2	山下勇一
	管理工学Ⅰ	2	三浦達司
	管理工学Ⅱ	2	三浦達司
	決定の科学Ⅰ	2	樋口和彦
	決定の科学Ⅱ	2	樋口和彦
	経営統計学Ⅰ	2	舩田眞里子
	経営統計学Ⅱ	2	舩田眞里子
	情報通信システム論Ⅰ	2	菅谷実
	情報通信システム論Ⅱ	2	菅谷実

区分	科目名	単位	担当者
会計学	＊会計学	4	紺野・鷹野・山田・渡辺(金)
	＊簿記論	4	山田覚
	＊財務会計論	4	鷹野宏行
	経営分析論Ⅰ	2	紺野剛
	経営分析論Ⅱ	2	紺野剛
	会計情報システム論	2	山田覚
商学	マーケティングⅠ	2	藤井信之
	マーケティングⅡ	2	藤井信之
	広告論Ⅰ	2	根本昭二郎
	広告論Ⅱ	2	根本昭二郎
	ビジュアルコミュニケーションⅠ	2	(平成13年度休講)
	ビジュアルコミュニケーションⅡ	2	(平成13年度休講)
	商学総論Ⅰ	2	栁川高行
	商学総論Ⅱ	2	根本昭二郎
	金融論	2	今井澂
	流通論Ⅰ	2	根本昭二郎
	流通論Ⅱ	2	根本昭二郎
	保険論Ⅰ	2	戸出正夫
	保険論Ⅱ	2	戸出正夫
経済学	＊経済学	4	沖津・吉川
	＊財政学	4	吉川・浅羽
	＊経済地理学	4	奥澤信行
	＊経済原論	4	沖津直
	＊現代経済	4	吉川薫
	地域経済論	2	樋口兼次
国際経営	＊国際経営論	4	張・高橋・藤井(健)
	＊外書講読A	4	山田徳彦
	※外書講読B	4	安藤・平山・堀
法学	ネットワーク関連法	2	岡本幹輝
	＊民法	4	蘇田三千穂
	経済法	2	川越憲治
	商法Ⅰ	2	遠山聡
	商法Ⅱ	2	遠山聡
	＊企業関係法	4	河原文敬
ビジネス英語	異文化コミュニケーション論Ⅱ	2	上岡條二
	Audio Visual Communication	2	(平成13年度休講)
	TOEFL Preparation	2	(平成13年度休講)
	STEP Preparation(2)	2	(平成13年度休講)
	STEP Preparation(Pre1)	2	(平成13年度休講)

注）＊：半期（週２コマ）開講の授業科目
※：通年（週１コマ）開講の授業科目

● 資格試験対策

英語に関わる検定試験対策については I 群：外国語科目の履修方法に記載しているため、ここでは専門科目に関わる資格試験について紹介する。在学中に各自の目標に基づき、積極的に資格（検定）試験を受験することを望む。

国際ビジネス英語 I・II

I の授業は、商業英語（国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）検定 C級の合格を目指す。
II の授業は、商業英語（国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）検定 B級の合格を目指す。

貿易商務論 I・II

貿易売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱う。すなわち、国際取引契約の締結、定型取引条件（貿易慣習）、取引契約諸条件、輸出入取引実務（輸出入通関、国際運送、海上保険、国際決済、貿易紛争の解決など）の理論と実務を学ぶ。
I・II の科目履修で、"貿易実務検定" B・C級の合格を "通関士試験" により「通関士」の資格取得を目指す。

秘 書 学

多岐にわたる秘書業務を通して、社会人としての自覚、働くための心構え、求められる基礎的な知識や技能を学習する。学習した知識を、日常生活やビジネスの現場で取り入れて繰り返し、さらに "秘書技能検定" "ビジネス実務検定" 等で自己啓発することは、将来の生き方やキャリア形成につながるであろう。1級・準1級・2級の合格を目指す。

簿 記 論

企業と社会とのコミュニケーションをはかるパイプとしての公表財務諸表の作成手続（複式簿記固有の考え方、簿記のしくみ）を明らかにし、現実の企業活動に関心をもつ学生が今日の財務諸表を正しく理解し、将来広く応用できるような基礎能力の養成に務める。
"簿記検定" 1・2・3級の合格を目指す。

情報処理関連科目

社会全体ビジネス、コミュニケーションのツールとしてコンピュータが不可欠となった現在、文系出身のコミュニケーション能力を持ったエンジニアが求められている。その社会の要望に応えるための基礎的な知識・技能を学習する。
コンピュータエンジニア希望者はキャリアパスの第一歩としての "基本情報技術者（旧2種）" や、上位資格である "ソフトウェア開発技術者（旧1種）" の合格を、エンドユーザサイドとしては "初級システムアドミニストレータ" や "日本語文書処理能力（ワープロ）検定"、"MOUS（Microsoft Office User Specialist）" などの合格を目指す。

(7) Ⅶ群：特講・ゼミナール・卒業研究の履修方法

Ⅰ～Ⅵ群に含まれない科目として、「特講」「ゼミナール」「卒業研究」がある。

特　　講　「特講」は、専門科目の特定の枠に限定しにくい内容や、現行のカリキュラムにはないが緊急に開講する必要があると思われる科目について講義する科目である。
原則として、複数の教員により単年度で開講される。

平成13年度 開講科目

科　目	単位	年次	担　当　者	摘　要
特講Ⅰ（現代企業行動論）	2	1～	ビジネス開発研究所	
〃　（ことばと人間）	2		高　橋　節　子	
〃　（地球環境問題）	2		山　本　厚太郎	
〃　（アフリカ地域研究）	2		J. ム ル ア カ	

SAP（海外留学プログラム）

科　目	単位	年次	担　当　者	摘　要
特講Ⅰ（SAP Reading）	2	2	（2年次開講科目）	
〃　（SAP Writing）	2	2		
〃　（SAP Listening）	2	2		
〃　（SAP Speaking）	2	2		
〃　（SAP Report & Presentation）	2	2		
〃　（SAP TOEIC）	2	2		

ゼミナール　「ゼミナール」は、2年間同一教員の指導のもとで特定のテーマについて学修し、研究を深めていくことが原則。「ゼミナールⅠ・Ⅱ」はそれぞれ1年毎に4単位が付与される。
同一ゼミナールを2年間履修しないと、「卒業研究」を履修することができなくなるので注意すること。

※Ⅲ群の「教養ゼミナール」と重複して履修することはできない。

卒業研究　「卒業研究」（4単位）は、同一ゼミナールを2年間履修した学生のみ履修することができる。単位の認定は、原則としてゼミナール指導教員が行う。
履修年次は4年。3－4年次ゼミを履修中の4年次に「卒業研究」を履修することになる。

(8) 自由選択科目について

自由選択科目　経営学部のカリキュラムは、次のように七分類されている。
Ⅰ群：外国語科目、Ⅱ群：教養科目、Ⅲ群：総合科目、Ⅳ群：専門必修科目、Ⅴ群：専門選択必修科目、Ⅵ群：専門選択科目、Ⅶ群：Ⅰ～Ⅵ群に含まれない科目［特講・ゼミナール・卒業研究］

Ⅰ群～Ⅵ群における科目群毎の卒業要件単位数を合計すると104単位となる。経営学部の卒業所要単位は124単位のため、あと残り20単位を取得しなければならない。この20単位には、Ⅰ～Ⅵ群の要件単位数を超えて取得した単位、及びⅦ群に含まれる科目や他学部（他学科）履修で取得した単位数を充てることができる。
すなわち〝自由選択科目〟とは、Ⅰ～Ⅶ群（他学部履修科目を含む）までのすべての科目が対象となる。何を選択履修するかは、自由である。自分は何を勉強し、研究してみたいのか。自分の関心を深めたい分野は何であるのかをしっかり見極めて、与えられた「自由」を充分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

(9) 随意科目の履修について

随 意 科 目　卒業単位として認定されない講師の自発的な開講科目である。
従って、年間最高履修単位数に含まれない科目であるため、講義内容に興味・関心がある学生は積極的に履修することが望ましい。履修者制限をすることがあるため、掲示等に注意すること。

平成13年度 開講科目

科　　目	単位	年次	担　当　者	摘　要
海外研修	2	1～	後日掲示する	
スタディ スキルをみがこう	2		高橋節子・渡辺　忠	
適性・適職発見講座	2	2～	川　合　雅　子	
ソーシャル スキルⅠ	2		川　合　雅　子	
ソーシャル スキルⅡ	2		川　合　雅　子	

(10) 他大学・他学部等履修可能科目について

本学の認める他大学・他学部等の授業科目の履修で取得した単位については、30単位を限度として卒業要件単位に認められる。
（内、他学部履修は自由選択科目として20単位を上限とする。）

他大学履修　単位互換協定に基づき、平成10年度から『特別聴講生』として放送大学の科目履修が可能となった。（互換対象科目指定）
但し、履修するには別途手続きが必要となるので、詳細は事前に教務課まで問い合わせること。

〔交換留学制度〕
オーストラリア（ブリスベン）にある「グリフィス大学」と交換留学を行っている。２月（後期試験終了後）に渡航し、１年間留学することになる。
９月中旬に募集予定。
グリフィス大学で取得した単位は、本学の規定に基づき30単位を限度として認定される。詳細は教務課まで問い合わせること。

他学部履修　他学部におかれている全ての科目（但し、「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」を除く）を対象とする。
取得単位のうち20単位を限度として、卒業要件の“自由選択科目”枠に含める。
詳細は事前に教務課まで問い合わせること。

注）原則　他学部の同入学年度生のカリキュラムに準じ所属学部にない科目を履修すること。

2．再履修について

再履修とは　以前に履修し「不合格」「失格」となった不足単位分を、再び同じ科目を履修することで補うこと。

再履修方法　高学年の学生は、低学年配当科目より授業科目を履修できる。
詳細については４月のガイダンスで説明するが、各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。

Ⅰ群：外国語科目　１クラスの人数に枠があるため、事前に教務課に申し出て指示に従うこと。
再履修クラスを設定したり、クラスに組み入れる場合には先着順で事前登録を実施する場合がある。

Ⅱ群：教養科目　開講科目の中から、不足単位分を取得する。別科目を選択してもよい。

Ⅳ群：専門科目（必修）　再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。
特別に指示がない場合には、下級年次生の「時間割」に従って履修する。

Ⅴ群：専門科目（選択必修）　特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
コース選択必修科目に含まれていれば、別科目に変更してもよい。

Ⅵ群：専門科目（選択）　特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。

Ⅶ群：上記以外の科目　「ゼミナール」に関しては、事前に選考を受けなければならない。

C．ＳＡＰ（海外留学プログラム）について

1．名称

Hakuoh University Study Abroad Program［略称：SAP（エス・エイ・ピー）］

2．導入の背景とその目的

ビジネスの現場だけでなくインターネットの普及等により一般の社会においても急激に“ボーダーレス”化が進んでいる。こうした状況の中で円滑な異文化間コミュニケーションを行うためには、価値観の異なる人々をただそれだけの理由で非難したり拒絶したりしない態度を養っておくことが極めて重要である。また、世界の“標準語”にアレルギー反応を示さない英語コミュニケーション能力を習得することも大切である。こうした態度・能力の養成のためには英語圏で実際に生活してみることが最良の方策の一つであり（しっかりした事前の準備が前提であることは言うまでもないが）、BC学科では留学を全学生に対して課していく。
留学の準備期間と実際の留学期間を通して学生に身に付けて欲しい力は、①自己管理能力、②異文化適応能力、③英語コミュニケーション能力で、これらの能力の習得がBC学科留学制度の目的である。

3．時期・期間

２年次後期・約３ヶ月間（研修先プログラムによってやや異なる）

4．前提条件

次の科目を１年次に取得していることを前提とする。

① 基礎ゼミナール　　（２単位）
② 英語Ⅰ～Ⅳ　　（10単位・１年次必修）
③ Ⅳ群：専門必修科目（14単位・１年次必修）

※学生全員に面接を実施し、留学への有無を判断する。

5．ＳＡＰスケジュール（予定）

【１年次】　４月：留学ガイダンス（学生・父母対象）
５－６月：留学ガイダンス（学生対象）
７月：留学先希望登録・調整
９月：留学先決定・パスポート取得・財政能力証明書取得
10月：オリエンテーション・出願
11月：宿泊施設申込み
３月：学生面接・留学延期者通知

【２年次】　４－７月：オリエンテーション
８－９月：研修先へ出発
12月：帰国
１月：プレゼンテーション・TOEIC受験
２月：単位認定

6．留学先

本学が推奨する英語圏の大学付属の英語集中講座とする。各学生は留学してみたい地域の様子、英語集中講座のカリキュラムやその内容、選択可能なハウジングの種類とその費用等をインターネット等で調査し比較検討したうえで１年次の７月に希望する研修先を登録する。
ただし、一つのプログラムに学生が集中してしまうと教育上様々な弊害が生じることが予想されるため同一のプログラムへの参加者は最大でも15名程度になるように調整する予定である。
推奨プログラムは１年次４月に行われる留学ガイダンスの時点で紹介する。

7．ハウジング

留学中に利用する宿泊施設としては、現地の一般家庭か寮のいずれかを原則として利用する。現地の家庭に家族の一員として宿泊するホームステイは留学先の地域の生活に触れることができる点で優れているし、寮生活は日本人以外の同世代の学生の実態を直接体験できる点が魅力的である。しかし、ホームステイという形態を取るにせよ、寮生活という形態を取るにせよ考え方も価値観も異なる“他人”と生活するわけであるから日本で家族と生活している時以上に様々な問題が起きることも予想される。解決するためには、自分本意の考え方や生活の仕方に固執することなくきちんと話し合うことが求められ、母国語でない英語で意見を交わし合うのはとても大変であるが、この問題解決のプロセスを直接体験することこそが、このSAPの目的のひとつであるのであきらめないでチャレンジして欲しい。

8．単位認定と成績評価

(1) 単位認定

留学期間中に英語集中講座で履修した科目は、以下に示す基準に従って卒業要件に含まれる単位として認定する。

英語集中講座の基幹科目である Speaking、Listening、Reading、Writing の各授業で一定の基準を満たし講座を修了した学生には、以下に示す①ー④の対応する科目に合格したものとして各2単位を認定する。

留学期間中は、毎月1回本学担当教員へ e-mail でのレポート（マンスリーレポート）提出が課せられているが、このレポートと帰国後提出するファイナルレポートについてのプレゼンテーションが一定の基準に達している場合には、⑤の科目について2単位を認定する。

また、帰国後に受験してもらうTOEICのスコアを1年次に受験したTOEICのスコアと比較し成績の伸びが一定の基準に達した場合か、入学後配置されたクラスごとに示されているTOEICの目標値をクリアした場合に ⑥に示されている科目について2単位を認定する。（留学期間中の学修に対しての「特講Ⅰ」での最大認定単位は12単位となる。）

No.	科目	単位	年次	担当者	摘要
①	特講Ⅰ（SAP Speaking）	2	2年（後期）	SAP担当教員	
②	〃（SAP Listening）	2			
③	〃（SAP Reading）	2			
④	〃（SAP Writing）	2			
⑤	〃（SAP Report & Presentation）	2			
⑥	〃（SAP TOEIC）	2			

(2) 成績評価

留学期間中の学修に対する成績は、認定された場合「成績通知票」に「N」と記載される。

(3) その他

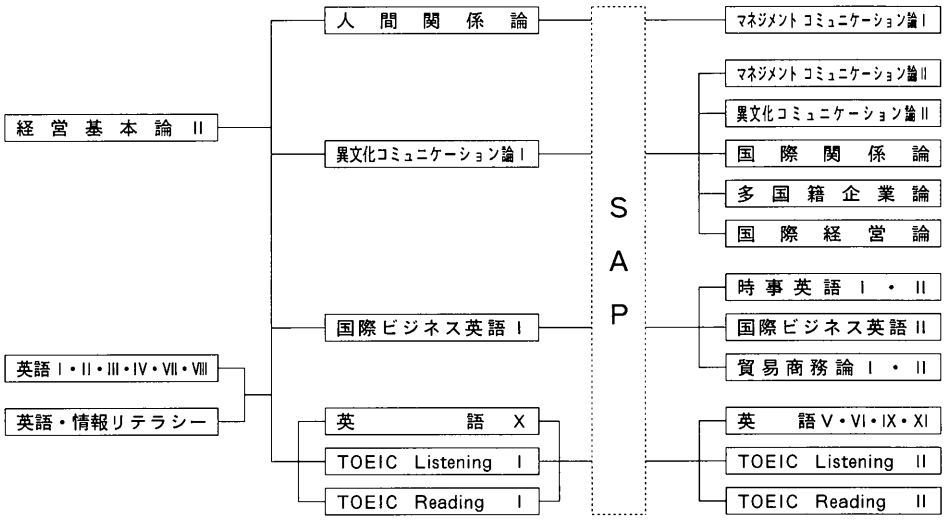
留学前に学部の正規授業を受講できるだけのスコアをTOEFLで取得していたり、英語集中講座のプレースメントテストの結果により学部の授業を履修するよう指導された場合で、その科目に合格した場合は、学則に基づく範囲内で本学の正規科目として個々に認定する。

D. 履修モデルプラン

英語、情報、ビジネスの三つの柱をバランスよく履修するとともに、将来の進路を考えて履修計画を立てることが必要である。以下に 進路別の履修モデルプランを示す。
ここに示す科目はあくまでも必要最低限のものを示しているので、参考の上 各自で肉付けすること。

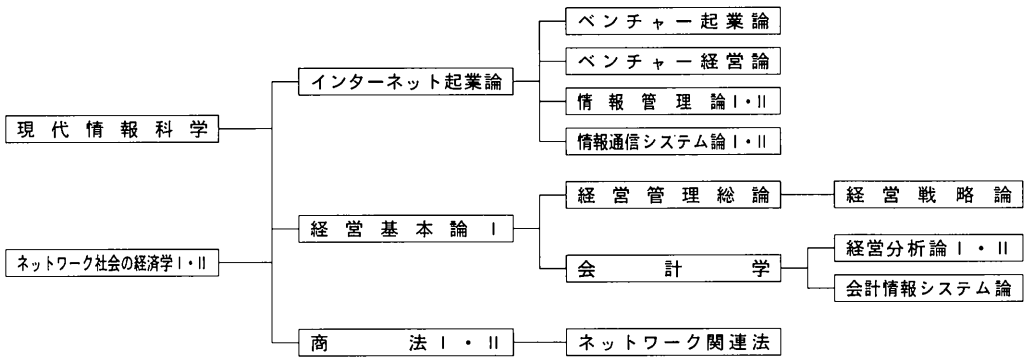
● 外資系企業や多国籍企業等で海外業務を目指す場合
将来、航空会社、旅行代理店をはじめとする企業の海外業務を目指す場合

プラクティカルな英語力と情報スキルを武器にして、国際ビジネスの最前線で活躍することを目指す人には、- 国際経営・ビジネス英語 - 科目区分に属する専門科目と選択英語の「ＴＯＥＩＣ」関連科目、選択外国語を重点的に履修することを勧める。これらにより、国際ビジネスに関する知識や国際ビジネスの現場で使用する語学力が身につく。

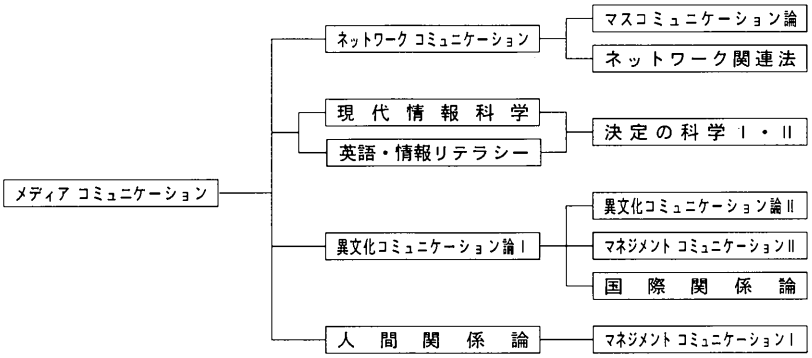


● 将来、起業家を目指す場合

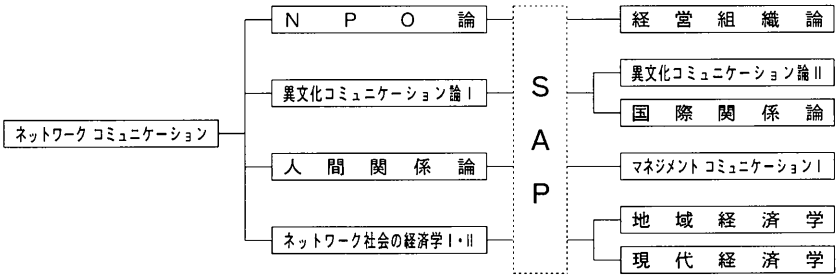
プラクティカルな英語力と情報スキルを武器にして、自ら起業する人材の育成を目指す人には、- 経営学・情報論・会計学・商学・法学 - 科目区分の専門科目を重点的に履修することを勧める。



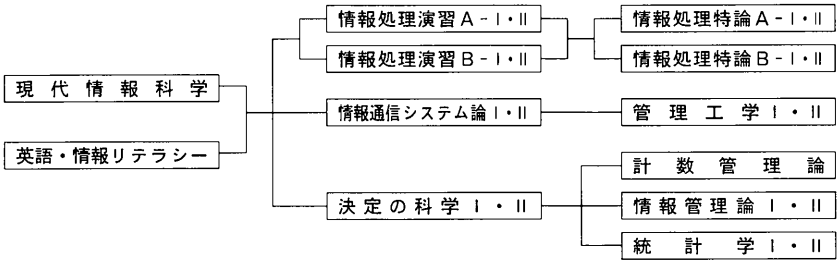
● マスコミ、ジャーナリズム を目指す場合



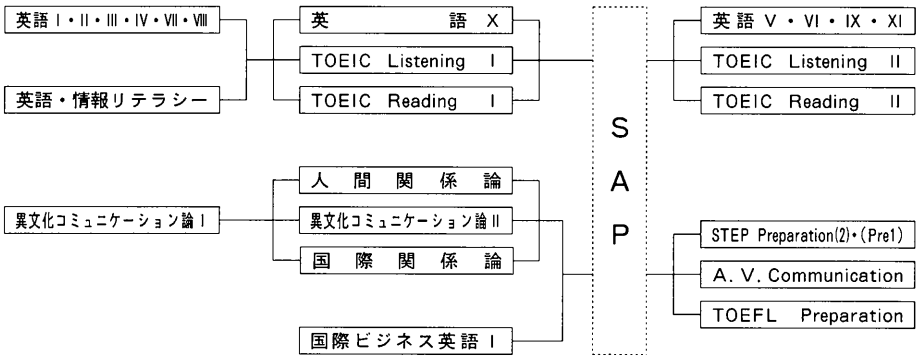
● 政府機関 と ＮＧＯ を目指す場合



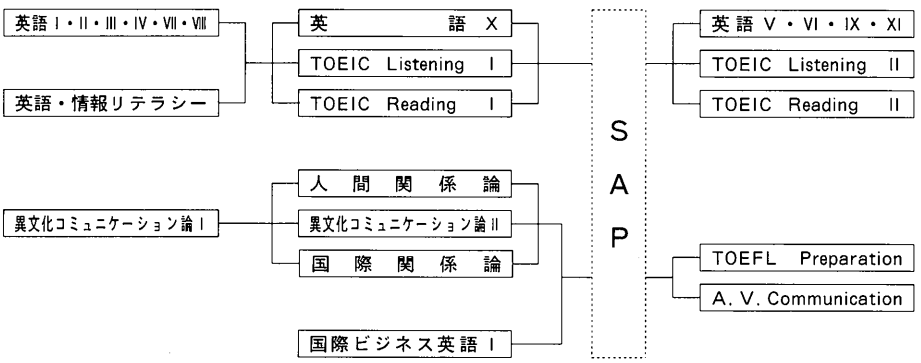
● ネットワーク エンジニア を目指す場合



● 中学校、高等学校、外国語学校、塾等の英語教員や留学カウンセラーを目指す場合



● 大学院（国内・海外）への進学を目指す場合



授業科目標準履修年次・卒業要件表

履修年次・卒業要件 / 科目群・科目区分		第1年次 科目名	単	開	第2年次 科目名	単	開	第3年次 科目名	単	開	第4年次 科目名	単	開	卒業要件 科目群毎の最低要件 必修	選択	自由選択
		★基礎ゼミナール	2	前												
Ⅰ群 [外国語科目]	第一外国語 [必修英語]	英語Ⅰ（Oral）	4	通	英語Ⅴ（Oral）	2	前	英語Ⅵ（Oral）	2	通				① 14単位	30単位以上	20単位以上
		英語Ⅱ（英文法）	2	通												
		英語Ⅲ（Reading）	2	通												
		英語Ⅳ（Writing）	2	通												
	[選択英語]	英語Ⅶ（Vocabulary）	2	通	英語Ⅸ（Oral）	2	前							②		
		英語Ⅷ（英語の音声）	2	通	英語Ⅹ（Reading）	2	前									
					英語Ⅺ（Writing）	2	前									
					TOEIC Reading Ⅰ	1	前									
					TOEIC Listening Ⅰ	1	前									
					TOEIC Reading Ⅱ	1	前									
					TOEIC Listening Ⅱ	1	前									
	第二外国語 [選択外国語]	ドイツ語Ⅰ	4	通	第二外国語Ⅱ	4	通							③	①＋②＋③＋④＝30単位以上	
		フランス語Ⅰ	4	通	第二外国語Ⅲ	4	通									
		スペイン語Ⅰ	4	通	第二外国語Ⅳ	4	通									
		中国語Ⅰ	4	通	コリア語	2	通									
					ロシア語	2	通									
Ⅱ群 [教養科目]	（この枠全1年次～履修可）	歴史学A	2		文学A	2		統計学A	2		数学A	4		④ 10単位～		
		歴史学B	2		文学B	2		統計学B	2		数学B	4				
		日本史概論	2		論理学	4		心理学A	2		物理学A	2				
		外国史概論	2		批判的思考法	2		心理学B	2		物理学B	2				
		地理学A	2		現代表現法A	2		社会心理学A	2		化学A	2				
		地理学B	2		現代表現法B	2		社会心理学B	2		化学B	2				
		地理学概論	2		美学A	2		政治学A	2		生物学A	2				
		地誌学概論	2		美学B	2		政治学B	2		生物学B	2				
		倫理学A	2		比較文化論A	2		情報社会科学A	2		科学史A	2				
		倫理学B	2		比較文化論B	2		情報社会科学B	2		科学史B	2				
		応用倫理	2		社会学A	2		教育学A	2		スポーツ演習A	2				
		倫理学概論	2		社会学B	2		教育学B	2		スポーツ演習B	2				
		哲学A	2		法学A	2		環境科学A	2		健康科学	2				
		哲学B	2		法学B	2		環境科学B	2							
		哲学演習	4													
		哲学概論	2													
Ⅲ群 [総合科目]					総合科目Ⅰ	2		教養ゼミナールⅠ	4	通	教養ゼミナールⅠ	4	通	いずれの科目群でもよい 20単位以上		
					総合科目Ⅱ	4					卒業研究	4				
Ⅳ群 [専門必修科目]	[全：必修]	経営基本論Ⅰ	2	前	国際ビジネス英語Ⅰ	4	前							⑤ 20単位		
		メディアコミュニケーション	2	前	人間関係論	2	前									
		異文化コミュニケーション論Ⅰ	2	前												
		英語・情報リテラシー	2	前												
		経営基本論Ⅱ	2	後												
		ネットワークコミュニケーション	2	後												
		現代情報科学	2	後												

履修年次・卒業要件 / 科目群・科目区分		履修年次（指定なし） 科目名	単	開	科目名	単	開	科目名	単	開	科目名	単	開	卒業要件 科目群毎の最低要件 必修	選択	自由選択
V 群 [専 門 選択必修科目] ★認定上限を超えた取得単位数は専門選択科目に算入。	[選択必修]	インターネット起業論 国際ビジネス英語 II ネットワーク社会の経済学 I ネットワーク社会の経済学 II マネジメントコミュニケーション I マネジメントコミュニケーション II	2 2 2 2 2 2		貿易商務論 I 貿易商務論 II 国際金融論 多国籍企業論 時事英語 I 時事英語 II	2 2 2 2 2 2		＊認定上限（2科目・4単位） 国際関係論（概論） 国際関係論（東欧） 国際関係論（ロシア） 国際関係論（西欧） 国際関係論（アメリカ） 国際関係論（イスラム世界） 国際関係論（中東湾岸） 国際関係論（東南アジア） 国際関係論（東北アジア）	2 2 2 2 2 2 2 2 2					⑥ 12単位	74単位以上	20単位以上
VI 群 [専門選択科目]	〈経営学〉	ベンチャー起業論 ベンチャー経営論 マネジメントコミュニケーション I マネジメントコミュニケーション II	2 2 2 2		秘書学 NPO論 経営学	2 2 4		経営組織論 経営戦略論 経営学史 I 経営学史 II	4 4 2 2		経営史 I 経営史 II 日本経営史 I 日本経営史 II	2 2 2 2		⑦ 42単位以上	⑤＋⑥＋⑦＝74単位以上	
	〈企業論〉	企業ネットワーク論 中小企業論	4 4		公益事業論 I 公益事業論 II	2 2		企業論	2		交通論	4				
	〈経営管理論〉	経営管理総論 労務管理論 財務管理論	4 4 4		生産管理論 I 生産管理論 II	2 2		産業・組織心理学	2		品質管理論 クオリティマネジメント I クオリティマネジメント II	4 2 2				
	〈情報論〉	インターネット起業論 マスコミュニケーション論 計数管理論 情報管理論 I 情報管理論 II	2 2 4 2 2		管理工学 I 管理工学 II 情報処理演習 A－ I 情報処理演習 A－ II 情報処理演習 B－ I 情報処理演習 B－ II	2 2 2 2 2 2		情報処理特論 A－ I 情報処理特論 A－ II 情報処理特論 B－ I 情報処理特論 B－ II 決定の科学 I 決定の科学 II	2 2 2 2 2 2		経営統計学 I 経営統計学 II 情報通信システム論 I 情報通信システム論 II	2 2 2 2				
	〈会計学〉	会計学 簿記論	4 4		財務会計論	4		経営分析論 I 経営分析論 II	2 2		会計情報システム論	2				
	〈商 学〉	マーケティング I マーケティング II 広告論 I 広告論 II	2 2 2 2		ビジュアルコミュニケーション I ビジュアルコミュニケーション II 商学総論 I 商学総論 II	2 2 2 2		金融論 流通論 I 流通論 II	2 2 2		保険論 I 保険論 II	2 2				
	〈経済学〉	ネットワーク社会の経済学 I ネットワーク社会の経済学 II	2 2		経済学 財政学	4 4		経済地理学 経済原論	4 4		地域経済論 現代経済	2 4				
	〈国際経営〉	国際経営論 国際関係論（概論） 国際関係論（東欧） 国際関係論（ロシア） 国際関係論（西欧）	4 2 2 2 2		国際関係論（アメリカ） 国際関係論（イスラム世界） 国際関係論（中東湾岸） 国際関係論（東南アジア） 国際関係論（東北アジア）	2 2 2 2 2		国際金融論 多国籍企業論 貿易商務論 I 貿易商務論 II	2 2 2 2		外書講読 A 外書講読 B	4 4	通			
	〈法 学〉	ネットワーク関連法	2		民法 経済法	4 2		商法 I 商法 II	2 2		企業関係法	4				
	〈ビジネス英語〉	時事英語 I 時事英語 II 国際ビジネス英語 II	2 2 2	前 後	Audio Visual Communication TOEFL Preparation STEP Preparation(2) STEP Preparation(pre1)	2 2 2 2	通 半 半 半	異文化コミュニケーション論 II	2							
VII 群 [上記以外の科目]		特講 I 特講 II	2 4		特講 I（SAP Reading） 特講 I（SAP Writing） 特講 I（SAP Listening） 特講 I（SAP Speaking） 特講 I（SAP Report & Presentation） 特講 I（SAP TOEIC）	2 2 2 2 2 2	後 後 後 後 後 後	ゼミナール I	4	通	ゼミナール II 卒業研究	4 4	通	いずれの科目群でもよい 20単位以上		
自由選択科目		20単位以上（I～VII群及び他学部履修科目）														
卒業所要単位数		124単位以上														
随意科目		海外研修 スタディスキルをみがこう	2 2		適性・適職発見講座	2		ソーシャルスキル I ソーシャルスキル II	2 2							

※注意：1．「基礎ゼミナール」（2単位）は、1年次前期に必ず履修しなければならない前提科目。（履修上限単位数の40単位には含まれない科目）
2．VII群2年次のSAP（海外留学プログラム）：「特講 I （SAP…）」は、2年次後期に全学生参加。
3．VII群1年次の「特講 I 」・「特講 II 」は、経営学部共通科目。“講義内容”を参照のこと。

E. 教　職　課　程

本学において文部省から認可されている免許状の教科は、『商業』『公民』『英語』〔高等学校一種免許状〕と『社会』『英語』〔中学校一種免許状〕である。
ただし、学部・学科によって取得できる免許状の種類が異なる。また履修するためには、所定の手続きが必要となるので十分注意すること。

1. 基礎資格と取得単位数

免許状の種類　高等学校教諭　一種免許状（公民）（英語）
中学校教諭　一種免許状（社会）（英語）
※ 経営学部 BC学科で取得できる免許は上記4種のみ

基礎資格　学士の学位を有すること。

履修について　教職課程は、1年次からの履修を原則とする。
（2年次生以上で履修を希望する者は教務課に相談すること）
また、各年度初めに行われる履修ガイダンスには必ず出席すること。
無断欠席の場合には、履修を取りやめたものとみなす。

単位の履修　別表参照

免許状申請　1．教員免許状申請説明会
4年次生（教育実習終了者で所定の単位を取得見込の者）を対象に11月頃にガイダンスを行う。（期日・時間等は掲示）

2．教員免許申請のその後の流れ

(1) 栃木県教育委員会審査　：　12月～3月

(2) 教育職員免許状授与　：　卒業式当日

2．諸注意事項

(1)『教職履修届』の提出

毎年度始めに、教職に関するすべての履修計画を各自がたてる。在学中に履修計画に落ちがないようにしなければならない。

(2) 教職課程受講上の注意

① “教職に関する科目”は、卒業所要単位には換算されない。

② 上級年次の科目は履修することができないが、下級年次に配当されている科目は履修できる。ただし、原則として“教職に関する科目”はその配当年次に単位を取得しなければならない。

③ 教職の授業は特に出席を重視する。

④『英語』の免許を取得する場合、TOEIC 600点以上 及び 英検２級に合格していることが望ましい。

⑤『公民』『社会』の免許を取得する場合、“教科に関する科目”の「政治学原論」は、他学部履修科目として法学部開講科目を履修しなければならない。

⑥ 中学校教諭免許状の取得希望者は通常の「教育実習」の他に「介護等体験実習」（７日間）が義務付けられる。

(3) 諸 経 費 の 納 入

①「教職課程費」
教職課程を履修しようとする者は、教職課程を履修する年度の４月初旬の定められた期間内に、免許状の種類に関わらず三万円を納入しなければならない。

②「介護等体験実習費」
『社会』『英語』（中学１種免許）」取得希望者のみ該当。

③「教育実習謝礼金」
教育実習を履修する４年次生は、４月初旬の定められた期間内に謝礼金を納入しなければならない。

④「免許状申請手数料」（県収入証紙代）
４年次生は11月下旬の定められた期間内に、手数料を納入しなければならない。

介護等の体験実習とは ――

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が、平成10年４月１日から施行された。

本法は、教員志願者に対し、高齢者や障害者に対する介護等の体験を義務づけることにより、人の心の痛みのわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資することを目的としている。これにより平成10年度以降大学に入学する学生等で小学校又は中学校の普通免許状を取得しようとする者は、社会福祉施設や特殊教育諸学校などにおいて、文部大臣が定める期間（７日間）、介護等の体験を行い、施設や学校が発行する体験に関する証明書を、免許状授与申請の際提出することが必要になる。

本法の「介護等の体験」とは、介護・介助のほか、障害者等の話相手・散歩の付添いなどの交流等の体験、あるいは掃除や洗濯といった障害者等と直接 接するわけではないが、受入施設の職員に必要とされる業務の補助など、介護等の体験を行う者の知識・技能の程度、受入施設の種類、業務の内容・状況等に応じ、幅広い体験が想定される。また、特殊教育諸学校での教育実習や、受入施設での他の資格取得に際しての介護実習等は、介護等の体験の期間に算入し得る。

介護等の体験は７日間以上行っても差し支えない。また７日間の内訳については、社会福祉施設等５日間、特殊教育諸学校２日間とすることが望ましい。

介護等の体験は連続して行う場合の他、数年間を通じ、長期休業期間中や土・日曜日などに数度に渡り２以上の受入施設において１日単位で行うことなども想定される。

教職課程／年間予定表

	1年生	2年生	3年生	4年生
4月	ガイダンス・履修登録「教職履修届」			
	「教職課程費」納入	「介護等体験実習費」納入		「教育実習謝礼金」納入
5月		介護等体験ガイダンス	第1回　面接 （教育実習指導） 実習校訪問	教育実習
6月				
7月	介護等体験事前指導	介護等体験事前指導	教育実習事前指導 介護等体験全体反省会	教育実習全体反省会
8月				
9月				
10月				（教育実習）
11月	介護等体験ガイダンス	介護等体験ガイダンス	第2回　面接 （教育実習指導）	ガイダンス （免許状申請手続）
12月		介護等体験実習		免許状申請書類 提出
1月		▼		
2月				
3月				〔卒業式〕 免許状　　交付 実習ノート返却

注）この「教職課程／年間予定表」は、平成13年2月現在のもの。
ガイダンス日程などは、随時“教職掲示板”で知らせるので、掲示に注意すること。
なお、“介護等体験実習”は、「社会・英語（中学1種免許）」取得希望者のみ該当。

【ＢＣ：2001年度生】

免許種類		標準履修年次 1年次	2年次	3年次	4年次	免許取得要件 科目群毎の最低要件	
社会〔中学一種免許〕	教職に関する科目（必修）	◎教育本質論(2) ◎教育制度論(2) ◎教育心理学(2) ◎教育工学(2) ◎道徳教育の研究(2)	◎生徒指導Ⅰ(2) ◎生徒指導Ⅱ(2) ◎学級経営・特別活動の研究(2) ◎総合演習(2) ◎〔介護等体験実習〕	◎教師論(2) ◎社会科教育法Ⅰ(2) ◎社会科教育法Ⅱ(2) ◎社会科教育法Ⅲ(2)	◎教育実習(中)(4) ◎事前事後指導(1)	15科目 31単位	総計 69単位
	上段以外の必修科目	いずれか1科目 〔スポーツ演習A(2) 〔スポーツ演習B(2) 法学A(2) 法学B(2) 現代情報科学(2)	英語Ⅴ(4)			5科目 10単位	
	教科に関する科目	必修科目(11科目) 日本史概論(2) 外国史概論(2) 地理学概論(2) 地誌学概論(2) ○政治学原論(4) 哲学概論(2) 倫理学概論(2)	社会学A(2) 社会学B(2) メディアコミュニケーション(2) ネットワークコミュニケーション(2)	4単位以上 哲学A(2) 哲学B(2) 応用倫理(2) 国際関係論(2) 民法(4) 経済法(2) 企業関係法(4) 経済学(4) 経済原論(4) 国際経営論(4)	経済地理学(4) 財政学(4) 経営統計学Ⅰ(2) 経営統計学Ⅱ(2) 流通論Ⅰ(2) 流通論Ⅱ(2) ネットワーク社会の経済学Ⅰ(2) ネットワーク社会の経済学Ⅱ(2)	28単位	

注）◎：教職課程にのみ開設されている科目（卒業要件に含まれない）
○：他学部履修科目として履修すること

【ＢＣ：2001年度生】

免許種類		標準履修年次 1年次	2年次	3年次	4年次	免許取得要件 科目群毎の最低要件	
公民〔高校一種免許〕	教職に関する科目（必修）	◎教育本質論(2) ◎教育制度論(2) ◎教育心理学(2) ◎教育工学(2)	◎生徒指導Ⅰ(2) ◎生徒指導Ⅱ(2) ◎学級経営・特別活動の研究(2) ◎総合演習(2)	◎教師論(2) ◎公民科教育法(4)	◎教育実習(高)(2) ◎事前事後指導(1)	12科目 25単位	総計 71単位
		◎道徳教育の研究(2)				＊2単位	
	上段以外の必修科目	いずれか1科目 〔スポーツ演習A(2) 〔スポーツ演習B(2) 法学A(2) 法学B(2) 現代情報科学(2)	英語Ⅴ(4)			5科目 10単位	
	教科に関する科目	必修科目(7科目) 社会学A(2) 社会学B(2) 哲学概論(2) 倫理学概論(2) ○政治学原論(4) メディアコミュニケーション(2) ネットワークコミュニケーション(2)		20単位以上 哲学A(2) 哲学B(2) 応用倫理(2) 国際関係論(2) 民法(4) 経済法(2) 企業関係法(4) 経済学(4) 経済原論(2) 国際経営論(2)	経済地理学(2) 財政学(2) 経営統計学Ⅰ(2) 経営統計学Ⅱ(2) 流通論Ⅰ(2) 流通論Ⅱ(2) ネットワーク社会の経済学Ⅰ(2) ネットワーク社会の経済学Ⅱ(2)	36単位	

注）◎：教職課程にのみ開設されている科目（卒業要件に含まれない）
○：他学部履修科目として履修すること
＊：履修することが望まれる単位

【ＢＣ：2001年度生】

免許種類		標準履修年次 1年次	2年次	3年次	4年次	免許取得要件 科目群毎の最低要件	
英語〔中学一種免許〕	教職に関する科目（必修）	◎教育本質論(2) ◎教育制度論(2) ◎教育心理学(2) ◎教育工学(2) ◎道徳教育の研究(2)	◎生徒指導Ⅰ(2) ◎生徒指導Ⅱ(2) ◎学級経営・特別活動の研究(2) ◎総合演習(2) ◎〔介護等体験実習〕	◎教師論(2) ◎英語科教育法Ⅰ(2) ◎英語科教育法Ⅱ(2) ◎英語科教育法Ⅲ(2)	◎教育実習(中)(4) ◎事前事後指導(1)	15科目 31単位	総計 69単位
	上段以外の必修科目	いずれか1科目 〔スポーツ演習A(2) 〔スポーツ演習B(2) 法学A(2) 法学B(2) 現代情報科学(2)	英語Ⅴ(4)			5科目 10単位	
	教科に関する科目	必修科目(7科目) 12単位以上 英語Ⅰ(2) 英語Ⅱ(2) 英語Ⅲ(2) 英語Ⅳ(2) 異文化コミュニケーション論Ⅰ(2) ★履修年次指定：2年 国際ビジネス英語Ⅰ(4) ★履修年次指定：3年 英語Ⅵ(2)	★履修年次指定：2年 英語Ⅹ(2) 英語Ⅺ(2) TOEIC Reading Ⅰ(1) TOEIC Reading Ⅱ(1) TOEIC Listening Ⅰ(1) TOEIC Listening Ⅱ(1)	☆履修年次指定なし 英語Ⅶ(2) 英語Ⅷ(2) 文学A(2) 文学B(2) STEP Preparation [2](2) STEP Preparation [Pre1](2)	TOEFL Preparation(2) Audio Visual Comunication Ⅱ(2) 国際ビジネス英語Ⅱ(2) 異文化コミュニケーション論Ⅱ(2) 比較文化論B(2)	28単位	

注）◎：教職課程にのみ開設されている科目（卒業要件に含まれない）

【ＢＣ：2001年度生】

免許種類		標準履修年次 1年次	2年次	3年次	4年次	免許取得要件 科目群毎の最低要件	
英語〔高校一種免許〕	教職に関する科目（必修）	◎教育本質論(2) ◎教育制度論(2) ◎教育心理学(2) ◎教育工学(2)	◎生徒指導Ⅰ(2) ◎生徒指導Ⅱ(2) ◎学級経営・特別活動の研究(2) ◎総合演習(2)	◎教師論(2) ◎英語科教育法Ⅰ(2) ◎英語科教育法Ⅱ(2) ◎英語科教育法Ⅲ(2)	◎教育実習(高)(2) ◎事前事後指導(1)	14科目 27単位	総計 73単位
		◎道徳教育の研究(2)				＊2単位	
	上段以外の必修科目	いずれか1科目 〔スポーツ演習A(2) 〔スポーツ演習B(2) 法学A(2) 法学B(2) 現代情報科学(2)	英語Ⅴ(4)			5科目 10単位	
	教科に関する科目	必修科目(7科目) 20単位以上 英語Ⅰ(2) 英語Ⅱ(2) 英語Ⅲ(2) 英語Ⅳ(2) 異文化コミュニケーション論Ⅰ(2) ★履修年次指定：2年 国際ビジネス英語Ⅰ(4) ★履修年次指定：3年 英語Ⅵ(2)	★履修年次指定：2年 英語Ⅹ(2) 英語Ⅺ(2) TOEIC Reading Ⅰ(1) TOEIC Reading Ⅱ(1) TOEIC Listening Ⅰ(1) TOEIC Listening Ⅱ(1)	☆履修年次指定なし 英語Ⅶ(2) 英語Ⅷ(2) 文学A(2) 文学B(2) STEP Preparation [2](2) STEP Preparation [Pre1](2)	TOEFL Preparation(2) Audio Visual Comunication Ⅱ(2) 国際ビジネス英語Ⅱ(2) 異文化コミュニケーション論Ⅱ(2) 比較文化論B(2)	36単位	

注）◎：教職課程にのみ開設されている科目（卒業要件に含まれない）
＊：履修することが望まれる単位

共　通　項　目

F．履修の手続き（履修登録および履修確認）

―― 履 修 登 録 に つ い て ――

履修登録とは、授業を受けて単位を取得するために、その年度の始めに受講計画をたてて履修する科目をあらかじめ登録する手続きをいう。**この登録をしないと授業を受けることはもちろん、その科目の試験を受けることもできないし、単位も認定されない。**
また、履修確認とは、各自登録した科目に間違いがないかどうかを確認することをいう。
これを怠って、万一不備や間違いがあった場合は、そのまま登録され、『登録不備』として受講及び受験資格がなくなるばかりか、卒業認定に重大な影響を及ぼし兼ねない。
従って、この履修登録とは年度始めの重要な手続きといえる。
怠って１年間を無駄にしないよう特に注意すること。

履修科目の決定から履修登録まで

ガイダンス
資料配布：履修要綱・時間割表

授業開始
(1) 講義を受講：必修科目－定められた年次において履修すること。
選択科目－**授業開始後、一定期間をおいてから履修登録をするため、各自「講義内容」を熟読、及び４月初旬の講義ガイダンスに出席して検討し、決定すればよい**

カリキュラム作成
★初回授業時に予備登録を行う授業もあるので、掲示及び担当教員の指示に従うこと
(1) 時間割作成：一週間分の個人時間割を作成、検討
(2) 単位確認：単位合計が制限を超えていないかチェック
〔年間最高履修単位数を超えてはいけない〕
(3)「履修届」記入：「履修届」用紙（マークシート）にＨＢまたはＢの黒色鉛筆で必要事項を記入

教務課に提出
〔指定日・時間・指定場所〕厳守
(1)「履修届」確認：提出前に再度　誤り・記入モレの有無をチェック
一度提出した届は返却しない

コンピュータ入力

履修確認票の配布

定められた期間を過ぎて、誤りが発覚した場合
一切訂正には応じない。必ず各自確認のこと！

(1)「履修確認票」受領：履修科目が全て登録されているか確認
【誤り無】…　履修登録完了
【誤り有】…　履修科目訂正
①「履修届」訂正：後述の“登録科目の訂正”に従い手続き
②「再確認票」受領：再度指定日に交付を受け、登録科目確認

〔誤り無〕〔誤り有〕

指定日に教務課へ提出 → 再確認票を交付

〔誤りなし〕

履修登録完了

1．履修登録に際しての諸注意

(1) 科目の授業時間割、担当教員については、予め年度始めに掲示する。
学生は定められた指定日に履修登録すること。
(2) その年度に履修する科目は、通年・前期・後期・集中科目にかかわらず
すべて年度始めに登録しなければならない。
前期・後期・集中科目の区分は時間割に表示される。
(3) 定められた期日に履修登録しなかったり、間違った登録をすると、その
年度の授業を受けることも、その科目の試験を受ける資格もなくなる。
従って、単位認定されない。
(4) 一度登録した科目は、変更したり追加・削除することができない。
(5) 同一時間・同期に二つ以上の科目を登録、履修することはできない。
(6) 担当教員が違っていても、同一名称の科目を重複して履修することはで
きない。
(7) 一度単位を取得した科目は、再び履修登録することはできない。
(8) 「随意科目」の単位は、卒業所要単位に含まれない。

履修登録に関して不明な点がある際には、教務課に照会して十分確かめてから登録すること。

2．履修届の提出期日・提出方法

提 出 日　指定日以外は受け付けない。〔前掲の年間行事予定表で確認のこと〕

予 備 日　やむを得ない理由で指定された日に提出できない場合、
履修登録予備日を設ける。〔前掲の年間行事予定表で確認のこと〕
必ず事前に教務課に連絡すること。

予備登録日に登録する場合

当初の指定された日に提出できなかった理由を裏付ける**第三者の証明書（医師の診断書・企業訪問等出席証明書等）を添付**して提出しなければならない。

登録手続きに関し、特別の予備登録日を設けてあるにもかかわらず**無断で指定日に提出を怠った学生**については、**理由の如何を問わず一切登録を受付けない。**
従って、この場合は**その年度の履修が出来ず単位も取得できない**ので、必ず指定された期日に登録手続きをすること。

3．『履修届』作成上の注意（記入方法）

履修届の読込　“ＯＭＲ（Optical Mark Reader）”を導入

記 入 用 具　ＨＢまたはＢの黒色鉛筆を使用すること。
訂正する場合、プラスチック消しゴムで完全に消すかまたは無効マークを塗りつぶす。

マークの仕方　マーク部分を正確に塗りつぶす。
マーク部分が薄かったり、マーク箇所がずれていると機械が判別できない。

作 成 手 順　1．「時間割」から履修する科目を選択し、自分の一週間分の「時間割」を試作。
(1) 自分の該当年次開講の必修・選択必修科目を抜き出し、記入する。
(2) 空いた時限に選択科目を組み入れる。（年間最高履修単位数を超えてはいけない。）

2．『履修届』用紙にＨＢまたはＢの黒色鉛筆で書き込む。
(1) 所属（学部・学年・性別）、氏名（フリガナ）、学籍番号を確認する。
(2) 住所、e-mailアドレス、TEL、携帯番号を書き込む。
※ 緊急連絡時に使用するため、必ず記入すること！
(3) コース欄は未記入でよい。
(4) 今年度の履修科目を曜日、時限の早い順（月～土・集中）から 1 ～ 25 の番号順に記入する。
① 曜日、時限、科目名、教員名、登録番号（４桁）を記入
② 登録番号、開設区分（通年・前期・後期・集中）を正確にマーク
※ 万一、記入を間違え完全に消しきれない場合や全て記入後に科目を 変更 または 取消 の場合は、“無効”欄をマークし、別欄に記入してもよい。
③ 本年度履修単位数欄に、記入した科目の総単位数を記入

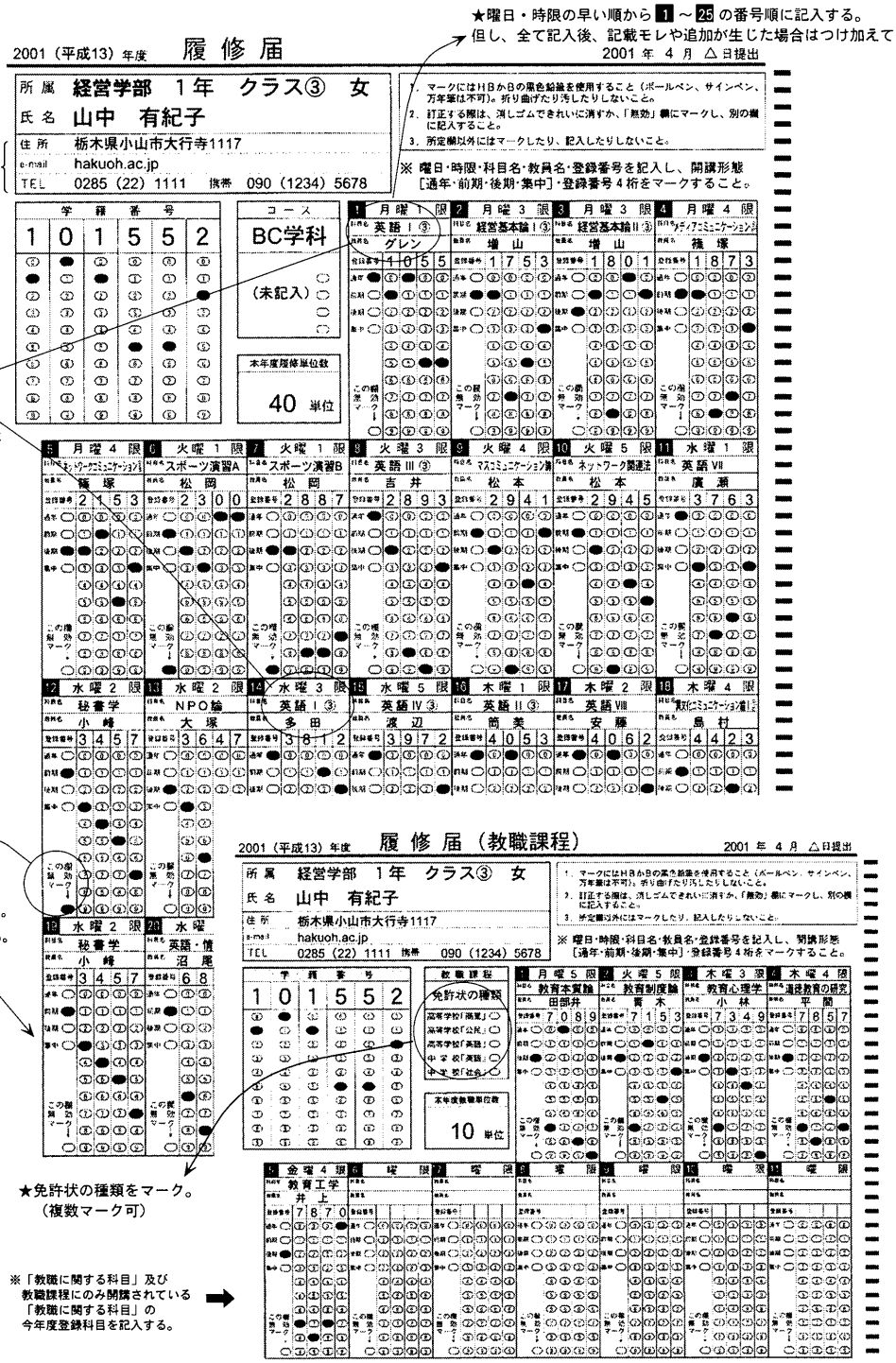
★ 登録番号（４桁）の１箇所でもマークが漏れると登録されない。

【履修届】３種類

1．『履修届』　：全学生提出用
2．『履修届（教職課程）』：教職課程履修者用（該当者にのみ配布）
※ 教職課程にのみ開講されている科目は全てこの用紙に記入する！
3．『履修届（訂 正 用）』：「履修確認票」を受け取り、履修登録の訂正が必要な学生に配布

1．『履修届』の記入には、必ずＨＢまたはＢの黒色鉛筆を使用すること。
ボールペンは機械が判別できない上に書き直しができないため、絶対に使用しないこと。
2．「英語Ⅰ」のように、週２コマ受講しなければならない科目については、それぞれの曜日・時限に科目・担当者名を記入し、登録番号（同一ではない）をマークしなければならない。
※ 片方のみの記入の場合、“連結科目不完全”としてエラーではじかれる。
3．『履修届』用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
また、楷書で明確に記入し、正確に枠内をマークすること。

『履修届』（記入例）：本来の時間割とは異なるので注意すること。



4．履修登録科目の確認について

履修確認　後日コンピュータで処理された『履修確認票』が配布されるので、登録内容を各自よく確認すること。
エラー表示や誤登録がなくても、マーク部分が薄い等により機械に読み取られず、科目がモレていることがあるので、細部にわたって確認が必要である。
〔科目・担当教員名・曜日・時限・単位数　etc...〕

『履修確認票』見本：本来の時間割とは異なるので注意すること。

2001(平成13)年度　**履　修　確　認　票**

出力年月日：2001-04-xx

注意事項：

履修訂正締切日：4月×日（△）17:00迄

所属	BC学科　1年　101552　クラス 3
氏名	山中　有紀子　　ヤマナカ ユキコ　女

【白鷗大学／履修科目】

曜日	時限	開設区分	登録番号	科目コード	科目名	単位	必選区分	教員コード	教員名
月	3	前期	1753		経営基本論 I	2	必修		増山
月	3	後期	1801		経営基本論 II	2	必修		増山
月	4	前期	1873		メディアコミュニケーション	2	必修		篠塚
月	4	後期	2153		ネットワークコミュニケーション	2	必修		篠塚
月	5	後期	7089		教職 教育本質論	2	選択		田部井
火	3	通年	2893		英語 III (Reading)	2	必修		吉井
火	4	前期	2491		マスコミュニケーション論	2	選択		松本
火	5	前期	2945		ネットワーク関連法	2	選択		松本
火	5	後期	7153		教職 教育制度論	2	選択		青木
水	1	通年	3763		英語VII (Vocabulary)	2	選択		廣瀬
水	2	前期	3457		秘書学	2	選択		小峰
水	2	後期	3647		NPO論	2	選択		大塚
水	5	通年	3972		英語IV (Writing)	2	必修		渡辺
木	1	通年	4053		英語 II (英文法)	2	必修		筒美
木	2	通年	4062		英語VIII (英語の音声)	2	選択		安藤
木	3	後期	7349		教職 教育心理学	2	選択		小林
木	4	前期	4423		異文化コミュニケーション論	2	必修		島村
木	4	後期	7857		教職 道徳教育の研究	2	選択		平間
金	2	前期	6897		英語・情報リテラシー	2	必修		沼尾
金	2	後期	5011		現代情報科学	2	必修		沼尾
金	3	前期	6073		ネットワーク社会の経済学 I	2	選必		菊地
金	3	後期	6195		ネットワーク社会の経済学 II	2	選必		菊地
金	4	後期	7870		教職 教育工学	2	選択		井上

曜日・時限の早い順に表示。

教職のみに開講されている科目には、科目の前に「教職」と記載されます。

【他大学・他学部等／履修科目】

曜日	時限	開設区分	登録番号	科目コード	科目名	単位	必選区分	教員コード	教員名

【登録エラー状況】

曜日	時限	開設区分	登録番号	科目コード	科目名	単位	必選区分	教員コード	教員名	エラー内容
月	1	通年	1055		英語 I (Oral)	4	必修		グレン	連結不
*	*	**	39**	***	****	*			**	登録×

エラー表示件数：2件

必修「英語 I」は、週2コマ登録科目。片方の登録番号マークミスにより、正しく登録されなかった。

登録番号全4ケタマークモレの場合エラー合計件数にカウントされない。

取得単位数＼科目群		I群 第一外国語(必)	I群 第二外国語(必)	I群 選択外国語	II群 教養科目	III群 総合科目	IV群 専門(必修)	V群 専門(選必)	VI群 専門(選択)	VII群 その他	小計	合計
科目群要件	取得	0	0	0	0	－	0	0	0	－	0	36/124
	登録	6	0	4	0	－	14	4	8	－	36	
	(小計)	6/14	0	4	0	－	14/20	4/12	8/42	－	36/104	
	合計	/30										
自由選択	取得	－	－				－	－				
	登録	－	－				－	－				
	(小計)	－	－				－	－			0/20	

1.他大学・他学部等 他大学	1.他大学・他学部等 他学部	2.教職課程 教科	2.教職課程 教職	随意
0	0	0	0	0
0	0	0	10	0
0	0	0	10	0

注）1. 他大学・他学部等履修については、学則に基づき30単位を限度として卒業要件単位に含めることができる。（内、他学部履修上限は20単位。※自由選択枠に含む）
必要があれば各自集計先等を確認すること。
2. 教職課程は、「教科に関する科目」が多岐に及ぶため教職課程にのみ開講されている科目分のみ集計。

〔集計欄〕分母の数字は科目群毎の卒業要件単位数を示している。

登録番号エラーにより履修登録したはずの「英語 I」（4単位）が集計されていない。

確認ポイント
1．曜日・時限・開設区分は正しく登録されているか？
2．科目名・単位・必選区分・教員名は正しく登録されているか？
（同一科目を複数の担当者が分割して受け持っている場合は特に注意のこと）
3．連結科目・セメスター科目がきちんと登録されているか？

エラー表示がなくても、登録したマークが存在すると、全く違う科目として登録されることがあるので、慎重に確認すること。

エラー表示　『履修確認票』のエラー表示には次のようなものがある。

【エラー内容】

コ ー ド ×	4桁の登録番号が正しくマークされていない。
二　重　登	二重登録。同一時限に二重に登録 or 同一科目を二重に登録。
連　結　不	連結科目不完全。週2コマ履修で1セットの科目のいずれか一方の登録を忘れている or 間違えてしまった場合。
対　象　外	履修対象外。登録科目に年次指定・クラス指定等、何らかの条件があり、その履修条件に該当しないにもかかわらず、登録した場合。
取　得　済	既に受講したことがある単位取得済の科目を再び登録した場合。
該　当　無	存在しない登録番号をマークした場合。
★　★　★	登録単位数オーバー。年間最高履修単位数を超えて履修登録した場合。
エラー合計	コンピュータで判別可能なエラー科目の件数を表示。 但し、コード番号を全くマークしていなければカウントされない。

履修訂正　『履修確認票』で登録科目を確認した結果、エラー表示や誤登録があった場合には、指定日に申し出て、所定の手続きをとる。ただし、訂正手続きをとれるのは、次の場合に限られる。この手続きを怠ると、その科目の登録は無効となるので要注意のこと。

訂正が認められる場合

訂　正	① 時間割表に基き、履修したい科目の曜日・時限・科目名・教員名が日本語で正しく記載されているが、登録番号マークをうっかり誤ってしまった場合。
	② 正しく履修登録したにもかかわらず、コンピュータ処理トラブル等により、『履修確認票』に表示されている科目が一致していない場合。

『履修確認票』で登録科目を確認した結果、エラー表示や誤登録があっても、次の場合には訂正を認めていない。
従って、履修登録に際しては、細心の注意が必要となる。各自十分に見直して、完全なものを指定日に提出すること。

訂正が認められない場合

追　加	すでに登録した科目に、さらに新たな科目を付け加える場合
変　更	すでに登録した科目に誤りはないが、他の科目に変える場合
取　消	すでに登録した科目に誤りはないが、履修意志がなくなったために登録をとりやめる場合

訂正手続き手順

持参するもの：『履修確認票』・筆記用具（赤ボールペン・黒色鉛筆・消しゴム）

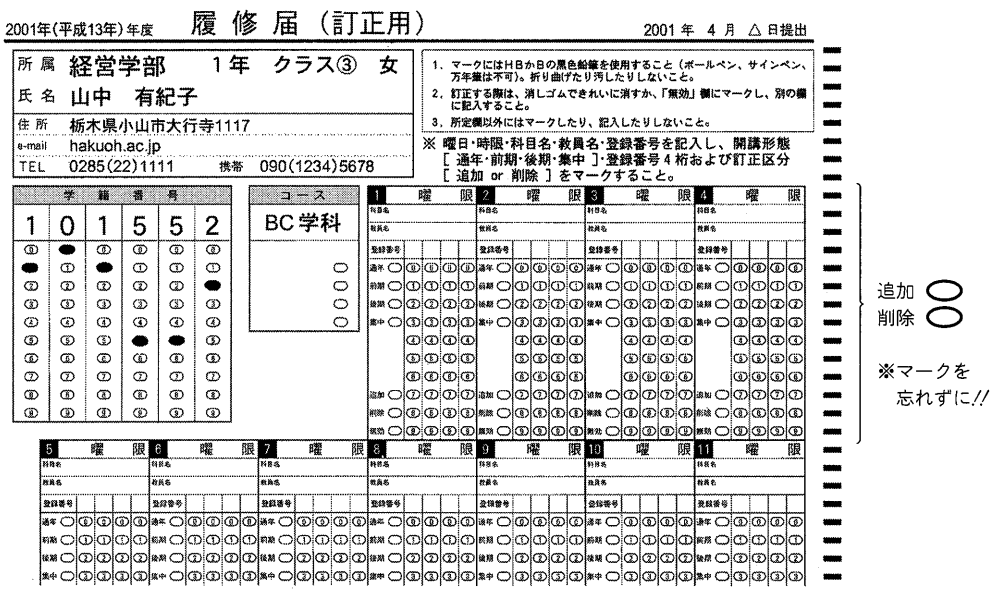
1．『履修確認票』を持参して教務課に願い出る。
2．訂正が認められた場合
　①『履修届（訂正用）』用紙を受け取り、記入例を参考に必要事項をＨＢまたはＢの黒色鉛筆で記入する。
　②『履修確認票』は赤ボールペンで訂正し、併せて教務課に提出する。

『履修届（訂正用）』（記入例）：本来の時間割とは異なるので注意すること。

注）1．『履修確認票』で“エラー”となった科目は、自動的に削除処理される。
従って、連結科目（週２コマ開講科目）の一方を誤った場合、改めて両方登録しなければならない。
例：■

2．登録番号の記入・マークミスにより、全く異なった科目が表示されてしまった場合（教員名が異なる場合も同様）は、その誤った科目を記入し“削除○をマーク”する。
例：■　〔誤登録の取消〕

3．誤登録・マークモレ等により登録されなかった科目は、改めて正しく記入し“追加○をマーク”する。
例：■　〔科目の修正〕



『履修（再）確認票』　指定日に訂正手続きを完了した学生には、後日『履修（再）確認票』を再度配布する。内容を各自よく確認すること。
訂正がされていない場合には、再度訂正手続きをとらねばならないが、訂正期間内に完了しなければならない。

G. 試験および成績

年度はじめに履修登録した科目の単位の認定を受けるためには、定期試験を受験しなければならない。ここでは、試験の種類・方法・受験資格 etc...について記してある。また試験の結果はどのようにして知らせるかなどについて説明してあるので熟読のこと。

1. 試験について

試験の種類

(1) 前期定期試験：前期末に実施する試験
(2) 後期定期試験：後期（学年末）に実施する試験
(3) 追　試　験：『試験規則』に基づき、やむを得ない事情で定期試験を受験できなかった場合に実施することがある。
(4) 再　試　験：『試験規則』に基づき、不合格科目に対して実施することがある。
(5) そ　の　他：科目によっては必要に応じて随時試験を行うこともある。

試験の方法

(1) 筆記試験
(2) レポート（論文）
(3) 実技・実験・実習　等

※ 定期試験の期間に実施されるのは主に筆記試験を対象としており、その他の評価方法による場合は、担当の先生より指示を受けること。

受験資格

次の要件を満たさなければ受験資格がない。

(1) 年度始めに受験科目の履修登録をしている
(2) 授業料、その他学納金を期日までに納入している
(3) 試験開始後３０分以内に着席している
(4) 学生証を所持している
(5) 受験する授業科目に 2／3 以上出席している

注）これは不可抗力による欠席の可能性を考慮してのことであり、1／3 まで欠席してもよいということではない。

※ 上記以外の場合でも、その他の理由により受験資格に欠格がある場合には、受験を認めない。

受験の注意

(1) 受験科目：履修登録した授業科目に限る。
　　未登録の授業科目を受験しても単位取得は認めない。
(2) 受験会場：必ず指定された教室で受験すること。
(3) 学生証携帯：必ず『学生証』を携帯し、試験監督者が確認し易い位置（通路側）に置く。

〔**学生証を忘れた場合**〕
「仮学生証交付願」に必要事項を記入し、五百円の証紙を貼付して教務課に願い出て、「仮学生証」の交付を受けてから受験する。
ただし、発行は試験期間内一回限りとする。（発行当日１日限有効）

(4) 遅刻及び退出：遅刻 ── 試験開始から３０分間
退出 ── 試験開始から４０分以降 ｝は認める。
監督者の指示があるときはその指示に従うこと。

(5) 答案記入事項：年次・クラス・学籍番号・氏名・その他　必要事項を明記する。未提出、無記名の答案は全て無効となる。

(6) 出席カード記入：マークシートは必ずＨＢまたはＢの鉛筆を使用すること。

(7) 机上許可の物：学生証・筆記用具（ペンケース・下敷きは不可）
その他　監督者が特に許可したもの
ノート・参考書等の持込みが許されている授業科目を受験する時は、必ず自分のものを使用しなければならない。
ポケットベル・携帯電話の電源は必ずOFFにしておくこと。

(8) **不正行為**：不正行為があった場合、ただちに退出を命じ答案は没収する。
当期試験科目を無効とする。
また、学則に基づき**訓告**、**停学**および**退学**の懲戒処分をする。
注）試験中の貸借は不正行為とみなす。

(9) そ　の　他：試験場内における全てのことについては、監督者の指示に従って行動しなければならない。

試験時間割　原則として、試験期間の１週間前に掲示板に発表する。
平常授業時間割の時間帯・教室・曜日と異なることがあるので、注意すること。
掲示発表後、時間割に変更が生じた場合、掲示発表の時間割を変更・訂正するので、受験前には必ず再度確認をすること。

レポート　科目により平常授業中や試験期間内にレポート提出が求められることがある。
提出にあたり次の事項を遵守し、決められた日時に必ず提出のこと。

(1) 作成上の注意：レポートは試験に準ずるもので、独力で作成すべきものである。
従って、不正行為については筆記試験と同様に扱う。

(2) 綴　じ　方：必ず所定の表紙（教務課窓口）を付け、『授業科目名』『論題』学籍番号・氏名を黒か青のペンで明記する。
自分で紐またはホチキスで綴じた完全なものを提出すること。

(3) 提　出　先：科目担当教員に提出するものと、教務課に提出するものがある。

〔教務課提出〕提出期限日の午後１時締切。以後一切受付ない。

≪レポートの綴じ方、表紙記入例≫

追　試　験　定期試験当日、本人の病気・天災・交通事故・就職試験・忌引その他やむを得ない事由により、受験できなかった者に対しては、追試験を行うことがある。

(1) 願出期限：当該科目の試験の翌日から、２日以内
(2) 添付書類：当該試験欠席の事由を裏付ける第三者の証明書
　　例）医師の診断書、電車・バスの遅延証明書、就職試験受験証明書、忌引の場合は葬祭通知書か証明書など
(3) 受験手続：願出期限内に上記の証明書を添え、教務課に「追試験願届」を提出し、受験の許可を受ける。
　　なお、１科目につき受験料三千円を納入しなければならない。
　　※　受験時に、学生証と共に領収証を提示のこと。
(4) 受験日程：手続きを締切、日程確定後、掲示発表する。
(5) 成績評価：得点の８掛とする。
(6) そ の 他：追試験を行ったものは、再度追試験は行わない。

再　試　験　次の各号の要件をすべて満たす場合に限り、『再試験』を受けることを認めることがある。

(1) 試験規則：（第７条）
　１．大学に４年間以上在学する卒業見込生を受験対象学生とし、卒業所要単位に不足する単位数が８単位以内の場合に限り受験を認める。
　２．この８単位とは、その年度に登録された科目に限る。
　３．再試験は本人の申請に基づいて行われる。
　４．「Ｄ」評価となった科目のみが対象となる。
　５．実技科目・ゼミナール・教職関連科目については対象外とする。
(2) 願出期間：掲示発表
(3) 受験手続：願出期限内に教務課に「再試験願届」を提出し、受験の許可を受ける。
　　なお、１科目につき受験料六千円を納入しなければならない。
　　※　受験時に、学生証と共に領収証を提示のこと。
(4) 受験日程：手続きを締切、日程確定後、掲示発表する。
(5) 成績評価：合格点に達した場合はＣ評価となる。
(6) そ の 他：再試験を行ったものは、再度再試験は行わない。

申し合わせ　『再試験』の実施は、年度末とし、学生が必要な科目について手続きをするものとする。
（９月卒業生の９月再試験は認めない）

２．成績の評価・発表について

単位の取得　単位の取得は、定期試験の結果によるが、授業科目によっては教室における授業時間中の筆記試験・レポートの提出・平素の学修状況等により、総合的に考慮して判定することがある。

単位取得条件　試験受験資格に、原則として授業への出席（2／3 以上）が挙げられているように、単位の取得は、授業への出席を条件とする。

成績評価

判　定	合　格				不合格	失　格
評　価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	評価対象外
	S	A	B	C	D	H

注）評価対象外『H』とは、未受験または出席不良等によるもの。

成績発表

(1) 成績結果：本年度履修科目の成績結果は、「成績通知票」により通知する。

通年科目の単位付与は、前期及び後期の成績を総合して判定し、評価を付して学年終了時に与える。従って、半期のみ履修しても単位は与えられない。
前期科目の成績は、D・Hのみ10月中旬（予定）に発表する。

(2) 通知票の配布：「成績通知票」は、2月下旬（予定）に保護者住所宛に送付する。

(3) その他：「成績通知票」は、次年度の履修・登録の資料となるので、大切に保管しておくこと。「成績通知票」の交付は1回のみとする。紛失した場合は、「成績証明書」（有料）を申請すること。

成績調査

「成績通知票」を受け取り、合格・不合格の科目を確認する。
成績評価内容に疑問がある場合には、教務課に申し出て、「成績調査申請書」に必要事項を記入し、「返信用封筒」とともに一定期間内に提出のこと。
日程等の詳細は、掲示する。

対象科目：その年度に履修登録された全科目
対象評価：S～H（全評価）

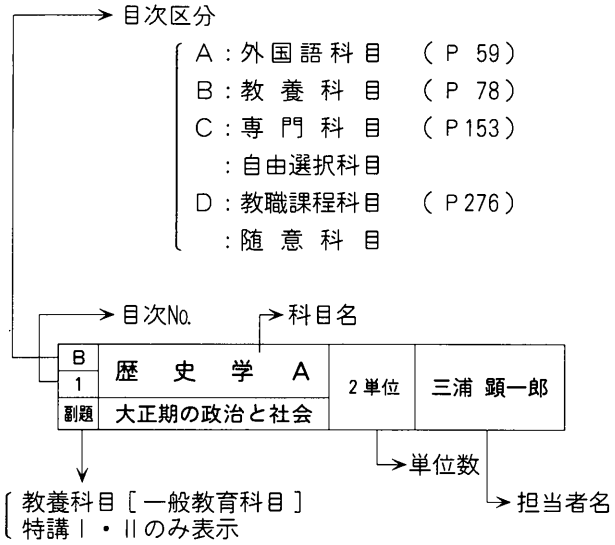
3．卒業発表

卒業発表

卒業判定会議終了後、卒業決定者を掲示にて発表する。〔3月中旬予定〕
卒業保留者については保護者にその旨を通知する。
卒業決定者は、卒業式に出席し、卒業証書の授与を受けること。
（電話による問い合せには一切応じない）

III 講義内容

「講義内容」表題・科目群(目次)の見方について



Ⅰ.「講義内容」表題の見方

・クラス指定科目の履修クラスは、○付数字で示しています。

・「講義内容」の表題は、セメスター制導入により、新カリキュラムに対応した形で表示しています。

Ⅱ. 科目群ごとの「目次」の見方

・科目群ごとに「目次」を作成しています。該当するカリキュラムの「目次」を参照して下さい。

〔記号の意味〕

全 ： 必修科目(全員)

再 ： 再履修者が対象となる科目

A0	基礎ゼミナール	2単位	藤井　健　樋口兼次　張　承玖　藤森吉之　新川清治　小林正人

〔講義目的〕
　大学在学中の学習が円滑に行われることを目的としている。学内外の資料や情報の収集・活用方法を学び、レポートの作成・発表、ディスカッション、ディベートを行う。これらを通じて、コミュニケーション能力の向上も目指す。

〔講義内容〕
①ＢＣ学科教員紹介（専門分野、ＯＨ、他）
②学生生活ディスカッション
③図書館ツアー
④辞書の使い方
⑤レポートの書き方
⑥レポート作成とプレゼンテーション（Ⅰ）
⑦レポート作成とプレゼンテーション（Ⅱ）
⑧レポート作成とプレゼンテーション（Ⅲ）
⑨レポート作成とプレゼンテーション（Ⅳ）
⑩全体発表
⑪ディベートについて（模擬ディベート）
⑫クラス・ディベート（Ⅰ）
⑬クラス・ディベート（Ⅱ）
⑭全体ディベート

〔講義のすすめ方〕
　クラス単位を基本とする。但し、⑥～⑨のレポート作成のときは、テーマごとに分かれる。
　学生各自が与えられた課題を発表する場とする。

〔教　　材〕
　適宜配布

〔成績評価の方法・基準〕
　提出したレポートの内容、レポート発表、ディスカッション、ディベートへの参加度、等と出席状況を加味して総合的に判断し評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　自分の考えを口頭で、また文章で発表する能力を養うだけでなく、他の学生の意見に耳を傾け、お互いに触発しあえるように、積極的に討論の輪に加わっていく姿勢が必要である。

〔科目内容の位置付け〕
　すべての科目の前提となる基礎的能力の習得を目的としている。大学での勉強の仕方を理解するための導入教育という位置づけである。

A. 外国語科目 目次

区分		No.	授業科目名	掲載頁	履修年次	備考
（I群）外国語科目	第一外国語（英語）	1	英語 I (Oral)	60	1年	全：必修科目
		2	英語 II (英文法)	61	1年	全：必修科目
		3	英語 III (Reading)	62	1年	全：必修科目
		4	英語 IV (Writing)	63	1年	全：必修科目
		—	英語 V (Oral)	—	2年	全：必修科目
		—	英語 VI (Oral)	—	3年	全：必修科目
		5	英語 VII (Vocabulary)	64	1年～	
		6	英語 VIII (英語の音声)	65	1年～	
		—	英語 IX (Oral)	—	2年～	
		—	英語 X (Reading)	—	2年～	
		—	英語 XI (Writing)	—	2年～	
		—	TOEIC Reading I	—	2年～	
		—	TOEIC Reading II	—	2年～	
		—	TOEIC Listening I	—	2年～	
		—	TOEIC Listening II	—	2年～	
	第二外国語（独・仏・中・西語・日本語）	7	ドイツ語 I	67	1年～	
		8	フランス語 I	68	1年～	
		9	中国語 I	69	1年～	
		10	スペイン語 I	70	1年～	
		—	ドイツ語 II	—	2年～	
		—	フランス語 II	—	2年～	
		—	中国語 II	—	2年～	
		—	スペイン語 II	—	2年～	
		—	ドイツ語 III・IV	—	2年～	
		—	フランス語 III・IV	—	2年～	
		—	中国語 III・IV	—	2年～	
		—	スペイン語 III・IV	—	2年～	
		—	コリア語	—	2年～	
		—	ロシア語	—	2年～	
		11	日本語 I	71	1年～	留学生対象
		12	日本語 II	72	1年～	
		13	日本語 III	73	1年～	
		14	日本語 IV	74	1年～	
		15	日本語 V	75	1年～	
		16	日本語 VI	76	1年～	
		17	日本語 VII	77	1年～	

A 1	英 語 I (Oral)	4単位	M.シャック L.ラインボールド、W.スミダ R.ポーリー、H.マルヤマ D.ワタナベ

〔講義目的〕

This is a basic-level communication skills course that has as its objectives the following:

- to make students comfortable and at ease listening to and speaking English
- to improve the students' listening and speaking skills in communicative situations
- to prepare students to express their needs, opinions, and ideas outside of the classroom, with other speakers of English
- to introduce students to relaxed, informal English, like the kind encountered outside of the classroom, to enable them to understand unedited speech.

〔講義内容〕

In this course, students will learn, among other things, how to do the following:

- to talk about themselves, family, and friends
- to describe themselves, family, and friends
- to describe their daily lives and routines
- to talk about and understand time, dates, and numbers
- to clarify their likes and dislikes
- to give and understand directions
- to talk about past and future events

In addition, students will learn about "reduced speech," an aspect of English concerning pronunciation changes that occur when English is used in conversation. A simple example of this can be seen when "want to," as in "I want to eat something," becomes "wanna," as in "I wanna eat something."

〔講義のすすめ方〕

This class, because of its communicative nature, will be a student-centered one and thus emphasizes student participation and student talk, rather than teacher talk.

Each class will be conducted in a similar fashion and includes both a listening component and a speaking cmponent. The listening component has a short listening (for warm-up purposes) and a longer listening (for general and specific comprehension). The speaking component consists of pairwork and groupwork activities.

In addition, listening activities involving "reduced speech" items will be done each week, first as homework and then in class, to familiarize students with the sounds of natural speech.

〔教　材〕

Textbooks will be designated during the first class. Supplemental materials will also be used and handed out to students as necessary.

〔成績評価の方法・基準〕

The more you speak a language, the more fluent you become as a language user, thus attendance, the times you come to class to use English, is the singular, most important criterion that will be used for grading. And because of the important relationship between attendance and language use development, a maximum of six(6) absences will be allowed. Furthermore, being late three(3) times will become one(1) absence.

However, attendance is not enough. Participation in class activities is also necessary. In your classes, participation means speaking English in pairwork and groupwork, asking and answering questions in English, and being attentive and listening to your classmates and teachers.

Your completed homework, which informs your teachers whether or not you understand your classwork, will also be used for grading.

Finally, the results of quizzes, used to assess short-term progress, will be used.

A breakdown of your grading is as follows:

Attendance・・・・・・・・・・・55%
Participation・・・・・・・・・・30%
Homework・・・・・・・・・・・10%
Quizzes・・・・・・・・・・・・・ 5%

〔履修のポイント・注意点〕

This is a principled, basic-level language course focusing on the development of the students' communicative skills. It provides them with immediate listening and speaking opportunities in practical situations. Students should take full advantage of these opportunities to participate in meaningful communication with their classmates in pairwork and groupwork activities. Being absent from class is a lost opportunity because only through active and real-time participation, as often as possible, can students develop their language skills. It is also strongly urged that students try to use and maintain English in all class work, especially in pairwork and groupwork.

In addition, as students will go abroad in their second year, they should bear in mind that this class will provide a preparatory basis for further English-for-communication study in their second year.

Finally, this class will be conducted completely in English.

〔科目内容の位置付け〕

English I is a basic-level, communication skills course that provides an introduction to and the foundation for second-and third-year oral English courses.

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

All other English courses, such as reading, writing, etc., are indirectly related to this course and to each other.

A 2	英語 II（英文法）	2単位	藤森吉之

〔講義目的〕
《英文法がどちらかというと苦手な学生用》：英文法の基本原則を学習し、理解し、それらの原則を利用して英語の受信・発信時の精度を向上させることをねらう。
《英文法がどちらかというと自信のある学生用》：英文法の基本原則を確認し、理解を深め、それらの原則を今まで以上に有効利用して英語の受信・発信時の精度を向上させることをねらう。
また、英語による発信時の社会言語学な発話の適切さを意識できるようになることもねらう。

〔講義内容〕
《授業で扱う文法事項は、英文法を苦手としている学生も、得意としている学生も原則として共通とする。》
01. 文構造
02. 基本時制
03. 相
04. 態
05. 法助動詞
06. 仮定法
07. 不定詞
08. 動名詞
09. 分詞
10. 名詞
11. 冠詞
12. 接続詞
13. 関係詞
14. 情報構造
15. 結束性
16. 無生物主語構文
17. 名詞構文
18. 比較
19. 発話機能（謝罪・拒否・依頼）

〔講義のすすめ方〕
前述の講義内容に沿ったテキストを用いて進めていく。このテキストはおおむね次のような構成になっており、以下に述べるように使用していく。
《構成》
1．対話文（その日扱う文法事項が含まれている）
2．文法事項の解説
3．Exercises
《授業の進め方》
授業以外での学習を原則として毎週行ってもらうようにするため、授業の後半に対話文と文法事項の解説をし、翌週の授業の前半にExercises の答えあわせと解説をしていきます。

〔教　材〕
Essential Grammar for Communication
（三修社）［1,850円＋税］
をテキストとして使用します。

〔成績評価の方法・基準〕
出席点25%（この中には毎回の課題についての評価も含まれており、課題をやらずに教室にきた場合は欠席扱いとします。）
積極生25%（授業中の発言、授業前後の質問等を数値化していきます。授業中の私語や居眠り等は減点の対象とします。）
テスト50%（前期25%・後期25%）

〔履修のポイント・注意点〕
各回の授業で扱う文法事項は関連し合っており、1回の欠席が次の Unit の理解を大きく妨げますので全出席を心がけてください。やむを得ず欠席してしまった場合はできるだけ早く担当教員とコンタクトをとり指示を受けてください。

〔科目内容の位置付け〕
BC学科の英語科目は、「基本から学びながらも、実用英語力を養成する」カリキュラム編成になっています。この趣旨からもわかるように1年次配当必修科目である英語 II（英文法）は、英語 I、III、IV、VII、VIII とともに実践的英語力をつけてもらうための導入段階に組み込まれています。英語 II は、英語の 4 技能（Speaking, Listening, Writing, Reading）における能力向上のための基盤作りであると同時に、文法という科目の性質上、2年次以降に開講される TOEIC や英検等資格試験対策の科目の土台となる科目として位置づけられています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はありませんが、関連科目は科目内容の位置付けでも書いた英語 I、III、IV、VII、VIII、TOEIC 関連科目、英検関連科目のほかすべての英語関連科目となります。

A 3	英語 III (Reading)	2単位	M. シャック

〔講義目的〕

The objectives of this course are the following:

- to read and understand texts without translation
- to improve overall reading comprehension
- to increase reading speed without loss of comprehension

〔講義内容〕

To achieve these goals, our class work will focus on directed reading activities to attain better comprehension and to increase reading speed, on reading strategies to understand how to read more efficiently, and on extensive reading to gain a greater familiarity with the printed word in context.

Directed reading will be done in class every week and it consists of providing students with reading materials at their current level of comprehension. This will allow readers to improve their reading abilities at a natural pace. The readings change weekly and as students show significant progress, their level and, likewise, their reading material change.

Work on various reading techniques will be done every week. We will learn the importance of the following ideas as they relate to reading, then follow up with practice reading activities:

-previewing
-predicting
-guessing word meanings
-topics
-topics of paragraphs
-main ideas of paragraphs
-patterns of organization
-using reference words
-skimming
-scanning

Extensive reading, or outside reading, simply means reading a lot. Students will be expected to read what they find most enjoyable and interesting. This means that students are expected not only to read in class but also to read books of their choice and interest outside of class as part of the learning process to become better and more proficient reders.

〔講義のすすめ方〕

Class time will be divided into two parts. The first half, about 45 minutes, will be spent doing directed reading. Students will read their own individual texts and answer various types of questions concerning their understanding of their reading. In addition, students will do work on vocabulary expansion and development and learn how words are put together with prefixes and suffixes.

During the second half of the class, students will work on reading strategies. They will review different strategies to see how they relate to increased reading comprehension and then practice them in context.

Students will work alone and in silence doing directed reading but they will usually work in pairs, helping one another, for the strategy section.

〔教　材〕

Textbooks will be designated during the first class and supplemental materials will be handed out to students as necessary.

〔成績評価の方法・基準〕

Final grades will be determined by attendance, attentiveness to reading in class, homework, outside reading, and tests. In terms of percentages it is as follows:

Attendance・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55%
Homework・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20%
Attentiveness in class to reading・・・・20%
Tests ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5%

〔履修のポイント・注意点〕

Do you like to read? Reading is an activity **best** learned by reading — reading a lot — not through word-for-word translations. To become a better and more proficient reader, it is important for you to choose a book you are interested in and will enjoy, to choose a book you can understand as you read, and to avoid using a dictionary while you read because when you use a dictionary, you stop reading and your reading activity becomes a translation exercise.

To improve as a reader is a long process that involves you as the main player. This class can help you and I can help you but ultimately you have to do the reading.

〔科目内容の位置付け〕

English III is an introductory-level reading class that will prepare students to read and work independently with texts in higher level classes.

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

All English courses are related to each other, in that they should reinforce what is being taught in the others.

A 4	英 語 IV (Writing)	2単位	新川清治　向井千代子　W.スミダ　R.ポーリー　D.ワタナベ

〔講義目的〕
　日本文を英文に直すという方法でなく、ある話題について自分の考えを英語で表現するトレーニングをする。段落の構成など英作文の基礎を学ぶ。

〔講義内容〕
　身近な話題を使って、段階的に英作文の技術を習得する。英語でのグループワーク、口頭による発表を取り入れ、英語の他の技能との連繋をはかる。

〔講義のすすめ方〕
　Warm-up Writing（10分程度の自由作文)、Vocabulary Building（語彙力増強)、グループワーク、Writingと授業を進める。

〔教　　材〕
　初講日に指示。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席状況、授業への参加度、提出物などにより、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　授業中の演習が主となるので、高い出席率と積極的な参加が要求される。

〔科目内容の位置付け〕
　初級レベル。

A 5	英語 VII (Vocabulary)	2単位	新 川 清 治

〔講義目的〕
　留学や海外旅行の際に必要となると思われる語彙を中心に学習する。その際、接頭語、接尾語など単語を構成する要素にも注目し、技術的に語彙力を増強するこつを示したい。

〔講義内容〕
　入国審査や銀行での両替など場面毎に想定される会話文を学習する。目と耳で理解できるようにした後、適切な応答が出来るように訓練する。また、import（輸入）が中へ（in-）運ぶ（port)、export（輸出）が外へ（ex-）運ぶなどというように単語を語根レベルに分解して理解する語彙増強法を紹介する。

〔講義のすすめ方〕
　場面毎の基本語彙の学習、リスニング、ライティング、応答練習と授業を進める。前回の授業範囲の小テストを毎週行う。

〔教　　材〕
Travel English at Your Fingertips（成美堂）

〔成績評価の方法・基準〕
出席・受講態度　30%
小テスト　30%
学期末試験　40%

〔履修のポイント・注意点〕
　欠席者は勿論、遅刻者も小テストを受けられないことによって減点されるので、出席関係には十分注意すること。

〔科目内容の位置付け〕
　2年次後期の留学対策と位置付けられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

A 6	英語Ⅷ(英語の音声)	2単位	松井恭子

〔講義目的〕

個々の語の発音、文における音のつながり、イントネーション、リズムという英語発音の大きな四つの要素を軸に英語の音声を身につける授業です。音声学の基礎的理論に触れながら英語の音声を修得し、スピーキング、リスニング等、実際のコミュニケーションにおおいに役立つ力を養成することを目的とします。この授業では発音練習、聴き取り訓練に焦点を絞り、音声修得過程において特に「音読」のプレゼンテーションを多く用いるために、それが学生の自信に繋がっていくという方向に指導目標をおいていきたいと思います。始めに英語の母音や子音の基本的な音を正しく発音する練習を行ない、次に短編小説の音読練習、英語の歌、その他ニュース英語やマザーグースなどを使った発音の練習へと発展させていきます。

〔講義内容〕

テキストには日本人にとって苦手な発音については、日本語の音と比較、対照し要点的に解説されており効率的に身につけられるよう作成されています。テープを使った聴き取り練習も織り込みながら、テキストを順番に進めていきます。

前期　Chapter 1．～Chapter21.
後期　Chapter22．～Chapter38.、
　　応用 1～応用 3 .

副教材に『Hot Beat Listening Book 2』を使用し、英語の歌のリスニング練習を通して英語独特の強弱のリズムや音声変化現象（音がとれたりつながったり、変化したりする現象）に慣れるように役立ていこうと思います。

〔講義のすすめ方〕

ペアーワークやグループワークによるプレゼンテーションや個人での暗記による朗読を取り入れます。そのため積極的に授業に関わっていくことが大切です。英語のコミュニーケーションのために発音の向上を目指そうという意欲をもって受講して頂きたいです。

〔教　材〕

『A Shorter Course in American & British English Pronunciation: 5 分間英語発音』
関根応之著（南雲堂）

『Hot Beat Listening Book 2』
Nobuhiro Kumai, Stephen Timson 共著
(Macmillan Languagehouse)

〔成績評価の方法・基準〕

下記を総合して評価します。

1．出席状況
2．授業中におけるプレゼンテーション
3．授業への参加の積極度
4．課題提出

〔履修のポイント・注意点〕

復習を中心に自宅で、日々声に出して練習を重ねていって下さい。欠席をした場合、次の授業ではプレゼンテーションの課題が出されているか、あればそれは何かを同じ授業を履修している学生にあらかじめ聞いて確認しておき、参加できるよう心がけてください。

〔科目内容の位置付け〕

この授業の大きな目的は、学生が英語の発音を総合的に理解し、ひとりひとりが正しい発音をマスターすることにありますが、それと同時に英文を聴き取る力、語彙の増加、文法学習などにも役立つような総合的な学習をしていきます。

A 6	英語Ⅷ(英語の音声)	2単位	(松 井)・藤 森

〔講義目的〕
英語の音声の基本的特徴を学んだあと実際に練習してみることで、受信時の自分自身の理解度と発信時の相手の理解度をUPさせることを目指します。また、新しい単語にであったときに辞書にでている発音記号をみて音が出せるようになることも同時に目指していきます。

〔講義内容〕
1．日本人が特に注意をすべき英語の子音
2．日本人が特に注意をすべき英語の母音
3．英語の音の変化

〔講義のすすめ方〕
この科目は英語音声学を学問として学ぶのが主眼ではないので、主にテキスト準拠のテープを使用しながら聴いたり、発音したりという作業を実際に行っていきます。反復練習が多いと授業が退屈になりがちなのでテキストに収められている旅行英語会話についても多くの時間を割いていく予定です。また、ビデオを使ったListening等も取り入れて授業にメリハリをもたせたいと思っています。

〔教　材〕
Basic English Pronunciation for Japanese
(三修社)

〔成績評価の方法・基準〕
出席点50%（授業に行う聴き取りと発音練習がこの科目の中心となるため出席には非常に大きな比重がかけられています。）
積極性25%（受講態度や授業前後の質問等を考慮します。また、私語や居眠り等は減点の対象にしますので注意してください。）
テスト25%

〔履修のポイント・注意点〕
前述のように出席して実際に音声に触れることに比重が置かれているため、欠席はしないようにしてください。やむをえず欠席してしまった場合はできるだけ早く担当教員を訪れ指示に従ってください。

〔科目内容の位置付け〕
Oral関係の科目（英語Ⅰ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅸ）は英語のネイティブスピーカーによる科目のため、この科目で学んだことを日々の授業で活かせるはずです。また、TOEICや英検にもListening Comprehensionが課せられていることから、これらの資格試験対策科目の前提科目としても位置づけられています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目はありませんが、関連科目は上記（科目内容の位置付け）で書いたような科目があげられます。

A 7	ドイツ語 I	4単位	的場哲朗

〔講義目的〕
ドイツ語を正しく発音し、基本的な文法をしっかりと身につけ、簡単な会話ができるようになることがこの授業の目的です。

〔講義内容〕
語学につきものの、発音・文法・会話に力をいれますが、同時に、ドイツ人の生活の中で言葉を理解するようにつとめたいと思います。町の中、友人たちとの語らい、旅行、大学の生活、買い物、音楽などの流行、映画、恋愛・結婚観、宗教観。意外と私たち日本人と同じところがありますし、まったく違っているところもあります。ドイツ人の好きな車の色は何色でしょう。海水浴場はどんなふうになっているのでしょう。電車の乗り方は？大学の入学試験は？日本人のことをどう思っているのでしょう。旧東独の人たちが意外に金持ちで大きな家に住んでいることも知っていますか。そんな話もたくさんしたいと思います。

〔講義のすすめ方〕
1、正しいドイツ語の発音を覚えましょう。よい発音ができれば、よく聞き取れます。わたしたち日本人に難しい発音は少ないので、しっかりと身につけることにします。
2、テキストに沿ってドイツの都市を巡ります。ビデオなども使って実際に訪れている気持ちになりますが、文法事項だけはきっちりと覚えましょう。ドイツ人は真面目。何よりも文法は大切なのです。
3、簡単なシチュエーション（ホテルや駅、レストランなど）を設定し、実際にドイツ語で会話をしてみましょう。
4、簡単なドイツ語（地図・旅行ガイド・時刻表・ゴミの捨て方・大学の講義要項など）を理解できるようにしましょう。

〔教　材〕
宇佐美幸彦、佐藤裕子、D.F.Schauwecker
『ドイツめぐり』朝日出版社
1999年、2,300円
その他適宜、資料を配付する予定。

〔成績評価の方法・基準〕
小テストと定期試験の成績（平均60点以上）、これに出席状況を加味して決定する。

〔履修のポイント・注意点〕
絶対に遅刻や欠席をしないこと。私語をしないこと。しかし、発音は大きな声ですること。分からないことはすぐに質問して解決しておくこと。テレビやラジオでドイツ語を聴くこと。

A 8	フ ラ ン ス 語 Ⅰ	4単位	C．アマン

〔講義目的〕
　フランス語入門：簡単なフランス語を読んだり話したり書いたりする能力を養う：挨拶、自己紹介あるいは他人の紹介（名前、住所、出身、言語　等)、住まいや環境について話す。
　仕事や自分の一日について叙述する。
　フランスや自国について話す　等。

〔講義内容〕
　日常の会話とフランスの文明についての短いテキスト。

〔講義のすすめ方〕
　―本文や会話のプレゼンテーション
　―理解したかどうかを確認する
　―本文や会話中に出てくる単語、文法の練習問題
　―学習したことの応用

〔教　　材〕
教 科 書は未定
辞　　書は未定

〔成績評価の方法・基準〕
　小テスト（年度中３回あるいは４回）
　試　　験（定期試験期間中１回）
　授業中の努力

〔履修のポイント・注意点〕
　出席を重視する、遅刻厳禁
　授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強ができる。
　クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にすることもある。
　学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　フランス語　Ⅱ

Yoshio : Bonjour.
Sophie : Bonjour.
　Y : Je m'appelle Yoshio Kato. Et vous?
　　Vous vous appelez comment?
　S : Je m'appelle Sophie Dubois.

A 9	中　国　語　Ⅰ	4単位	陳　順和

〔講義目的〕

1．中国語を正確に発音できるようにすること。2．中国に旅行したときに困らない程度の会話の習得。3．中国の小学三年生程度の文章を読んで、日本語に翻訳できるようにすること。4．中国の文化・政治・社会・生活習慣・風俗等等の中国人の生き方、考え方などの体得。5．本年11月に、中国語検定試験準4級合格できるようにすること。

〔講義内容〕

1．中国語概論‥漢字の形、音、意味について、その特徴を日本語の漢字と比較して説明する。2．発音編‥現代中国語の発音の基礎を入念に学習する。ローマ字発音表記法（ピン音）の発音上の規則をしっかり覚え、現代漢字音を正しく発音でるようにする。日本語等には見られなかった中国語の独特の発音や声調（音節についている音の抑揚）を正しく発音できるよう反復練習しておぼえていく。3．基本構文と文法‥文法の全事項を学習する。会話の基本構文をいろいろな場面を考えて学習する。旅行、道を尋ねる、電話をかける。手紙を出す、天気の話、図書館で、等で使われる表現を学習する。

〔講義のすすめ方〕

1．中国語を習うには、まず表音ローマ字の子音、母音、複合母音をしっかり覚えねばならない。これは二回の授業で覚えられるが、読み書きに熟練するか否かは、何と言っても個人の努力次第と言うことになる。2．中国語四声の習得は、一般に容易なことではないと思われていたが、これからは特殊な教材があるので、それに依って練習に励みさえすれば、二回の授業で正確な発音ができる。3．会話の練習をする前に、まず中国語の言葉の流れ（イントネーション）に慣れなければならない。慣れてはじめてすらすらと中国語が話せるようになる。その時点では、なり振りかまわず是非簡単な文章の朗読を繰り返し練習せねばならない。もし講義に基づいて自宅で熱心に練習すれば、二ヶ月以内できっと中国語の文章を流暢に読めるようになる。4．五月末までにすべてのローマ字による表音記号をしっかり覚えて、短い文章がすらすらと読めるようにしなくてはならない（ローマ字なしの短い文章）。5．九月になってからは会話と作文の練習に全力を注ぎ、各種の文型に習熟すれば、学期終了前には簡単な会話を中国人と交わすことや、簡単な文章を書くこともできる。6．ビデオで中国文化、芸術、生活などを紹介する。7．中国語の発音記号として決してカタカナを使ってはならない。8．できるだけ中国語検定試験（十一月中旬）を受けて、準4級の合格証を取得できるように希望する。9．中国語の話す、聞くことをよりうまくできるよう、また、中国文化と生活情事を体で感じられるようにするため、中国に短期留学することを勧める。

〔教　材〕

(1)教 科 書　よくわかる初級中国語　陳順和
　　簡易中国語文法　陳順和
(2)プリント　授業に応じて配る
(3)辞　書　精選日中、中日辞典(東方書店)
(4)参 考 書　中国語検定試験準4級ガイダンス　(光生館)

〔成績評価の方法・基準〕

1．定期試験（前後期）70%、2．平常点数（小テスト出席率など）30%、3．中国語検定合格者に加点する。

〔履修のポイント・注意点〕

1．宿題をきちんとやること、2．授業に出席すること、遅刻しないこと、3．語学の学習は集中的に、反復練習することが大切であるから毎時間小テストを行う。4．一文はさほど長くない、できれば覚えてしまうこと。5．テレビ、ラジオ講座等も併せて利用することを勧める。

〔科目内容の位置付け〕

中国語入門および初級の課程である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

Ⅰの科目の修了者は、是非中国語Ⅱを受け、より高い程度の中国語をめざすことを勧める。中国に短期留学（1ヶ月）、長期留学（1年間）することを勧める。

A 10	スペイン語 I	4単位	高橋節子

〔講義目的〕
スペイン語の基礎を学び次のステップの足がかりとすること。

〔講義内容〕
スペイン語Ⅰはあくまでも入門で、本当の勉強はその後選択科目としてのスペイン語Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを自主的に選択することから始まると考えている。入門なので、単なる知識の詰め込みにならずに、英語とスペイン語はどう違うのか。とか、スペイン語が話されている地域と文化のことなどを語っていきたいと思っている。

新しい言語を学ぶことは、新しい世界の見方を学ぶことを意味する。一つの言語しか知らない人はいかなる意味でも言語観を持つことができない。複数の言語（それも母国語とかけ離れているほうがよい）を知ることによって初めて自分が今までにどれほど自国語という牢獄に囚われていたかが分かるのである。みなさんも初めて英語を学んだ時に“どうして、「私には兄弟がいる」というのを英語では「私は兄弟を持つ」なんて変な言い方をするんだろう”とか、“どうして一冊の本と二冊以上の本をわざわざ区別しなくちゃならないんだろう”とか思わなかっただろうか。それはとても大切な感覚で、自分とは違った方法で世界を表現するやり方もある、ということを無意識のうちに感じているわけである。新しい言語を学ぶことは人間がもっている多様な世界の切り方の可能性の一つに触れることを意味する。そういうすばらしさが少しでも伝えられたらと思っている。

〔講義のすすめ方〕
授業中はできるだけ耳からの刺激を多く与えるように、スペイン語での挨拶、説明、指示、質問などを随時織りまぜていく。

〔教　材〕
自作のプリントを使用する。また、聞き取り能力や口語的な表現にも慣れてもらうために、ビデオ教材を並行して使用するつもりである。

辞書はいくつかでていてどれでもよいが、個人的には白水社の『現代スペイン語辞典』か研究社の『新スペイン語辞典』をお勧めしたい。

〔成績評価の方法・基準〕
授業内試験を適時行ない、平均点6割以上を合格とする。定期試験期間中には試験を行わない。また再試験も実施しない。

授業内試験は範囲を絞って、頻繁に行う。一見大変な様であるが、範囲が狭いのでそれほどの負担にはならない。かえってしっかり復習ができるので、次の段階の足固めとなり知らず知らずのうちに実力がついてくる事になる。

受講生は原則として授業内試験を全部受けることが求められるので、欠席には十分注意すること。

〔履修のポイント・注意点〕
授業中の私語は厳に慎んで頂きたい。また、遅刻の際堂々と悪びれず入って来て、騒々しく前の方の席に着く者もいる。遅刻は授業開始後30分は認めるが、最後列の席を遅刻者用として指定しておくつもりである。

携帯電話のスイッチは授業開始前に切っておいていただきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
授業に出席し、ふつうに勉強していればなんら問題はない授業内容である。前提科目は特になし。

興味がある人にはNHKのラジオ講座、テレビ講座の聴講をお勧めしたい。ヒアリングの練習に有効である。図書館にもスペイン語の視聴覚教材が置いてあるので利用されたい。

また年二回スペイン語の検定試験も行われている。ぜひ挑戦して頂きたい。

A 11	日　本　語　Ⅰ	2単位	山 田 あき子

〔講義目的〕
　大学の生活で必要とされる、考えをまとめて話す力の基礎力を養成するクラスと位置付けます。「伝えたいこと」をより正確に表現でき、相手の言っていることをより正確に理解できるようになることが目標です。大きく次の3点を重点目標にします。1）意見が言える　2）報告・説明ができる　3）発表ができる

〔講義内容〕
　1）意見が言える　各種のテーマに関し自分の意見を発表してもらいます。相手の意見に対し同意したり、反論したりする練習もします。相手に納得してもらうための方法についても検討し、実践に結び付けていきたいと思っています。2）報告・説明ができる　収集した情報・データを報告したり説明したりする練習をします。3）発表ができる　データをもとに、発表の練習をします。そのとき発表のための資料づくりなども練習するつもりです。各種の活動のための表現方法、語彙についても提示します。
　授業の進み具合で変更もありますが、基本路線は上記の通りです。

〔講義のすすめ方〕
　2部構成
1）毎回　2名ずつ2～3分間スピーチをしてもらいます。予め原稿を提出してもらい、添削をし、それを覚えてスピーチをしてもらいます。
2）当日の授業のテーマ　1）意見が言える　2）報告・説明ができる　3）発表ができるのどれかを授業日のテーマにします。
　細目については授業の最初の日に提示します。

〔教　　材〕
　特に定めません。
　テーマによっては、資料を集めたり、文献を探したりということが生じると思います。
　最初の授業の時に予定表とともに授業で使用予定の資料を渡します。

〔成績評価の方法・基準〕
　平常点（70%）
　　内訳　2分間スピーチ（20%）
　　　　各種の活動　　（40%）
　　　　クラス参加態度（10%）
　期末2回（30%）

〔履修のポイント・注意点〕
　内容は会話としてありますが、「話す」練習をするクラスです。「話す」のは皆さんでなければなりません。私は日本語での表現力を持っている日本語母語話者として、「あること」をどのように表現したらよいかの相談相手だと思ってください。ですから、日本語での表現力を高めるために大いに利用してほしいと思っています。
　スピーチや各種クラスでの活動で準備が必要なものがあります。何かを日本語で表現してもらうための手段です。しかし、準備をしている段階でどのように表現したらよいか分からない場合もあるでしょうから、その場合は質問してください。質問の相手として教師である私を利用してほしいのです。授業は皆さんの積極的な参加があればあるほど効果的に進められるはずです。

〔科目内容の位置付け〕
　特にありません。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　日本語Ⅱと同時に履修することが望ましいです。日本語Ⅱで読んだものを題材に会話の授業を行うことも計画しています。

A 12	日　本　語　II	2単位	山田 あき子

〔講義目的〕
　スピードを上げて、ポイントをつかみながら読めるようにすることが目的です。そのために、次の５つの点に視点をおいて授業を進めます。
　１）必要な情報を読み取る　２）文法の整理　３）語彙力・表現力を高める　４）文章の展開を把握する　５）類推しながら読む

〔講義内容〕
　教材には各種の白書・新聞記事からの文章を中心に読んでいきます。読解力を高めることが主たる目的ですが、読む内容としては日本の経済、社会、文化、教育に題材をとったものを選ぶ予定です。そのなかで皆さんの国との比較なども行えるでしょう。目的で挙げた重点的な視点の細目は次の通りです。
１）必要な情報を読み取る　課題を用意して情報の抜き出し、メモをとることなどの練習をします。　２）文法の整理　今までに学習した文法の定着度を確認していきながら皆さんの疑問を解決していきたいと思います。３）語彙力・表現力　教材から適宜抜き出します。読解の授業では理解することを基本とします。　４）文章の展開を把握する　文書の段落の構成を検討することを通じて著者のいわんとするところを把握する訓練をします。５）類推しながら読む　文末の類推、段落の展開の類推、文章の展開の類推などをすることで読みのスピードを上げる訓練をします。

〔講義のすすめ方〕
　大きく２部構成にします。
　１）小テスト　前週の教材からの漢字の読み、表現の短文作りなど前週の授業のテーマに関係する問題を扱います。
　２）当日の主要テーマに関して、私のほうで課題を用意します。その課題を解決していく過程を通じて読みの訓練をします。課題の形式はテーマによって異なるでしょうから一定ではありません。

〔教　　材〕
　白書関係の文書から適宜選択し、教材化します。
　使用予定の白書　　国民生活白書、環境白書、障害白書、文教白書など
　関連のある文章が他にもあれば、それも取り入れるつもりです。
　最初の授業の時に、読む予定の教材を渡します。

〔成績評価の方法・基準〕
　平常点（50%）
　　内訳　小テストの成績（30%）
　　　　授業参加態度　（20%）
　期末テスト（50%）

〔履修のポイント・注意点〕
　予習・復習をしてほしいです。それによって皆さんと読む量が違ってきます。できるだけたくさん読みたいと私は思っています。また、文法の疑問にもできるだけ答えていきたいと思っています。全てに答えられるかどうかわかりませんが是非質問を持ってきてください。

〔科目内容の位置付け〕
　特にありません

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　特にありません

A 13	日　本　語　III	2単位	坂本悦子

〔講義目的〕
　作文演習 —— 身近な出来事・新聞に取り上げられる話題などさまざまな題材を扱い、語彙、表現を増やすことでより適切で自然な日本語を書けるようにする。

〔講義内容〕
　「助詞」「接続詞」「語彙」など基礎的文法を定着させるため、日常生活における具体的な描写を主観的な視点からとらえ、短文で書く練習から始める。
　話し言葉と書き言葉の違い。物語文・説明文・意見文など内容による書き方の違い、またそれぞれの持つ文末表現の特長などについても取りあげる。
　さまざまなテーマのものを教材に使用することで、語彙・表現を増やすだけでなく、作文の構成・段落。中心文・文章の要約など、書く上での重要な要素をも身につけていけるようにする。

〔講義のすすめ方〕
　書くことに慣れるには、できるだけ多くの文章を読むことが重要である。そして内容を読みとるだけではなく、文の構成や論理的な手法にも目を向けるようにすることが大事だ。
　毎回一つの話題を取りあげ、作文例を提示する。テーマに基づいた意見を出し合い、語彙・表現・文法等の練習をした後、本文の内容理解に進む。口頭か文章での要約を行ってから、作文を書き始める。誤った箇所の訂正は随時行う。ただし授業では「話す・読む・聞く」がまずあって、「書く」ことは最終的なことになる。このため、作文の完成は宿題として課せられることが多い。

〔教　材〕
　特に定めない。教材はプリントとして配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席率　50%
　宿題・提出物　20%
　中間・期末試験　25%
　授業参加度　5%

〔履修のポイント・注意点〕
　書くのが苦手といっても、大学ではレポートを書かないわけにはいかない。書き方のさまざまな技術を学び書くことを面倒がらなければ、誰にでも文が作れるはず。苦手意識を捨ててほしい。まず、身近な話題から書いてみよう。日記をつけるのもいい方法だろう。
　一つのテーマに関連する語彙・表現はかなり多い。これらを十分取り入れて作文を書くことは、日本語上達の近道になるはずだ。そのためにも出席はもとより、宿題をやり遂げるための時間を十分とってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
　留学生対象。日本語能力が初級レベルの学生の作文指導。日本語での「書く」能力を高めることで、他の科目へのスムーズな導入をはかる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　留学生を対象にした日本語 I ・ II、日本事情 I ～III の授業もある。

A 14	日　本　語　IV	2単位	山 田 あき子

〔講義目的〕
大きく2つのテーマを掲げます。
1）説明・紹介と質議応答　2）発表と意見交換・討論。

〔講義内容〕
1）説明・紹介と質議応答　説明・紹介の内容として制度・社会情勢・国情などを考えています。　2）発表と意見交換・討論　文献調査・アンケート調査・インタビュー調査などで得たデータ・資料などを基礎に発表をしてもらいます。その際よりわかりやすい、また、きいてもらえる発表のためにはどのようにしたらいいのかを考えていきます。発表資料が不可欠ですから発表用の資料の作り方も検討します。

〔講義のすすめ方〕
1）説明・紹介と質議応答　制度・社会情勢・国情などを説明してもらいます。それに対し聞いている人が質問をし、説明者が答える過程を通じて相手の話を聞く練習をします。
2）発表と意見交換・討論　調査したことを発表し、それに対して意見交換をします。発表者に問題提起をしてもらい、それについて意見交換・討論をします。

〔教　材〕
特に指定しません。
テーマによっては、資料を集めたり、文献を探したりということが生じると思います。
最初の授業の時に予定表とともに授業で使用予定の資料を渡します。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（70%）
内訳　発表：発表の内容・資料の準備・問題提起の明確さ（60%）
クラス参加態度（10%）
テスト（30%）

〔履修のポイント・注意点〕
日本語IVは会話の授業です。会話と言っても何かについて「話す」練習をする授業です。話す練習をしなければならないのは皆さんであることはいうまでもありません。説明・質議応答・発表・意見交換・討論などは日本語を使う機会を提供するためのきっかけです。言葉を使うことによって上達します。皆さんが使う日本語を私が聞いて、初めて皆さんの日本語のよりよい表現方法を提示できるのですし、誤用があれば訂正することもできるのです。ですから、積極的にクラスで日本語を使って話してほしいと思います。準備しなければならないこともあります。それは是非準備してクラスに参加してください。まだ全てのことが十分に表現できるようになっていないかもしれません。表現したいのにどう表現したらよいかわからないときは遠慮なく聞いてください。貪欲に日本語力を高める努力をしてほしいと思います。

〔科目内容の位置付け〕
特にありません

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特にありません

A 15	日　本　語　V	2単位	金 柿 玲 子

〔講義目的〕
　これまで学習して来た口語日本語で接しなかった、文学を読む。日本の近現代文学を読解するのが最終目的である。近現代文学史にもふれたい。

〔講義内容〕
　講読の形式をとる。適宜指定された文を読んで内容の発表を行い、質問に答える。読後感の発表と討論も行う。

〔講義のすすめ方〕
　毎回渡されたプリントまたはテキストを読んで来る。内容について質問を行う。質問のない場合は理解したものと判断して先へ進むことになるから、なるべく質問をした方がよい。

〔教　　材〕
　適宜指示する。参考図書は未定

〔成績評価の方法・基準〕
　テスト、前期、後期
　読後感想文の提出、学期中に1～2回。
　発表の回数（参加度）、出席状況

〔履修のポイント・注意点〕
　より複雑な日本語の表現を読むのであるから、念入りな予習が必要である。予習のない場合は参加しても無駄な時間となろう。出席も重視する。

〔科目内容の位置付け〕
　特になし。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　できれば日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを終了したあとに履修することが望ましい。日本事情。

A 16	日　本　語　VI	2単位	金 柿・坂 本

〔講義目的〕
　作文演習 —— 日頃感じていること、考えていることなどを適切な語彙・表現を使って、あるいは文章の構成を意識しながら書くことによって、より自然で正確な日本語を書けるようにする。

〔講義内容〕
　新聞が読め、テレビのニュースが理解でき、しかも会話に困らない人でも書くとなると大変苦労する。書くことは一つの助詞の誤りでも文として完成したとは言えない。
　授業では基礎的文法の定着と語彙・表現を学ぶため、さまざまな文章形態を取りあげる。話し言葉と書き言葉の違い。物語文・説明文・意見文・主張文など異なった形態による書き方の特徴、またそれぞれの持つ文末表現の特徴、さらに作文構成・段落・要約など、書く上での重要な要素を身につけていくようにする。

〔講義のすすめ方〕
　書くことに慣れるには、できるだけ多くの文章を読むことが重要である。そして内容を読みとるだけではなく、文の構成や論理的な手法にも目を向けるようにすることが大事だ。
　毎回一つの話題を取りあげ、作文例を提示する。授業ではいきなり書き始めるのではなく、テーマへの興味付けをしてから行う。テーマに基づいた意見を出し合い、語彙・表現・文法等の練習をした後、本文の内容理解に進む。口頭もしくは文章での要約を行ってから、作文を書き始める。誤った箇所の訂正は随時行う。ただし授業では「話す・読む・聞く」がまずあって、「書く」ことは最終的なことになる。このため、作文の完成は宿題として課せられることが多い。

〔教　材〕
　特に定めない。教材はプリントとして配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席率　50%
　宿題・提出物　20%
　中間・期末試験　25%
　授業参加度　5%

〔履修のポイント・注意点〕
　書くのが苦手といっても、大学ではレポートを書かないわけにはいかない。書き方のさまざまな技術を学び、書くことを面倒がらなければ、誰にでも文が作れるはず。苦手意識を捨ててほしい。まず、身近な話題から書いてみよう。日記をつけるのもいい方法だろう。
　一つのテーマに関連する語彙・表現はかなり多い。これらを十分取り入れて作文を書くことは、日本語上達の近道になるはずだ。そのためにも出席はもとより、宿題をやり遂げるための時間を十分とってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
　留学生対象。日本語能力が中・上級レベルの学生の作文指導。日本語での「書く」能力を高めることで、他の科目へのスムーズな導入をはかる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　留学生を対象にした日本語IV・V、日本事情I～IIIの授業もある。

A 17	日　本　語　Ⅶ	2単位	金 柿 玲 子

〔講義目的〕
　日本語能力の総合的な仕上げを目的とする。特に卒業を控えて、論文作成やレポートに追われる上級の学生にとって最も気を使うところは、自分が書いた日本語が正しいかどうか、という点であろう。不完全な日本語は、ゼミの先生や論文指導の先生方の負担になる。本講の最終目的は、完成された日本語による論文、レポートの作成及び高度な日本語を使いこなすことである。

〔講義内容〕
　論文の書き方の演習をする。モデルになる論文を読み、分析し、文のスタイル、文体形式、トピックの運び方、などを具体的に学び、書く。

〔講義のすすめ方〕
　モデル文を必ず読んでくること。学生各自の論文テーマについて、大まかな構想ができるまで、模擬文を書いて練習する。宿題は文を書くことが多い。

〔教　　材〕
　適宜指示する。参考書は未定。

〔成績評価の方法・基準〕
　テスト　前期、後期2回
　平常点（宿題の提出状況、作文の評価）
　出席率、以上の総合点を判定基準とする。

〔履修のポイント・注意点〕
　論文を書くことの練習であるから、書くことは避けられない。論文に必要な語彙や、表現を早く身につけるようにしたい。

〔科目内容の位置付け〕
　卒業論文のための学習であるから日本語のレベルは高いので、初級レベルの参加は難しい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　日本語Ⅰ、Ⅱ、またはⅢ、Ⅳ、Ⅴを終了したもの、またはそれと同等の日本語のレベルにあるもの。

B. 一 般 教 養 科 目　目 次

区　分	No.	授　業　科　目　名	掲載頁	備　考
（Ⅱ群）	1	歴史学A	80•82	
	2	歴史学B	81•83	
	3	日本史概論	84•85	
	4	外国史概論	86	
	5	地理学A	88	
	6	地理学B	89	
	7	地理学概論	90•91	
	8	地誌学概論	87	
	9	倫理学A	92	
	10	倫理学B	93	
	11	応用倫理	98	
	12	倫理学概論	94•95	
	13	哲学A	96	
	14	哲学B	97	
	15	哲学演習	99	
	16	哲学概論	100•101	
	17	文学A	102	
	18	文学B	103	
	19	論理学	104	
	20	批判的思考	105	
	21	国語表現法A	106	
	22	国語表現法B	107	
	23	美学A	108	
	24	美学B	109	
	25	比較文化論A	110	
	26	比較文化論B	111	
	27	社会学A	112•114	
	28	社会学B	113•115	
	29	法学A	116	
	30	法学B	117	
	31	統計学A	118	
	32	統計学B	119	
	33	心理学A	120•122	
	34	心理学B	121•123	
	35	社会心理学A	124	
	36	社会心理学B	125	
	37	政治学A	126	
	38	政治学B	127	
	39	情報社会科学A	128	
	40	情報社会科学B	129	

教養科目

区　分	No.	授　業　科　目　名	掲載頁	備　考
（Ⅱ群）教養科目	41	教育学A	130	
	42	教育学B	131	
	43	環境科学A	132	
	44	環境科学B	133	
	45	数学A	142	
	—	数学B	—	
	46	物理学A	134	
	47	物理学B	135	
	48	化学A	136	
	49	化学B	137	
	50	生物学A	138	
	51	生物学B	139	
	52	科学史A	140	
	53	科学史B	141	
	54	スポーツ演習A	143•144	
	55	スポーツ演習B	145•146	
	56	健康科学	147•148	
	57	日本事情Ⅰ	149	留学生対象
	58	日本事情Ⅱ	150	
	59	日本事情Ⅲ	151	
	60	日本事情Ⅳ	152	
（Ⅲ群）総合科目	—	教養ゼミナールⅠ	—	
	—	教養ゼミナールⅡ	—	
	—	総合科目Ⅰ	—	
	—	総合科目Ⅱ	—	

B 1	歴　史　学　A	2単位	三浦顕一郎
副題	大正期の政治と社会		

〔講義目的〕

本講義は、現代にいたる近代日本の歴史過程について高度な知識を得るとともに、そこから現代の諸問題に対するヒントを学生諸君が自ら引き出すことを目的とするものである。そもそも歴史学は、未来に関心を有する者が、現代の諸問題を過去に遡ってたずねるところに成立する。この歴史学成立の根本前提から、歴史に対する二つの態度が生じうる。一つは、歴史における因果律を重視するものであり、もう一つは、因果律によっては淘汰される歴史の中の可能性や歴史における人々の生の営みを掘り起こそうとするものである。一見すると背反するこの二つの立場は、実は、現在や未来に対する指針という点において相補的なものである。歴史の因果律を知ることによって、人は、現代の諸問題の由来を知り、未来を望見する手がかりを得ることができる。また、現代にいたる歴史過程を担った人々の生の営みを知ることによって、われわれは現在と未来とに対する自らの態度について示唆を得ることができるのである。

〔講義内容〕

大正期の政治と社会である。政治と社会とは相互に影響を及ぼしあう関係にあり、その意味で本来不可分のものである。政治は社会に規定される一方、社会を規定する。逆もまた然り。社会の在り方が政治の有り様を規定する一方、政治的決定が社会の在り方に影響を及ぼす。この両者の関係は過去においてそうであったし、現在においてもやはり真であろう。また政治と社会とは、前の時代に規定されながら、後の時代を決定するものでもある。前の時代の政治と社会とが現在を規定し、現在の政治と社会とが後の時代を決定するのである。それゆえ本講義は、政治と社会の関係とその歴史的展開を主要な柱として、大正時代を通観する。

〔講義のすすめ方〕

一　ガイダンス＝歴史とは何か？（この講義概要では略述せざるを得なかった講義目的や講義内容を、やや詳しく説明する）

二　大正期の政治と社会

(1) 第一次憲政擁護運動と大正政変

(2) 第一次世界大戦と「世界の改造」

(3) 寺内内閣と米騒動

(4) 原内閣：わが国初の本格的政党内閣の功罪

三　大正期の歴史的意義

(1) 明治・昭和との関係

(2) 現代との関係

〔教　材〕

教科書・指定図書　とくに指定しない

参考文献　授業中に適宜、指示する

〔成績評価の方法・基準〕

〔履修のポイント・注意点〕

レポート（50%）と期末試験（50%）を総合して評価する。なお毎回の授業で課されるレポートの提出が2／3に満たない者は無条件に成績評価対象外となる。

〔科目内容の位置付け〕

人文・社会科学の基礎科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

大学四年間の間に、日本政治史・日本法制史・政治学特殊講義を受講することが望ましい。

B 2	歴　史　学　B	2単位	三浦顕一郎
副題	昭和戦前期の政治と社会		

〔講義目的〕

本講義は、現代にいたる近代日本の歴史過程について高度な知識を得るとともに、そこから現代の諸問題に対するヒントを学生諸君が自ら引き出すことを目的とするものである。そもそも歴史学は、未来に関心を有する者が、現代の諸問題を過去に遡ってたずねるところに成立する。この歴史学成立の根本前提から、歴史に対する二つの態度が生じうる。一つは、歴史における因果律を重視するものであり、もう一つは、因果律によっては淘汰される歴史の中の可能性や歴史における人々の生の営みを掘り起こそうとするものである。一見すると背反するこの二つの立場は、実は、現在や未来に対する指針となる点において相補的なものである。歴史の因果律を知ることによって、人は、現代の諸問題の由来を知り、未来を望見する手がかりを得ることができる。また、現代にいたる歴史過程を担った人々の生の営みを知ることによって、われわれは現在と未来とに対する自らの態度について示唆を得ることができるのである。

〔講義内容〕

昭和戦前期の政治と社会である。政治と社会とは相互に影響を及ぼしあう関係にあり、その意味で本来不可分のものである。政治は社会に規定される一方、社会を規定する。逆もまた然り。社会の在り方が政治の有り様を規定する一方、政治的決定が社会の在り方に影響を及ぼす。この両者の関係は過去においてそうであったし、現在においてもやはり真であろう。また政治と社会とは、前の時代に規定されながら、後の時代を決定するものでもある。前の時代の政治と社会とが現在を規定し、現在の政治と社会とが後の時代を決定するのである。それゆえ本講義は、政治と社会の関係とその歴史的展開を主要な柱として、昭和前期を通観する。

〔講義のすすめ方〕

一　ガイダンス＝歴史とは何か？（この講義概要では略述せざるを得なかった講義目的や講義内容を、やや詳しく説明する）

二　昭和戦前期の政治と社会

(1) 第二次憲政擁護運動

(2) 憲政の常道：日本の政党政治の光と影

(3) 国家改造運動（五・一五事件と満州事変と二・二六事件）

(4) 近衛新体制・国家総動員・太平洋戦争

三　昭和戦前期の歴史的意義

(1) 大正期および戦後との関係

(2) 現代との関係

〔教　材〕

教科書・指定図書　とくに指定しない

参考文献　授業中に適宜、指示する

〔成績評価の方法・基準〕

〔履修のポイント・注意点〕

レポート（50%）と期末試験（50%）を総合して評価する。なお毎回の授業で課されるレポートの提出が2／3に満たない者は無条件に成績評価対象外となる。

〔科目内容の位置付け〕

人文・社会科学の基礎科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

大学四年間の間に、日本政治史・日本法制史・政治学特殊講義を受講することが望ましい。

B 1	歴　史　学　A	2単位	村尾元忠
副題	先人たちは歴史をどう見てきたか		

〔講義目的〕

歴史とは何か。これはなかなか難しい題目である。もともとこれは哲学の領域の問いかけである。一般に歴史を学ぶ、あるいは歴史を読む人が哲学的考察を常に意識しているわけではない。歴史に興味をもつ人の全てが歴史の研究者ではないからである。しかし、そうはいっても誰しもがその人なりの見方をもって歴史を読んでいるには違いない。先人の歴史家、思想家、哲学者たちが歴史をどうとらえてきたかを辿ることによって歴史は一層興味深いものとなるはずである。そして、歴史は読むものだけではない。歴史を創る自分自身を発見することがこの講義の目的である。

〔講義内容〕

古代ギリシアの歴史家たち、キリスト教者、中国の歴史家、日本の歴史家、イスラムの歴史家、近世ヨーロッパの歴史家たちの考え方を概説する。

〔講義のすすめ方〕

講義は以下の項目にしたがって進めていく予定である。

1．偶然か必然か
2．歴史は繰返す
3．歴史は鏡である
4．歴史は神の証
5．歴史は歩み降る
6．田舎から都市へ
7．ウィルトウは不滅
8．民族の一般精神
9．野蛮から文明へ

〔教　材〕

教 科 書：なし
指定図書：特になし
参考図書：講義の中で紹介する

〔成績評価の方法・基準〕

学期末のレポートによる。レポートは複数の論題を指示するので、その中から選んで論述する。評価は、(1) レポートとしての形式あるいは体裁を整えているか、(2) 内容が私の指定した論題の範疇に属するか、(3) 論旨の展開に合理性があるか、(4) どの程度問題解決のための調査を行なったか、による。もちろん他の著作者の単なる複製は評価しない。

〔履修のポイント・注意点〕

他者の考え方は自分のそれと違えば違うほど難解である。しかし、他者との違いを認識することによって自分の考えも磨かれてくる。なるほどと思い、なぜだろうと考えることが新しい一歩を踏み出す契機となるのである。覚えるために聞くのではない。自分の考えを磨くために聞くのである。

〔科目内容の位置付け〕

この講義は史学史である。つまり歴史学の歴史である。そのため多少議論が多くなるのは止むを得ない。ただこれは一般教育科目であるから、あくまでも考え方の紹介にとどめる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

高等学校の世界史を履修していれば入りやすいであろうが、そのことは特に前提とはしない。

B 2	歴　史　学　B	2単位	村尾元忠
副題	先人たちは歴史をどうとらえてきたか		

〔講義目的〕
歴史とは何か。これはなかなか難しい題目である。もともとこれは哲学の領域の問いかけである。一般に歴史を学ぶあるいは歴史を読む人が哲学的考察を常に意識しているわけではない。歴史に興味をもつ人の全てが歴史の研究者ではないからである。しかし、そうはいっても誰しもがその人なりの見方をもって歴史を読んでいるには違いない。先人の歴史家、思想家、哲学者たちが歴史をどうとらえてきたかを辿ることによって歴史は一層興味深いものとなるはずである。そして、歴史は読むものだけではない。歴史を創る自分自身を発見することがこの講義の目的である。

〔講義内容〕
19世紀は歴史の世紀といわれる。このときに近代歴史学が形成された。この時期を中心にして、ヨーロッパの歴史家たちあるいは哲学者たちの考え方を概説する。

〔講義のすすめ方〕
講義は以下の項目にしたがって進めていく予定である。
1．人間性の発展
2．認識の学
3．全ては理性が支配する
4．愛と共感
5．歴史叙述は芸術である
6．過去が明るくなるのではない
7．自分自身の精神の認識と高揚
8．気候・地形が歴史を決定する
9．最終社会への前史

〔教　材〕
教科書：なし
指定図書：特になし
参考図書：講義の中で紹介する

〔成績評価の方法・基準〕
学期末のレポートによる。あらかじめ指示する複数の論題から選択して論述する。評価は、(1) レポートとしての形式あるいは体裁を整えているか、(2) 内容が私の指定した論題の範疇に属するか、(3) 論旨の展開に合理性があるか、(4) どの程度問題解決のための調査を行なったか、による。もちろん他の著作者の単なる複製は評価しない。

〔履修のポイント・注意点〕
他者の考え方は自分のそれと違えば違うほど難解である。しかし、他者との違いを認識することによって自分の考えも磨かれてくる。なるほどと思い、なぜだろうと考えることが新しい一歩を踏み出す契機となるのである。覚えるために聞くのではない。自分の考えを磨くために聞くのである。

〔科目内容の位置付け〕
この講義は史学史である。つまり歴史学の歴史である。そのため多少議論が多くなるのは止むを得ない。ただこれは一般教育科目であるから、あくまでも考え方の紹介にとどめる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
高等学校の世界史を履修していれば入りやすいであろうが、そのことは特に前提とはしない。

B 3	日本史概論（前期）	2単位	村尾元忠
副題	日本古代史		

〔講義目的〕
民族とは歴史によって形成される。したがって歴史は民族の心であり文化である。歴史を知ることは民族精神を確認し高めることである。日本とは何か。それは日本の歴史によって示される。それは過去のことではない。いま生きている我々の問題である。歴史を知ることによって我々自身の認識を深めることがこの講義の目的である。

〔講義内容〕
今までに学んできた歴史の知識を前提にして、5世紀から11世紀にかけてのその時代その時代の人々の生きざまを語る。具体的には、神々を語った人たちの世界、大王たちの活躍、歌を謡う人々の心、律令官僚たちの姿勢、社会の裏で活躍する盗人たち、などをテーマとする。

〔講義のすすめ方〕
以下の章立てによって講義を進める予定である。

1．神々の世界
神々はそれを語る人々の思想と感性を表しすものである。古代の人々の思想と感性を探る。

2．大王たちの世界
五世紀は日本が国家としての体制を整備した時期である。その時期の国家（王朝）はどのようなものであったろうか。

3．古代歌謡の世界
古代の歌謡から古代人の心を探る。

4．律令官僚たちの世界
理想をかかげた官僚たちは学者でもあった。しかし、理想であることだけで国が動くのではない。それは昔も今も同じである。

5．宮廷貴族たちの世界
かつて貴族は有能な官僚であった。しかし、平安時代になると必ずしも官僚的能力だけが貴族の要件ではなくなる。そこに新しい文化サロンが生まれる。

6．今昔物語の世界
今昔物語の説話のなかから平安中末期の盗人の世界を覗いてみる。

〔教　材〕
教科書：なし
指定図書：なし
参考図書：講義の中で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末のレポートによる。レポートの、評価は、(1) レポートとしての形式あるいは体裁を整えているか、(2) 内容が私の指定した問題の範疇に属するか。(3) 論旨の展開に合理性があるか。(4) どの程度問題解決のための調査を行なったか、による。ただし、これは将来教壇に立つことが期待される受講者に対する講義であるから、出席点を加味する。その割合はおおむね30%とする。欠席が年間10回に達した者には単位を認めない。

〔成績評価の方法・基準〕
自分の感性の中に眠っていたものを発見、覚醒させるという心構えで受講すること。知識量を増やすことが目的なのではない。

〔科目内容の位置付け〕
科目名は「概説」であるが、その内容は「通史」である。通史とは多様な事象をなるべく多く取り上げようとするのではなく、テーマに沿った事象を選択的にとりあげて歴史の流れを語ることである。この講義の主テーマは人々の心である。

〔講義内容〕
歴史は全ての学問分野を包括する。一見関連のないような分野の学問も常に歴史のなかでとらえられるのである。

B 3	日本史概論（後期）	2単位	村尾元忠
副題	日本中世及び近世史		

〔講義目的〕
民族とは歴史によって形成される。したがって歴史は民族の心であり文化である。歴史を知ることは民族精神を確認し高めることである。日本とは何か。それは日本の歴史によって示される。それは過去のことではない。いま生きている我々の問題である。歴史を知ることによって我々自身の認識を深めることがこの講義の目的である。

〔講義内容〕
今までに学んできた歴史の知識を前提にして、平安末期から江戸時代に至るまで、その時代その時代の人人の生きざまを語る。具体的には、つわものたちの世界、武士たちの活躍、中世の犯罪、官僚となった武士たちの思想、などをテーマとする。

〔講義のすすめ方〕
以下の章立てによって講義を進める予定である。

1．つわものたちの世界
命のやりとりをする世界は普通の人々にとって異質な世界である。その世界に属するつわものとはどのような存在であったか。

2．御家人たちの世界
政治の中心にのしあがった御家人たちにも普通と変わらない日常の生活があった。

3．成出者たちの世界
社会が変動していくと新しい階層が社会のリーダーとして登場する。

4．中世の罪と罰
中世における犯罪行為とはどのような行為であったか。また、その捜査と刑罰はどう行われたか。

5．官僚武士たちの世界
平和な時代の武士たちは戦場での勇猛な活躍が期待されると同時に、有能な官僚でもなければならない。そこに独特の倫理規範が要求される。

〔教　材〕
教科書：なし
指定図書：なし
参考図書：講義の中で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末のレポートによる。レポートの、評価は、(1) レポートとしての形式あるいは体裁を整えているか、(2) 内容が私の指定した問題の範疇に属するか。(3) 論旨の展開に合理性があるか。(4) どの程度問題解決のための調査を行なったか、による。ただし、これは将来教壇に立つことが期待される受講者に対する講義であるから、出席点を加味する。その割合はおおむね30%とする。欠席が年間10回に達した者には単位を認めない。

〔成績評価の方法・基準〕
自分の感性の中に眠っていたものを発見、覚醒させるという心構えで受講すること。知識量を増やすことが目的なのではない。

〔科目内容の位置付け〕
科目名は「概説」であるが、その内容は「通史」である。通史とは多様な事象をなるべく多く取り上げようとするのではなく、テーマに沿った事象を選択的にとりあげて歴史の流れを語ることである。この講義の主テーマは人々の心である。

〔講義内容〕
歴史は全ての学問分野を包括する。一見関連のないような分野の学問も常に歴史のなかでとらえられるのである。

B 4	外国史概論	2単位	松嶌・(清水)
副題	ドイツ史の流れ		

〔講義目的〕
日本史以外はすべて外国史ということになろうが、その概論となると大変なことである。ここでは思い切ってドイツ史だけに絞って、ドイツというひとつの国の歴史を概説する。とはいえ、ドイツという名称の国家はたかだかこの百年余りのことにすぎない。それ以前にはドイツという地域、ドイツ人という人々、ドイツ語という言語はあったが、ドイツ国という国家はない。従って、何をもってドイツ史というかということ自体がドイツ史のひとつの問題なのである。ここでは、ゲルマン諸部族、フランク王国、神聖ローマ帝国、領邦国家体制、国民国家統一期、現代ドイツといった順番で祖述する。ドイツという国はしばしば日本と比較される。また、明治期の日本人がドイツという国を模範にして国家建設を進めてきたことも事実だ。勤勉で統率がとれており、時間に正確で周りに対する気配りもいい。その一方、理屈が先立ってユーモアを解さず、個人の自立が遅れて権威に弱い。こういったドイツ人のステレオタイプは、日本人が自らを反省するときの材料でもあった。ここでもドイツを問題にしながら同時に日本の歴史を考えていきたい。ただし、ドイツという一国家の歴史だけで外国史全体を推し量ることができないのは言うまでもない。授業ではドイツ史が提起している問題点をなるべく他の諸国、とくにヨーロッパ諸国の歴史と対比させながら考えたい。

〔講義内容〕
1．ゲルマン諸部族
2．フランク王国の成立と展開
3．ドイツ国民の神聖ローマ帝国
4．30年戦争と領邦国家体制の成立
5．遅れてきた体制　フランス革命とドイツ
6．第二帝政下のドイツ

〔講義のすすめ方〕
通常の講義スタイルをとる。ドイツ史の概略を鳥瞰するとともに、その中で問題にされている課題が何であるかを考えていきたい。

〔教　材〕
テキストは指定しない。
参考文献 『物語ドイツの歴史』
阿部謹也、中公新書、860円
その他の参考文献は授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は学期末試験の成績と毎回の講義への出席を点数化したものを加味して行う。定期試験成績と出席点の割合は6対4とする。

〔成績評価の方法・基準〕
歴史学とは暗記のことだと考えている人が多いと思う。確かにそれは違う。しかし歴史的感覚を持つためには、一定の歴史的知識を頭の中に入れておかないでは話にならない。暗記もまた必要だ。そこで外国の地名、人名、事件名など非常に基本的なものはなるべく紹介して覚えてもらうようにしたい。受講生はひとたびは高校生（受験生でもいい）に返ったつもりで、歴史の勉強をしてもらうことになる。

〔科目内容の位置付け〕
この授業は教養の外国史であり、この程度は知っておいてもらいたいという内容のものである。高校で歴史が得意で、今更という人は受講する必要性は薄いが、歴史の物語を聞くのが好きという人には向いている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
本講義の発展形が専門科目の西洋政治史であり、またナチスの問題に特化したのが政治学特殊講義Ⅰであるので、並行して受講することが望ましい。

B 8	地誌学概論	2単位	奥澤信行
副題	アジアの国々		

〔講義目的〕

地誌学とは、世界あるいは国内の一定のまとまりのある地域について、自然環境や生産活動、人々の生活の様子を正確に把握し、その成立要因を考察すると同時に、他の地域との差異を明らかにすることを目的とする地理学の一分野である。

本講では、地誌学の基本に触れた後、半期という制約を考慮して、本年度は日本とアジア各国との関係を取り上げ、地域の見方の基本を講義したい。なお日本地誌については、地理学概論でこれを扱う。

〔講義内容〕

Ⅰ地誌学とは
- ①地誌学と系統地理学
- ②地誌学の系譜
- ③社会科地理的分野での位置付け

Ⅱアジアの自然環境
- ①地形区分（安定地形と新期造山帯）
- ②気候区分（熱帯から冷帯までの多様な気候帯）

Ⅲ東アジア地誌
- ①農業と鉱工業（農業の地域区分と工業都市の分布）
- ②民族と宗教（漢民族と少数民族）

Ⅳ東南・南アジア地誌
- ①農業と鉱工業（伝統的稲作農業と工業の近代化）
- ②複雑な民族構成（華僑と現地人の関係）
- ③宗教分布（仏教・ヒンズー教・イスラム教・キリスト教・原始宗教）
- ④人口問題（人口爆発による諸問題）

〔講義のすすめ方〕

講義の中に出てくる地名は、おそらく受講生も知っているであろうし、また教壇に立った時には、必ず生徒に教えねばならない必要最低限のものである。文句を言わずに覚えてもらいたい。また板書は、ノートを取りやすいように工夫するので、各自で講義録を作成してもらいたい。

〔教　材〕

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。また高校の地理や現代社会の授業で、地図帳を使用した受講生はこれを持参して、授業中出てきた地名を必ず確認すること。

参考書

『教養の地誌学』杉村暢二著　大明堂

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを1枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は4～5題を全開、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期12～13回の授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。

〔成績評価の方法・基準〕

地誌学では、多くの地名が出てくるが、教職課程を履修している学生は、「地名の暗記などさせるから地理は暗記物と言われるのだ」などと尤もらしいことを言わず、素直に覚えてもらいたい。必須地名に関する知識は覚えるしかない。北京・ソウル・東京の正しい位置関係も知らないで、教壇に立たれては、生徒が不幸になるだけである。「知識なくして理解なし」これもまた一つの真理なのである。地理学概論と同様、教職科目として履修する学生は、とりわけ真面目であることが前提となる。過去の本講の受講生をみると、途中で放棄した学生（例年2～3名）を除いて、ほとんどの学生が皆勤で、私語も一切なかったことを付記しておきたい。

〔科目内容の位置付け〕

地理学概論と同じく、一般教育（教養科目）の地理学（A・B）をすでに履修済み、または履修中であることが望ましい。また地理学概論で扱う日本地誌と本講で扱う外国地誌がセットになって、地誌学が一つの形となるので、地理学概論と同時に受講してもらいたい。経済地理学については、地理学概論の項を参照のこと。

B 5	地　理　学　A	2単位	奥 澤 信 行
副題	自然環境と生産活動		

〔講義目的〕

「地理学」と聞いただけで、中学生の時に地名や統計の暗記に終始した「地理」の学習から、無味乾燥な科目と考えている諸君も多いことであろう。また高校の「地理」が選択科目となっているために、履修する機会を得られなかった学生は、その面白さを知らずに、今日に至っているのではないか。しかし「地理学」は、地表面で起こっている諸事象を自然環境や社会環境など多方面から分析することで、その事象の展開される空間（地域）の特殊性を明らかにすることを目的とし、決して暗記のみで理解できる学問ではない。

そこで本講では、「地域の存立する要因は何か」ということを常に念頭に置きながら、地理学的なものの見方・考え方を論じてみたい。

〔講義内容〕

Ⅰ地理学とは？
　①自然地理学と人文地理学
　②面的スケールの捕え方と地図
Ⅱ自然環境（地形と気候）
　①生活舞台としての平野
　②世界各地の気候と人間生活
Ⅲ人口問題
　①分布と移動
　②地球規模での人口問題
　③国内の人口問題
Ⅳ村落の変容
　①形態と機能による分類
　②村落と近隣都市との関係

〔講義のすすめ方〕

授業内容の順に従って講義するが、地理学は、時間的対象を現在から未来としているため、最新の話題を取り上げざるをえず、若干前後することもある。

〔教　　材〕

教科書は特に使用しない。なお高校で地図帳を使用した学生は、これを持参し、講義の中で取り上げる地名については、その都度チェックすることが望ましい。また必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書『身近な地理学』
　服原正弘著　大明堂
『地理学の見方・考え方』
　日本大学地理学教室 編　古今書院

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを1枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は4～5題を全問、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期12～13回の授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

かなりの早口で講義するので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、しっかりと講義録を作成すること。また板書が終わってからノートを取るような呑気な態度で授業に臨まないでもらいたい。然るべき理由のない10分以上の遅刻は認めず、90分きちんと受講できる学生の受講を希望する。

〔科目内容の位置付け〕

高校で地理を履修する機会のなかった学生にも理解できるように説明するので、地理学の基礎的レベルの内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前述のように本講は、基礎的レベルであるので、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容を扱う「地理学B」については、できるだけ履修してもらいたい。なお本講では詳述しない商業地理学と工業地理学の分野については、経済地理学でこれを扱う。また教職課程の履修者は、地理学概論・地誌学概論の他に、本講と経済地理学を受講することが望ましい。

B 6 副題	地　理　学　B 都　市　と　農　村	2単位	奥澤信行

〔講義目的〕
「地理学Ａ」からの継続科目として、下記のような内容について講義する。ここで扱う内容は、より具体的な事例を挙げて説明することになるので、その事象が確認できる地理的空間（地域）の特異性をより明確に理解できるであろう。また地理的な物の見方を地理的事象から日常生活にまで拡大することで、物事をより客観的に判断できる能力を身に付けることを目的とする。

〔講義内容〕
Ⅰ都市と都市化
①都市の魅力
②都市の形態と機能の歴史的変遷
③都市構造と都市システム
④大都市の影響による周辺都市の画一化
⑤周辺地域を含んだ都市圏のとらえ方
Ⅱ農業生産の地域的変容
①農業生産の歴史的変遷
②農村の産業構造の変容
③農山村のリゾート開発
Ⅲ地域の概念規定
①等質地域と機能地域
②形式地域と実質地域
③地域のイメージ

〔講義のすすめ方〕
授業内容の順に従って講義するが、地理学（特に都市と都市化の項目）で扱う対象は変動が激しいので、最新の話題を取り上げざるをえず、若干前後することもある。

〔教　材〕
教科書は特に使用しないが、高校で地図帳を使用した学生は、これを持参することが望ましい。また必要に応じてプリントを配布する。
参考書『身近な地理学』
服原正弘著　大明堂
『地理学の見方・考え方』
日本大学地理学教室 編　古今書院

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と定期試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを１枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は４～５題を全問、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期12～13回の授業の３分の２以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
かなりの早口で講義するので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、しっかりと講義録を作成すること。また板書が終わってからノートを取るような呑気な態度で授業に臨まないでもらいたい。然るべき理由、のない10分以上の遅刻は認めず、90分きちんと受講できる学生を希望する。

〔科目内容の位置付け〕
高校で地理を履修する機会のなかった学生にも理解できるように説明するので、地理学の基礎的レベルの内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「地理学Ａ」において地理学の基本事項の説明を済ませてしまうので、「地理学Ａ」を履修済みであることが望ましい。なお「地理学Ａ」と同様、ここでは詳述しない商業地理学と工業地理学については、経済地理学でこれを扱う。また教職課程の履修者は、地理学概論・地誌学概論の他に、本講と経済地理学を受講することが望ましい。

B 7	地理学概論（前期）	2単位	奥 澤 信 行
副題	社会科地理の教え方		

〔講義目的〕

本講は教養科目であると同時に、「中学校社会一種免許状」を取得予定の学生にとって、教職課程の「教科に関する科目」の一つとなっている。したがって同じく教養科目として設定されている「地理学Ａ・Ｂ」よりも中学校の教育現場を念頭に置いた内容であり、中学校社会科の「地理的分野」における地理学の位置付けと、現場での指導事項について論ずる。「地理的分野」が、中学校において生徒や、一部教師による「暗記科目」とのそしりを免れない現状を打破するためにも、地理的事象の成立要因を考えることの重要性を認知してもらいたい。

〔講義内容〕

Ⅰ地理学史
①古代の地理学者と地理観
②近現代の地理学者と地理観
Ⅱ地理学の分類
①自然地理学
②人文地理学
Ⅲ社会科教育の本質
①社会科教育の目標
②社会認識の形成
Ⅳ地理教育と地理学（その１）
①地理教育の重要性
②自然環境の扱い

〔講義のすすめ方〕

講義が中心であるが、中学校や高校の教育現場の実例を適宜取り上げて、受講者に意見を求め、ディスカッションする場合もある。地理あるいは社会科の指導内容に限定せず、教育問題全般について触れてみたい。

〔教　　材〕

教科書は特に使用しない。また必要に応じて板書の補足事項や、教育現場での諸問題の新聞記事などをコピーして配布する。なお高校で地図帳を使用した学生は、必ずこれを持参すること。

参 考 書　『教職の地理学』
杉村暢二・次山信男共著　大明宝

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを１枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は４～５題を全開、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期12～13回の授業の３分の２以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。また授業中の積極的な発言もプラス点として加味したい。なお３・４年次生は、本科目の成績を中間成績として扱い、後期開講の「地理学概論」の成績と総合して評価する。

〔成績評価の方法・基準〕

将来教職に就くか否かは別として、教職課程を履修するからには、それなりの覚悟ができていることと思う。教育現場の実態を具体例を挙げながら、理解しやすいように説明するので、受講生も真摯な態度で授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関する社会問題については、それらの問題が発生した時点で、即座に授業で取り上げ、受講者の意見を聞いて生きた教材としたいので、常に社会に関心を向け、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。教職課程科目として受講する学生は、とりわけ真面目であることが前提となる。今までの本講の受講生に関しては、数回授業に顔を出して、途中で放棄した学生（例年２～３名）を除いて、ほとんどの学生が皆勤で、私語も一切なく、意見を求められれば積極的に発言していたことを付記しておく。

〔科目内容の位置付け〕

社会科地理的分野を、単なる暗記科目としないために、どのような点に留意して指導すべきかという点について、基礎的なレベルの講義を行う。教職課程履修者向けの内容であるので、地理学そのものについて学びたい学生には「地理学Ａ・Ｂ」の履修を勧める。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

一般教育（教養科目）の地理学（Ａ・Ｂ）を履修済み、または履修中であることが望ましい．同時に開講されている地誌学概論は、できれば本講と一緒に履修してもらいたい。また経済地理学も受講することで、地理学的な考え方をより深化できるであろう。

B 7	地理学概論（後期）	2単位	奥澤信行
副題	地図の楽しみ		

〔講義目的〕
前期開講の講義内容に継続する中学校社会科地理的分野の指導事項と地形図の読図を中心とした作業について論ずる。また地理学概論で扱う余裕のない日本国内の地誌についても言及する。

〔講義内容〕
Ⅰ地理教育と地理学（その２）
①人口と資源問題の扱い
②産業と消費の扱い
③集落（都市と村落）の扱い
④国際理解の扱い
⑤地域性と地域区分の扱い
Ⅱ地形図
①地図の種類と地形図の基本事項
②地形図の彩色とコンターワーク
③地形図の読図
Ⅲ日本地誌
①西南日本
②中央日本
③東北日本
④世界における日本の位置付け

〔講義のすすめ方〕
講義が中心であるが、地形図の内容に関しては、彩色や読図の作業を行う。また前期の授業と同様、中学校や高校の教育現場の実例を取り上げるので、受講者それぞれが意見をまとめて発表する場合もある。地理あるいは社会科の指導内容に限定せず、広く教育問題全般について意見交換したい。

〔教　材〕
教科書は特に使用しないが、地形図については、授業中に指示する。また必要に応じてプリントを配布する。なお地図帳を持っている学生は、必ず持参すること。
参考書　『教職の地理学』
杉村暢二・次山信男共著　大明堂

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と定期試験・提出物の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを１枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は４～５題を全問、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期12～13回の授業の３分の２以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。また授業中の積極的な発言もプラス点として加味したい。なお３・４年次生は、本科目の成績と前期開講の「地理学概論」の成績と総合して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
将来教職に就くか否かは別として、教職課程を履修するからには、それなりの覚悟ができていることと思う。教育現場の実態を具体例を挙げながら、理解しやすいように説明するので、受講生も真摯な態度で授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関する社会問題については、それらの問題が発生した時点で、即座に授業で取り上げ、受講者の意見を聞いて生きた教材としたいので、常に社会に関心を向け、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。教職課程科目として受講する学生は、とりわけ真面目であることが前提となる。今までの本講の受講生に関しては、数回授業に顔を出して、途中で放棄した学生（例年２～３名）を除いて、ほとんどの学生が皆勤で、私語も一切なく、意見を求められれば積極的に発言していたことを付記しておく。

〔科目内容の位置付け〕
社会科地理的分野をどのように教えたらよいかという点に的を絞って、基礎的なレベルの講義を行う。また地形図の読図や彩色などの地理教育における基本的な作業を通して、地理が決して暗記科目でないことを指導する。教職課程履修者向けの内容であるので、地理学そのものについて学びたい学生には「地理学Ａ・Ｂ」の履修を勧める。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
一般教育（教養科目）の地理学（Ａ・Ｂ）と地誌学概論を履修済み、または履修中であることが望ましい。また経済地理学も受講することで、地理学的な考え方をより深化できるであろう。

B 9	倫　理　学　A	2単位	的場哲朗
副題	転換期にひとはどのように生きるか		

〔講義目的〕
「わたしたちは新世紀への転換期に立っている」という自覚に立った上で、転換期に人間はどのように生きるべきかという問題を究明したい。講義では、ハイデッガーの哲学思想を述べ、19世紀の転換期の代表する倫理思想（マルクスの自己疎外、キルケゴールの実存、ニーチェの神の死など）を中心に紹介することにしたい。

〔講義内容〕
はじめに――倫理学は実践哲学である
1、ディズニィ映画「ファンタジア」
――ニーチェの倫理思想
2、チャップリンの映画「モダンタイムス」
――マルクスの自己疎外
3、チャップリンの映画「街の灯」
――キルケゴールの現代批判

〔講義のすすめ方〕
映画を鑑賞し、倫理学という視点から、「現代に生きるとはどういうことなのか」を皆さんと一緒に考えたいと思う。

〔教　材〕
教科書：ハイデッガー研究会編
『〈対話〉に立つハイデッガー』（理想社）
そのほか、上記の映画（図書館のビデオ・ライブラリー所蔵）と、それに関係する哲学書：ニーチェ『喜ばしき知識』、マルクス『共産党宣言』、キルケゴール『現代の批判』ほか。

〔成績評価の方法・基準〕
出席と定期試験。

〔履修のポイント・注意点〕
面白い授業を志すが、しかし各自批判的な眼をもって主体的に取り組んでもらいたい。倫理学は本来実践哲学であり、批判的な態度はぜひとも必要となる。できれば、これを契機にして哲学的著作を読んでもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
「現代とは何か」、そして「本来人間はどのように生きるべきか」といった実践哲学的なテーマを追求する。とはいえ、特別予備知識は必要ない。これを契機に自分の存在を真剣に考え直してみようか、と思う意欲的な学生に受講してもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特別前提は必要ない。関連科目は倫理学Ｂであり、そのほか哲学、哲学概論、美学Ａ等を揚げたい。

B 10	倫　理　学　B	2単位	的場哲朗
副題	21世紀をどのように生きるか		

〔講義目的〕
　冷戦の終結やバブル崩壊以降、わたしたち日本人は生きる方向を失ったと言われるが、本講義では主として、20世紀に大きな影響を与えた思想家（ハイデガー、ヤスパース、ヨナス）の倫理思想に着目しながら、わたしたち現代人の生き方について考えてみたい。

〔講義内容〕
はじめに —— 倫理学とは何か
1、「猿の惑星」
　　—— ヨナス『責任という原理』
2、黒沢明「生きる」
　　—— ハイデガーの本来的存在
3、「西部戦線異常なし」
　　—— ヤスパースの限界状況

〔講義のすすめ方〕
　映画を鑑賞し、倫理学という視点から、「現代に生きるとはどういうことなのか」を皆さんと一緒に考えたいと思う。

〔教　　材〕
　上記の映画（図書館のビデオ・ライブラリー所蔵）と、それに関係する哲学書：ヨナス『責任という原理』、ハイデガー『存在と時間』、ヤスパース『現代の精神的状況』

〔成績評価の方法・基準〕
　出席と定期試験。

〔履修のポイント・注意点〕
　面白い授業を志すが、しかし各自批判的な眼をもって主体的に取り組んでもらいたい。倫理学は本来実践哲学であり、批判的な態度はぜひとも必要となる。できれば、これを契機にして哲学的著作を読んでもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
　「現代とは何か」、そして「本来人間はどのように生きるべきか」といった実践哲学的なテーマを追求する。とはいえ、特別予備知識は必要ない。これを契機に自分の存在を真剣に考え直してみようか、と思う意欲的な学生に受講してもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　倫理学Ａが前提となる。そのほか、哲学、哲学概論、美学Ａ等が考えられよう。

B 12	倫理学概論（前期）	2単位	的場哲朗
副題	善く生きるとは何か		

〔講義目的〕
　倫理学概論の目的は、体系的な立場に立って、倫理学のさまざまな考え方を講義することにある。したがって、本講義では各テーマに沿って倫理学の歴史をひもとくことにもなるが、しかし同時に、各自の主体的な問いをこの講義に重ねていくことを絶対に忘れないで欲しい。というのも、倫理学は本来実践的な哲学であり、哲学である以上は、これまで当然とされてきた信念に対して批判的な態度をとることが切に求められるからである。主体的問いのない哲学は空虚であり、歴史をくぐり抜けない哲学はまた独善に陥ることを肝に銘じてもらいたい。

〔講義内容〕
はじめに――善く生きるとは
1、善とは何か
2、善はどうやって実現されるのか
　善と社会
　善と主体
　善と絶対者
3、現代の倫理学の方向
4、現代の倫理学的問題

〔講義のすすめ方〕
　上記の講義内容に従って講義を進める。とはいえ、倫理学者の生の声を直接味わってもらいたいと思うので、テキストを読みながら、みなさんと自由に討議する少人数のゼミナール形式をとりたい。

〔教　　材〕
　授業中に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験に出席状況を加味する。

〔履修のポイント・注意点〕
　本講義は教職課程に関係する科目であり、したがって、将来教職に就こうと思っている意欲的な学生に受講してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
　「人間とは何か」、そして「人間はどのように生きるべきか」という実践哲学的なテーマを追求する。とはいえ、特別予備知識は必要ない。これを契機に自分の存在を真剣に考え直してみようか、と思う意欲的な学生に受講してもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　特別前提は必要ないが、あえて言えば、美学A、倫理学A・B、哲学、哲学概論等が考えられよう。

B	倫理学概論(後期)	2単位	的場哲朗
12			
副題	日本人はどのように生きてきたか		

〔講義目的〕
近代日本を代表する哲学者の著作を丹念に読みながら、「日本人はどのように生きてきたか」について皆さんと一緒に議論し合いたい。ここで代表的な著作とは西田幾多郎の『善の研究』、和辻哲郎の『人間の学としての倫理学』、三木清の『構想力の論理』である。本講義ではこの三冊の哲学書の中からいくつかの章を選び出し、それを丹念に読んでみたいと思っている。
ただし、この講義は教職科目に関係しているので、講義の最初で序論として「倫理学とは何か」という概論的な話もすることにしたい。

〔講義内容〕
1、序論 —— 倫理学とは何か
2、純粋経験と善 —— 西田幾多郎
3、人間の学としての倫理学 —— 和辻哲郎
4、行為と構想力 —— 三木清

〔講義のすすめ方〕
講義はゼミナール形式ですすめる。テキストを丹念に読みながら、みなさんと自由に議論することにしたい。

〔教　材〕
西田幾多郎　『善の研究』　(岩波文庫)
和辻哲郎　『人間の学としての倫理学』(岩波書店)
三木清　『構想力の論理』(岩波書店)

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験に出席状況を加味する。

〔履修のポイント・注意点〕
本講義は教職課程に関係する科目であり、したがって、将来教職に就こうと思っている意欲的な学生に受講してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
「人間とは何か」、そして「人間はどのように生きるべきか」という実践哲学的なテーマを追求する。とはいえ、特別予備知識は必要ない。これを契機に自分の存在を真剣に考え直してみようか、と思う意欲的な学生に受講してもらいたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特別前提は必要ないが、あえて言えば、美学A、倫理学A・B、哲学、哲学概論等が考えられよう。

B 13	哲　学　A	2単位	渡辺　忠
副題	対論による哲学入門		

〔講義目的〕
〔講義内容〕
哲学は大学に入ってはじめて出会う科目の一つなので、どんな勉強をするのかわかりにくいかもしれません。哲学が何かを理解する一番よい方法は、自分で哲学してみることです。とはいうものの、何ごとにも先達はほしいもので、ふつうは過去の偉大な哲学者たちの書いたもの(を専門家が解説したもの)を勉強することになります。この方法の欠点は、難しすぎて何がなんだかわからないということです。また、学説を知識として覚え込むことは、哲学史の専門家を目指すならいざ知らず、普通の人にとってはあまり意味がありません。そこで、この授業では、哲学の問題を中心に考えていこうと思います。たとえば、「私たちは自分の心の外の世界を知ることができるだろうか。」とか、「あらゆる知識は経験にもとづくのだろうか。」とか、「真理は主観的なものだろうか。」とか、「心は脳と同じなのだろうか。」とか、「機械や動物は心をもつことができるのだろうか。」などといった問題です。授業の目的は、このような問題にあなたが自分の頭で考えて答えを出そうと試みること、言い換えれば「哲学する」ことで、私はその手助けをするにすぎません。

〔講義のすすめ方〕
毎回の授業に先立ち、授業で扱う問題やテーマについて、二つの異なる立場から論じた教材プリントをお渡しします。これは二つの対立する哲学的立場を表しています。とくに難しい内容ではなく、またなるべく専門用語を用いずにふつうの言葉で平易に書いてあります。分量も決して多くはありません。あなたは事前にこれを読んで、レジュメをつくり、自分なりの考えを組み立てておかなければなりません。授業では、誰もが読んできたことを前提し、前回の出席カードに記入された意見をもとにして議論をします。手助けとして、ときどき私が何か質問をしたり、解説や学説紹介のミニ講義をいれたりしますが、授業の中心はあくまで受講者の議論です。あなたが主役で、私は黒衣。私一人がしゃべりまくるようでは、この授業は失敗です。積極的参加を期待します。

〔教　材〕
教材は毎回の配布プリントです。参考書は適宜紹介します。以下は、問題中心に哲学を紹介した入門書、実際に自分の言葉で哲学している本、便利な資料集などです。

J.ホスパーズ　『分析哲学入門』(法政大学出版局)
L.ウィトゲンシュタイン　『哲学探究』(大修館書店)
大森荘蔵　『流れとよどみ』　(産業図書)
永井均　『翔太と猫のインサイトの夏休み』(ナカニシヤ出版)
同　『〈子供〉のための哲学』(講談社現代新書)
山本・今井他　『哲学原典資料集』(東京大学出版会)

〔成績評価の方法・基準〕
授業回数の1／3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合(証明が必要です)をのぞき自動的に失格となります。評価は、授業への貢献度50%、期末レポート50%で計算します。意見記入のない「出席カード」は出席とみなしません。授業での積極発言は、別に「発言カード」を渡しボーナス・ポイントとします。随時受け付ける自主レポートもポイントになります。ポイントの多い人ほど貢献度が高いと判断します。成績評価は厳格に行います。

〔履修のポイント・注意点〕
①授業は「生もの」ですから、欠席しないよう心がけてください。また、遅刻・私語・携帯電話の着信音などは他の人への迷惑なので授業妨害とみなします。良識ある態度を求めます。②携帯用国語辞典を毎回持参して下さい。出席カードに意見を記入する際、誤字を避けるためです。文を書く練習にもなります。③資料は事前に必ず読んでおき、あなたなりの考えを心にとめておくこと。そして、「出席カード」に意見を必ず記入すること。意見記入のないカードは出席とみなしません。④レジュメ等を期日までに必ず提出すること。⑤授業は定刻開始・定刻終了です。

〔科目内容の位置付け〕
入門レベル、基礎的・基本的内容の科目です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目はありません。関連科目は哲学B、哲学概論や倫理学、倫理学概論など。ただし、哲学概論とは内容や授業形式が一部重なるところがあります。

B 14	哲　学　B	2単位	渡辺　忠
副題	対論による哲学入門		

〔講義目的〕
〔講義内容〕
　哲学は大学に入ってはじめて出会う科目の一つなので、どんな勉強をするのかわかりにくいかもしれません。哲学が何かを理解する一番よい方法は、自分で哲学してみることです。とはいうものの、何ごとにも先達はほしいもので、ふつうは過去の偉大な哲学者たちの書いたもの(を専門家が解説したもの)を勉強することになります。この方法の欠点は、難しすぎて何がなんだかわからないということです。また、学説を知識として覚え込むことは、哲学史の専門家を目指すならいざ知らず、普通の人にとってはあまり意味がありません。そこで、この授業では哲学の問題を中心に考えていこうと思います。たとえば、「私たちは本当に自由なのだろうか。人生の出来事はみな、先立つ原因によって決定されているのではないだろうか。」「善悪は時代や社会に相対的なものなのだろうか。」「社会的価値として重要なのは自由だろうか、平等だろうか。」「人に迷惑さえかけなければ何をやってもいいのだろうか。」などといった問題です。授業の目的は、このような問題に、あなたが自分の頭で考えて答えを出そうと試みること、言い換えれば「哲学する」ことで、私はその手助けをするにすぎません。

〔講義のすすめ方〕
　毎回の授業に先立ち、授業で扱う問題やテーマについて、二つの異なる立場から論じた教材プリントをお渡しします。これは二つの対立する哲学的立場を表しています。とくに難しい内容ではなく、またなるべく専門用語を用いずにふつうの言葉で平易に書いてあります。分量も決して多くはありません。あなたは事前にこれを読んで、レジュメをつくり、自分なりの考えを組み立てておかなければなりません。授業では、誰もが読んできたことを前提し、前回の出席カードに記入された意見をもとにして議論をします。手助けとして、ときどき私が何か質問をしたり、解説や学説紹介のミニ講義をいれたりしますが、授業の中心はあくまで受講者の議論です。私一人がしゃべりまくるようでは、この授業は失敗です。積極的参加を期待します。

〔教　材〕
　教材は毎回の配布プリントです。参考書は適宜紹介します。以下は、問題中心に哲学を紹介した入門書、実際に自分の言葉で哲学している本、便利な資料集などです。

J.ホスパーズ　『分析哲学入門』(法政大学出版局)
L.ウィトゲンシュタイン　『哲学探究』(大修館書店)
大森荘蔵　『流れとよどみ』(産業図書)
永井均　『翔太と猫のインサイトの夏休み』(ナカニシヤ出版)
同　『<子供>のための哲学』(講談社現代新書)
山本・今井他　『哲学原典資料集』(東京大学出版会)

〔成績評価の方法・基準〕
　授業回数の1／3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合(証明が必要です)をのぞき自動的に失格となります。評価は、授業への貢献度50%、期末レポート50%で計算します。意見記入のない「出席カード」は出席とみなしません。授業での積極発言は、別に「発言カード」を渡しボーナス・ポイントとします。随時受け付ける自主レポートもポイントになります。ポイントの多い人ほど貢献度が高いと判断します。成績評価は厳格に行います。

〔履修のポイント・注意点〕
　①授業は「生もの」ですから、欠席しないよう心がけてください。また、遅刻・私語・携帯電話の着信音などは他の人への迷惑なので授業妨害とみなします。良識ある態度を求めます。②携帯用国語辞典を毎回持参して下さい。出席カードに意見を記入する際、誤字を避けるためです。文を書く練習にもなります。③資料は事前に必ず読んでおき、あなたなりの考えを心にとめておくこと。そして、「出席カード」に意見を必ず記入すること。意見記入のないカードは出席とみなしません。④レジュメ等を期日までに必ず提出すること。⑤授業は定刻開始・定刻終了です。

〔科目内容の位置付け〕
　入門レベル、基礎的・基本的内容の科目です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　前提科目はありません。関連科目は哲学A、哲学概論や倫理学、倫理学概論など。ただし、哲学概論とは内容や授業形式が一部重なるところがあります。

B 11	応　用　倫　理	2単位	渡辺　忠
副題	どう考えたらいい?		

〔講義目的〕
応用倫理は、日々の生活の中で出会う、道徳的判断を要する様々な問題、とくに緊急に解決すべき具体的な問題に対し、倫理学・哲学の手法を用いて、首尾一貫した分析と実行可能な回答を与えようとする試みです。それと同時に、そのような個別事例をテストケースとして、前提となっている倫理的原理や価値観を検証しようとする企てでもあります。応用倫理の授業の目的は、第一に、あなたがそのような問題の所在に気づき自ら考え抜くように導くこと、第二に、あなたが実際に問題に直面したとき自らの責任で決定を下し行動することができるよう予行演習をすることです。

〔講義内容〕
応用倫理の内容は多岐にわたります。先鋭化する生命科学・医療分野での行為(中絶、安楽死、遺伝子治療、クローン技術、…)の倫理性に関する問いを扱う生命倫理、深刻化する環境問題を背景に、世代間の公平性や動物・自然の「権利」、経済行動への制約などを議論する環境倫理、自由主義的市場経済内部での経済活動のモラルを問い、さらには市場経済の倫理的評価まで踏み込む企業倫理、ネットワーク社会の到来による未体験のコミュニケーション上の倫理問題を議論する情報倫理、戦争行為の正当性やテロリズム批判の根拠などを追究する戦争の倫理など、およそこの世界で倫理的問題を提起しうるものなら何であれ「××倫理」にできそうです。今年度は、生命を奪うことの倫理的問題(動物、中絶、安楽死、死刑、戦争)、自己決定の倫理的問題(身体、性、薬物)、配分的正義の特殊問題(医療資源、世代間倫理、援助義務)などを扱う予定です。

〔講義のすすめ方〕
授業は、配付する資料の事前学習・レジュメ作成を前提として、討論することが中心になります。相当量の資料を毎週読んでレジュメを提出し、授業では必ず発言し、出席カードに意見を記入し、事後レポートを提出する、この繰り返しです。

〔教　材〕
テーマに沿った資料を印刷配布します。必要な参考書はその都度紹介しますが、全般的なものとして、以下を指定します。
指定図書；P.シンガー『実践の倫理(第二版)』昭和堂
参考図書；加藤尚武　『現代倫理学入門』講談社

〔成績評価の方法・基準〕
半期の授業ですから、9回以上出席しないと履修単位を認めることはできません。やむを得ない事情がある場合(証明が必要です)をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合、自動的に失格となります。
評価は、授業への貢献度(毎回提出物をきちんと出しているか、質はどうか)を50%、年度末レポート(授業であつかったテーマのうち、関心を持ったものについて論文形式で書く)50%で評価します。「出席カード」には毎回意見を記入すること。次回はそれにもとづいて議論をします。なお、誤字を避けるため、携帯用国語辞典を毎回持参すること。また、教材プリントのレジュメも必ず期日までに提出して下さい。一方、授業での積極発言は、別に「発言カード」を渡し、ボーナス・ポイントとします。随時受け付ける自主レポートもポイントになります。ポイントの多い人ほど貢献度が高いと判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
この科目は、単なる知識の伝授を目的とするものではありません。教材をよく読んで論旨を理解し、そのうえで自分なりの独自の意見を形成し、その意見や主張の根拠付けをきっちりとすること。授業時間はそれを前提とした討論に使います。授業のイニシアチブはみなさんの方にあります。私は授業をお仕着せの結論に収束させるつもりなど全くありません。興味深く斬新で大胆な考え方が飛び出すことを期待します。その意味では要求の高い授業かもしれませんから、テキトーにやるつもりの人は来ないように。
科目の趣旨からも、質問や異論反論を歓迎します。オフィス・アワー(3号館3階346研究室ドアに表示)も活用して下さい。

〔科目内容の位置付け〕
市民的教養の基礎的部分にかかわる科目です。問題意識の開発や批判的思考態度・倫理的意志決定能力の育成を目的とした科目です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
できれば前期の「批判的思考」を受講してください。他に「倫理学」「哲学」などが関連科目です。

B 15	哲　学　演　習	4単位	渡辺　忠
副題	「よさ」の構造		

〔講義目的〕

「哲学演習(旧カリキュラム；哲学英文テキスト)」は、英語で書かれた哲学のやや高度な理論書を、丁寧に読み理解することを主要な目的とする科目です。

〔講義内容〕

教科書は、John Broome の *Weighing Goods* という本です。著者の本業は経済学者ですが、倫理学や哲学の分野でもおもしろい仕事をしています。本書では、意志決定論、効用理論、社会選択理論などの結果を念頭に置きつつ、規範的な社会科学や経済学の哲学的基礎となる価値論の構造を明らかにしようとしています。「よさ」の構造解明と、功利主義の検討、配分的正義の問題などへの応用などが展開されます。あなたは、若いうちに十分いい思いをすれば老いてから寂しい人生であってもいいと思うでしょうか。それとも、実直に細く長くを心がけるでしょうか。ひとりの人の人生のさまざまな局面に対するこの「配分」問題と、社会の人々にどのように富を配分するかという「配分問題」、それに何通りかの不確実な結果をもつ選択肢を評価する問題の間には、ある重要な類似点と相違点があります。これらの間に首尾一貫した原理的な考え方は成り立つでしょうか。そのためには、私たちの人格の個別性をどう考えればよいでしょうか。これが教科書の基本的な問題です。私たちは大胆かつ緻密な論理の展開にわくわくすることになるでしょう。

〔講義のすすめ方〕

授業は演習形式で行います。予習でテキストを読んであるものと前提して、内容の細かい検討をします。後期開講なので、受講者には夏休み前にあらかじめ教材を配布します。掲示に注意してください。また、休暇中に必ず相当量の予習を進めておくことが是非とも必要です。その際、レジュメをつくっておくと、授業での理解が効率よく進むはずです。

内容理解に必要な知識は、授業の中で講義します。また、以下にあげる参考書が図書館にあるので、並読すると効果的でしょう。この分野の全般的な理解には佐伯が、著者の念頭にあるもとの議論はパーフィットが、それぞれ明らかにしてくれます。

〔教　材〕

教科書 J.Broome *Weighing Goods*
Basil Blackwell 1991
(プリントで配布)
指定図書 J.Broome *Ethics out of Economics*
Cambridge U. P. 1999
参考図書 佐伯胖『「決め方」の論理』
東大出版会1983
D.パーフィット『理由と人格』
勁草書房 1998

〔成績評価の方法・基準〕

授業回数の1／3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合(証明が必要です)をのぞき、その時点で自動的に失格となります。

評価は、授業への貢献度50%、期末課題作成50%で計算します。前者は、予習の度合いや授業中の質問・発言などで判断します。このほか、任意提出のレポートなどは随時受け付け、ボーナス点とします。成績評価は厳格に行います。「楽勝」はありえません。

〔履修のポイント・注意点〕

理論的な英文を相当量読むのですから、一定水準以上の英語の読解力は必要です。また、理論書ですから、論理的・抽象的思考への親和性や内容の理解力が必要です。進度は速いと思ってください。また、必ず中辞典クラス以上の英和辞典を用い、しつこいくらいに辞書を引くこと。授業にも必ず持参すること。とことん徹底した予習が必要です。

いずれにせよ、真摯に取り組むことが不可欠です。それができないと思う人は受講を避けた方がよいでしょう。時間割の埋め草として受講するととんでもないことになります。大学生らしい知的好奇心と知的野心にみちた諸君。君たちのための科目です。

〔科目内容の位置付け〕

やや進んだ話題を含む応用・発展レベルの科目で、内容は倫理学、哲学的価値論、社会科学基礎論、経済学の哲学など、特論的性格のものですが、叙述はとくに高度な専門知識や難しい数学を要するようなものではなく、初等的・入門的読者が理解できる範囲にあります。必要となる知識は、私が補助教材などを用いて解説します。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目は、できれば事前に論理学を履修していてほしいところです。関連科目は、哲学、論理学、倫理学、政治学、政治思想史、経済学、財政学、決定の科学、法哲学、法学全般などです。

B 16	哲学概論（前期）	2単位	渡辺　忠
副題	哲学ってどんなこと？		

〔講義目的〕
哲学の全般的な理解を目的とする科目です。ですが、学説を知識として覚え込むことは、哲学史の専門家を目指すならいざ知らず、普通の人にとってはあまり意味がありません。そこで、この授業では、哲学の問題を中心に考えていこうと思います。哲学は「哲学する」活動や過程の中にあるのであって、できあがった学説の中にあるのではないと思うからです。あなた自身が「哲学する」体験をすることが第一の目的です。

〔講義内容〕
使用する教科書は、14才の少年少女がふと世界に対して抱くような疑問から、哲学の様々な問題を考えていくものです。前期は、教科書前半の記述に沿って、「私たちの心をこえた世界を知ることができるのか」、「他人の心を知ることができるのか」、「心と脳の関係はどのようなものか」、「いかにして言葉は意味をもつのか」、「私たちはほんとうに自由なのか」という問題を順に考えていくことにします。これらは、外界の存在証明、他我認識、心身問題、哲学的意味論、決定論と自由意志論という、哲学の重要な問題ですが、特別に専門的な知識を必要としないやさしい言葉で書かれています。補足として哲学史上のさまざまな議論や学説について私が解説することもありますが、授業の主役はあなた自身。あなたが自ら哲学的な問題と格闘するのです。

〔講義のすすめ方〕
教科書の文章はやさしく書かれていて読みやすいので、事前に必ず読んでおくこと。授業は講義の形式をとりますが、教科書を解説したり補足したりの「一方通行」では、あなたも私もおもしろくありません。そこで、毎回あなたの意見を尋ねることにします。授業のはじめに渡す「出席カード」には、考えたことを記入する欄があります。授業終了前に記入の時間を設けますから、必ず考えを書き込んでください。次回授業では、それをもとに議論をします。教科書だけでなく、あなたの考えたことがこの授業の教材になるのです。また、あなたには授業中のいつでも、質問や反論、考えついたことを発言する権利があります。遠慮せずに手を挙げて発言してください。そのような自主的な挙手発言は、授業に対する重要な貢献とみなします。「発言カード」を渡して、評価の上でのボーナス・ポイントにします。また、何か書いたものを自主的に提出することも歓迎します。これも貴重な貢献と考え、評価します。この形式で授業をしてしばらくになりますが、私はみなさんの意見を読むのが楽しみでなりません。私が教えられることも多いのです。

〔教　材〕
教科書　T.ネーゲル『哲学ってどんなこと？』昭和堂
参考書　山本・今井他『哲学原典資料集』東京大学出版会
J.ホスパーズ『分析哲学入門』法政大学出版局

〔成績評価の方法・基準〕
授業回数の1／3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合（証明が必要です）をのぞき、自動的に失格となります。評価は、授業への貢献度50%、期末レポート50%で計算します。成績評価は厳格に行います。楽しい授業にしようと思ってはいますが、「楽勝」にするつもりは毛頭ありません。

〔履修のポイント・注意点〕
①授業は「生もの」ですから、欠席しないよう心がけてください。また、遅刻・私語・携帯電話の着信音などは他の人への迷惑であり授業妨害とみなします。良識ある態度を求めます。②携帯用国語辞典を毎回持参して下さい。出席カードに意見を記入する際、誤字を避けるためです。文を書く練習にもなります。③教科書は事前に必ず読んでおくこと。あなたなりの考えを心にとめておくこと。そして、「出席カード」に意見を必ず記入すること。意見記入のないカードは出席とみなしません。④授業は定刻開始・定刻終了です。

〔科目内容の位置付け〕
基礎的・基本的内容の科目です。将来教職について社会科を教える人が、哲学の全般的な知識を身につけるための科目でもあります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はありません。関連科目は哲学Ａ・Ｂや倫理学、倫理学概論など。ただし、哲学Ａ・Ｂとは内容や授業形式が一部重なるところがあります。

B 16	哲学概論（後期）	2単位	渡辺　忠
副題	哲学ってどんなこと？		

〔講義目的〕

哲学の全般的な理解を目的とする科目です。ですが、学説を知識として覚え込むことは、哲学史の専門家を目指すならいざ知らず、普通の人にとってはあまり意味がありません。そこで、この授業では、哲学的な問題を中心に考えていこうと思います。哲学は「哲学する」活動や過程の中にあるのであって、できあがった学説の中にあるのではないと思うからです。あなた自身が「哲学する」体験をすることが第一の目的です。

〔講義内容〕

使用する教科書は、14才の少年少女がふと世界に対して抱くような疑問から、哲学の様々な問題を考えていくものです。後期は、教科書後半の記述に沿って、「道徳の基礎はどのようなものか」、「正しいことと不正なことの違いはどこにあるのか」、「どのような不平等は正しくないのか」、「死とはどのようなものか」、「人生には意味があるのか」という問題を順に考えていくことにします。これらは、規範の基礎、帰結主義と義務論、配分的正義、死と生の意味と価値という、哲学の重要な問題ですが、特別に専門的な知識を必要としないやさしい言葉で書かれています。補足として哲学史上のさまざまな議論や学説について私が解説することもありますが、授業の主役はあなた自身。あなたが自ら哲学的な問題と格闘するのです。

〔講義のすすめ方〕

教科書の文章はやさしく書かれていて読みやすいので、事前に必ず読んでおくこと。授業は講義の形式をとりますが、教科書を解説したり補足したりの「一方通行」では、あなたも私もおもしろくありません。そこで、毎回あなたの意見を尋ねることにします。授業のはじめに渡す「出席カード」には、考えたことを記入する欄があります。授業終了前に記入の時間を設けますから、必ず考えを書き込んでください。次回授業では、それをもとに議論をします。教科書だけでなく、あなたの考えたことがこの授業の教材になるのです。また、あなたには授業中のいつでも、質問や反論、考えついたことを発言する権利があります。遠慮せずに手を挙げて発言してください。そのような自主的な挙手発言は、授業に対する重要な貢献とみなします。「発言カード」を渡して、評価の上でのボーナス・ポイントにします。また、何か書いたものを自主的に提出することも歓迎します。これも貴重な貢献と考え、評価します。この形式で授業をしてしばらくになりますが、私はみなさんの意見を読むのが楽しみでなりません。私が教えられることも多いのです。

〔教　材〕

教科書　T.ネーゲル『哲学ってどんなこと？』昭和堂

参考書　山本・今井他『哲学原典資料集』東京大学出版会

J.ホスパーズ『分析哲学入門』法政大学出版局

〔成績評価の方法・基準〕

授業回数の1／3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合（証明が必要です）をのぞき、自動的に失格となります。評価は、授業への貢献度50%、期末レポート50%で計算します。成績評価は厳格に行います。楽しい授業にしようと思ってはいますが、「楽勝」はありえません。

〔履修のポイント・注意点〕

①授業は「生もの」ですから、欠席しないよう心がけてください。また、遅刻・私語・携帯電話の着信音などは他の人への迷惑であり授業妨害とみなします。良識ある態度を求めます。②携帯用国語辞典を毎回持参して下さい。出席カードに意見を記入する際、誤字を避けるためです。文を書く練習にもなります。③教科書は事前に必ず読んでおくこと。あなたなりの考えを心にとめておくこと。そして、「出席カード」に意見を必ず記入すること。意見記入のないカードは出席とみなしません。④授業は定刻開始・定刻終了です。

〔科目内容の位置付け〕

基礎的・基本的内容の科目です。将来教職について社会科を教える人が、哲学の全般的な知識を身につけるための科目でもあります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はありません。関連科目は哲学A・Bや倫理学、倫理学概論など。ただし、哲学A・Bとは内容や授業形式が一部重なるところがあります。

B 17	文　学　A	2単位	向 井 千代子
副題	近 代 英 国 小 説		

〔講義目的〕
19世紀から20世紀前半までのイギリスの小説について、特に階級意識、階級問題および帝国主義、植民地問題に中心をおいて論ずる。

〔講義内容〕
英国の国民的な作家と言われるジェイン・オースティンやチャールズ・ディッケンズから始まり、20世紀のE．M．フォースター、ジェイムズ・ジョイス、V．ウルフ、D．H．ロレンスまでを一通り紹介する。映画化された作品も多いので、時にヴィデオを鑑賞することもある。
イギリス社会は一般に階級社会であると言われる。スノッブと言う言葉が英語にはあるが、「俗物」とよく訳されるこの言葉は「階級的に成り上がろう」と言う意識を持った人のことを言う。また夫の地位によって自分の地位までも決まるような立場にあった女性たちは、結婚相手に少しでも上の階級の男性を選ぼうとする。また労働者階級に属する女性たちは、上の階級の男性に騙されて辛い人生を送ることも多かった。
また19世紀から20世紀始めまではイギリスは「大英帝国」として世界的に力を持ち、多くの植民地を持っていた。そうした植民地の人々との関わりなどを扱った小説にも触れたい。と言っても半期科目なので余り多くの作家を扱うことはできないので、大体の目安として次のような順序で講義を進めることにする。
①序論［文学とは何か／イギリスの位置と歴史／市民社会の発達と小説の発生］
②Jane Austen
③Charles Dickens
④Charlotte Brontë
⑤Emily Brontë
⑥Thomas Hardy
⑦Joseph Conrad
⑧E.M. Forster
⑨James Joyce
⑩Virginia Woolf
⑪D. H. Lawrence

〔講義のすすめ方〕
講義形式。教科書は使わないので、毎回配布する資料と講義をノートに取り、分からないところは教員に質問するか図書館で自分で調べること。

〔教　材〕
教科書は使わない。資料は授業のときに印刷配布する。
参考図書：川崎寿彦著「イギリス文学史」成美堂

〔成績評価の方法・基準〕
半期科目なので9回以上の出席がないと失格。やむを得ない事情で欠席する場合は証明書を出すこと。
授業態度、出席率、授業中の小テストや宿題として出した感想文及び定期試験の成績を参考にして総合的に評価する。
※経営学科のみ

〔履修のポイント・注意点〕
講義科目の場合、どうしても受け身的になって講義を聞かず雑談をしたり、居眠りをしたり、授業中にメイルのやり取りをしたりしがちである。このようなことを防ぐために教員も極力参加型の授業になるように工夫をするつもりである。しかし、にもかかわらず授業態度の悪い学生が出た場合は、他の学生の迷惑になるので退席してもらうこともある。授業を構成するのは教師と学生の双方である。そのことをよく自覚して、少しでも楽しい授業になるように協力をお願いする。
文学の場合、知識として文学者の名前を覚えるだけでは不十分である。興味を持った作家がいたら積極的に図書館に行って翻訳ででもいいから作品を読んでいただきたい。また英語の勉強をしたい学生は、有名な作品を易しく書き換えた本がたくさん図書館にあるので、それを読んでレポートなり感想文をまとめて提出してもよい。課題として出したもの以外の感想文や自主的レポートについてはプラス評価として成績評価の対象とする。

〔科目内容の位置付け〕
一般教養的な科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
文学B

B 18	文　　学　　B	2単位	針生　　進
副題	米文学に見る「野生」		

〔講義目的〕
　そこに描かれたさまざまな「野性」に注目するという視点から、米文学の通史といえるものを浮かびあがらせたい（親しみやすいということもあり、小説作品を主にとりあげる)。

〔講義内容〕
　プリマスに上陸したピューリタンたちを迎えたニューイングランドの苛酷な冬、あるいはマクティーグという名の偽医者が迷いこんだカルフオルニアの「死の谷」のような自然環境。復讐のために白い鯨を追い求める船長の、あるいは南北戦争で闘争本能に目覚める兵士の行動に表れるような人間の内なる一部。これら二つの「野性」なるものに近づいていく。「講義目的」でもふれたように、その方が受講生には知識の整理がしやすいのではと思い、文学論というよりも、文学史という枠内で話を進めたい。

〔講義のすすめ方〕
　作品の題名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、実際の作品からの引用も頻繁に行いたい。引用は原則として原文で行うが、そのごく一部しか教室ではとりあげられないので、受講生は各自、翻訳でもよいので、（興味を感じてくれれば）各作品に直接ふれてほしい。そのためにも、翻訳があり、かつ手に入りやすい作品を主に取り上げていきたい。
　第一回目の講義は、17世紀の植民地時代からはじめる。それ以降の細かい講義区分は今のところはたてていないが、少なくとも学期前半では19世紀の、後半では20世紀の作品を見ていく。

〔教　　材〕
　こちらでまとめたプリントを教材として配付する。
　指定図書などはあまりに多いので、その都度、授業時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　学期２回のテストを実施する。中間期の授業内でのテストと、学期末の試験期間での試験とである。その他にレポートなどは要求しない（レポートに費やす時間があれば、授業で言及した作品を読んでもらう時間にあててもらいたい)。試験の結果が思わしくない場合でも、レポートを提出させ、それを評価に加算するような措置は講じない。成績判定の基準は、テスト・試験の点数を８割、出席率を２割ほどとする。

〔履修のポイント・注意点〕
　受講に際しては、特に予備知識の有無は問わない。最低限の常識（人間理解）と、アメリカという国についての最低限の知識があればよいだろう。いいかえれば、文学なるものについての最低限の知識の一部を与えることもこの講義の目的の一つである。

〔科目内容の位置付け〕
　前期の同じ曜日、同じ時限に開講されている「文学（A)」とこれとは、同じ分野であれ、扱う内容も異なる、それぞれ独立した科目であり、（A）のみ、あるいは（B）のみの受講も可である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特にはない。

B	論　理　学	4単位	渡辺　忠
19			
副題	推理と証明の技術		

〔講義目的〕

等号をもつ古典的第一階述語論理による初等的な証明の技法を体得するとともに、いくつかの重要なメタ論理学的定理について学習し、論理学や形式的方法についての概観を得ることが目的です。加えて、理論的で厳密な思考態度を身につけることをめざします。

〔講義内容〕

論理学は、人が合理的に考えたり話したりしているときに従っているはずの、暗黙の規範を対象とする学問です。現代論理学では、数学に範をとって、記号を用いて話を進めます。論理学とは「合理的思考規範の記号を用いた探究」なのです。

〔講義のすすめ方〕

論証の科学としての論理学の問題関心を説明した後、証明法としてのタブロー法によって命題論理・述語論理の順に解説と演習をしていきます。形式言語とその解釈、健全性定理・完全性定理、決定可能性、他の証明法である自然演繹やゼクヴェンツ計算とそれらの関係、束と論理代数、述語論理の応用としていくつかの第一階理論(二項関係、算術、集合)の解説などを予定しています。

毎時間、講義が3、演習が7くらいの割合です。新しい事項を解説する講義の後、例題の演習をし、続いて練習問題の演習をします。練習問題や宿題の解答は、みなさんに黒板でやってもらい、その後私が解説をします。授業はもっぱらこの繰り返しになります。数学の授業に似ています。宿題もでますから、授業外でも相当量の勉強をしなければなりません。問題演習の際、私はみなさんの間を回って歩きます。理解が困難なところ、聞き漏らしたところなど、質問はそのときにしてください。できる限りすべての人のところへおもむき、個人的な指導をしていきたいと思います。

〔教　材〕

教科書は以下を用います。さらに補足プリントを配布しますから、整理保管し授業には必ず持参すること。

丹治信春『タブローの方法による論理学入門』　朝倉書店

参考書は以下を指定します。

E.J.レモン　『論理学初歩』　世界思想社
前原昭二　『記号論理入門』　日本評論社
野矢茂樹　『論理学』　東京大学出版会
戸田山和久『論理学をつくる』　名古屋大学出版部

〔成績評価の方法・基準〕

試験の成績で評価します。ただし、授業回数の1／3を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合(証明が必要です)をのぞき、自動的に失格となります。試験は4回行い、その平均で成績を評価します。また、黒板で解答を担当した場合や任意課題への解答の提出などは、授業への積極的貢献とみなし、加点します。

〔履修のポイント・注意点〕

授業のスタイルは数学に似ているかもしれませんが、高校までの数学の知識は一切前提しません。ですから、受講に当たっては何の予備知識も必要ありませんし、数学の得意不得意も関係ありません。高校数学よりはるかに簡単なほどです。ただ、はじめてかけ算九九をおぼえる小学生程度の努力は必要です。聴いているだけでは決して理解できるようになりません。必ず「手を使って」練習すること。理解度は紙と鉛筆の消費量にほぼ比例すると思ってください。また、身につけるには授業時間だけでは不十分ですから、必ず予習・復習をすること。主題がかなり限られているうえ、技術的性格があるので、集中して学習し効果をあげることも可能です。「証明オタク」になるくらい「のめり込んで」勉強してほしいと思います。

必ず教材を持参すること。欠席はわからなくなる一番の原因なので極力避けること。欠席明けには質問に来るなどして、必ず遅れを取り戻すように。オフィス・アワーを活用してください。授業は定刻開始・定刻終了です。遅刻や私語、携帯電話の着信音などは、他の人の迷惑になるので授業妨害とみなし、退室を求めることがあります。

〔科目内容の位置付け〕

基礎的な内容の科目で、技術的な部分が多くあります。形式的方法を身につけるための第一段階の科目です。また、厳密に理論的に思考する素地を培うことができます。論理学の中では入門的・初等的レベルです。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はありません。関連科目は、数学、哲学、統計学、情報処理系科目、法学全般など。とくに、私の担当する「哲学」「哲学演習」「英語Ⅴ」などで、論理学の知識を少し用いることがあります。

B	批判的思考	2単位	渡辺　忠
20			
副題	考え方のトレーニング		

〔講義目的〕

批判的思考(クリティカル・シンキング)とは、論理的に考え、話し、議論するために必要な基礎的知識と技能を身につけるための科目です。自分の意見や行動を根拠づける論証を与えたり、自分や他人のそのような論証を評価したり反論すること、よりよい論証を考案することなどは、市民社会に生きていく上で誰もが身につけるべき素養です。陪審制をとるアメリカでは、カレッジなどの必須の教養科目とされていることがあります。論証を評価する能力の有無が、人の命に関わることもあるからです。学問的には、非形式論理学や修辞学に分類されますが、授業では学問的アプローチはとらず、実践的技能の育成を目指します。

〔講義内容〕

自然言語による推論の概要を講義・演習します。論証とは何かということからはじめ、論証構造の分析、演繹と帰納、論証の評価、演繹的論証の類型、帰納的論証の類型、誤謬推理の類型、反論法、長文の分析と評価という順に進めます。解説・練習問題・宿題のプリントを80枚程度消化していくことになるでしょう。

〔講義のすすめ方〕

授業は、配布資料の解説、課題プリントの演習、模範解答の説明、宿題の配布と説明の繰り返しになります。言葉の上での知識ではなく、実践的技能の修得のため、演習中心になります。ですから、なるべく小人数で授業をやりたいところです。実際の進め方は受講者の数や反応をみて適宜修正します。

〔教　材〕

教科書は用いません。代わりに以下を参考書に指定します。授業で用いた教材の一部は、これらから選んでいます。それぞれ一長一短はありますが、批判的思考のスキルをさらに磨きたい人は、自習書・演習書として取り組むとよいでしょう。

野矢茂樹『論理トレーニング』(産業図書)
香西秀信『反論の技術』　(明治図書)
宇佐見寛『新版・論理的思考』
(メヂカルフレンド社)
ノルト／ ロハティン『現代論理学 I II』
(オーム社)

英語文献に後込みしない人には、以下を勧めます。

B.Waller　*Critical Thinking* Prentice Hall
A.Thomson　*Critical Reasoning*　Routledge

〔成績評価の方法・基準〕

半期の授業ですから、9回以上出席しなければ成績をつけることができません。やむを得ない事情がある場合(証明が必要です)をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合は、自動的に失格となります。 成績判定は、全部で6回の提出課題で判定します。6回テストをするのと同じです。従って、定期試験は行いません。評価は、すべての結果の平均によります。ちなみに、昨年度実績では、Sが0%、Aが17%、Bが41%、Cが8%、Dが15%、失格Hが19%でした。

〔履修のポイント・注意点〕

授業に出席しないと、勉強のしようがない科目です。毎回の課題演習が決定的に重要です。宿題が出ますから、当然ではありますが、授業時間以外にも勉強の時間をもつ必要があります。これに耐えられない人は受講をさけるべきでしょう。

〔科目内容の位置付け〕

知的コミュニケーションのための基礎的素養を培う科目です。学問体系以前のところに位置する、基礎的・基本的トレーニングと考えてください。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

日本語が理解できれば十分で、前提科目はありません。関連科目は、全ての科目です。ただ、特に関連が深いのは、「論理学」です。批判的思考がふつうの言葉で行う演繹推論の一部を、形式言語により厳密かつ強力に展開するのが「論理学」です。また、批判的思考と同じ時間帯で後期に開く「応用倫理」も、批判的思考・論証能力の実地演習の趣があります。続けて受講することをすすめます。また、随意科目「スタディ・スキルをみがこう」後期開講分は、批判的思考の小人数による演習編という位置づけです。

B 21	国語表現法A	2単位	青柳好信
副題	日本語をより上手に		

〔講義目的〕

本講座の目的は、国語を適切かつ効果的に運用する技能を養うことです。母国語である日本語を、もっと上手に使えるようになるための方法を中心として、講義をすすめる予定です。

したがって、書き・話すことを中心として、皆さん一人一人の実践能力の育成を図ることになりますが、特に社会生活をおくるために必要な事項を確認することに力を入れたいと考えています。

〔講義内容〕

次のような内容を予定しています。

1．実用文（手紙・公用文など）の書き方。
2．待遇表現、敬語の理論の把握と実際的な演習。
3．文章の読解と要約の練習。
4．意見文の書き方の演習
5．レポートの書き方の演習等。

〔講義のすすめ方〕

科目の性質上、講義3分、演習7分の予定です。演習を重ねることによって、実践能力を高めたいと考えています。

〔教　材〕

プリントを用意しますが、参考図書等については、講義中に随時紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

演習への取り組みの態度と、演習課題の提出（2回程度）により、評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

書く・話す演習を中心にして講義を行いますが、話し上手は聞き上手、書き上手は読み上手という事を、忘れないようにしましょう。

〔科目内容の位置付け〕

特定の前提科目はありません。国語表現の方法を学習することはできますが、内容については皆さん一人一人の興味・関心の広がりと蓄積した経験の量と質とにかかっています。幅広い教養・専門科目の履修修得を期待しています。

B 22	国語表現法 B	2単位	青柳好信
副題	考える力を伸ばす		

〔講義目的〕

本講座では、「国語表現法Ａ」を土台として、特に思考力を伸長するための国語表現力の育成を目的としています。

問題の分析からその解決を図るまでの方法を中心として、資料の探し方・利用法から、資料の読み方・分析の方法などを探り、具体的な問題を各自見つけて、小論文を書けるまでの力を養う予定です。

コンピューター・ワープロ時代の文章表現法を探るとともに、典型的な文章の読解と分析の演習を活用して、皆さんの表現能力育成に力を入れたいと考えています。

〔講義内容〕

次のような内容を予定しています。

1．各種の文章の読解と要約の練習。
2．レポートの書き方の演習。
3．資料の探し方と活用の仕方。
4．論文の文体と表記。
5．論文の構成と体裁。
6．小論文作成の要領と演習等々。

〔講義のすすめ方〕

科目の性質上、講義３分、演習７分の予定です。演習を重ねることによって、実践能力を高めたいと考えています。読むことは書くこと、書くことは読むことということに留意して、講義をすすめます。

〔教　材〕

教科書　検討中。

参考書　講義中に、随時紹介しますが、次の書物は特に有益です。

澤田昭夫『論文の書き方』
（講談社学術文庫153）

澤田昭夫『論文のレトリック』
（講談社学術文庫640）など。

〔成績評価の方法・基準〕

演習への取り組みの態度と、演習課題の提出（２回程度）により、評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

演習を中心にして講義をすすめますので継続的な受講を望みます。

〔科目内容の位置付け〕

特定の前提科目はありません。幅広い教養と専門科目の蓄積を期待しています。

B 23	美　学　A	2単位	塚原哲夫
副題	西欧の芸術と社会		

〔講義目的〕
　政治・経済といった人間の社会的活動の歴史が複雑であると同様、人間の精神活動の結果である芸術の変遷の歴史も複雑であり、単眼的に概観することはなかなか困難である。とはいえ、今日わが国では物質的な豊かさから精神的豊かさへ、その関心が移りつつある。そして、芸術に対する関心はかってない程に高まり、各地に様々な国・公・私立の美術館や音楽堂が林立し、またデパートまでが、世界の各時代、各地域、各ジャンルの美術展や音楽会を開催し、活況を呈している。反面、芸術までもが経済活動の中に組み入れられ、生産され、生活のアクセサリー化されつつあるのではないだろうか。今この機会に原点に立ち返り、新しい地平に立って、感性・狂気・創造そして表現を切口に、芸術とは何かを学生たちと考える時間としたい。

〔講義内容〕
　授業では人間の精神史、文化史の一つとして美術、音楽等を位置づけ、社会の変遷と芸術、宗教と総合芸術、現代美術の状況など、ＬＤを使用して作品等を身近なものとして捉え、同時に将来の動向を考えたい。

〔講義のすすめ方〕
⑴美とは何か。
⑵感性と表現
⑶古代ギリシャ・ローマの美術
⑷宗教と総合芸術
⑸芸術家としての自己確立とルネサンスの美術
⑹貴族社会の美術とバロック音楽
⑺啓蒙時代の都市と芸術
⑻ロマン主義の美術と音楽
⑼ジャポニズムと印象派
⑽刻々と変転する現代芸術の状況と21世紀の予兆

〔教　材〕
教科書　使用しない
参考書　西洋美術史ハンドブック
　　高階秀爾編、新書館、1,900円

〔成績評価の方法・基準〕
　レポート１回、テスト１回を総合し判定する。
　出欠・欠席３分の１以上の者は失格とする。

〔履修のポイント・注意点〕
　各授業内容ごとに質問の時間を設け、疑問点や自分なりの感想を述べ合い、学生側も授業に参加していくことを求める。

〔科目内容の位置付け〕
　美学は難易のグレイドは問わないが、豊かな感性と知性を持つ学生を歓迎する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　履修を前提とする科目：別になし。

B	美　学　B	2単位	塚原哲夫
24			
副題	東洋の心と日本の美術		

〔講義目的〕
非人間化・人間性のそう失など現代的危機が叫ばれる昨今。わが国では物質的豊かさから精神的豊かさへ、その関心が移りつつある。そして芸術に対する関心はかってない程に高まり、各地に様々な美術館が林立し、世界の各時代、各地域、各ジャンルの美術展が開かれ活況を呈している。反面、我々の先人達が築きあげ長い伝統を持つ東洋そして日本の芸術が忘れられようとしている今、自国の美術を掘り起し西欧の美術に優るともおとらぬ、その芸術に「ふれ」また体験し、東洋の心を切口に日本の美とは何か、学生たちと考える時間としたい。

〔講義内容〕
授業では、西欧的な感性・知性・自我・技術とは対極をなす東洋の心修業・直観・無我・悟等の精神を理解し、行為的直観を体験するための実技演習として、水墨画を描き空即是色の世界に「ふれ」東洋の心を身に着け、日本美術の変遷を概観しながら、佛教美術・絵巻・書・浮世絵など、ビデオやＬＤを使用し、作品等を身近なものとして捉え、同時に将来の日本文化の動向を考えたい。

〔講義のすすめ方〕
⑴東洋の心と日本の美
⑵佛教美術様式の変遷
⑶王朝文化の華・絵巻と書
⑷気韻生動と水墨画
⑸墨絵と水墨画との違い
⑹余白と無為無作
⑺町人文化の華・浮世絵
⑻日本美術の将来を考える

〔教　材〕
教　科　書　使用しない。
実技用教材　硯・墨・筆・皿・半紙
参　考　書　なし

〔成績評価の方法・基準〕
テスト１回・実技１回を総合し判定する。
出欠・欠席３分の１以上の者は失格とする。

〔履修のポイント・注意点〕
各授業内容ごとに質問の時間を設け、疑問点や自分なりの感想を述べ合い、学生側も授業に参加していくことを求める。遅刻・私語厳禁。

〔科目内容の位置付け〕
美学は難易のグレイドは問わない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
履修を前提とする科目・なし

B 25	比較文化論A	2単位	小山宙丸
副題	日本文化のなりたち		

〔講義目的〕

日本の国は、太平洋の西岸の近くに浮ぶ、小さな島国である。しかし、この国の人々は、すべてのことに大変敏感であり、また強い好奇心をもっている。それで国が生まれる頃は、海をはさんで対岸の中国文明から多くのものを学んだ。中国文明は、いうまでもなく、古代のもっとも偉大な文明の一つである。こういう文明から学ぶことができたのは、日本の幸福であったろう。その影響の大きさは、日本の使う文字を考えれば分かる。日本人は文字に、漢字を脈々として使ってきて、現在にいたっている。日本の文字から漢字をとりさったら、日本語は致命的な打撃をうけるだろう。さらに世界宗教の一つである佛教を、中国を経由した漢訳佛教としてうけとっている。遣唐使廃止以後、明治維新までは主として摂取したものを消化して、日本化することに努めてきた。

明治維新以降は、こんどは欧米の文化を、必死の努力で摂取し、自らのものとすることにつとめたことは周知のことである。

現在の日本は、高ぶった気持でいうのではなく、模倣の段階にはいない。日本人は、自らの力で、自分の進むべき道を創っていくべき段階に到達している。

〔講義のすすめ方〕

現代の日本文化が成立にいたるまでの、歴史における異文化攝取、消化の状況を、できるかぎり、平易に話していきたい。

〔教　　材〕

教室で指示します。

〔成績評価の方法〕

レポート（一回）。

出席状況を参考にする。

B 26	比較文化論B	2単位	小山宙丸
副題	異文化理解のすすめ		

〔講義目的〕

日本が、国として新しいか、そうでないかは、どのような国々と比べてみるかによる。例えば中国とかインドと比較する場合には、日本はまだ、たいへん若い、新しい国となるだろう。それら両国は文字をもった文化のある国となってからでも、すでに数千年の歴史を有している。日本の場合には、古代国家として成立したのが、大化改新によってであるとするならば、それら両国と比べて全く若い国であることはいうまでもない。

しかし、比べる対象をアメリカとするならば、日本は古い歴史をもった伝統の国ということになるだろう。あるいはまた、比べる相手をヨーロッパということにするならば、講義の中で説明するように、年齢的には兄弟のような関係といえるだろう。

このようなさまざまな国々の多様な文化と比較することによって、多くの国々の文化の影響をうけて成立してきた日本の文化の特質を考える。それには、これらの国の文化の特徴を考え、それらの日本文化の中への攝取の状況を考えることが重要であり、不可欠である。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

日本文化の成り立ちに、大きな影響を与えてきた諸文化、すなわち中国、インド、ヨーロッパ、アメリカなどの文化のエッセンスについて、できるかぎり分析してみたい。

〔教　　材〕

教室で指示してゆく。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（一回）。自分で苦労して文章をつくってゆくことが肝腎である。ひきうつしは論外である。細かいことは教室で指示する。

〔履修のポイント・注意点〕

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

日本人は、多くのことを外国から学んで、自分たちのものをつくりあげてきたのであるから、あらゆる科目が日本のことを考え、日本文化を反省する材料になるだろう。

B 27	社　会　学　A	2単位	山 本 厚太郎
副題	現代日本を理解する		

〔講義目的〕

高校までの諸君の勉学は、知識の詰め込みが主体であった。「正しい」とされるものをいかに記憶するかということが優先されてきたのではないだろうか。大学で学ぶということは、それとはかなり異なる（と、私は思いたい）。何よりも問題を提起する力が求められる。どうして、なぜそうなっているのか？もっと良い方法は？　考え方は？　こうした諸君の問いかけこそが次代の進歩を生み出す原動力なのだ。

社会学は現在を見つめる学問である。それゆえ「……ということになっている」とつい見なしてしまうことにも光をあてて考えていく。たとえば家族だ。なぜ我々は主に〝核家族〟という家族形態で暮しているのか。そのことに疑問を持つ学生は決して多くはないだろう。しかし、この家族の形ももちろん社会の、経済の、政治の変遷の影響下にある。その変容を検証し、将来の予測をも打ち立てるところに、この社会学の醍醐味がある。

社会学の根本はつまるところ「個人と社会」の問題を捉え、解析していくところにあるのだ。ごく当然のように、諸君の周囲に存在する全ての物事が学問の対象となる。私の講義ではそれを見つめ直していくことによって、現代社会の有り様を把握し、同時に諸君の問いかける力、考える力を高めていきたい。

〔講義内容〕

1．社会学という考え方
2．コトバと私たち
3．テレビ（メディア）と私たち
4．家族と私たち
5．高齢化社会と私たち
6．まとめ

〔講義のすすめ方〕

社会学を学ぶにあたって重要なポイントに、フィールドワークがある。講義中の簡単なアンケートにはじまって、学生自らがアンケートを取る側として活動してもらうこともある。そうしたプロセスを経て、統計の見方も体得してもらうつもりである。

〔教　　材〕

教 科 書　使用せず。プリント配布
参 考 書　追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート1回。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。ひとつのテーマを2週にわたって講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、一回目を休むと、二回目は内容についていけなくなるおそれあり。

〔科目内容の位置付け〕

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

B 28	社　会　学　B	2単位	山 本 厚太郎
副題	現代日本を理解する		

〔講義目的〕
　社会学Ａを参照して下さい。

〔講義内容〕
1．社会学とは
2．性差（ジェンダー）と私たち
3．食と私たち
4．環境問題と私たち
5．消費主義と私たち
6．まとめ

〔講義のすすめ方〕
　社会学を学ぶにあたって重要なポイントに、フィールドワークがある。講義中の簡単な諸君へのアンケートにはじまり、学生自らがアンケートを取る側として活動してもらうこともある。そうしたプロセスを経て、統計の見方も体得してもらうつもりである。
　なお、社会学Ａを受講した学生が社会学Ｂを連続して受講する場合、後期の冒頭のみ重複があるのを容赦されたい。ＡＢを通して学んでいくと、現代日本の姿がはっきり見えてくると思う。

〔教　　材〕
教 科 書　使用せず。プリント配布
参 考 書　追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　レポート１回。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。ひとつのテーマを２週以上に渡って講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、一回目を休むと、二回目は内容についていけなくなるおそれあり。

〔科目内容の位置付け〕
　基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　なし。旺盛な知的好奇心のみ。

B 27 副題	社　会　学　A 社　会　学　入　門	2単位	今野裕昭

〔講義目的〕
日常生活において私達がとり結んでいる種々の人間関係を手掛かりにして、私達をとりまいている現代社会のしくみがどのようなものであるのか、また、それがどのように変化しているのかを考察するのが、社会学の分野である。授業では、社会学の基本的な諸概念及び方法・理論を学習し、家族・地域といった生活領域での現代生活の諸問題に関するいくつかのテーマに即して、社会学の基礎的な視角を習得する。
講義をとおして、社会学的な見方、アプローチのし方を身につけてもらうことを、ねらいとしている。

〔講義内容〕
授業内容の柱立てとしては、次のような項目をとり上げてゆく。
社会とはなにか
社会関係
社会集団
社会の実在性・拘束性 —— 逸脱と社会統制
社会組織 —— フォーマルな組織とインフォーマルな関係
現代社会の諸問題

〔講義のすすめ方〕
講義では、できるだけ身近な事例を取り上げ、その背後にある社会のしくみを透視、理解できるような組立を考えている。受講生諸氏には、自分の身の回りの出来事に社会学的想像力を働かせる眼を、育んで欲しい。

〔教　材〕
教科書：とくに使用しない。資料を配布し、参考文献はその都度紹介する。
参考書：『社会学概論』
安藤喜久雄・児玉幹夫著　学文社
『現代日本の生活問題』
松岡昌則他著　中央法規

〔成績評価の方法・基準〕
テスト（定期試験期間中）および出席状況で、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
授業では、テーマに沿って具体的な事例を交えつつ話を進めてゆくので、出席を重視する。

〔科目内容の位置付け〕
私たちの生活の場である現代社会を理解するための、基礎的な性格の科目である。社会学の分野の中では、基礎的部分の内容となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：なし
関連科目：社会科学全般

B 28	社　会　学　B	2単位	今野裕昭
副題	現代の家族と地域		

〔講義目的〕
　戦後、日本の社会は、経済の高度成長期を境に大きく変化してきたが、低成長期に入ってなおも、大きく変動を続けている。私たちの身近な生活の場である家族と地域社会をとりあげ、これらが戦後どのような変貌を遂げてきたのか、これからどのようになってゆくのかを、社会学的な視角から検討する。

〔講義内容〕
　授業内容の柱立てとしては、次のような項目をとり上げてゆく。

戦後生活様式の変容
戦後家族の変容
- 経済の高度成長と核家族化
- 共働き家庭の増加と女性の自立
- 高齢社会と家族
- 家族生活の私秘化

地域社会の変容
- 産業構造の変化と地域社会
- 農村社会の変化
- 都市社会の変化
- コミュニティ再編への課題

〔講義のすすめ方〕
　講義では、身近な事例を取り上げながら、その背後にある社会のしくみを透視、理解できるような組立を考えている。受講生諸氏には、戦後日本社会の動向を理解するとともに、自分の身の回りの出来事に社会学的想像力を働かせる眼を、育んで欲しい。

〔教　材〕
　教科書　とくに使用しない。
　　資料を配布し、参考文献はその都度紹介する。
　参考書　『現代日本の生活問題』
　　松岡昌則他著　中央法規

〔成績評価の方法・基準〕
　テスト（定期試験期間中）および出席状況で、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　授業では、テーマに沿って具体的な事例を交えつつ話を進めてゆくので、出席を重視する。

〔科目内容の位置付け〕
　私たちの生活の場である現代社会を理解するための、基礎的な性格の科目である。社会学の方法、アプローチを、家族、地域に適用した社会分析になる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　前提科目：なし
　関連科目：社会科学全般

B	法　学　A	2単位	鋤本豊博
29			
副題	リーガル・マインドについて		

〔講義目的〕
　最近の著名事件や社会問題を題材にして、法律学的な分析や考え方、そして結論に至るまでの思考展開を解説することにより、リーガル・マインドとはどのようなものかを実感してもらえるよう努めたい。

〔講義内容〕
　現在予定しているものとして、
1．法学入門：リーガル・マインドとは何か。
2．自己決定権と信教の自由：エホバの証人輸血拒否事件を題材に。
3．事故情報開示請求権：レセプト情報公開請求事件と高槻市内申書開示請求事件を題材に。
4．刑事手続と人権保障：模擬裁判の体験。
5．少年非行と少年法：黒磯教諭刺殺事件を題材に。
6．最近の刑事立法の動向：ストーカー規制とクローン規制について。

〔講義のすすめ方〕
　各講義のテーマに関連する資料を配布し、解説するスタイルを採るが、一方的な講義にならぬよう、時にはレポートを書いてもらい、コメントを加えることもする。質問は随時受け付けているので、直接教員に尋ねるなり、紙に書いてL343室備付けのボックスに投函するなどされたい。

〔教　材〕
　判例付き六法（岩波判例基本六法か有斐閣判例六法のいずれか）を用意すること。試験時には、当該六法のみ持ち込み可とする。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験と受講状況に対する評価をプラス方向でのみ加味する。評価基準については法学B参照。

〔履修のポイント・注意点〕
　与えられた課題に真摯な姿勢で取り組んでもらいたい。出欠を採ることもあるので、欠席する場合には必ず事前連絡（内線416に電話を入れるか、友人に言付けるか、メモ書きをL343室備付けのボックスに投函するか）すること。無断欠席が発覚したときは、受験資格を剥奪する。

〔科目内容の位置付け〕
　法律学の入門編

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　法学部の科目を履修する予定の学生は、受講するのが望ましい。

B	法　学　B	2単位	鋤本豊博
30			
副題	知って得する法学知識		

〔講義目的〕
大学生活や社会生活において直面するかもしれない問題や、受講生が現在関心をもっている社会問題を取り上げ、いかに対処すべきかについて考察する。法が実社会において果たす役割を具体的に示し、法を知ることがいかに有益であるかを実感してもらえるよう努めたい。

〔講義内容〕
現在予定しているものとして、
1．交通事故の責任の取り方、取らせ方
2．恋愛と結婚をめぐるトラブルの対処法
3．離婚をめぐるトラブルの対処法
4．遺産相続と税金の問題について
5．悪徳商法について
6．職場でのトラブル対処法
もっとも、受講生が取り上げて欲しいテーマが他にあれば、それを優先しようと思う。

〔講義のすすめ方〕
法学Aに同じ。

〔教　材〕
法学Aに同じ。

〔成績評価の方法・基準〕
法学Aに同じ。
【成績評価基準】
⑴答案の採点方式（その1）
S：自己の視点・考えをも加味した答案
A：問題に即した処理ができており、キチンとした論理展開が見られる答案
B：問題の所在を理解しており、ある程度の論理展開が見られる答案
C：問題点の指摘はあるが、理由付けが不十分であったり、論理展開に若干の矛盾が見られる答案
D：問題点の指摘がなかったり、問題に即した論理がみられない答案
E：およそ論理展開がなく、高校生の作文程度の答案
F：白紙、意味不明答案
⑵答案の採点方式（その2）
AからEの各段階につき、印象点として＋かーを付けて点数化し、2問の平均を四捨五入する。
S（7点）、A^{+}（6点）、A^{-}（5点）、B^{+}（4点）、B^{-}（3点）、C^{+}（2点）、C^{-}（1点）、D^{+}（0点）、D^{-}（－1点）、E^{+}（－2点）、E^{-}（－3点）、F（－4点）
【例1】C^{+}とB^{+}の平均＝3点→B^{-}
【例2】D^{-}とC^{+}の平均＝0.5点→　1点→　$C^{-'}$
（切り上げ評価にはダッシュを付ける）
⑶成績評価の確定
再度点数化して――（C評価で例示すれば）C^{+}＝69点、$C^{+'}$＝66点、C^{-}＝63点、$C^{-'}$＝60点――、これに受講評価（0～6点）と留学生特権（3点）を加えて、確定評価とする。

〔履修のポイント・注意点〕
法学Aに同じ。

〔科目内容の位置付け〕
法学Aに同じ。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
法学Aに同じ。

B	統　計　学　A	2単位	沖津　直
31			
副題	統計データの見方・考え方		

〔講義目的〕

現代は情報化社会と言われている。いろいろな多くの情報がマスコミ等を通じて毎日報道されている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、今後ますます拡大され、精密化されて普及していくものと思われる。たとえば、経済・経営の分野でも、金融、証券、法人企業は、いろいろな情報を集めて活用している。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会である。確実で十分な情報を有する者が、情勢を正確に判断でき、また有利な立場に立ち、競争にも生き残っていける。このような現代社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくる。

〔講義内容〕

統計学は記述統計学と推測統計学に分けられる。前者では、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んでいく。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにする。そして、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最頻値、幾何平均などについて学習します。これらの作業・計算を通じて、分布の状態を正確に把握することができる。統計図表の見方、書き方、使い方についても学習します。

次に、確率の考え方、確率の概念、確率の公理、確率計算の基本定理などについて学習する。

〔講義のすすめ方〕

授業は以下の項目の順序で行います。

1．序論
2．統計データのまとめ方
3．位置の特性値
4．散らばりの特性値
5．確率
6．確率分布

〔教　材〕

テ キ ス ト　「統計学入門」沖津　直著　八千代出版

指定参考図書　「統計学」山根太郎著　東洋経済新報社

「初等統計学」P.G.ホーエル　村上訳　培風館

〔成績評価の方法・基準〕

基本的には期末の定期試験の結果。

〔履修のポイント・注意点〕

内容はつみあげ方式になっている。毎回、コンスタントに学習することが重要です。宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが大切です。

〔科目内容の位置付け〕

統計データを扱うときの理論であり、情報処理科目やいろいろな科目の数量分析の基礎科目である。人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に利用されている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提とする科目は特にないが、高校卒業程度の数学がわかっている方が望ましい。経営情報科学、経営統計学、決定の科学や計数管理論など多くの情報科学の科目と関連する。

B 32	統　計　学　B	2単位	沖津　直
副題	統計データの見方・考え方		

〔講義目的〕

現代は情報化社会と言われている。いろいろな多くの情報がマスコミ等を通じて毎日報道されている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、今後ますます拡大され、精密化されて普及していくものと思われる。たとえば、経済・経営の分野でも、金融、証券、法人企業は、いろいろな情報を集めて活用している。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会である。確実で十分な情報を有する者が、情勢を正確に判断でき、また有利な立場に立ち、競争にも生き残っていける。このような現代社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくる。

〔講義内容〕

統計学Ａでは、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んだ。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにし、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最類値、幾何平均などについて学習した。

統計学Ｂでは、統計学Ａを踏まえて、推測統計を学習する。確率変数の意味と役割、確率分布、期待値、二項分布、ポアソン分布、正規分布、標本分布、七分布、推定、検定、線型回帰分布などについて講述する。

〔講義のすすめ方〕

授業は以下の項目の順序で行います。

1．確率分布
2．二項分布
3．ポアソン分布
4．正規分布
5．無作為標本
6．標本分布
7．推定
8．検定
9．線型回帰分布
10．相関分析

〔教　材〕

テキスト　「統計学入門」沖津　直著　八千代出版

指定参考図書　「統計学」　山根太郎著　東洋経済新報社

「初等統計学」P.G.ホーエル　村上訳　培風館

〔成績評価の方法・基準〕

基本的には期末の定期試験の結果。
日常の学習態度。

〔履修のポイント・注意点〕

内容はつみあげ方式になっている。毎回、コンスタントに学習することが重要です。宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが大切です。

〔科目内容の位置付け〕

統計データを扱うときの理論であり、情報処理科目やいろいろな科目の数量分析の基礎科目である。人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に利用されている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提とする科目は特にないが、高校卒業程度の数学がわかっている方が望ましい。経営情報科学、経営統計学、決定の科学や計数管理論など多くの情報科学の科目と関連する。

B	心　理　学　A	2単位	神戸文朗
33			
副題	サルとヒトの間		

〔講義目的〕

世の中では心理テストとか血液型心理学と称するような一種のゲームが流行っていますが、心理学とはこのように根拠なく他者の気持ちや性格を憶測するための学問ではありません。心理学研究の目的は人間の行動や諸能力を科学的、実証的方法によって究明することにあると考えます。

皆さんご存知のようにヒトは霊長類に属しており、ヒトが無意識的、自動的に行う多くの行動や性質は他の霊長類・哺乳類と共通性があります。ヒトは動物の中で独自な存在だとも言えますが、むしろこうした共通性の方が圧倒的に大きいといえます。換言すれば、ヒトの独自性というのは水に浮かんだ氷山の一角であり、その下では生命維持や本能行動、情動行動といった他の哺乳類に共通する自動装置がそれを支えているとも言えるのです。

そこで、心理学Ａではヒトの多様な能力が特定の霊長類進化の道筋の中でのみ出現可能であったということ、様々な本能行動がどのように脳の構造と関連づけられるのかということ、本能行動と情動がヒトの思考や行動にどのような影響を与えているかということを主として伝えたいと思います。

〔講義内容〕

1．霊長類における進化の方向性とヒトの能力
2．大脳の構造
3．生命維持と脳幹脊髄系
4．本能行動、情動行動と視床下部、大脳辺縁系
5．比較行動学的にみた本能行動
　①攻撃行動
　②求愛・生殖行動
　③社会的行動
6．動物のコミュニケーション行動と類人猿の言語運用力

〔講義のすすめ方〕

脳の構造、動物の行動や表情などをビジュアルかつ的確に伝えるために、図を掲載した印刷物を多数配布することにしました。授業ではこの印刷物と黒板への書き込み、及び口頭での説明になります。

〔教　材〕

内容が多岐にわたるため単一の教科書等は指定しません。多数の印刷物を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔履修のポイント・注意点〕

一部は既に高校等で履修した内容もあるかとは思いますがほとんどは新しい知識だと思います。熱心にノートをつけることによって人間の存在について更に興味が湧いてくることを期待します。

〔科目内容の位置付け〕

生物学的心理学、進化心理学、比較行動学、比較心理学の基礎・導入編に位置付けています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この科目を受講する際の前提科目はありません。ただし、人間を全体として理解をするためにヒトの独自性、特異性について考察する心理学Ｂも引き続いて受講されることを期待します。

B 34	心　理　学　B	2単位	神戸文朗
副題	人間らしさとは何か		

〔講義目的〕

心理学Ａの説明でも触れましたが、心理学研究の目的は人間の行動や諸能力を科学的、実証的方法によって究明することにあると考えます。

心理学Ａではヒトと他哺乳類との共通性（言い換えれば、進化の中で特殊的に獲得された生物学的機構によって強く拘束されているヒトの能力、行動）について考察してきましたが、それに引き続き心理学Ｂではヒトの持つ独自性、特異性（言い換えれば、他霊長類からの分岐以後爆発的に獲得された非特殊的能力）に焦点を当てた講義にしたいと思います。このヒトの持つ大きな非特殊的能力が主として大脳の新皮質の働きによることは周知の事実ですが、その働きを少し具体的に紹介したいと思います。また、こうした非特殊的能力（認知的能力）に関して試みられてきた様々な心理学的理論や実験についても紹介したいと思います。こうした説明によってわれわれが当然として受け止めている能力（例えば、視覚能力）がいかに複雑な方法で実現されているかを垣間見ることが出来るでしょうし、こうした能力がどのようにして解明されつつあるかについても触れることが出来るでしょう。

〔講義内容〕

1．大脳新皮質における機能局在と可塑性
2．視覚伝導路及び視覚諸野における視覚情報分析
3．位置や運動の検出と物体の識別
4．錯視、恒常性、ゲシュタルト法則等に見られる更に高次な視覚情報処理
5．パターン認知とカテゴリー化
6．注意及び特徴の統合
7．イメージ及び知識の表現
8．短期記憶、長期記憶、作動記憶
9．記憶障害と海馬の役割
10．言語中枢と言語障害

〔講義のすすめ方〕

脳の構造、実験の刺激布置や実験結果などをビジュアルにかつ的確に伝えるために、図を掲載した印刷物を多数配布することにしました。授業ではこの印刷物と黒板への書き込み、及び口頭での説明になります。

〔教　　材〕

内容が多岐にわたるため単一の教科書等は指定しません。多数の印刷物を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔履修のポイント・注意点〕

一部は既に高校等で履修した内容もあるかとは思いますがほとんどは新しい知識だと思います。熱心にノートをつけることによって人間の存在について更に興味が湧いてくることを期待します。

〔科目内容の位置付け〕

認知心理学、神経心理学の基礎・入門編に位置付けています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この科目を受講する際の前提科目はありません。ただし、人間を全体として理解をするために他哺乳類との共通性について考察する心理学Ａも受講されることを期待します。

B	心　理　学　A	2単位	中谷陽子
33			
副題	自らの個性・知性と生き方を考える		

〔はじめに：心理学A・B、通年の選び方〕
　本講義はセメスター制ではあるが、学生が一年を通じて自らの生活に向かいあいながら学ぶ事を期待して構成されている。
　従って前期:心理学A、後期:心理学B、の選択ができる（学年によっては通年)。

〔講義目的〕
　現代は、人間生活のあるところには必ず心理学が関わり、しかもその領域がますます拡大される時代となってきた。
　大学では学生が混沌として見えにくい自分の将来に目を凝らし、最初の人生設計に挑戦しようとする。心理学を学ぶ事は現代を生きる学生の伴走者として、あなたを力づける知的エネルギー源であると考えてはどうだろうか。
心理学Aでは自分を知り、分析し、それによって自分自身を強く意識して欲しい。自らの適応力を育て、自分で問題解決が出来るという自信を積み上げて欲しい。
心理学Bではこの目まぐるしい変化・発展する現代に生きようとする自分に、新しい視野をもたらして欲しい。応用的な発想へと自らを導き出すような能力を求めて、心理学の多様な顔に興味を抱いて欲しい。

〔講義内容〕
心理学A
　I．こころの探求
　　・心理学の歴史と視点
　II．こころのありか
　　・行動の様式
　　・個人差と性格分析
　　・適応と不適応（ストレス、カウンセリングマインド）
　　・生きることと死ぬこと
心理学B
　III．こころの働き
　　・発達
　　・感覚と知覚
　　・脳の科学からみた心の機能
　　（学習と記憶、思考と言語、動機付けと情動）
　　・身体観からみた心の機能
　　・人間はどのように遊んできたか
　　・心理実験：練習の効果

〔講義のすすめ方〕
　主に講義、出来るだけ実験などを。

〔教　　材〕
「心理学」鹿取・杉本編、東大出版会

〔成績評価の方法・基準〕
　期末試験。「減点法」による評価なので初回授業の説明に注意。通年生は前期レポート後期試験を実施する。

〔科目内容の位置付け〕
　1．2．年生には自分の研究の場として3，4年生には貴重な人間社会研究の場として活用して欲しい。

〔履修のポイント・注意点〕
　例年の履修状況を参考にして、受講生の'人数制限'を設ける可能性もあるので、特に登録期間の掲示には十分注意すること。

B 34	心　理　学　B	2単位	中谷陽子
副題	自らの個性・知性と生き方を探る		

〔はじめに：心理学A・B、通年の選び方〕
本講義はセメスター制ではあるが、学生が一年を通じて自らの生活に向かいあいながら学ぶ事を期待して構成されている。
従って前期:心理学A、後期:心理学B、の選択ができる（学年によっては通年)。

〔講義目的〕
現代は、人間生活のあるところには必ず心理学が関わり、しかもその領域がますます拡大される時代となってきた。
大学では学生が混沌として見えにくい自分の将来に目を凝らし、最初の人生設計に挑戦しようとする。心理学を学ぶ事は現代を生きる学生の伴走者として、あなたを力づける知的エネルギー源であると考えてはどうだろうか。
心理学Aでは自分を知り、分析し、それによって自分自身を強く意識して欲しい。自らの適応力を育て、自分で問題解決が出来るという自信を積み上げて欲しい。
心理学Bではこの目まぐるしい変化・発展する現代に生きようとする自分に、新しい視野をもたらして欲しい。応用的な発想へと自らを導き出すような能力を求めて、心理学の多様な顔に興味を抱いて欲しい。

〔講義内容〕
心理学A
I. こころの探求
・心理学の歴史と視点
II. こころのありか
・行動の様式
・個人差と性格分析
・適応と不適応（ストレス、カウンセリングマインド）
・生きることと死ぬこと
心理学B
III. こころの働き
・発達
・感覚と知覚
・脳の科学からみた心の機能
（学習と記憶、思考と言語、動機付けと情動）
・身体観からみた心の機能
・人間はどのように遊んできたか
・心理実験：練習の効果

〔講義のすすめ方〕
主に講義、出来るだけ実験などを。

〔教　材〕
「心理学」鹿取・杉本編、東大出版会

〔成績評価の方法・基準〕
期末試験。「減点法」による評価なので初回授業の説明に注意。通年生は前期レポート後期試験を実施する。

〔科目内容の位置付け〕
1．2．年生には自分の研究の場として3，4年生には貴重な人間社会研究の場として活用して欲しい。

〔履修のポイント・注意点〕
例年の履修状況を参考にして、受講生の‘人数制限’を設ける可能性もあるので、特に登録期間の掲示には十分注意すること。

B 35	社会心理学A	2単位	細田一秋
副題	対人関係の基礎を学ぶ		

〔講義目的〕

群れから迷いでた羊は、ヒツジではないといわれます。恐怖心から、ヒツジとして行動できないのです。ヒトもまた、そうです。ガラス・ケースのなかの1個のヒトを観察しても、人は見えません。寄り添いながら暮らす人びと、ともに働く人びとを、その関係のなかで見ることが、人の理解なのです。

講義では、人を求め絆を結ぶあなたを、対人心理の分野から探ります。あなた自身の対人関係が見直せるように、講義のなかで社会心理学的な方法論・物の見方を修得してほしいと思います。単位を無事に取得するだけでなく、あなたがこの学問を好きになることを、願っています。

〔講義内容〕

1：社会心理学の基礎；「社会心理学とは何か」を心理学のなかでの位置、研究法、成果から概説します。

2：社会的行動のメカニズム；「社会的行動はいかに実現するか」、その行動のメカニズムを動物行動学、学習理論（古典的ならびにオペラント条件づけ）から考察します。

3：対人心理；上述の基礎事項を踏まえ、生活場面での対人心理を考えます。「人はなぜ人を好きになるのか」をテーマに、母子の愛着、親和行動、対人魅力、友人選択、配偶者選択の諸研究を紹介します。

〔講義のすすめ方〕

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

〔教　材〕

教科書：使用しません。

参考書：「イメージと行動」 岡本淑人
白鷗大学出版局 2000円

「学習心理学－行動と認知」
春木、山内　サイエンス社 2575円

「改訂増補　現代学習心理学－基礎とその展開」
岩本、高橋　川島書店 2400円

「人間関係の心理学」 斉藤勇
誠信書房 2200円

「人間関係の心理学ハンディブック」
吉森護　北大路書房 2500円

「新・くらしの社会心理学」
小川一夫　福村出版 2000円

〔成績評価の方法・基準〕

出席回数：全回にわたり、出席を採ります。そして、2／3以上の出席を成績評価の前提とします。遅刻は出席と認めません。早退は事前に事情を説明して下さい。

評価方法：試験を1回、学期末に実施します。上記出席回数をクリアしないと受験できませんので、十分に注意して下さい。

判定基準：試験の得点で、成績を評価します。出席回数は受験資格の判断に利用されるだけで、最終的な成績とは無関係です。

〔履修のポイント・注意点〕

履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人をみる眼」とが格段に進歩します。

教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

〔科目内容の位置付け〕

家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。社会心理学はこの海でのとても実用的な舟といえます。また、未来の組織人として必須の科目でもあります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：特にありません。「心理学」をすでに学んでいれば申し分ありません。

関連科目：半期の短い講義であるため、補完科目として「社会心理学B」をぜひ選択してください。その他の関連科目について触れておきます。基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

B 36	社会心理学B	2単位	細田一秋
副題	モチベーションを学ぶ		

〔講義目的〕

「すべての学問は人間の理解を目指す」と言われます。「人間とは何か？」を解くために、さまざまな学問が誕生しました。あなたが学ぼうとしている社会心理学も、その1つです。講義では、社会のなかで欲求し願望を実現してゆくあなたを、モチベーションを軸に探ってゆきます。「あなたは誰か？」を決定するのは、名前でも所属でもありません。あなたらしい振る舞いです。なにを恐れ喜ぶか、なにを求めどう行動するか。この振る舞いが、あなた自身なのです。なぜそう振る舞うのか？ モチベートされるが故にです。家庭、学校、職場で、あなた自身を突き動かす諸モチベーションについて、社会的動機論の立場から理解してほしいと思います。

〔講義内容〕

1：モチベーションの基礎；「モチベーションとは何か」を、社会心理学のなかでの位置づけ、メカニズム（機能と構造）より概説します。

2：モチベーションの種類；「生理的動機」「内発的動機」「社会的動機」の3カテゴリーを詳説します。

3：対人モチベーション；上述の「社会的動機」のなかより、対人関係に関わるモチベーションをとり上げます。トピックスをいくつか選択し、紹介します。

4：ワーク・モチベーション；組織や職場でのモチベーションについて学びます。職務満足感なども含めて、ワーク・モチベーションの諸理論を紹介します。

〔講義のすすめ方〕

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

〔教　材〕

教科書：使用しません。

参考書：「イメージと行動」 岡本淑人
白鷗大学出版局 2000円
「ヒューマン・モチベーション－動機づけの心理学」 B. ワイナー
金子書房 4900円
「動機づけの基礎と実際」加川元通
川島書店 4400円
「産業・組織心理学入門」岡村一成
福村出版 2200円

〔成績評価の方法・基準〕

出席回数：全回にわたり、出席を採ります。そして、2／3以上の出席を成績評価の前提とします。遅刻は出席と認めません。早退は事前に事情を説明して下さい。

評価方法：試験を1回、学期末に実施します。上記出席回数をクリアしないと受験できませんので、十分に注意して下さい。

判定基準：試験の得点で、成績を評価します。出席回数は受験資格の判断に利用されるだけで、最終的な成績とは無関係です。

〔履修のポイント・注意点〕

履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人をみる眼」とが格段に進歩します。

教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

〔科目内容の位置付け〕

家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。社会心理学はこの海でのとても実用的な舟といえます。また、未来の組織人として必須の科目でもあります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：すでに「社会心理学 A」を履修されていれば、理解しやすいと思います。また、「心理学」を学んでいれば申し分ありません。

関連科目：半期の短い講義であるため、補完科目として「社会心理学A」をぜひ選択してください。その他の関連科目について触れておきます。基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

B 37	政　治　学　A	2単位	福岡政行
副題	現代の日本を考える		

〔講義内容〕

現代政治のパワーメカニズムを中心に分析する。政党は、単なる比較論だけではなく、派閥力学についても。選挙は、有権者の立場を中心に、デモクラシーの健全運営についても。官僚システムについては、地方自治の在り方についても言及する。日本の政治文化の中で、機能的に見てどのような日本型政治が可能なのかを中心に講義する。政治と経済はコインの両面であり、そのリンケージも重視して、税や財政、さらには景気の問題、そしてグローバルな視点も導入して分析する。21Cのデモクラシーは、異議申し立ての政治であり権力と国民との相互メカニズムを中心に分析する。

・21C型政治研究
・現代政治社会の多面的アプローチ
・ミレニアム総選挙の分析と21世紀最初となる国政選挙の第18回参院選シュミレーション
・ゲストスピーカーとのディスカッション
・政治・経済の基礎的知識
・現代用語の基礎的知識
・毎週小テスト

B 38	政　治　学　B	2単位	福岡政行
副題	現代の日本を考える		

〔講義内容〕

ＮＰＯ・ＮＧＯの動きが21Ｃの早い段階から重要なテーマとなる。国家の枠を越えての動きであり、政治・経済のみならず文化パターンをも考慮しての分析・調査が必要である。多くの雇用の検出にもつながり、アメリカではシリコンバレーをしのぐとも言われている。21Ｃの政治の中心課題は、経済（景気）である。経済の持続的成長や安定が求められ、失業や貧困との戦いでもある。また、教育と環境も重要な政治課題になってきている。本講では、21Ｃ型政治学が何かを考えながらNew Politics を考えていきたいと思っている。

・21Ｃ型政治研究
・現代政治社会の多面的アプローチ
・ミレニアム総選挙の分析
・ゲストスピーカーとのディスカッション
・政治・経済の基礎的知識
・現代用語の基礎的知識
・毎週小テスト

B	情報社会科学Ａ	2単位	森川信男
39			
副題	情報ネットワークシステムとしての社会		

〔講義目的〕
私達を取り巻く社会は、特にここ四半世紀における情報化の進展に伴って、大きな変革と革新を強く迫られて来たが、さらにネットワーク化、マルチメディア化、パーソナル化といった革新的な情報技術の導入・展開によって、飛躍的に大きなものとなって来ている。
本講義では、社会における情報化の進展、すなわち情報技術の革新と情報思考の展開についての基礎的な知識と理解を深める。

〔講義内容〕
1．情報化社会の光と影
2．情報革命の歴史的意義
3．情報の基本概念
4．意思決定と情報
5．社会・組織と情報
6．システムの基本理念
7．ネットワークの基本概念
8．情報ネットワークシステムとしての社会・組織
9．情報化と情報ネットワーク化
10．情報化社会の法と掟

〔講義のすすめ方〕
本講義では、以上の如き内容の講義を行なうが、授業は毎時間「参加共創型」方式で実施する。情報技術の発展に関しては、ビデオを活用した授業となる。なお、本講義では、パソコンによる実習は実施しない。

〔教　材〕
授業時に教科書を指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回出席を取る。特に授業への出席と参加を重視し、「受講メモ」と期末レポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

〔科目内容の位置付け〕
現代の情報化社会において、職業生活と日常生活を遂行していくための基礎的な科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特別にはないが、社会における情報化の進展に関する基礎的な知識は、今日では大抵の科目にとってきわめて重要な事柄である。
情報社会科学Ｂと一緒に履修することが望ましい。

B 40	情報社会科学B	2単位	森川信男
副題	情報ネットワーク化と在宅化社会		

〔講義目的〕
私達を取り巻く社会は、特にここ四半世紀における情報化の進展に伴って、大きな変革と革新を強く迫られて来たが、さらにネットワーク化、マルチメディア化、パーソナル化といった革新的な情報技術の導入・展開によって、飛躍的に大きなものとなって来ている。
本講義では、社会における情報化の進展、すなわち情報技術の革新と情報思考の展開についての基礎的な知識と理解を深める。

〔講義内容〕
1.情報技術の革新とコンピュータ
2.マルチメディアとインターネット
3.電子メールと情報通信
4.情報化とオフィス環境の変革
5.情報ネットワーク化と在宅サービス化
6.情報ネットワーク化と在宅就業化
7.産業の情報化と情報の産業化
8.社会の情報化と情報の社会化
9.情報的価値と知的所有権
10.情報公開と個人情報保護

〔講義のすすめ方〕
本講義では、以上の如き内容の講義を行なうが、授業は毎時間「参加共創型」方式で実施する。情報技術の発展に関しては、ビデオを活用した授業となる。なお、本講義では、パソコンによる実習は実施しない。

〔教　材〕
授業時に教科書を指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回出席を取る。特に授業への出席と参加を重視し、「受講メモ」と期末レポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

〔科目内容の位置付け〕
現代の情報化社会において、職業生活と日常生活を遂行していくための基礎的な科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特別にはないが、社会における情報化の進展に関する基礎的な知識は、今日では大抵の科目にとってきわめて重要な事柄である。
情報社会科学Aと一緒に履修することが望ましい。

B 41	教　育　学　A	2単位	萩原元昭
副題	人間の発達と教育		

〔講義目的〕
　人間は、人生のいかなる段階をとっても、なんらかの学習を行っている。生活に必要な知識や技術、考え方や行動の仕方を学びたいと思っている。
　また人間は生来、能動性、有能性、人とやりとりする能力を備えている。この人間のＤＮＡに組みこまれている潜在的能力を引き出す機能が教育である。
　本講義は、学生諸君が、誕生以来、現在までの学びの歴史をふりかえり、自己形成の近未来まで可能性を探る。同時に、家族、近所遊び、幼稚園、保育所、学校、職場等、社会化過程における通過集団にそって現代教育の諸問題についても考察をすすめてゆく。

〔講義内容〕
1．教育とはなにか
2．私の学習・教育の歴史
3．私の現在の学習方法
4．私の生きがいと意味あることがら
5．私にとっての意味ある他者
6．私のこれからの学習・教育の方法
7．人間の社会化過程
8．社会学的母胎としての家族の教育
9．幼稚園・保育所の保育
10．学校教育―いじめ・不登校・体罰等の問題
11．コミニュティ教育
12．社会教育関係施設
13．現代社会の生活課題と教育
14．生涯学習社会とは
15．教育学の方法と課題

〔講義のすすめ方〕
　講義の他、グループ討議、ビデオの視聴、レポート提出など、様々な方法を活用。

〔教　　材〕
萩原元昭編訳「幼児教育の社会学」
放送大学教育振興会
萩原元昭編　「個性の社会学」学文社

〔成績評価の方法・基準〕
　４回程度のレポートを課し、その内容により評価する。出席・レポートの評価により成績とする。

〔履修のポイント・注意点〕
　所定の出席に満たない場合は、レポートを提出しても単位は認定しない。

〔科目内容の位置付け〕
　いじめ、不登校、学級崩壊など社会問題化している教育問題に対する分析の仕方、考え方の視点を提供したいと考えている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　関連科目として「教育制度論」があるが、ここでは教育中心の教育から学習者中心の教育へのパラダイム転換の問題を学校制度を中心にとりあげることにしたい。

B 42	教　育　学　B	2単位	萩 原 元 昭
副題	現代教育の諸問題		

〔講義目的〕
本講では、乳幼児から高齢者まで、社会化の過程にそって、現代教育の諸問題について考察する。乳幼児の虐待・いじめ・不登校・受験・非行などの非・反社会的問題行動の動向とその対応の現状について調べると同時に、21世紀の教育の基本的なコンセプトである個性、心の教育、生涯学習、生きる力に代表される学習者中心の教育へのパラダイムの変換に因んだ、さまざまな課題についても分析考察を深めてゆきたい。

〔講義内容〕
講義内容としては概略、次のようなものを予定している。

1．現代の教育の特徴
2．人間の特徴
3．人間の社会化と教育
4．近所遊び
5．家庭教育
6．保育所・幼稚園の保育
7．小・中学生の生活価値観
8．学校の教育環境
9．高校生の教育
10．大学の諸問題
11．職場における教育
12．地域社会における教育
13．リカレント教育
14．生涯学習社会の構築
15．教育問題の社会学

〔講義のすすめ方〕
講義、ビデオ、スライドについての感想、討論、レポートなど、できるだけ表現する機会を持つ。

〔教　　材〕
「教育伝達の社会学」
バージル・バーンステイン・萩原元昭編訳
明治図書
「個性の社会学」萩原元昭編　学文社
「幼児教育の社会学」萩原元昭
放送大学教育振興会

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法は4回程度のレポートにより評価する。レポート未提出者は単位を認定できない。

〔履修のポイント・注意点〕
現代の教育問題についてできるだけ、自分の興味・関心に合わせ、文献を読み重ね、問題提起ができるように努力させたい。

〔科目内容の位置付け〕
経営学部で学ぶ諸君にとってはいじめ・不登校・暴力事件など教育との関連も見逃せない。本講はその基礎の教養としても参考になろう。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
現代の教育問題は、社会現象の一部でもあるので「社会学」を学習することをすすめたい。

B 43	環境科学A	2単位	石倉洋子
副題	自然環境のしくみ		

〔講義目的〕

ビッグバンにはじまった宇宙で地球が誕生したのが今から46億年前、その地球上に生物が誕生してから35億年、そして人類が誕生してから数万年になる。一方、科学技術のめざましい進歩により人間の生活がかってない豊かさを誇ると同時に環境破壊が起こってきたのはわずかこの100年間のことである。

地球の自浄作用に頼るには余りに大きな急激な変化である。大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動や生活様式を拡大してきたことが今日の環境問題を引き起こしたのは明らかなことである。

自然の多様な生態系と共存し、限りある地球の資源を次世代に引き継ぐことは現代に生を受けた我々の責務であろう。

この講義を通して環境問題に関する様々な分野の知識を習得するとともに、環境問題に対する意識と責任感を喚起する事を目的とする。

〔講義内容〕

地球環境の成り立ち
- ビッグ・バンから地球誕生まで
- 物質の起源・生命の起源
- 生態系
- 物質循環（水、炭素、窒素の循環）
- エネルギーの流れ

環境破壊の現状
- 大気汚染
- 水質汚濁
- 土壌汚染

廃棄物

〔講義のすすめ方〕

我々の住んでいるこの地球が誕生以来どのように進化してきたか、現在の生態系がどのような仕組みになっているのかを知ることで、自然環境を理解することを先ず第一とする。次にそれが人間の活動によりどのように破壊されつつあるのかを学ぶ。身近な具体的な事例について、授業時間中に発表する時間をとりたいと思っている。

〔教　材〕

特定の教科書は用いないが参考図書については講義の中で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の１／３以上欠席したものには単位を与えない。

定期テスト、レポートで評価する、また出席率良好者には評価上の配慮をする。

〔履修のポイント・注意点〕

提出するレポートについては授業中に指導するが、本を丸写ししたようなレポートには点を与えない。

最近、環境に関する書籍が多数出版されているが、本に書かれていることをそのまま鵜呑みにしないこと。ほかの本を参照したりして客観的に判断すること。

〔科目内容の位置付け〕

環境科学は非常に学際的な科学分野であり、科学全般に関連することは勿論社会科学や人文科学にも関連している。

この講義は経営学部と法学部の学生を対象としているもので理科的な素養は特に必要としない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はないが、半期履修者は「環境科学B」も履修することが望ましい。

B 44	環境科学B	2単位	石倉洋子
副題	地球環境問題		

〔講義目的〕

最近、地球の温暖化やオゾン層の破壊などいわゆる地球環境問題が注目を集めるようになってきた。それは人類の活動の結果生じた問題であり、日本を含めた先進国を中心とする経済活動の高度化による様々な影響が国内に止まらず国境を越えて地球的規模に及んできたのである。

環境問題解決の本質は自然生態系を守り、回復させると同時に持続的に利用していくことにある。人類の生存基盤である自然資源を持続的に利用できる社会を築いていくことが我々に課せられた義務である。そのためにこれからのビジネスの在り方などを環境という視点を入れて考えられるようになることを本講義の目的とする。

〔講義内容〕

地球環境問題
- 地球温暖化
- オゾン層の破壊
- 酸性雨
- 熱帯林の減少
- 砂漠化
- 野生生物の種の減少
- 森林、生物多様性の保全
- 有害化学物質による汚染
- 放射能による汚染

環境政策
環境に係わる法制度
エコビジネス

〔講義のすすめ方〕

地球環境問題の概要を知るとともに、それらに対して今どんな対策が講じられているかを学ぶ。

地球環境問題にはまだまだ未知の部分が多く、単に講義を聴くだけでなく、自分自身の問題として一緒に考えていく姿勢が欲しい。授業時間中に意見を発表する時間をとりたいと思っている。積極的な参加を希望している。

〔教　材〕

特定の教科書は用いない。

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1／3以上欠席したものには単位を与えない。
テスト（定期試験）とレポート（提出時期は指定する）で評価する。
出席率良好者には加点する事がある。

〔履修のポイント・注意点〕

提出するレポートについては授業中に指導するが、本を丸写ししたようなレポートには点を与えない。

最近、環境に関する書籍が多数出版されているが、本に書かれていることをそのまま鵜呑みにしないこと。ほかの本を参照したりして客観的に判断すること。

〔科目内容の位置付け〕

環境科学は非常に学際的な科学分野であり、科学全般に関連することは勿論、社会科学や人文科学にも関連している。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この講義は経営学部と法学部の学生を対象としているもので理科的な素養は特に必要としない。両学部とも自分の専門を通して環境問題を考えて欲しい。

前提科目はないが、半期履修者は「環境科学A」も履修することが望ましい。

B	物　理　学　A	2単位	師　　啓二
46			
副題	核エネルギーがキーワード		

〔講義目的〕

科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題は深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学A」では、物質の成り立ち・仕組みを話題に取り上げ、核分裂・核融合エネルギー等について、ビデオ等を適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それによって、目に見えない原子・分子の構造から広大な宇宙の構造まで統一した物理学の視点で眺めて見ることが出来る。

〔講義内容〕

ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、なるべく最新の話題を紹介したいので、変更もありえる。

1.	物質の構成について	2週
2.	核分裂エネルギー	2週
3.	チェルノブイリ事故について	2週
4.	原子力発電所の問題	2週
5.	核融合エネルギーの平和利用	2週
6.	常温核融合	1週
7.	太陽	1週
8.	宇宙の誕生と起源	2週
9.	地球の誕生	1週

〔講義のすすめ方〕

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。

〔教　　材〕

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート　　1回（学期末に提出すること）

判定基準　（出席率67%以上、レポートの点数が60点以上）

〔履修のポイント・注意点〕

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

〔科目内容の位置付け〕

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：なし

関連科目：「物理学B」

取り上げているテーマが違っているので、「物理学B」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学B」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、将来、例えば放射能汚染についての知識があったために命が助かるということも有り得るだろう。

B 47	物　理　学　B	2単位	師　　啓二
副題	力とエネルギーに注目しよう		

〔講義目的〕

科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題は深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学B」では、物体間に働く力、熱エネルギー、エントロピーおよび新素材について、分かりやすく解説する。それにより、物理学的な視点で見た新しい考え方・物の見方を身につけることはできれば、現象の複雑さに対して、自然界を支配する法則の単純さや美しさに驚くことであろう。

〔講義内容〕

ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、最新の話題も紹介したいので、変更もありえる。

1.	力について	1週
2.	天体の運動	2週
3.	ケプラーの法則・火星	1週
4.	ボイジャーの惑星探査・海王星	1週
5.	スペース・シャトルの宇宙実験	2週
6.	地球を守る多重バリアー	1週
7.	熱エネルギー	2週
8.	エントロピー・散逸構造	1週
9.	複雑系・カオス	2週
10.	高温超伝導	1週
11.	新素材	1週

〔講義のすすめ方〕

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。受講者が少ない場合は簡単な学生実験を行いたいと考えている。

〔教　　材〕

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート　　1回（学期末に提出すること）
判定基準　　（出席率67%以上、レポートの点数が60点以上）

〔履修のポイント・注意点〕

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

〔科目内容の位置付け〕

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：なし
関連科目：「物理学A」
取り上げているテーマが違っているので、「物理学A」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学A」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、「自然を見る目」は確実に変わることだろう。一見複雑な現象も単純な原理から理解できるということが分かればよい。

B 48	化　学　A	2単位	石倉洋子
副題	物質の理解		

〔講義目的〕

ますます複雑さを増す今日の社会において、化学の知識は以前にも増して重要である。私たちは未来に向けて地球というこの惑星上での生活の質の向上をさせてくれる新しい発見や応用を願っている。私たちの生活に多くの恩恵を与えた数々の化学物質の中には人類や環境に害を及ぼしたものもあり、これまで化学はとかく環境を汚す犯人扱いされてきた。しかし、これらの問題の解決には化学の知識が絶対に必要であり救世主ともなり得るものである。

多岐にわたる化学の分野の最も初歩的な入門編ながら化学的なものの見方、考え方を身につけることによって、現在起こっている諸問題を理解することができるようになるだろう。

この講義では、化学や数学の予備知識の少ない人（高校で化学を履修しなかった人）にも理解できるよう心がけ、抽象概念も化学を日常生活に応用している数々の例をいれて、より具体的にまた重要概念には時間をさいて徹底的に説明するつもりである。

〔講義内容〕

主なテーマは次の通り

物質とエネルギー
原子と分子
原子の構造
周期表
化学結合
化学反応式
酸および塩基
核化学反応式

〔講義のすすめ方〕

化学の基礎概念を理解することに主眼をおく。すべての章には学習目標が掲げてあり、その章が終わったところでそれが達成されることを目指している。章ごとに例題を多くとりいれ、応用が自在にできるようになるまで段階を経て詳しく解説をし、例題が本当に理解できたかを自分で試す練習問題を課すことにする。はじめはむずかしいと思う問題でも１つ１つ解いていくことで難なくクリヤーできるようになるので根気よく取り組んで欲しい。

〔教　材〕

教科書　「化学 基本の考え方を中心に」
シャーマン他　東京化学同人　2,900円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト　定期試験　70%
授業内テスト　数回　30%
出席回数による加点も考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

高校で化学を履修しなかった人でも受講O.K.　但し居眠りをしているとついていけなくなること必定。

〔科目内容の位置付け〕

化学はいうまでもなく理系科目であるが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり文系の学生を対象としたものである。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目は苦手であると思っている人でも充分理解できるように配慮している。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提・関連科目は特にないが、どんな職業に就こうが毎日の新聞やテレビなどに出てくる話題を理解する上で最低限要求される知識である。

B 49	化　学　B	2単位	石倉洋子
副題	有機化合物の化学		

〔講義目的〕

私たちの身の回りにある物質は圧倒的に有機化合物が多い。生物体を作っているもの、生命現象に関連するものも有機化合物である。有機化合物の数は極めて多く、かつその性質は多様である。しかも、この多種多様な有機化合物は相互に関係づけられ、整然とした体系を作っている。簡単な化合物の構造や反応を理解すれば、それに基づいて多くの複雑な化合物の構造や反応をある程度理解することが可能である。

また今日では、生命現象を分子レベルで解明する上で必要な科学技術も驚異的に進歩し、遺伝子の組み替えや生命そのものを試験管の中で操作することさえ可能となった。

本講義では有機化学と生化学の初歩的な知識を身につける事を目的とする。

〔講義内容〕

主なテーマは次の通り

環境化学
有機化合物の構造
炭化水素
構造式と命名法
官能基
栄養素
タンパク質
核酸

〔講義のすすめ方〕

身の回りにある多くの化学製品がどのようにして作り出されるか、またその性質や用途を解説する。また　21世紀に向けて私たち人類が避けて通れない環境問題についても重要テーマとして学習する。

章ごとに例題と練習問題を付しているので授業中によく理解できなかったときは自分でよく復習をしてほしい。

〔教　材〕

教科書　「化学 基本の考え方を中心に」
シャーマン他　東京化学同人　2,900円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト　定期試験　70%
授業内テスト　数回　30%
出席回数による加点も考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

高校で化学を履修しなかった人でも受講O.K.　但し居眠りをしているとついていけなくなること必定。

〔科目内容の位置付け〕

化学はいうまでもなく理系科目であるが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり文系の学生を対象としたものである。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目は苦手であると思っている人でも充分理解できるように配慮している。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目；「化学A」(新カリキュラム履修者)

B	生　物　学　A	2単位	上田高嘉
50			
副題	環　境　と　生　物		

〔講義目的〕
　科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

〔講義内容〕
- 生命の誕生と生物の進化
- 動物の発生
- 動物の行動
- 生物体の調節
- 環境保全

〔講義のすすめ方〕
　講義が中心であるが、身近な問題、例えば環境ホルモンを取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

〔教　　材〕
　教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
　高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
　生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

B 51	生　物　学　B	2単位	上田高嘉
副題	基礎の生物科学		

〔講義目的〕
　科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

〔講義内容〕
- ウイルスについて
- 細胞の構造と機能
- 遺伝子と染色体
- 性について
- 生命工学

〔講義のすすめ方〕
　講義が中心であるが、身近な問題、例えばクローン等生命操作を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

〔教　　材〕
　教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
　高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
　生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

B 52	科　学　史　A	2単位	石倉洋子
副題	自然観の変遷		

〔講義目的〕

自然科学とは何かを理解するためにはその歴史を学ぶ意義は大きいものと思われる。自然科学の知識というものは古代から現代まで順次の積み重ねで成り立っている。言うまでもなくそのあいだには数々の大きな変革があり、考え方が根本的に変わってしまっていることも多いが、それも結局は知識の積み重ねの成果である。従って科学の歴史を知ることは現在への理解だけでなく将来への創造的発展のためにも必要なことであろう。

本講義ではそれぞれの時代の文化、社会との関わりの中で展開された自然観の変遷を見ていきたい。

〔講義内容〕

宇宙観の歴史
- 自然科学について
- 科学史の概観
- 古代人の宇宙観
- 中世の宇宙観
- 天動説から地動説へ
- 科学革命
- ガリレオとケプラー
- ニュートンによる天と地の統一
- 太陽系を超えて
- 宇宙空間の物理現象
- アインシュタイン
- 光について
- 相対論的自然観
- 宇宙の構造
- 地球の誕生と進化

〔講義のすすめ方〕

それぞれの時代の文化、社会との関わりの中で展開された自然観、宇宙観の変遷を見ていく

講義の間には適宜ビデオテープを用いる。

〔教　材〕

教科書「図解 科学の歴史」　八杉龍一
東京教学社　1,700円

参考書「新版 科学とは何か」　八杉龍一
東京教学社　1,957円

「自然科学への招待」　前田担
培風館　1,730円

〔成績評価の方法・基準〕

出席が講義回数の2／3に満たない者には試験を受ける資格を認めない。

テスト（定期試験）の成績で評価する。

自発的にレポートを書いて授業中に発表した者には点数を加算する。

出席回数による加点も考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

毎回出席をとる。遅刻や代返は減点する。

〔科目内容の位置付け〕

自然科学は人間の知的活動の所産であり、その成果は単に科学の領域にとどまらず社会、経済の上にもまた思想、哲学の上にも深刻な影響を持つものである。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

物理学、地学、化学、生物学のいずれとも関連はあるが、特にその知識を必要とはしない。

B 53	科　学　史　B	2単位	石倉洋子
副題	物質観・生命観の変遷		

〔講義目的〕

現代の自然科学は極度に専門分化されているが、歴史的に見ればもともと一本の幹から分派したものであり、その実態は人間の自然認識の展開の跡をさぐる事によって知ることが出来る。そこには偶然もあり、錯誤もあり、逆行もあり、その道筋は決して直線的ではなく、論理的でもない。科学史の事例はそのようないわば楽屋裏の出来事をも見せてくれる。

本講義では時代の流れと共に物質観と生命観がどのように変わってきたかを見ていきたい。

〔講義内容〕

物質観の歴史
- 古代の物質観
- 哲学者の原子論
- 錬金術
- 元素観の転機と変革
- ラヴォアジェの化学革命
- 原子論の復活
- 原子の構造
- ボーアの原子模型
- 量子力学
- 原子核の構造解明
- 化学の発達

生命観の歴史
- 初期の生命観
- 古代と中世の医学
- 人体の力学
- 顕微鏡で開けた世界
- 近代分類学
- 生物自然発生説
- 生理学と細胞説
- 伝染病とのたたかい
- 進化論の確立
- 遺伝研究のあゆみ
- 生命の根本物質
- 生命の起源
- 分子生物学と生命工学

〔講義のすすめ方〕

古代ギリシャの物質や生命に対する考え方から20世紀の素粒子論や分子生物学に至るまで、先人たちの積み重ねた努力の跡をたどっていく。

講義の間には適宜ビデオテープを用いる。

上にあげた講義内容について自発的にレポートを書いて発表しようとするものはあらかじめそのテーマを申し出ること。

〔教　材〕

教科書　「図解 科学の歴史」　八杉龍一
東京教学社　1,700円

参考書　「新版 科学とは何か」　八杉龍一
東京教学社　1,957円

「自然科学への招待」　前田担
培風館　1,730円

〔成績評価の方法・基準〕

出席が講義回数の２／３に満たない者には試験を受ける資格を認めない。
テスト（定期試験）の成績で評価する。
自発的に授業中に発表した者には点数を加算する。また出席回数による加点も考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

毎回出席をとる。遅刻や代返は減点する。
教室での学習マナーを守ること。

〔科目内容の位置付け〕

本講義は自然科学の歴史であるが、科学上の偉大な発見や科学技術の発展の流れを学ぶだけでなく「考える」ことをして欲しい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

科学史Ａの履修が望ましい。

B 45	数　学　A	4単位	黒澤和人
副題	経営・法学のための基礎数学		

〔講義目的〕
　経営学部や法学部の学生にも基礎科目としての数学が必要である。たとえば、経営学部では、データを分析して意思決定に役立てたり、システムの構造や仕組みをわかりやすく顧客に説明するときに、数理的な素養が必要とされる。また、法学部では、陳述における論理の組み立てや、犯罪に関わる証拠の鑑定などで、数理的な素養が必要である。このような観点から、この授業のねらいは次の3点に要約される。

1) 数理的なものの見方・考え方を身に付ける。とりわけ、論理的思考力を養い、他の授業での学習の基礎となること。
2) 社会科学系の分野で実際に広く利用されている数学の基礎的テーマを取り上げ、理解を深めること。
3) 部分と全体、分析と総合、帰納と演繹などの対句を手掛かりに、数理科学的な方法とは何かについて考えること。

〔講義内容〕
取り上げるテーマは、大きく次の3つである。

1) 論理的思考の訓練(実数論)
　・数の概念
　・集合論
　・関係
2) 数量的方法(線形代数)
　・行列と行列式
　・連立1次方程式
　・ベクトル空間
3) 分析と総合(解析学)
　・固有値問題
　・曲線と曲面
　・確率過程

〔講義のすすめ方〕
1) 各テーマとも、講義と問題演習を織り交ぜながらすすめてゆく。
2) 必要に応じてパソコンによる数値実験等も取り入れる。

〔教　材〕
教科書および参考図書：追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期テスト、課題処理、出席状況等により判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
　高校で数学をどこまで履修したかにはこだわらなくてよい。

〔科目内容の位置付け〕
　数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目：なし。
関連科目：数学B

B 54	スポーツ演習Ａ	2単位	竹島克己

〔講義目的〕
　人間にとって運動はどんな意味を持つのか。健康で活力ある人生を送る事は誰にとっても望ましい。本授業では、私たちが学生々活や社会生活において、健康の保持増進の為又生涯スポーツとして楽しめる様指導したい。1年生から4年生まで選択できます。

〔講義内容〕
1　オリエンテーション（第1回目に出席しなければ本授業は受講できません。）
2　基礎練習
3　ミニゲーム
4　ゲーム
5　テスト

〔教　　材〕
サッカー（男子のみ受講可とします。）

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と技術点によって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　必ず運動のできる服装で出席する事。
　汗の処理のため、シャワーを浴びる用意、着替えを準備する事。

B 54	スポーツ演習Ａ	2単位	野間明紀

〔講義目的〕
　種目としてテニス（硬式）またはソフトテニスを行ないます。どちらを行なうかは時間割で確認してください。テニス、ソフトテニスの基本的な技術をマスターして、最終的にダブルスのゲームができる様に授業を進めたいと思っています。また、大学卒業後、生涯スポーツとして役立ててほしいと思っていますのでぜひ初心者、経験者にかかわらず授業を取ってほしいと思います。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕
　①班分け
　②ラケットとボールになれる（初心者）
　③フォアハンドストロークの練習
　④バックハンドストロークの練習
　⑤サーブの練習
　⑥レシーブの練習
　⑦ボレーの練習
　⑧ゲームの形成
　⑨ゲーム

〔教　　材〕
・テニスシューズが必要です。
・ラケットは貸し出します。
・服装は運動しやすいもの（ジーパン等普段着は不可です）

〔成績評価の方法・基準〕
　出欠席、授業態度および技術上達度で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
・欠席は3回までとし、4回以上欠席した場合、単位は取得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。
・できる、できないに関係なく一生懸命授業に参加することが必要です。
（※テニスコートの関係上、定員は32名程度とします。スポーツ演習Ａ、Ｂの履修希望者は必ず4月の初回授業に出席してください。そこで履修者を決定します。）

〔科目内容の位置付け〕
　1～4年次の選択科目です。スポーツ演習Ｂ、健康科学と合わせ6単位まで卒業所要単位として認められます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　スポーツ演習Ｂ、健康科学

B 55	スポーツ演習Ｂ	2単位	竹島克己

〔講義目的〕
　スポーツは単に楽しみというだけでなく、健康や体力づくりの手段として、学生々活に組み入れてほしい。又、スポーツはリーダーシップやメンバーシップなどの態度を涵養する。身体の健康とともに精神の健康に大きな影響を与える。本授業に加わり、多くの事を学習していただきたい。

〔講義内容〕
1　オリエンテーション（第１回目に出席しなければ本授業は受講できません。）
2　基礎練習
3　ミニゲーム
4　ゲーム
5　テスト

〔教　　材〕
サッカー（男子のみ受講可とします。）

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と技術点によって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　必ず運動のできる服装で出席する事。
　汗の処理のため、シャワーを浴びる用意、着替えを準備する事。

B 55	スポーツ演習 B	2単位	野 間 明 紀

〔講義目的〕
　種目としてソフトテニス、テニス（硬式）、バドミントンのいずれかを行います。どれを行うかは時間割で確認してください。実技の基本的な技術をマスターして、最終的にゲームができるように授業を進めたいと思っています。また、大学卒業後、生涯スポーツとして役立ててほしいと思っていますので、ぜひ初心者経験者にかかわらず授業を取ってほしいと思います。

〔講義内容〕
①オリエンテーション（4月の初回授業です。）
②班分け（後期授業開始日→テニスコートまたは体育館に集合）
③ラケットとボールになれる（初心者）
④フォアハンドストロークの練習
⑤バックハンドストロークの練習
⑥サーブの練習
⑦ボレー（テニス）、スマッシュの練習
⑧ゲームの形成
⑨ゲーム

〔教　　材〕
・テニスシューズまたは体育館用シューズが必要です。
・ラケットは貸し出します。
・服装は運動しやすいもの（ジーパン等の普段着は不可です。）

〔成績評価の方法・基準〕
　出欠席、授業態度および技術上達度で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
・欠席は3回までとし、4回以上欠席した場合単位は取得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。
・できる、できないに関係なく一生懸命授業等に参加することが必要です。
（※テニス、ソフトテニスの定員は32名程度、バドミントンの定員は40名程度とします。スポーツ演習A、B。履修希望者は必ず4月の初回授業に出席してください。そこで履修者を決定します。）

〔科目内容の位置付け〕
　1～4年次の選択科目です。スポーツ演習A、健康科学と合わせ6単位まで卒業所要単位として認められます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　スポーツ演習A、健康科学

B 56	健　康　科　学	2単位	竹島克己

〔講義目的〕

体力のピーク年齢は男子で17歳、女子で20歳頃といわれます。ピークを越えてからゆるやかに低下傾向を示しはじめます。しかし、適度な運動を習慣的に続けると、体力の維持は可能です。

本講義は身体について、多方面から学習し、健康で明るい人生を送るための基本的な知識や習慣をつける事の大切さを学習したい。

〔講義内容〕

1．運動と生理
2．運動と力学
3．体力トレーニングの原則
4．体力トレーニングの実際
5．運動と健康・安全
6．社会生活と健康
7．心身の機能
8．スポーツと疲労回復
9．職業と健康
10．家庭生活と健康
11．健康と環境
12．健康と栄養
13．高齢化社会と健康

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験によって評価する。

B 56	健　康　科　学	2単位	野 間 明 紀

〔講義目的〕
　学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、また運動およびスポーツに関する科学的理解も深めることを目的として、運動の基本的原理、基礎的知識、健康の概念、栄養と肥満、睡眠、アルコールとタバコ等について講義します。

〔講義内容〕、〔講義のすすめ方〕
1)健康について
　①健康の定義
　②健康の条件
2)運動の基礎知識
　①運動と健康
　②発育発達と健康
　③運動の生理的機能
　④運動と体力
　⑤運動と価値
3)栄養と肥満
　①エネルギーと出納バランス
　②身体の組成
　③肥満の判定
　④肥満の分類
　⑤肥満の原因
　⑥肥満と成人病
4)睡眠
　①睡眠とそのパターン
　②タバコの作用と害
5)アルコールとタバコ
　①アルコールの作用と害
　②タバコの作用と害
　※講義の順番は変更することがあります。

〔教　材〕
　特になし

〔成績評価の方法・基準〕、〔履修のポイント・注意点〕
・テスト（1回）と出欠席で評価します。
・2／3以上の出席が必要です。
・遅刻は2回で欠席1回となります。

〔科目内容の位置付け〕
　1～4年度の選択科目です。
　スポーツ演習A、Bと合わせ6単位まで卒業所要単位として認められます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　スポーツ演習A、B

B 57	日本事情Ⅰ(社会・経済)	2単位	樋口兼次
副題	グローバル化のなかの日本・アジア		

〔講義目的〕
この講義は、留学生を対象として、現代日本の社会と経済を基礎的に理解することを目的におこなう。
第2次世界大戦後の日本の社会と経済の概要を理解するとともに、バブルの発生と崩壊の原因、今日の低迷の原因についても触れたい。
中国、ベトナムなどで経済振興策の立案にかかわった経験を活かしながら、アジア諸国と日本の未来についても議論したい。

〔講義内容〕
1．ガイダンス
2．憲法と国家体制
3．国家と民衆
4．経済と国家の役割
5．家族関係と結婚
6．教育と職業選択
7．政党と政治
8．日米安全保障条約と自衛隊
9．高度経済成長の条件
10．バブルの形成と崩壊
11．アジア通貨危機の原因
12．円、ウォン、中国圓は「円」
13．21世紀の世界とアジアの連帯
14．まとめ

〔講義のすすめ方〕
毎回配布する資料を読み、内容を理解し、議論することを繰り返しておこなう。
日本語の授業の聞き取り、ノートを取り、日本語で表現する（書き、話す）力を養いたい。

〔教　材〕
講義のごとに資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
中間レポート、定期試験などによる。

〔履修のポイント・注意点〕
講義は毎回欠かさず出席してほしい。講義は諸君の勉強の一部分に過ぎず、勉強する主体は学生である。したがって、講義のなかでさらに勉強してみたいテーマを探して質問してください。

〔科目内容の位置付け〕
留学生の学習効果を上げるための日本の経済社会に関する基礎的科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目；日本語の基本的能力が必要。
関連科目；日本事情Ⅱ、Ⅲなど。

B	日本事情II(歴史・政治)	2単位	蔡　柱　國
58			
副題	日本の国の成り立ちと政治		

〔講義目的〕
　この講義は学生に、日本の歴史、政治等事情への理解を通じて、留学生活が順調に進めると共に、学習効果を高めることを目指すものである。

〔講義内容〕
　日本の歴史、社会と政治制度が主な内容であるが、文章の解読、日本語の表現と日本の現状に対する理解も範囲に入る。

〔講義のすすめ方〕
　日本の中等教育課程の教材を用いるので、比較的親しみ安い、講義の方式の他、学生の質問や討論の方式を取り入れる。

〔教　　材〕
　『新編　新しい社会　歴史』　東京書籍
　他に、必要に応じて教材用のプリントを配る。

〔成績評価の方法・基準〕
　テスト１回を行なう。
　判定基準　テスト、平常点と出席状況により総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　履修する以上、無断欠席をしないこと。
　この講義に真面目に取り組み、日本に関する知識や日本語の能力が上達することを期待している。効果を上げるため、講義のほか、新聞やテレビ関連番組も大いに利用されることをお勧めする。

〔科目内容の位置付け〕
　留学生の学習効果を上げるため、日本に関する知識、教養の基礎的な科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目
　日本語の基本知識が必要である。
関連科目
　日本事情のⅠ、Ⅲ、Ⅳと日本に関す諸科目。

B	日本事情III(文化・文学)	2単位	坂 本 悦 子
59			
副題	文化の今昔を学び日本を知る		

〔講義目的〕
留学生が日本の文化や文学を学習することで、日本・日本人をより深く知ることができるようにする。また学生同士が互いに母国の事情を発表するなどして多文化への関心と理解を深める。同時に日本語能力の向上もはかる。

〔講義内容〕
俳句・短歌、すもう、まんが、花見、若者の価値観、茶道・箏曲の体験学習など、日本社会の古今のさまざまな文化的特徴を題材に、日本人の考え方、社会的現象などに注目する。さらにそれぞれの文化の持つ語彙・表現などの学習にもつなげる。

〔講義のすすめ方〕
毎回、一つの話題を取り上げそのプリント教材を配布。初めに話題についての基礎知識を導入するためにクイズ形式の設問や口頭での質疑応答をし、テーマの概要を推測する。次に本文を語彙・表現などに着目し、内容を理解しながら読む。理解を助けるためにできるだけ視聴覚教材を利用する。さらにテーマについて意見を交わしたり、互いの国の事情を説明したりする。
時には各自（あるいはグループ）が関心のあるテーマについて調査（アンケート・インタビューなど）し、クラスで発表するなどの情報交換の時間を設ける。

〔教　材〕
テキストは限定しない。毎回、課題のプリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出　席　率　50%
宿題提出率　20%
定期試験・発表　30%

〔履修のポイント・注意点〕
日本語能力の程度は問わず、全ての留学生を対象にする。日本での滞在期間が長くなるにつれ、日本・日本人を見る客観的な視線が薄れてくる。新たな目で見つけた日本社会への「なぜ」を教室にもってきてほしい。
普段の講義が聞きとれないなど、日本語能力に不安がある人には特に参加してほしい。
一人一人の自主的な学習態度が強く要求される科目である。

〔科目内容の位置付け〕
日本文化・文学の基礎的な知識、日本語の運用能力を高めることによって、他の科目への橋渡し役をする。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
留学生を対象に日本語I～VI、日本事情I・IIがある。

B	日本事情Ⅳ(生活・風物)	2単位	堀 眞由美
60			
副題	日本で暮らす		

〔講義目的〕
この講義は、日本の生活の中における風習や慣習、マナー・エチエット、さらには実生活に即した面から日本を広く理解することを目的とする。
国際化が進み、国家間の情報、物資の交換、人との交流による相互依存なくしては、現代社会の相互依存はもはや不可能である。しかしながら、この相互依存は各人固有の異文化背景を持った「人と人」によって相互理解が追いつかず、お互いの文化への無知や誤解がいらざる摩擦を起こしている。政治行動の意図や誤解、各国の国民性に対して抱く誤ったイメージ、言語表現の違い、価値観の相違等々、その誤解の原因は様々であるが、これらの多くは異文化コミュニケーションのアプローチを要する問題でもある。
日本で生活をする留学生を対象に、様々な角度から異文化の知識を蓄え、理解力を養う。

〔講義内容〕
日本の風習や慣習、衣・食・住生活等日常生活に即した問題点やビジネスマナー等を取り上げる。

〔講義のすすめ方〕
教材資料、ＶＴＲをもとに、講義とディスカッションを組み合わせて進めていく。

〔教　材〕
教材は講義時に配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況　50%
課題レポート　50%

〔履修のポイント・注意点〕
毎回欠席することなく、講義での積極的な発言を期待する。

〔科目内容の位置付け〕
この講義を通じて日本語の能力（書く・話す）を向上させながら、日本人教職員・日本人学生ともよいコミュニケーションをとるためのステップにしてほしい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
日本語事情Ⅰ～Ⅲ、日本語科目。(留学生対象)

C. 専 門 科 目　目 次

区分		No.	授業科目名	掲載頁	備考
（IV V VI群） 専門科目	経営学	1	経営基本論 I	156	IV群：全必修
		2	経営基本論 II	157	IV群：全必修
		3	経営学	158・159	
		―	経営組織論	―	
		4	経営戦略論	160	
		5	経営学史 I	161	
		6	経営学史 II	162	
		7	経営史 I	163	
		8	経営史 II	164	
		9	日本経営史 I	165	
		10	日本経営史 II	166	
		11	ベンチャー起業論	167	
		12	ベンチャー経営論	168	
		13	マネジメントコミュニケーション I	169	V群：選択必修
		―	マネジメントコミュニケーション II	―	V群：選択必修
		14	秘書学	170	
		15	NPO論	171	
	企業論	16	中小企業論	172	
		17	企業ネットワーク論	173	
		18	公益事業論 I	174	
		19	公益事業論 II	175	
		20	企業論	176・177	
		21	交通論	178	
	経営管理論	22	経営管理総論	179	
		23	労務管理論	180	
		24	財務管理論	181	
		25	生産管理論 I	182	
		26	生産管理論 II	183	
		27	産業・組織心理学	184	
		―	人間関係論	―	IV群：全必修
		28	品質管理論	185	
		29	クオリティマネジメント I	186	
		30	クオリティマネジメント II	187	
	情報論	31	メディアコミュニケーション	188	IV群：全必修
		32	ネットワークコミュニケーション	189	IV群：全必修
		33	英語・情報リテラシー	190	IV群：全必修
		34	現代情報科学	191	
		―	インターネット起業論	―	V群：選択必修
		―	マスコミュニケーション論	―	
		35	計数管理論	192	
		36	情報管理論 I	193	
		37	情報管理論 II	194	
		38	管理工学 I	195	
		39	管理工学 II	196	

区分		No.	授業科目名	掲載頁	備考
（IV V VI群）専門科目	情報論	40	情報処理演習 A－I	197	
		41	情報処理演習 A－II	198	
		42	情報処理演習 B－I	199	
		43	情報処理演習 B－II	200	
		44	情報処理特論 A－I	201	
		45	情報処理特論 A－II	202	
		46	情報処理特論 B－I	203	
		47	情報処理特論 B－II	204	
		48	決定の科学 I	205	
		49	決定の科学 II	206	
		50	経営統計学 I	207	
		51	経営統計学 II	208	
		52	情報通信システム論 I	209	
		53	情報通信システム論 II	210	
	会計学	54	会計学	211～214	
		55	簿記論	215	
		56	財務会計論	216	
		57	経営分析論 I	217	
		58	経営分析論 II	218	
		59	会計情報システム論	219	
	商学	60	マーケティング I	220	
		61	マーケティング II	221	
		62	広告論 I	222	
		63	広告論 II	223	
		－	ビジュアルコミュニケーション I	－	
		－	ビジュアルコミュニケーション II	－	
		64	商学総論 I	224	
		65	商学総論 II	225	
		66	金融論	226	
		67	流通論 I	227	
		68	流通論 II	228	
		69	保険論 I	229	
		70	保険論 II	230	
	経済学	71	ネットワーク社会の経済学 I	231	V群：選択必修
		72	ネットワーク社会の経済学 II	232	V群：選択必修
		73	経済学	233・234	
		74	財政学	235	
		75	経済地理学	236	
		76	経済原論	237	
		77	現代経済	238	
		78	地域経済論	239	

区分		No.	授業科目名	掲載頁	備考
（Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群）専門科目	国際経営	79	国際経営論	240～242	
		80	国際関係論（概論）	243	
		81	〃（西欧）	244	
		82	〃（東欧）	245	Ⅴ群：選択必修
		83	〃（ロシア）	246	
		84	〃（イスラム世界）	247	『国際関係論』9科目のうち
		85	〃（中東湾岸）	248	認定上限：2科目4単位
		86	〃（東北アジア）	249	
		87	〃（東南アジア）	250	
		88	〃（アメリカ）	251	
		89	国際金融論	252	Ⅴ群：選択必修
		90	多国籍企業論	253	Ⅴ群：選択必修
		91	貿易商務論Ⅰ	254	Ⅴ群：選択必修
		92	貿易商務論Ⅱ	255	Ⅴ群：選択必修
		93	外書講読A	256	
		94	外書講読B	257～259	
	法学	95	ネットワーク関連法	260	
		96	民法	261	
		97	経済法	262	
		98	商法Ⅰ	263	
		99	商法Ⅱ	264	
		100	企業関係法		
	ビジネス英語	—	国際ビジネス英語Ⅰ	—	Ⅳ群：全必修
		—	国際ビジネス英語Ⅱ	—	Ⅴ群：選択必修
		101	時事英語Ⅰ	266・267	Ⅴ群：選択必修
		102	時事英語Ⅱ	268・269	Ⅴ群：選択必修
		—	Audio Visual Communication	—	
		—	TOEFL Preparation	—	
		—	Step Preparation (2)	—	
		—	Step Preparation (pre1)	—	
		103	異文化コミュニケーションⅠ	270	Ⅳ群：全必修
		104	異文化コミュニケーションⅡ	271	
（Ⅶ群）	その他	105	特講Ⅰ（ことばと人間）	272	
			〃（地球環境論）	273	
			〃（アフリカ地域研究）	274	
			〃（現代企業行動論）	275	
		—	特講Ⅰ（SAP Reading）	—	
		—	〃（SAP Writing）	—	
		—	〃（SAP Listening）	—	
		—	〃（SAP Speaking）	—	
		—	〃（SAP Report & Presentation）	—	
		—	〃（SAP TOEIC）	—	
		—	特講Ⅱ	—	
		—	ゼミナールⅠ	—	
		—	ゼミナールⅡ	—	
		—	卒業研究	—	

C 1	経営基本論 I	2単位	森本・鷹野

〔講義目的〕
本講義では、企業、特に営利企業によるタスク・社会環境への働きかけのメカニズムを解明するとともに、その活動成果の会計的測定を通じて得られたデータに基づいて、企業運営及び投資行動上の意志決定情報のあり方を考察する。
（オムニバス方式）
前半：経営学
今日、国内外を問わず、激しい企業間競争が展開されている。本講義では、そうした企業の目的や理念を踏まえた上で、現代企業の特質を取り上げ、それがタスク・社会環境に対してどのようにリンクしているのかを明らかにしていく。
後半：会計学
企業と利害関係者のコミュニケーションのひとつの手段は、会計という仕組みによって作成される財務諸表を通じて行われる。本講義では、財務諸表の基本的な成り立ちについて説明することにより、企業分析の要点を明らかにしていく。

〔講義内容〕
前半：経営学
1．経営とはどのような学問か —— 生成と展開
2．企業の形態 —— 株式会社のしくみ
3．企業の発展 —— 所有と経営の分離
4．現代企業の構造 —— システムとしての企業
5．現代企業の経営目的 —— 経営理念と経営目標
6．現代企業の統治 —— コーポレート・ガバナンス
7．現代企業の社会的責任 —— 責任の拡大と多様化
後半：会計学
1．会計学とはどのような学問か
2．簿記会計の基礎概念
3．複式簿記一巡(1)
4．複式簿記一巡(2)
5．会計の制度
6．会計のビックバン
7．財務諸表分析と企業評価

〔講義のすすめ方〕
本講義は、オムニバス形式をとる。前半7回は、経営学（担当者、森本三男）で、8回目の講義は経営学に関する中間試験を行う。後半7回は、会計学（担当者、鷹野宏行）で、前期定期試験期間内に会計学に関する試験を行う。

〔教　材〕
教科書
経営学：『経営学』
放送大学教育振興会　1,500円程度
会計学：『最新会計学』渡辺金愛編著
中央経済社

〔成績評価の方法・基準〕
経営学（50点）・会計学（50点）を素点として合計100点にて評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
密度の濃い授業となるため、欠席は厳禁である。もちろん毎回出席をとる。

〔科目内容の位置付け〕
経営学、会計学について、入門的、序説的な手引きをするのが本講義の目的である。経営学、会計学全般にわたる鳥瞰的な理解の手助けをする。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：ベンチャー起業論、ベンチャー経営論、マネジメントコミュニケーションⅠ、マネジメントコミュニケーションⅡ、秘書学、NPO論、経営学、経営組織論、経営戦略論、経営学史Ⅰ、経営学史Ⅱ、経営史Ⅱ、日本経営史Ⅰ、日本経営史Ⅱ、会計学、簿記論、財務会計論、経営分析論Ⅰ、経営分析論Ⅱ、会計情報システム論

C 2	経営基本論 II	2単位	藤井・沖津

〔講義目的〕
経営基本論Ⅰで経営学と会計学の基礎を習得した学生を対象に、国際経営論、経済学をオムニバス形式で講義する。経営基本論Ⅰが企業のミクロの側面を対象とするのに対して、経営基本論Ⅱは、企業を取り巻く、経済、国際社会といったマクロの側面を研究対象とする。前半では、グローバル化が進む世界の政治・経済・文化と多国籍企業の関わりを概観し、後半では、企業活動の背後にある経済現象を理論的に考察していく。

〔講義内容〕
1　グローバル経済と企業
2　日本的経営とグローバル経営
3　米国市場とグローバル企業
4　ヨーロッパ市場とグローバル企業
5　アジア市場とグローバル企業
6　外資系企業の対日戦略
7　日本企業の国際競争力
8　（中間試験）
9　市場経済
10　消費者行動の理論
11　企業行動の理論
12　完全競争市場と不完全競争市場
13　公共財、外部性（環境経済）
14　国民所得決定の理論
15　グローバリゼーション
16　（定期試験）

〔講義のすすめ方〕
二人の担当教員によるオムニバス方式で行う。

〔教　　材〕
開講時に指定

〔成績評価の方法・基準〕
中間試験、定期試験の成績で成績評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
時事問題に常に関心をもち、現実の政治・経済・文化の中から国際経営論、経済学の基本を理解するように努めること。

〔科目内容の位置付け〕
経営基本論Ⅰとともに、ビジネス関連の科目の基礎的科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

C 3	経　　営　　学	4単位	黒田　勉

〔講義目的〕

事業体、特に企業の性質や具体的な活動を理解し、どうしてそのような性質を持ち、活動を行うのかを考え、そしてそれらが今後どのように変化する可能性があるのかということを推察するのに役立つ、思考体系の形成を目的とする。

〔講義内容〕

講義内容はおおむね次の通りである。

第1部　経営学の基礎
1．経営学とは何か
2．現代企業の特質
3．企業の目的と理念
4．企業形態

第2部　経営学の展開
1．管理（含：部門管理）
2．組織
3．戦略

第3部　経営学の今日的課題
1．企業と環境
2．企業の社会的責任と倫理
3．日本的経営とその変化
4．コーポレート・ガバナンス（企業統治）
5．経営学の理解と応用
例：グローバル・スタンダード経営、国際＆日本経済と企業など。

〔講義のすすめ方〕

私たちは日常生活において、衣食住・交通・レジャーなど、どれをとっても何らかの形で企業のつくり出した財やサービスを用いて暮らしている。また、アルバイトやパートタイマー、一般労働者をはじめとして実に多くの人たちが様々な企業から所得をえて、また労働者はその企業のなかで多くの時間を過ごしている（通勤時間を入れればさらにその時間は増加する）。すなわち、今日では、私たち一人ひとりが企業と深くかかわり合って、生活を送っている。それだけ、企業は私たちに対して多方面から様々な影響を与えている、と言えよう。そこで、この授業では、単なる組織という抽象的な視点からではなく、企業という具体的な視点を重視して経営学をとらえるようにしていくことにしたい。

ところで、この授業科目の名称が経営学となっているが、「授業で扱った項目や分野のみが経営学の全てではない」。経営学のカバーする領域は今日ではきわめて広く、また詳細になってきているので、授業で扱った事柄が経営学を構成している、と考えるのは、大きな誤りであるから、その点を十分に注意してほしい。

また、広告も含め新聞などのマスコミを毎日じっくり見ていると、授業で扱う事例や理論・学説についての興味と理解とを深められるので、このことをぜひ実行してほしい。

〔教　材〕

指定図書　『社会対応経営』黒田　勉　白桃書房
『経営学入門』森本三男　同文館
『経営学講義』裴　富吉　白桃書房
『現代経営学』上武健造　八千代出版
『現代経営学の基礎』稲葉元吉　実教出版
『経営学への招待』坂下昭宣　白桃書房

参考書　『〔改訂版〕法人資本主義』奥村　宏、朝日新聞社

〔成績評価の方法・基準〕

試　験　　1回（定期試験期間中）
試験の得点で成績評価
※試験中、本やノートなど全て持ち込み不可

〔履修のポイント・注意点〕

◎毎日、新聞を読んで、授業に出席すること。
◎板書された文字をたんにノートに書くだけでなく、自分が気づいた事柄などがあったらメモをとるようにすること。
◎出欠の確認は不定期的に行うので、その時に不在あるいはボンヤリしていた場合には、次回の確認までの授業回数分が全て欠席扱いになる。

〔科目内容の位置付け〕

授業科目である経営学は、経営学部において最も基本的に重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

この科目は「経営学の基本論」として授業展開するので、経営学部の専門科目すべてが関連科目である。

C 3	経　　営　　学	4単位	柳 川 高 行

〔講義目的〕

経営学の講義の目的は、第1に「**経営学は大変面白い**」ということを初心者である学生の皆さんに十分納得してもらうことです。経営学の中心的研究対象である企業活動は企業が知恵を絞って考え出したものであり、それを分析し統一的に説明することにより経営学の「**分析的面白さ**」を学生の皆さんに知ってもらえると思う。

講義の第2の目的は、企業行動を分析することを通して、「**経営学的なモノの見方、考え方**」を具体的に知ってもらうことです。

講義の第3の目的は、経営学の基礎的諸問題の中から最もbasicと考えられるいくつかの問題群を取りあげて、経営学の多様な「**専門科目への道案内**」を行なうことです。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

第Ⅰ部　経営学の切れ味

1．ロング・ケース・スタディー(その1)
テレビゲームの経営学
―任天堂、ＳＣＥとセガ、ＮＥＣ―

2．ロング・ケース・スタディー(その2)
コンビニエンス・ストアの経営学
―セブン・イレブンと新流通革命―

3．ロング・ケース・スタディー(その3)
マンガの経営学
―少年ジャンプ神話の形成と崩壊―

第Ⅱ部　経営学への道案内

1．マーケティングへの招待
―製品ドメインと外的コンセンサスの形成―

2．流通論への招待
―小売店による集団勝利ゲームの多様なデザイン―

3．企業文化への招待
―文化は思考と行動の型である―

4．経営戦略論への招待
―居場所の見付け方―

5．コーポレート・ガバナンスへの招待
―経営者支配のリスクとチェック―

補論1．大学の魅力を語る
―sense of wonder―

補論2．大学で何をどう学ぶか
―戦略的キャンパス・ライフの勧め―

補論3．就職活動とセルフ・マーケティング

補論4．運と努力と才能の関係
―努力は裏切らない―

補論5．志の高い金儲けと経営学
―シャボン玉石けん、タカキベーカリーから何を学ぶか―

〔教　　材〕

菊池敏夫・平田光弘編著『企業統治の国際比較』　文眞堂

〔成績評価の方法・基準〕

試験で合否判定を行なう。評価に関して、個人的事情は一切考慮しない。

2000年度試験結果

受講生総数	179名	
不受験者	7名	
不合格者(D評価)	39名	(22.6%)
合格者	133名	(S:1名　A:25名)

〔履修のポイント・注意点〕

1．1テーマごとに詳細な講義用プリント(レジュメ)を配布し、黒板は使用しない。話をよく聞いて、プリントの余白にメモをとることが大切です

2．"Be quiet, or get away" policy.
講義は注意を集中して聴けば充分理解可能であるが、私語する学生は教室から引きずり出すので予め承知しておくこと。

3．講義を修了時刻10分前に終え、その後学生と質疑応答を行なう。分からなかった点や関連質問を遠慮せずに質問して欲しい。

4．〔セメスター〕この科目は半期週2回

5．授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。

6．試験は学生間のうわさ通り相対的に厳しく、論述式で試験時間一杯かかる位の分量がある。楽勝科目とは正反対の辛勝科目である。きちんと勉強すれば得るものは多いことは保証するが、単位に相応する学習コストは学生に負担してもらう。そのことを充分認識して受講を決定して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

難易のグレイド：初級

C 4	経営戦略論	4単位	柳川高行

〔講義目的〕

経営戦略論の講義は、**知的に面白い講義**を目指したい。「知的に面白い講義」とは①「身近な」素材を取り上げ、②「なぜ」ある現象が生じているのか（セブンーイレブンはなぜ日本一の小売業となったのか、漫画はどのようにして創られるのか）を明らかにする、③「分かり易く」、「納得のできる」説明が行なわれ、④「発見」と「感動」（sense of wonder）のある講義であると講義者は考えている。

講義者の経営戦略論の教育ドメインは、①中心受講生として、講義に8割方出席し、面白い話しなら熱心に聴こうとし、将来幸せな人生を送りたいと考えている学生を設定し、②受講生ニーズとして、経営戦略論の理論と概念を学習し、それらを用いて日本の具体的企業の経営戦略を分析できる能力を修得することを設定し、③独自能力として、柳川にオリジナルな知的に面白い講義を行なうことをその内容としている。今年度の経営戦略論は、「企業はいかにして自らの**居場所（ドメイン、ニッチュ）**を発見し創り上げたのか」という統一テーマで講義して行きたい。

〔講義のすすめ方〕

第Ⅰ部　経営戦略入門――企業現象はどのように分析説明できるのだろうか――

1．セブン・イレブンの経営戦略から何を学ぶか
――組織学習と戦略的相補的資産の内部化――
2．少年ジャンプの経営戦略から何を学ぶか
――情報活用と情報創造と戦略的相補的資産の準内部化――
3．日本のテレビゲーム産業の経営戦略から何を学ぶか
――ネットワークデザインと利益専有――

第Ⅱ部　ドメインデザインの経営戦略論

1．少年ジャンプとドメイン・コンセンサスの進化論的形成――価値情報、評価情報、事実情報――
2．スリーエムに於ける企業ドメインのダイナミック・グロウス
――社内ベンチャーと製品ドメインの自発的デザイン――
3．少子高齢社会に於ける自治体のサービスドメインの再デザイン
――strategic mind とgovernment governance――
4．セブンーイレブンとダイナミック・ストア・ドメインのデザイン
――Information―Based Retailer――
5．外食企業のストア・ドメインのデザイン
――dynamic and static store domain――
6．田宮模型のミニ四駆とドメインの共同デザイン
7．ドトール・コーヒーの新しい喫茶店ドメインの創造

〔教　材〕

1．榊原清則、1992年、『企業ドメインの戦略論』　中公新書
2．沼上　幹、2000年、『わかりやすいマーケティング戦略』　有斐閣
3．菊池敏夫、平田光弘編著、2000年『企業統治の国際比較』　文眞堂

〔成績評価の方法・基準〕

①3冊の教科書についての教室内試験を3回
②ケース・スタディ課題の教室内試験が2回
③以上5回の試験の総合評価
※試験のみで合否判定を行なう。
評価に関して、個人的事情は一切考慮しない。

〔履修のポイント・注意点〕

1．講義は1回毎に1つのトピックで完結するスタイルで行なう。
2．1回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
3．“Be quiet, or get away” policy
私語する学生は教室から引きずり出すので予め承知しておくこと。
4．授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。
5．試験は学生間のうわさ通り相対的に厳しく、論述式で試験時間一杯かかる位の分量がある。楽勝科目とは正反対の辛勝科目である。きちんと勉強すれば、得るものが多いことは保証するが、単位に相応する学習コストは学生に負担してもらう。そのことを十分認識して受講を決定して欲しい。
6．［セメスター］この科目は週2回半期完結科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

難易のグレイド：中級

C 5	経営学史Ⅰ	2単位	柳川高行

〔講義目的〕

経営学史Ⅰでは、「日本型株式会社の成立とその特質とコーポレート・ガバナンス」をメインテーマとして、国際比較を行ないたい。日本型株式会社の現状と将来動向を学習することは、学生諸君の大部分がそこで働くであろう組織体のメカニズムと諸特質を理解することになり、企業社会でどう生きていったらよいか、を考える場合に思考の準拠枠を与えることになると思われる。講義の中では、随時柳川から受講生に対して質問を行ない、自分の考えを述べてもらう。自分の考えを整理して、聞き手に分かり易く表現する能力はコミュニケーションの基本であるので、それを身に付けてもらうことをもう一つの目的としている。母国語での表現力を身につけることが、国際化の第一歩である。発言をしない学生には単位は出せない。

(Voice or no credit.)

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕

第Ⅰ部　日本型株式会社の特質と変容

1．株式会社誕生の歴史的必然性
　── 企業形態論的アプローチ ──
2．経営目標の日米比較
　── 企業成長と株主利益最大化 ──
3．日本企業はなぜ企業成長目的か
　── 日本型雇用慣行と日本型リスク負担 ──
4．米国企業はなぜ株主利益最大化目的なのか
　── 公的年金基金と大株主の復活 ──
5．株主構造の日本的特質
　── 法人資本主義と相互持ち合い ──
6．トップ・マネジメントの日米比較
　── 法的規定と経営的実態 ──
7．日本におけるメインバンクの役割と機能
8．日本型コーポレート・ガバナンス
　── 日米独比較 ──
9．日本型ガバナンスと企業倫理
　── 企業不祥事、企業犯罪と企業倫理 ──

〔教　材〕

〈テキスト〉

菊池敏夫、平田光弘編著、2000年、『企業統治の国際比較』、文眞堂。

〈参考文献〉

柳川高行、1995年、「コーポレート・ガバナンスの日米比較 ── 経営者主権の成立とその正当性を中心に ──」、『白鷗大学論集』第10巻第1号。

柳川高行、1997年、「資料・学会報告　日本型経営者主権の成立の可能性 ── コーポレート・ガバナンスの日米比較 ──」、『白鷗ビジネスレビュー』、第6巻第1号、137～151ページ。

柳川高行、1997年、「日本型コーポレート・ガバナンスと経営者主権の正当性」、経営哲学学会、「経営哲学論集第13集」、85～90ページ。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験50%、課題レポートの提出と教室内発言50%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

1　経営学史Ⅰのみ受講してもよろしい。
2　講義は1回毎に1つのトピックスで完結するスタイルで行なう。
3　1回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
4　“Be quiet, or get away” Policy
私語する学生は教室から引きずり出すので予め承知しておくこと。
5　授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。
6　試験は学生間の噂通り相対的に厳しく、論述式で試験時間一杯かかる位の分量がある。楽勝科目とは正反対の辛勝科目である。きちんと勉強すれば得るものが多いことは保証するが、単位に相応する学習コストは学生に負担してもらう。そのことを十分認識して受講を決定して欲しい。
7　身分証明書より大きめの顔写真を用意し、裏面に　a氏名　b学籍番号　c電話番号を記入し、最初の講義時に提出すること。
8　成績評価に関して個人的事情は一切考慮しない。
9　努力しない学生には単位を与えない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

難易のグレイド：中級

C 6	経 営 学 史 II	2単位	柳 川 高 行

〔講義目的〕

経営学史IIでは、約1世紀に及ぶ経営学の歴史の中で、著名な経営学研究者が首唱し、経営学の共有財産となっている学説・概論・概念を取り上げ、その本質を理解する努力を行ないたい。

〔学習のすすめ方〕

1．毎週1つの学習テーマを設定し、そのテーマについてのレポートを、受講生全員が1週間前までに提出する。
2．テーマは例えば次のようなものを考えている（夏休み前にリスト一覧を配布する）
　①バーナードの誘因 －貢献の理論
　②バーナードの権限受容説
　③サイモンの制約された合理性と満足基準
　④プロダクト・ポートフォリオ・マトリックス
　⑤ドラッカーの必要最低理潤論
　⑥テイラーの科学的管理法
3．レポートの備えるべき条件
　①図書館の辞典類や参考文献を要約して提出する
　②参考文献の著者名、書名、出版社、発行所を明記する
　③ワープロ打ちで提出する
4．レポーターは予め特定しない。その場で随時指名する。

レポーターとして報告すること、及びディスカッションへの参加が要求される。
(Write and voice, or no credit!)

〔成績評価の方法・基準〕

レポート報告内容（50%）、ディスカッションでの発言内容（50%）で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

①経営学史Ⅰとは別個に履修可能である。
②身分証明書より大きめの顔写真を用意し、裏面にａ氏名　ｂ学籍番号　ｃ電話番号を記入し、最初の講義時に提出すること。
③成績評価に関して個人的事情は一切考慮しない。
④レポート報告担当者以外の全員に毎週レポート提出が義務付けられる。従って毎週のレポート提出する時間コストをかける覚悟をもって参加して欲しい。
⑤授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻をしないことを共通のルールとしたい。

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

難易のグレイド：中級

C-7	経　営　史　Ⅰ	2単位	片岡　豊

〔講義目的〕

「企業」、あるいは「経営」という言葉は現代社会において、何の違和感もなく使われている。しかしながら、これらの言葉、というよりはこれらの概念が一般化したのは比較的新しいことである。「経営」が、与えられた経済的状況に対する合理的な対応であるとするなら、その実質的な意味内容は近代経済社会が成立して初めて与えられる。その意味で、「近代経済社会」の成立と「近代的」経営の出現は切り離せない関係にある。

本講義では、近代経済社会の成立がどのような過程で経営の独立性をもたらしたのか、さらには逆に、企業の経営それ自体が、いかに経済そのものを変革していったのかを、「最初の工業国家」といわれるイギリスを中心に考える。

〔講義内容〕

講義の主な内容は以下の通りであるが、出来得るかぎり日本の事例にも言及する。

4月－5月
- 1）商業革命
- 2）イギリス農業の発展
- 3）イギリス産業革命と経営

5月－6月
- 4）近代的企業家の出現と資本主義のエートス
- 5）株式会社の発生
- 6）バブル経済と有限責任制

〔講義のすすめ方〕

基本的には講義中心である。参考資料・統計データは随時配布する。

〔教　材〕

教科書　特に指定しない。

参考図書　「経営史」
鈴木良隆・安部悦生・米倉誠一郎著
（有斐閣Sシリーズ）
「スケールアンドスコープ」
A．D．チャンドラー著
「最初の工業国家」
P．マサイアス著（日本評論社）
「英国産業革命史」小松芳喬著

〔成績評価の方法・基準〕

試験1回。出席点は試験不合格者に限り、10%を限度に考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕

個々の事実より、歴史の流れをつかむ。

〔科目内容の位置付け〕

近代経済社会、現代産業社会のなりたちを理解することによってより深く現代の経済・経営の仕組みを知ることを目的とする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

経営史Ⅰ、日本経営史Ⅰ、Ⅱ

時代、地域によって経済経営のあり方が異なる理由を理解し、現代社会をより深く理解する。

C 8	経　営　史　II	2単位	片岡　豊

〔講義目的〕
本講義の中心テーマはアメリカの経済と経営である。20世紀は文字通り、アメリカの世紀と言ってよいであろう。現代の企業では当然とされている大量生産方式、企業の吸収合併、事業部制などはすべてアメリカにおいて作り出されたシステムである。しかしこれらの現在にもそのまま通用している制度は、偶然に生まれたものではない。アメリカ経済の特質と、企業成長にともなう経営の近代化がもたらした必然的な経緯であった。「経営」が、与えられた経済的状況に対する合理的な対応であるとするなら、アメリカ企業の成長はその典型である。
講義ではアメリカの経済成長とともに、現代企業のプロトタイプの形成過程を検討し、現代企業の有りようを考える。

〔講義内容〕
講義の主な内容は以下の通りであるが、出来得るかぎり日本の事例にも言及する。
9月—11月
1）アメリカ植民地の成立と経済
2）アメリカの産業革命
3）近代的経営と部門管理
12月—1月
4）ビッグビジネスと垂直統合・水平統合
5）アメリカの大量生産システム
6）範囲の経済と事業部制

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義中心である。参考資料・統計データは随時配布する。

〔教　材〕
教科書　特に指定しない。
参考図書　「経営史」
鈴木良隆・安部悦生・米倉誠一郎著
（有斐閣Sシリーズ）
「スケールアンドスコープ」
A．D．チャンドラー著
「最初の工業国家」
P．マサイアス著（日本評論社）
「英国産業革命史」小松芳喬著

〔成績評価の方法・基準〕
試験1回。出席点は試験不合格者に限り、10%を限度に考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕
個々の事実より、歴史の流れをつかむ。

〔科目内容の位置付け〕
近代経済社会、現代産業社会のなりたちを理解することによってより深く現代の経済・経営の仕組み知ることを目的とする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
経営史I、日本経営史I、II
時代、地域によって経済経営のあり方が異なる理由を理解し、現代社会をより深く理解する。

C 9	日本経営史 I	2単位	片岡　豊

〔講義目的〕

今日、日本経済は世界に確固たる地位を築き、あまつさえそれをリードさえしている。このような状況は、諸外国にとって驚異であるのみならず、われわれ日本人にとっても不可解であると言わざるをえない。その問題を解くために、数多くの議論がなされてきた。しかしそれでもなお、日本経済がどこへ行くのか、という問いに答えられる者はいないであろう。

この問題に完全な解答を与えるのは不可能であるにせよ、手がかりの一つを歴史に求めることは無意味ではないと考える。すなわち、日本が歩んできた道を現代的な問題意識から見直すことである。

本講義の目的は、以上のような問題意識にたって、日本の経済発展を企業経営の立場から検討することである。そのさい、出発点を近代経済成長が始まった江戸時代におき、明治期はその遺産を引き継いだ経済社会であると位置づけ、その特質について考えていく。

〔講義内容〕

4月～5月
1）江戸時代の経済と社会
2）江戸時代の商家経営
6月～7月
3）明治期の経済と社会
4）株式会社の成立
5）専門経営者の出現

〔講義のすすめ方〕

講義は、現在の日本の経済と関連の深いテーマに重点をおき、経済・経営の近代化という観点から議論をすすめる。

〔教　材〕

教科書は特に指定しない。
指定図書：「日本の経営発展」
由井常彦、J・ヒルシュマイヤー著
（東洋経済新報社）
「日本経済の200年」
西川俊作編著（日本評論社）
参考図書：「産業化の時代　上・下」
（日本経済史4、5）
西川俊作、阿部武司、山本有造編
（岩波書店）
「戦前期の貿易と組織間関係」
松本貴典編著（新評論）
「工業化と企業者活動」
（日本経営史講座2）
宮本又次、中川敬一郎監修
（日本経済新聞社）
「概説日本経済史」
正田健一郎、作道洋太郎編
（有斐閣選書）

〔成績評価の方法・基準〕

試験1回。出席点は試験不合格者に限り、10%を限度に考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕

現代社会との対比を意識しながら、聞いて下さい。

〔科目内容の位置付け〕

近代的経済経営の出発点を考えることによって、より深く現在を知ることを目的とする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

経営史、日本経営史II
時代、地域によって、経済・経営のあり方が異なる理由を理解する。

C 10	日本経営史 II	2単位	片岡　豊

〔講義目的〕
本講義は戦後日本の経済成長と企業経営の発展を中心に検討する。
戦後の日本は高度成長をひとつのピークに、飛躍的な経済発展を遂げた。それを支えた産業の中には、戦後に誕生したものもあれば、戦前から広く展開していた業種もある。新産業は多くの場合、新しい経営形態をもって高い効率性と利潤率を実現し、日本経済を牽引してきたが、ベンチャーとしてのリスクも負っていた。
その一方戦前からの企業も新しい経済環境に適応するべく、様ざまな改革をこころみてきた。そしてその結果が個別企業の消長となってあらわれた。
本稿では以上のような観点から戦後企業の経営発展を考える。

〔講義内容〕
講義は以下のような内容である。
9月～10月
1）戦前の経済と財閥
2）戦後復興
11月～12月
3）鉄鋼業
4）自動車産業
1月
5）流通業

〔講義のすすめ方〕
講義は、現在の日本の経済と関連の深いテーマを重点におく。
現存する企業の成立展開の過程を中心に検討をすすめる。

〔教　材〕
教科書は特に指定しない。
指定図書：「日本の経営発展」
由井常彦、J・ヒルシュマイヤー著
（東洋経済新報社）
「日本経済の200年」
西川俊作編著（日本評論社）
参考図書：「「計画化」と「民主化」」
（日本経済史7）中村隆英編
（岩波書店）
「高度成長」（日本経済史8）
安場安吉・猪木武徳編
（岩波書店）
「戦後日本経営史」I・II・III
米川伸一、下川浩一、山崎広明編
（東洋経済新報社）

〔成績評価の方法・基準〕
試験1回。出席点は試験不合格者に限り、10%を限度に考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕
現在の企業にも関心を持って下さい。

〔科目内容の位置付け〕
現代企業をより深く理解することを目的とする。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
経営史、日本経営史I
時代、地域によって、経済・経営のあり方が異なる理由を理解する。

C 11	ベンチャー起業論	2単位	鹿住倫世

〔講義目的〕

イノベーションの担い手、市場競争の苗床として注目されているベンチャー企業の経営について、起業時の企業家活動に焦点を当てて学ぶ。特に新事業の開拓や新規創業における事業機会の評価およびビジネスプランの書き方を中心に講義する。

将来自ら事業を起こそうと考える場合のみならず、企業や組織において、プロジェクトの企画書等を作成するために役立つ内容であることを目指す。

〔講義内容〕

講義内容は以下のとおりである。

1．ベンチャー企業の定義と企業家の役割
2．ベンチャー企業経営の特徴
3．事業機会の捉え方と評価
4．ビジネスプラン作成の目的と内容
5．事業コンセプトの構築と経営戦略
6．マーケティング
7．参入障壁と優位性の持続
8．利益計画
9．資金計画
10．経営資源の調達
11．新規創業に関連する制度・法律
12．ビジネスプランの作成とプレゼンテーション

〔講義のすすめ方〕

毎回配布するレジュメと資料に基づき、講義を中心にして進める。ビジネスプラン作成方法について講義した後、各自のアイデアに基づくビジネスプラン作成の演習を行う。講義最終日に、何人かの学生にビジネスプランのプレゼンテーションをしてもらう。

〔教　材〕

参考書：松田修一他著『起業成功のための事業計画策定の理論と実践』
白桃書房

その他、講義の際にレジュメ、資料およびビジネスプラン作成マニュアル等を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

ビジネスプランの作成・提出（1回）およびレポート（期末）による。評価のポイントは、講義内容の理解度とビジネスプランの独自性である。必要な情報は自ら収集し、自分自身の考えに基づいて論理的に記述することを期待する。

〔履修のポイント・注意点〕

本講は理論としての経営学が実際の企業経営の現場でどのように応用されているかを学ぶものである。実務的な内容であるが、社会に出てからいろいろな場面で活用できる、基本的な経営の考え方を学ぶことができる。また将来、自ら事業を起こそうと考えている学生は大歓迎である。

ただ講義を聞くだけではなく、自分の考えている事業アイデアについて発表し、質問したり意見を求めたりしてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

本講は経営学の中で、特に新規事業・新規創業に焦点を当てた分野である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

ビジネスプランを作成するために、できるだけマーケティング論や簿記論などを履修していることが望ましい。また、経営学総論や経営戦略論を履修していることが望ましい。

C 12	ベンチャー経営論	2単位	鹿住倫世

〔講義目的〕

ベンチャー企業は、革新性と成長性という特徴を備えた企業である。ベンチャー企業の経営においては、競争優位の保持と成長のための外部経営資源の活用が不可欠である。すなわち、創造的なビジネスシーズの創出とそれを用いたビジネスモデルの構築、成長ステージごとのマネジメント手法の獲得が重要となる。本講義では、成長ステージごとのベンチャー企業経営を企業家活動、経営戦略、マーケティング、ファイナンス等の面から分析し、既存企業の経営との相違を明らかにするとともに、ベンチャー企業の成功要因を究明する。

〔講義内容〕

講義内容は以下のとおりである。

1．経済におけるベンチャー企業の役割と位置づけ
2．ベンチャー企業の経営特性
3．シード期の経営課題とマネジメント
4．アーリーステージ期の経営課題とマネジメント
5．急成長期の経営課題とマネジメント
6．組織拡大期の経営課題とマネジメント
7．株式公開の手続と経営課題
8．ベンチャー企業支援機関と支援人材
9．インキュベーション理論
10．ベンチャー支援政策

〔講義のすすめ方〕

毎回配布するレジュメと資料に基づき、講義を中心にして進める。ベンチャー企業の事例など、出来る限り実際のケースを紹介し、企業経営の実務を学んでもらう予定。

また、講義内容に即して、学生のグループ毎のレポート作成とプレゼンテーションを予定している。

〔教　材〕

参 考 書：松田修一著『ベンチャー企業』
日本経済新聞社（日経文庫）

その他、講義の際にレジュメ、資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

グループレポートの作成・提出・プレゼンテーション（1回）およびレポート（期末）による。評価のポイントは、講義内容の理解度と自分で収集した情報に基づいて作成しているかどうかである。既存文献の丸写しは評価しない。必要な情報は自ら収集し、自分自身の考えに基づいて論理的に記述することを期待する。

〔履修のポイント・注意点〕

本講は理論としての経営学が実際の企業経営の現場でどのように応用されているかを学ぶものである。実務的な内容であるが、社会に出てからいろいろな場面で活用できる、基本的な経営の考え方を学ぶことができる。また将来、自ら事業を起こそうと考えている学生は大歓迎である。

ただ講義を聞くだけではなく、積極的に質問したり意見を求めたりしてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

本講は経営学の中で、特に革新性と成長性の高いベンチャー企業のマネジメントに焦点を当てた分野である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

基本的な経営学の理論を知った上で、ベンチャー企業という特殊な条件に置かれた企業の経営の特徴を学ぶ応用科目であり、経営学総論、経営戦略論、マーケティング論、簿記論、会計論など、基礎的な経営学の科目を履修していることが望ましい。

C 13	マネジメント コミュニケーションⅠ	2単位	藤井　健

〔講義目的〕
　日本がグローバル社会に向けて重要なメッセージを発信することが苦手な理由として、日本人の英語力不足のほかに、マネジャー（リーダー）のコミュニケーション・スキルの不足、コミュニケーション戦略展開に必要な知識の不足が考えられる。本講義は、組織における人間行動の基本原理を解き明かすことからスタートし、ビジネス組織内、組織間において有効なコミュニケーション・スキルの開発、コミュニケーション戦略に関する知識の習得を目的とする。

〔講義内容〕
1　マネジメント・コミュニケーションの研究対象
2　コミュニケーション・プロセス
3　言語コミュニケーション
4　非言語コミュニケーション
5　対人コミュニケーション
6　組織理論とコミュニケーションⅠ
7　組織理論とコミュニケーションⅡ
8　組織の中の人間行動
9　組織とコミュニケーション
10　文化と国際ビジネスⅠ
11　文化と国際ビジネスⅡ
12　定期試験

〔講義のすすめ方〕
　組織におけるコミュニケーション・スキルを理解するための理論のレクチャーとそれを実践するためのロール・プレイ、ディスカッションを織り交ぜて進めていく。

〔教　材〕
　開講時に指示

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験の成績に授業への参加度を加味して成績評価を行う

〔履修のポイント・注意点〕
　学際的研究分野であるので、多面的なアプローチをしていくが、国際ビジネス、文化の問題に十分な関心をもってもらいたい。また、コミュニケーション・スキルに関する理解を深めるためのロール・プレイなどに積極的に参加することが望ましい。

〔科目内容の位置付け〕
　マネジメント・コミュニケーションⅡの前提科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

C 14	秘　書　学	2単位	堀　眞由美

〔講義目的〕

情報技術（ＩＴ）の発展を基盤としたネットワーク社会の進展は、企業の経営や雇用関係に変革をもたらしつつある。情報技術の発展が、時間、場所などに制約されることなく、企業は有能な社員を雇用し、低コストで付加価値の高い成果を生み出すことが可能になるとともに、社員にとっても仕事と個人の主体性ある生活が実現できる可能性を示唆しているといえよう。

オフィス内外を取り巻く環境の変化も急速に進み、トップマネジメントも含め一人一台のパソコンを配し、情報をやり取りしながら仕事を遂行する時代になった。秘書業務のあらゆる分野にもそれが活用される状況下にある。しかしながらどんなに情報技術が発達し、仕事が合理化されようとも、豊富な知識と豊かな人間性、細やかな心遣い、秘書的センスは、なお一層求められよう。

本講義では、多岐にわたる秘書業務を通して、ビジネス実務の基礎的な知識・技能を学習し、社会人としての必要な自覚、実践的な能力を磨くことを目的とする。

〔講義内容〕

1．検定ガイダンス
2．社会人としての心構え
3．会社の基礎知識
4．敬語
5．来客応対
6．電話応対
7．外国人客の接遇
8．慶弔と贈答
9．会議と会合
10．スケジュール管理
11．出張業務
12．文書業務
13．オフィスの環境整備

〔講義のすすめ方〕

ＶＴＲを活用しながら、実際のビジネス場面で遭遇する問題を取り上げていく。

〔教　材〕

教科書　『秘書学―秘書的センスを磨くために―』堀眞由美著
白鷗大学出版局

指定図書　『秘書検定２級　実問題集』
㈶実務技能検定協会
早稲田教育出版

『秘書用語ハンドブック』
藤井　泰著　法学書院

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況　20％
期末試験　80％

〔履修のポイント・注意点〕

履修学生は、性別を問わない。
秘書検定・ビジネス能力検定対策も行なう。

〔科目内容の位置付け〕

実社会で役立つ基礎知識・技能

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

経営、会計の基礎講座を受講してほしい。

C 15	ＮＰＯ論	2単位	樋口兼次（山岸秀雄）

〔講義目的〕

ＮＰＯ（非営利組織）は、福祉、環境、街づくり、教育、国際交流（ＮＧＯ：非政府組織）等、新しい社会問題を解決し、社会システム変革の担い手として市民が積極的に社会参加する組織運動である。日本では1998年にＮＰＯ法が市民運動の力によって成立した。

日本は長い間走ってきた経済偏重社会から新しい社会的ルールと個人のライフスタイルを模索する時代にはいった。「成熟した市民社会」がキー・ワードになるといってもいいだろう。従ってＮＰＯという道具を学ぶことはその歴史や理論、制度、海外比較の研究と同時に、そのなかから日本社会の在り方、さらに生活・地域を照らしだす作業になる。例えば高齢社会、環境問題、ＩＴ革命、雇用、教育、外交等問題は、いずれもＮＰＯを重要な軸として検討しなければならない課題であり、政府もそこに問題解決の照準を合わせるようになった。

ＮＰＯ法成立に深く関わってきた山岸秀雄とワーカーズ・コレクティブなど市民事業活動に関わってきた樋口兼次が、若い学生たちとおおいに議論し、実践することを楽しみにしている。

〔講義内容〕

1．成熟した市民社会市民活動
2．ＮＰＯとは何か
3．ＮＰＯ法（特定非営利活動促進法）の意義と課題
4．三セクター（行政、企業、市民）バランスとパートナーシップ
5．諸外国のＮＰＯ、ＮＧＯ
6．アメリカ社会とボランティア・ＮＰＯ
7．アメリカのＮＰＯの実態
8．日本の市民活動の歴史と変化
9．日本のＮＰＯの実態
10．福祉問題とＮＰＯ
11．環境問題とＮＰＯ
12．情報化社会とＮＰＯ
13．新しい働き方・雇用とＮＰＯ
14．ＮＰＯ発展の課題

〔講義のすすめ方〕

はじめの導入部分は樋口兼次が担当し、後半は山岸秀雄が担当する。各項目について、参考図書、文献を紹介するので自主的に問題意識をもって勉強してほしい。

〔教　材〕

参 考 書　講義のなかで適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

中間レポート、定期試験などによる。

〔履修のポイント・注意点〕

講義は諸君の勉強の一部分に過ぎず、勉強する主体は学生である。したがって、講義のなかでさらに勉強してみたいテーマを探して自主的に勉強してほしい。

〔科目内容の位置付け〕

ＮＰＯ論は、経済学、社会学，行政学，政治学などの実践的応用分野である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

特に指定しない。

C 16	中小企業論	4単位	樋口兼次

〔講義目的〕

この講義は、中小企業の存立条件、競争関係、経営の特色などの基本的テーマを総合的に解説することが目的である。

なぜ、中小企業の研究が重視されるのか？

産業組織の支配的地位にあるのは巨大企業であるが、中小企業は企業数で99%以上を占め、そこに労働者の80%が働き、製造出荷額の１／２、商業販売の２／３を占め、地域経済を支える存在である。しかも、中小企業には経営、労働をめぐる特有の問題（中小企業問題、中小企業に対する蔑視など）があり、これを解決することが社会的な重要課題であり続けている。

脱工業化が進行し、マスプロダクション、中央集権的な巨大生産システムが崩壊しつつあり、巨大企業体制が揺らいでいる今日では、新技術や製品の担い手として、また、新しい経済システムの主体として小企業やベンチャーの活動が注目されている。産業社会のダイナミックな変化とゆくえを構造的に把握するためには、中小企業を分析することが不可欠である。

〔講義内容〕

1．中小企業を研究する視点
2．中小企業の概念と定義----国際比較
3．国民経済における中小企業の位置
4．国民経済の発展への中小企業の役割り
5．中小企業の諸形態
6．中小企業の存立と発展の諸理論
7．中小企業の歴史的展開
8．中小企業問題（寡占支配と過度競争）
9．中小企業政策の意義
10．中小商業の特質
11．中小サービス業の特質
12．地域経済社会と中小企業
13．北米の中小企業
14．ヨーロッパの中小企業
15．アジアの中小企業（中国、ベトナム）
16．産業の変革と中小企業の意義
17．地方経済の自立的発展と中小企業の役割

〔講義のすすめ方〕

授業内容の１項目について、約２時限ずつの頻度で講義を進める。各項目について、参考図書、文献を紹介するので自主的に問題意識をもって勉強してほしい。

〔教　材〕

佐藤芳雄他編『新中小企業論を学ぶ』
（有斐閣選書）
参 考 書　他講義のなかで適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

前・後期定期試験、中間レポートなどによる。

なお、前年の成績評価は、Ｓ５%人、Ａ20%、Ｂ35%、Ｃ20%、Ｄ10%，Ｈ10%であった。

〔履修のポイント・注意点〕

講義は諸君の勉強の一部分に過ぎず、勉強する主体は学生である。したがって、講義のなかでさらに勉強したいテーマを探して自主的に勉強してほしい。

〔科目内容の位置付け〕

中小企業論は、経済学の実証的分野である産業構造論、産業組織論をベースとして経営学の領域に関係する学際的分野である。

中小企業研究の領域は、理論研究、政策論研究、経営論研究、歴史的研究、国際比較研究など豊富であり、関連する講義が設置されている。中小企業論は、これらを学習、研究するための基本である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目　：経済学、経営学総論
並行履修科目：ベンチャー経営論Ⅰ、Ⅱ
発展科目　：企業間関係論、中小企業政策論

C 17	企業ネットワーク論	4単位	山田徳彦

〔講義目的〕

従来、日本の社会は「法人資本主義」であるといわれ、社会全体あるいは日常生活において「会社」＝「法人」がきわめて大きな存在となっていた。このような状況の下で、企業それ自体はもちろん、企業と企業の間の関係も欧米とは異なる日本独自のシステム－「系列」及び「企業集団」－をなしてきた。これらは日本経済の発展において一定の役割を果たしてきたが、今日、経済・社会的な環境の変化に伴って、そのあり方が問われはじめている。

また、一方では持株会社制度、アウトソーシングの進展など、新しいタイプの企業間関係が構築されつつある。

本講義では、まず

・企業及び企業間関係の日本的特質とは何か
・それはどのような条件で成立・発展したのか
・現在はどうなっているのか
・今後どうあるべきか

ということを踏まえ、次いでその背後にある理論的意味合いを検討するつもりである。

後半では、最近の企業をとりまく劇的な変化に対応する形で発展してきた「企業間関係」－企業ネットワーク－の実際を検討する予定である。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕

講義内容は以下の通りである

1．企業間関係論について
　(1)日本の社会と会社
　(2)企業間関係論を学ぶ意義
　(3)講義の流れ
2．構成要素としての企業
　(1)株式会社について
　(2)株式所有の法人化
　(3)法人化現象の意義
　(4)トップマネジメント
3．日本における企業間関係
　(1)企業間関係の概観
　(2)系列関係
　(3)6大企業集団
4．企業間関係をめぐる議論
　(1)企業間関係の特徴
　(2)中間組織としての企業間関係
　(3)ネットワークとしての企業間関係
5．企業間関係の変質と新しいタイプの企業間関係
6．持株会社
　(1)持株会社の解禁
　(2)財閥と持株会社
　(3)持株会社解禁の意味
　(4)実際のケース
7．戦略的提携関係
　(1)戦略的提携とは
　(2)国際航空分野における戦略的提携
　(3)戦略的提携の効果と課題
8．アウトソーシングと企業ネットワーク
　(1)アウトソーシングとは
　(2)アウトソーシングと企業の規模
　(3)企業のネットワーク
9．今後の企業間関係の展望

〔教　材〕

教科書　特に指定しません。必要に応じて資料を配付するほか、講義中に紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果による。

〔履修のポイント・注意点〕

経営学あるいは会計学で個別の企業行動について分析する上で、より広い視点を与えるような内容を志すつもりである。

実際にわれわれが生活する上で、切っても切り離せない存在となっている企業がどのような論理を持っているか、受講者とともに考えていきたい。

なお、前期科目であるため、4年生は受講するにあたって、よく考えて頂きたい。就職活動については特に考慮しない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：企業論、中小企業論
関連科目：下請系列企業論

C 18	公益事業論Ⅰ	2単位	蟻生俊夫

〔講義目的〕
企業経営は、通常、自由な競争の下に展開されるのが望ましい。しかし、財の性質や産業の成熟度によっては、国や地方自治体の適正な監理を必要とするものもある。たとえば、鉄道・航空、通信、電力・ガスなどのサービスは、経済学でいう「市場の失敗」のケースになりやすいため、独禁法の適用除外となる一方、新規参入や料金設定などについて、さまざまな規制が課せられている。
本講では、こうした一連の企業（公企業とか公益事業と呼ばれるもの）の経営のしくみや理論について理解を深めてもらう。

〔講義内容〕
講義の項目としては、以下を予定している。
1）公企業・公益事業の概念
2）公的規制の種類と根拠
3）料金規制の理論
4）新しい公益事業論

〔講義のすすめ方〕
講義では、具体的事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう1回の講義で1つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し随時説明を加えていく。ＯＨＰを用いた講義も予定している。

〔教　材〕
特定の教材は用いない。

〔成績評価の方法・基準〕
原則として期末試験70%、ノートチェック・豆テスト20%、出席状況10%の比率で判定する。

〔履修のポイント・注意点〕
できるかぎり出席し、ノートをしっかりとること。

〔科目内容の位置付け〕
公益事業を理論的に考察、検討していくことが中心となり専門的な性格がやや強い。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目；企業論、経済原論
関連科目；公益事業論Ⅱ、経営戦略論、経営分析論、経済法、経営組織論、企業関係法

C 19	公益事業論 II	2単位	蟻生俊夫

〔講義目的〕

現在、電力・ガス、通信、鉄道・航空など公益事業の分野では、規制緩和や民営化の動きが急速に進展し、経営上、さまざまな変化が起こっている。本講では、こうした動きをグローバルな視点から概観する。そして、それぞれの業界において、その歴史や特徴、理論等を踏まえ、新規参入と料金設定に対する規制が実際にどのように適用されているか、具体的な事例にもとづき紹介していく。さらに、規制緩和および民営化の及ぼす影響について、価格変化のみならず、サービス多様化や組織改革などの幅広い側面から評価、確認する。

〔講義内容〕

講義の項目としては、以下を予定している。

1）規制緩和と民営化
2）公企業・公益事業経営の実際とその評価
　①郵便事業
　②電気通信事業
　③水道業
　④鉄道事業
　⑤バス事業
　⑥航空事業
　⑦電気事業
　⑧ガス事業　ほか
3）海外の公益事業

〔講義のすすめ方〕

講義では、具体的事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう1回の講義で1つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し随時説明を加えていく。ＯＨＰを用いた講義も予定している。

〔教　　材〕

特定の教材は用いない。

〔成績評価の方法・基準〕

中間試験、レポート、ノートチェック、出席確認（毎回）を実施した結果をもとに総合的に判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

できるかぎり出席し、ノートをしっかりとること。

〔科目内容の位置付け〕

公益事業は、我々にとって大変身近な存在である。そこで、海外も含め、さまざまな公企業の事例を通して、公益事業の理論と実際の結びつきを理解するとともに、自らの問題意識の中でその理論を考えていくようにする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：企業論、公益事業論II、経済原論
関連科目：経営戦略論、経営分析論、経済法、経営組織論、企業関係法

C 20	企　　業　　論	2単位	山 田 徳 彦

〔講義目的〕
　大学生の卒業後の進路、経済・社会における位置づけ等、現代社会・日常生活において企業の存在はきわめて大きなものである。しかしながら、「企業」そのものについてあらためて考えることはあまりないかもしれない。企業は、実際にそこで働いている人が実感するイメージはもちろん、経済学・経営学・会計学・法学等それぞれの学問分野でも、扱いは微妙に異なっており、様々な視点から検討されうる対象である。
　本講義では、様々な視点のうちから「経済学的な考え方」を「基準」あるいは「たたき台」として、現実の企業の行動について検討することを目的とする。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕
　講義内容は以下の通りである。
1．企業論を学ぶ目的－現代における企業
2．企業の形態と変遷
3．企業の目的
4．完全競争企業の行動
5．企業の規模と寡占
6．製品の差別化と事業の多角化
7．情報と広告
8．参入障壁と企業の戦略
9．組織体としての企業
10．これからの企業のあり方

〔教　　材〕
　特に指定しません。必要に応じて資料を配付するほか、講義中に紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験の結果のみ。

〔履修のポイント・注意点〕
　実際の企業行動の背後にある「論理」を考えることになるので、１回１回の講義をきちんと理解してほしい。よくわからない場合には遠慮なく質問すること。

〔科目内容の位置付け〕
　すでに学んだ学問分野の復習、あるいは今後経営学会計学を学んでいく上で、企業について深い理解が得られるような講義内容を心がけるつもりである。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目：経済学、経営学
関連科目：公企業論、中小企業論、企業間関係論、経営組織論等

C 20	企　　業　　論	2単位	蟻 生 俊 夫

〔講義目的〕
　経営学の基礎として、まず企業の概念・形態を明らかにした上で、その目的や製品価格の決定方法など諸構造について理解を深めてもらう。また、今日的な話題である企業の社会的責任や国際化についても言及していく。

〔講義内容〕
　講義の項目としては、以下を予定している。
　1）企業の概念
　2）企業の形態
　3）企業の目的
　4）企業の諸構造の決定
　　①製品価格
　　②製品構造（経営多角化）
　　③業務・雇用構造
　　④技術構造　　など
　5）企業の社会的責任
　6）企業の国際化

〔講義のすすめ方〕
　講義では、具体的事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう１回の講義で１つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し随時説明を加えていく。

〔教　　材〕
　特定の教材は用いない。

〔成績評価の方法・基準〕
　原則として期末試験60%、中間試験30%、出席状況10%の比率で判定する。

〔履修のポイント・注意点〕
　一部、経済学的および経営分析的なアプローチを用いる予定。
　できるかぎり出席し、ノートをしっかりとること。

〔科目内容の位置付け〕
　基礎的・実務的な性格の科目であり、経営学をより幅広い角度から理解してもらえるような内容とする。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目：経済学、経営学総論
関連科目：公益事業論Ⅰ・Ⅱ、中小企業論、企業間関係論、経営戦略論、経営組織論、経営分析論、商法

C 21	交　　通　　論	4単位	山田徳彦

〔講義目的〕

例えば、「旧日本国有鉄道の長期債務28兆5000億円をどう処理するか」「整備新幹線を建設するのは望ましいか」「羽田空港の国際化は必要か」「バス事業で規制緩和が進められたらどうなるか」・・・等、我々の日常生活に欠かせない交通について改めて振り返ってみると、様々な問題があり、また社会生活に大きな影響を及ぼしていることに気づく。本講義では、きわめて身近な事象である交通について検討していくのであるが、いくつかの事例を踏まえてその背後にあるメカニズムを検討する形で、講義を進めていく。制度的枠組み・実際の動きへの理解を通じて、講義に参加する人たちが興味を持ち、かつ自ら分析できるようになることを目的とする。

なお、基本的にミクロ経済学の「考え方」に基づいて分析するが、実際の交通企業の行動に焦点をあてた経営戦略論的なアプローチも試みるつもりである。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕

序　交通論について

Ⅰ交通サービスの特徴
1．交通サービスの需要と供給
2．交通サービスの需要特性
3．交通サービスの供給の特徴

Ⅱ交通市場
1．交通市場の特徴
2．なぜ政府が規制するのか？
3．規制の問題
4．規制緩和

Ⅲ運賃・料金制度と決定メカニズム
1．運賃水準論
2．運賃体系論
3．実際の運賃制度

Ⅳ交通政策と交通産業
Ⅳ－1　交通投資政策
Ⅳ－2　交通産業

Ⅳ交通と社会
1．今後の交通
2．交通論のまとめ

〔教　　材〕

必要な資料はこちらで配布する

参考書　藤井弥太郎・中条潮編
「現代交通政策」東京大学出版会
金本良嗣・山内弘隆編
「公的規制と産業④　交通」
ＮＴＴ出版

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果による

〔履修のポイント・注意点〕

すでに学んだ、経営学・経済学の考え方を応用して現実を考えるような内容を心がけたい。

〔科目内容の位置付け〕

ミクロ経済学を理解していることが望ましいが、必要な知識・考え方は講義中に、逐次解説する。また、企業論、公企業論とは、理論面で共通する点が多い。

C 22	経営管理総論	4単位	黒田　勉

〔講義目的〕
　授業では経営管理総論を経営管理論として把握し、さらにそれを組織体・協働体・企業体の管理論として理解する、というアプローチを採用する。そして、現実への適用を前提にしながら理論・学説を扱うことにする。そうすることによって、理論・学説に基づいた現実の解釈の可能性をさぐり、理論・学説の普遍性や限界を見出すことができ、またそのプロセスのなかで、受講生の管理能力の育成をはかることができるはずである。

〔講義内容〕
　講義内容はおおむね次の通りである(順不同)。
- 管理の基本事項
- 経営管理論発展過程の概観
- 科学的管理　―F.W.テイラー―
- 管理の一般理論　―H.ファヨール―
- 人間関係論
- 組織管理論　―C.I.バーナード―
- 意思決定論　―H.A.サイモン―
- コンティンジェンシー理論
- 「社会対応経営」基本論
- 情況の概念　―M.P.フォレット―

〔講義のすすめ方〕
　講義では、できるだけ具体的な事例を使用して、上記の項目を扱うが、企業を取り巻く経営環境は極めて流動的なので、事例そのものを知る必要があるため、最近の経済および企業状勢の分析なども行っていく。

〔教　材〕
指定図書　『社会対応経営』(部分的に使用)
　黒田　勉　白桃書房
『経営管理総論』
　藻利重隆　千倉書房
『管理技術論』
　貫　隆夫　中央経済社
参考書　『マネジメントとは何か』
　佐々木恒男　文眞堂
『マネジメント事始め』
　山田正喜子編　有斐閣

〔成績評価の方法・基準〕
試験：１回（定期試験期間中）
　試験の得点で成績評価
※試験中、本やノートなど全て持ち込み不可

〔履修のポイント・注意点〕
◎毎日、新聞を読んで、授業に出席すること。
◎板書された文字をたんにノートに書くだけでなく、自分が気づいた事柄などがあったらメモをとるようにすること。
◎出欠の確認は不定期的に行うので、その時に不在あるいはボンヤリしていた場合には、次回の確認までの授業回数分が全て欠席扱いになる。

〔科目内容の位置付け〕
　この科目は、必須科目である経営学に次いで、経営学部において基本的に重要な科目であると考えられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　この科目は「経営学の基本論Ⅱ」として位置づけられるので、経営学部の全専門科目が関連科目である。

C 23	労 務 管 理 論	4単位	張　承玖

〔講義目的〕

労務管理は人的資源をマネジメントする手法であり、その目的は、企業にとって求められる人材像や組織行動を優れた投資対効果によって確保・実現することにある。そして、求められる人材像や組織行動は、それぞれの会社の仕組みや経営環境によって大きく変わる。

そこで、本講義では、会社の仕組みや経営環境の違いによって、必要とされる人材像や組織行動がどのように変わるのか、それに応じて労務管理の在り方がどのように変わってくるのかというテーマを、さまざまな仕組みのパターンの検証を通して、本質的に理解することを目的とする。

〔講義内容〕

企業の労務管理が企業全般のマネジメントにおいて果たす役割を説明する。それから、労務管理に関する諸学説や諸理論を概説し、その基本業務と企業経営の関連を考える。さらに、人材の流動化と新たな競争の現実という観点から、労務管理とくに新雇用・人材開発システムの探求が、企業の戦略的目標にどう結びつくかを究明する。また、企業での雇用のダイナミズム、個の多様性および人材開発の考え方と方法、労働の人間化と新雇用制度、労務管理の在り方などを、多角的に解説する。

1．企業経営と労務管理
2．雇用管理
3．人事制度
4．賃金管理
5．昇進管理
6．能力開発
7．労務管理の諸理論
8．人的資源と組織のためのさまざまな経営モデル
9．労務管理における最新の動向

〔講義のすすめ方〕

本講義では、労務管理をその歴史的な経緯まで遡って体系的に説明し、今後、企業社会に入っていったとき、自らキャリア選択を行ない、自分のキャリアをつくりあげていくうえでも役に立てるよう努めたい。

〔教　材〕

教 科 書　開講の際に指示する。
指定図書　『人事管理入門』今野浩一郎著　日本経済新聞社
参考図書　『戦略的人材開発』二神恭一編著　中央経済社

その他の参考図書については、随時、必要であれば私の方から紹介していく。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は、講義時間中の理解度小テスト（1回程度）、定期試験、授業への積極的参加度（出欠の確認は不定期的に実施）などから総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕

受講者には理論の学習と同様に、現実の企業を取り巻く経営環境に関心を持ち、新聞・雑誌などの関係記事に親しむことを期待する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

経営学、経営管理総論、経営組織論など

C 24	財 務 管 理 論	4単位	樋 口 和 彦

〔講義目的〕
企業の資本の調達と運用意思決定ならびに企業評価に関わる諸問題を考察する。

〔講義内容〕
・企業目的と財務管理職能
企業は株主の富の最適化を目指して経営されているのであろうか？それとも利潤の最適化を目指しているのであろうか？
・企業評価
会計データ（財務比率）を中心とした分析のみで十分であろうか？
資本市場において、どのような評価がなされているのであろうか？ 投資収益率（リターン）をどのように測定、評価したらよいのか？ リスクの測定は？
これらの疑問を考察するために
ポートフォリオ分析
ＣＡＰＭ（Capital Asset Pricing Model）
ＯＰＭ（Option Pricing Model）
・プロジェクトの評価法
キャッシュ・フローとは？
現在価値とは？
・資本構成と資本コスト
最適な資本構成は存在するのか？
資本コストとは、単に資本を調達するのに必要な費用を意味するのであろうか？
・在庫水準の決定
・財務意思決定へのコンピュータの活用
意思決定プログラムの開発

〔講義のすすめ方〕
カリキュラム編成上可能であるならば、セメスター制（週２回授業・半期完結）で授業を行う予定である。
財務意思決定のモデル、主として数量モデルの内容を分析していく。そのときにそのモデルを抽象的にみていくのではなく、実際にそのモデルを操作してみて（コンピュータを活用して）具体的に確認していく。

〔教　材〕
教科書、指定図書、参考書に関しては、後に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。
レポートは、原則として各テーマ（各項目）に対して提出する。
レポートは、年に10回程度を予定。
最後に、各履修者が最も興味をもったテーマ（決定モデル）について、実証分析をしその結果をまとめて、発表する。

〔履修のポイント・注意点〕
会計的分析を中心とするのではなく、資本市場の機能からアプローチする財務管理であることに注意してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
コンピュータの活用も積極的に取り入れるので、その基礎がある程度身に付いてからの履修が望ましいので、２年次以降に履修する科目とする。企業行動における“血液の流れ”を理解する科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：企業の資本の調達と運用意思決定を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。
特に関連が深い科目として、経営数学、統計学、数理統計学、金融論、資本市場論、計量経済学等があげられる。
またコンピュータの活用も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

C 25	生産管理論 I	2単位	三浦達司

〔講義目的〕

この講義は、主として生産管理システムの概念と範囲の理解を目的とし、生産管理システムの概要と生産システム設計へのアプローチ並びに、その過程で用いられる各種技法の存在と意義を概説する。

講義内容の概要は、経営システムにおける生産管理、生産管理と工程管理、生産管理の機能と業務、生産管理と生産形態、生産計画と生産統制、生産管理各論等である。

〔講義内容〕

経営システムにおける工場管理システムの関係、工場管理システムにおける生産管理システムの位置づけ、生産管理と生産形態、生産管理の業務、生産計画と生産統制、生産管理各論、生産管理の事務制度、日程計画モデル等である。

また、現実の社会における事務業務のOA(Office Automation)化やFA(Factory Automation)化された工場における生産管理の実態についても、ビデオやフィルム等を活用して解説する。

〔講義のすすめ方〕

1. ガイダンス（生産管理Iの概要、授業の進め方等）
2. 経営と管理の関連における生産管理システムの位置づけ
3. 工場管理システムにおける生産管理システムについて
4. 生産管理システムの構成について
   - 4.1 生産管理システムにおける製造システム
   - 4.2 生産管理システムにおける管理システム
   - 4.3 生産管理システムにおける技術システム
5. 生産管理システムにおけるセル生産システム
6. 生産管理の機能
   - 6.1 生産計画機能について
   - 6.2 生産統制機能について
7. 生産計画機能と生産計画の立て方
8. 生産統制機能とその管理方式
9. 生産形態と生産システムとの関係
10. 生産管理と他部門との関係
11. 生産管理と工程管理の関連
12. 工程管理の機能
13. 量産移行と標準化

〔教　材〕

「あたらしいワーク・スタディ」
横溝克己他著、技報堂出版

〔参考文献〕

「生産管理の基礎」　村松林太郎著
国元書房
「生産工学」　古川　光著　森北出版
「インダストリアル・エンジニアリング」
秋庭雅夫著　日科技連出版社
「Work Design」　G. Nadler著
R. D. IRWIN Inc.

〔成績評価の方法・基準〕

テスト　1回(定期試験期間中)
レポート　1，2回
を総合的に判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

出来る限り出席し、授業中に話したこと、板書したことをノートを用意して記録し、復習しておくこと。

〔科目内容の位置付け〕

この科目は、経営・管理システムにおける物づくり（ハードおよびソフト）の基本的科目であり、物づくりは、いかにあるべきかを思考し、生産システムを創造するための基礎的内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし
関連科目：管理工学I・II　経営組織論
経営管理総論　情報処理　等

C 26	生産管理論 II	2単位	三浦達司

〔講義目的〕

この講義は、生産管理Ⅰを基礎として、生産管理における最適日程計画作成のために必要となる各種技法を解説し、生産システムにおける人、物、情報の統合されたシステムの設計・改善・設定に役立たせようとするものである。

具体的には、スケジューリングの理論と技法、ＯＲモデル等について学ぶものである。

〔講義内容〕

経営システムにおける工場管理システムの関係、工場管理システムにおける生産管理システムの位置づけ、生産管理と生産形態、生産管理の業務、生産計画と生産統制、生産管理各論、生産管理の事務制度、日程計画モデル等である。

また、現実の社会における事務業務のOA(Office Automation)化やＦＡ(Factory Automation)化された工場における生産管理の実態についても、ビデオやフィルム等を活用して解説する。

〔講義のすすめ方〕

1．ガイダンス（生産管理IIの概要、授業の進め方等）
2．製品設計、工程設計と生産準備活動
3．年間生産計画の立て方
4．期間生産計画の立て方
5．日程計画の立て方
6．日程計画の技法（スケジューリング技法）の体系的解説
7．個々の技法の解説と習得
　7.1 順序づけ法とその演習
　　Johnsonの技法、Jacksonの技法等
　7.2 ディスパッチング法とその演習
　7.3 プロジェクト・マネジメント型の問題解法とその演習
8．生産管理システムの設計とＧＴ方式（Group Technology）の活用
9．システムの設計（改善）
　9.1 Methods Design (Industrial Approach)
　9.2 Work System Design

〔教　材〕

「あたらしいワーク・スタディ」
横溝克己他著、技報堂出版

〔参考文献〕

「生産管理の基礎」　村松林太郎著
国元書房
「生産工学」　古川　光著　森北出版
「インダストリアル・エンジニアリング」
秋庭雅夫著　日科技連出版社
「Work Design」　G. Nadler著
R. D. IRWIN Inc.

〔成績評価の方法・基準〕

テ ス ト　1回(定期試験期間中)
レポート　1，2回
を総合的に判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

出来る限り出席し、授業中に話したこと、板書したことをノートを用意して記録し、復習しておくこと。

〔科目内容の位置付け〕

この科目は、経営・管理システムにおける物づくり（ハードおよびソフト）の基本的科目であり、物づくりは、いかにあるべきかを思考し、生産システムを創造するための基礎的内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし
関連科目：管理工学Ⅰ・Ⅱ　経営組織論
経営管理総論　情報処理　等

C 27	産業・組織心理学	2単位	岸田孝弥

〔講義目的〕

産業・組織心理学では、職場において人的資源の最適配置をいかに実現するとか、職場生活のなかで、従業員がいかに自己実現を達成するかなどを考慮するのはもちろんのこと、現代社会において大きくクローズアップされている過労死や職業性の健康障害の問題が、産業場面とどのように関わっているかを講義の中で明らかにしていきたい。また、生活場面での安全についてのＰＬ（製造物責任）や交通安全についても人間行動面から講義していきたい。

卒業後就職先で役に立つ情報の提供を目指している。

〔講義内容〕

⑴産業心理学の歴史
①心理学と産業心理学　②欧米と日本の産業心理学　③能率心理学と人間工学
⑵作業分析（Task Analysis）と作業改善
①テイラーと時間研究　②ギルブレスと動作研究　③ＰＴＳ（動作時間標準法）　④作業研究から作業改善へ
⑶産業疲労とストレス
①疲労と定義　②疲労の測定法　③仕事とストレス
⑷不注意とミス
①人間行動と安全心理　②安全人間工学
③リスク研究　④製造物責任（ＰＬ）

〔講義のすすめ方〕

今年度の産業・組織心理学Ⅰでは、労働と疲労、ストレスを中心に、現代人の生活を多方面から考察したい。①労働時間　②労働負担　③労働と健康　④労働と年齢　⑤労働意欲　⑥労働と技能　⑦労働と安全　⑧労働と生活　⑨労働と技術革新の９つのテーマについて、授業と教科書を並行して学習していく。授業では上記テーマのうち、労働負担、労働と安全のテーマについて上述した授業内容のもとに、深く掘り下げて説明する。

〔教　材〕

教科書：
岸田孝弥「増補マクロ・アーゴノミクス」
高文堂出版社
教科書購入の必要性：
論文の読み方、ゼミレポート、卒論執筆の際に役に立つので購入を薦める。試験の際には持込可。
指定図書：
岸田孝弥「三訂増補単調行動と副次行動」
高文堂出版社
指定図書の重要性：
具体的に資料をまとめる方法等が理解できる。
参考図書：
「新版産業疲労ハンドブック」
日本産業衛生学会　産業疲労研究会編
労働基準調査会
「経営組織心理学」松浦健司・岡村一成編
朝倉書店
「産業人間工学」池田良夫・岸田孝弥他
㈶放送教育振興会
参考図書の重要性：授業で十分に理解しえなかったものも参考図書を読むことにより理解できる。

〔成績評価の方法・基準〕

テスト：１回（定期試験期間中）
１回（授業中）
レポート：１～２回（簡単なもの）
ビデオ等をみた感想をまとめたもの。テストの評価に加えて評価する。すべて加点法である。減点法はとらない。

基本的にはテストの点数で評価する。レポートの特に良い者は、ボーナス点としてテストに加点して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

授業に出席し、よく授業内容の理解に努めること。教科書、指定図書、参考書を読んで勉強すること。試験とレポートで評価するので、積極的に挑戦して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

高校の授業とは異なるので、大学の講義を聞いたという満足感を味わいたい方は是非受講してほしい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目としては、心理学を受講してもらうと理解が深まるので望ましい。関連科目としては、社会心理学、次のステップとなる科目としては経営組織論、労務管理論などがある。

C 28	品 質 管 理 論	4単位	安 藤 満 生

〔講義目的〕

まず、第一に学生諸君に理解して頂きたいことは、この品質管理論の講義は極めて基礎的な内容を伝えるものであるので、もし受講可能ならば、1年生でも2年生でも希望者は受講して戴きたい。

我が国の産業界に涼風のごとく吹き込んで来て、その合理化と生産性に非常に効果を上げ、産業界の経営方式、組織などにある種の産業革命を起こしたのが品質管理（ＱＣ）である。

現在このＱＣは、鉄鋼・化学・化繊・紙パルプ・紡績・金属・電気・通信・食品・医薬品・火薬・鉱山・機械・自動車工業などのすべての工業界に普及しており、更に今日では銀行、証券、航空会社、あるいはスーパー・デパートなどの流通機構にも及んでいる。また最近の世界的な傾向として、ＱＣは労務、事務、予算、倉庫、販売、営業、安全などの各種管理にも深く関与し始めている。このような社会の多方面で役立っているＱＣについて講義を行う。そして経営学部の学生諸君が、このＱＣ理論に関しての理解を深めること、そしてその理論を実務社会で応用可能にすることを目的とする。

〔講義内容〕

講義内容は、概ね次のような順序で行う。

1　企業体質の強化
2　全員参加の経営
3　品質第一
4　ＰＤＣＡのサイクル
5　重点指向
6　ファクト・コントロール
7　プロセス・コントロール
8　消費者指向
9　後工程はお客様
10　ＱＣ手法の活用、問題解決の手順
11　標準化、バラツキ管理
12　再発防止、未然防止
13　源流管理、教育・普及
14　方針管理、機能別管理
15　ＱＣ診断、人間性の尊重

〔講義のすすめ方〕

授業時間内の最初の約60分では品質管理の教科書について講義する。残りの時間には、テキストの内容を補うため、又ＱＣについての理解を加速させるめ、ビデオ教材（約25分）を使用する。

〔教　　材〕

教 科 書：1　ＱＣ的ものの見方・考え方
細谷　克也著　日科技連
2　やさしいＱＣ七つ道具
石原勝吉他　日本規格協会
3　やさしい新ＱＣ七つ道具
日科技連

〔成績評価の方法・基準〕

以下1）、2）、3）、4）を加味して、総合的に判断する。

1　テスト「学期末試験」
2　出席状況
3　授業態度
4　レポート提出2回

〔履修のポイント・注意点〕

1　出席を最重視
2　遅刻厳禁
3　「ＱＣサブノート」を学生は準備する。そして毎授業時、その内容を、このノートに取り、期末に提出する。

〔科目内容の位置付け〕

品質管理論は経営専門科目の管理論の部に位置しており、応用科目である。しかしここでは、ＱＣの基礎編を授業する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし
関連科目：クオリテイ・マネジメント(1)&(2)

C 29	クオリティ マネジメントⅠ	2単位	安 藤 満 生

〔講義目的〕

品質管理の文献を英文で読むクラスであるので、英語が比較的好きな学生諸君に、この講義の受講を進める。講義内容は基本的なものが多いので、学年は1年生や2年生でも十分理解可能である。

品質管理という言葉は、現代社会やテレビのコマーシャルや日常生活の会話などにも良く出てくる程である。又消費者が商品を選択する基準に“ＱＣ（品質管理）”を語るほど、ＱＣは日常生活の標準語であり、現代人の常識でもある。

この講座では、これらの現代社会の多方面で使用されている「ＱＣ」を「英文テキスト」を通して、勉強する。

〔講義内容〕

授業内容は、概ね次のような順序で行う。

1 Pareto Diagrams : To get a handle on the real problem from among many.
2 Cause and Effect Diagrams : To search out and organize all possible factors.
3 Graphs : To make data visible to the eye.
4 Check Sheets : To take down data simply and prevent inspection omissions.
5 Histograms : To understand the form of a distribution, and compare it to a standard.
6 Scatter Diagrams : To find the corelation between a paired data.
7 Control Charts : To invesigate whether a process is stable or not.
8 期末テスト

尚、1 最初の授業はクオリティ マネジメントⅠに関するOrientationの日である。
2 その他、ＱＣに関する最新の情報をコピーなどで提供する。
3 講義の理解を加速させるため、必要ならビデオ教材（日本語版・25分）を使用する。

〔講義のすすめ方〕

まず、ＱＣに関する、専門用語即ち、単語や熟語をクラス全員で協力して調べる。主な専門用語は「豆テスト」を繰り返して、出来るだけ早い機会にこれらの専門用語を記憶するよう努力する。そしてReadingを行い、翻訳をする。ＱＣに関する深い意味を理解する事を第一と考えので、授業の進み具合は余り気にしない。重要な所は何回も懇切丁寧に説明する。又この講義はＱＣ（＝ＱＭ）の初級クラスであるので、ＱＣの基本的な理解に全力を注ぐ。

〔教　材〕

教 科 書：1 毎回プリントを学生に配布する。
参 考 書：1 「Quality Is Free」を紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

以下に記載された重要ポイントを総合的に加味して、判断する。

1 期末テスト
2 出席状況
3 授業態度
4 豆テスト

〔履修のポイント・注意点〕

このクオリティ マネジメントⅠ（英文）の受講に当たって、特に予備知識の必要はないが、大学生として誇りを持って勉学に努め、新しい事に対するチャレンジ精神と努力を惜しまないこと。

〔科目内容の位置付け〕

このクオリティ マネジメントⅠ（英文）の授業内容は、他の「品質管理論（4単位）」を深めるものである。従って、どちらも同時に受講出来る。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし
関連科目：クオリティ マネジメントⅡ
品質管理論

C 30	クオリティ マネジメントII	2単位	安 藤 満 生

〔講義目的〕
クオリティ マネジメントIを参照。尚、講義目的の詳細については、他の品質管理論（単位4）の方も参照して下さい。

〔講義内容〕
授業内容は、概ね次のような順序で行う。
1 Relation Diagrams : To clarify complex problem by logical relation.
2 Affinity Diagrams : To organize complex situations and identify problems.
3 System Diagrams : To search systematically for the best way to achieve objectives.
4 Matrix Diagrams : To clarify problems by multidimensional thinking.
5 Matrix Data Analysis : To arrange data in a matrix diagram for easy analysis.
6 PDPC Method : To determine a process for reaching the desired result.
7 Arrow Diagrams : To represent the required operational relationships in network form to control scheduling.
8 期末テスト
尚、1）二学期最初の授業はクオリティ マネジメントIIに関するOrientationの日である。
2）その他、ＱＣに関する最新の情報のコピーを提供する。
3）講義の理解度を加速させるため、必要ならビデオ教材（日本語版・25分）を使用する。

〔講義のすすめ方〕
クオリティ・マネジメントIとほぼ同じ“講義の進め方”であるので、ＱＭＩを参照する事。

〔教　材〕
教 科 書：1 毎回プリントを学生に配布する。
参 考 書：1 「Quality Is Free」を紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
以下に記載された重要ポイントを総合的に加味して、判断する。
1 期末テスト
2 出席状況
3 授業態度
4 豆テスト

〔履修のポイント・注意点〕
クオリティ マネジメントI（英文）を参照

〔科目内容の位置付け〕
クオリティ マネジメントI（英文）を参照

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目：なし
関連科目：クオリティ マネジメントI(英文)、品質管理論

C 31	メディア コミュニケーション	2単位	菅谷　実

〔講義目的〕
本講義は、経営とメディア経由のコミュニケーションとの関係を中心としたビジネス・コミュニケーションの基礎的知識の修得を目的とした講義である。具体的には、新聞、雑誌等の印刷メディア、電話、放送等の電子メディア、さらにはインターネットに代表されるマルチメディアが企業活動のなかでどのように利用され、それが企業行動にどのような影響を及ぼしているかを具体的事例を踏まえて明らかにする。

〔講義内容〕
1．メディア技術の産業的視点
2．メディアの発展
　印刷メディア
　電子メディア
　インターネット
3．メディア地図
4．メディア融合によるメディアの役割の変容
5．メディア産業のグローバル化
6．メディアの社会的機能の変化
7．メディア制度の変容
8．メディア進化と電子商取引
9．Ｅコマース一事例研究

〔講義のすすめ方〕
講義は、パソコンによるプレゼンを主体として講義を進める。

〔教　　材〕
講義において紹介する

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験　70%
平常点　　30%

〔履修のポイント・注意点〕
日常生活においても多様なメディアに接触する機会を積極的につくってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
本講義は　ビジネス・コミュニケーション学科の基礎科目であり、メディアとコミュニケーションに関わる基礎知識と概念の理解の主眼をおく。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特になし

C 32	ネットワーク コミュニケーション	2単位	菅谷　実

〔講義目的〕
本講義は、企業のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得を目的とした講義である。具体的には、人的組織、物理的ネットワーク、さらには情報パッケージをも含めた情報ネットワークの歴史、仕組み、機能、運営等を明らかにする。

〔講義内容〕
1．ネットワークと経営
2．企業組織とネットワーク
3．ネットワーク産業の特質
4．情報ネットワーク発展の歴史
　郵便制度
　交通ネットワーク
　通信ネットワーク
　放送ネットワーク
5．ネットワークの融合
6．ユニバーサル・サービスとしてのネットワーク・サービス
7．21世紀の情報ネットワーク
　移動系ネットワーク
　固定系ネットワーク
8．ネットワークの高度化と経営環境の変化

〔講義のすすめ方〕
講義は、パソコンによるプレゼンを主体として講義を進める

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験　70%
平常点　　30%

〔履修のポイント・注意点〕
新聞、テレビ等の経済ニュースにおけるネットワーク産業の動きに注目してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
本講義は、ビジネス・コミュニケーション学科の基礎科目であり、ビジネス活動を支える多様なネットワークに関わる基礎知識を提供する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
メディア・コミュニケーション論を受講していること。

C 33	英語・情報リテラシー (English and Information Literacy)	2単位	藤森吉之・J.ミラー・H.マルヤマ・(小林正人)

〔講義目的〕
- コンピュータ・ネットワーク、特にインターネットを利用するさまざまな場面において必要となる、読み書きを中心とした英語のコミュニケーション能力を養うこと。
- 情報化社会をよりよく生きていくために何が必要かを考えること。

Course objectives :
- To improve your English through communication over the Internet.
- To discuss how to live safely and ethically in cyberspace.

〔講義内容〕
インターネットを利用した様々なコミュニケーション手段と、そこで用いられる英語表現を、教科書とネットワークの利用を通して学びます。その際必要に応じて、ネット上での活動に伴って生じるセキュリティー、プライバシーやネチケットといった問題を論じます。

Course contents :
In this course, you will learn English and about the Internet through the textbook and by using network communication software. Security, privacy, and ethical issues involved in networking will be discussed as well.

〔講義のすすめ方〕
各回の前半にまず教科書の予習箇所の読解によってインターネットとインターネットに関する語彙・表現を学び、後半に実際にパソコン端末を操作しながらその内容を体験していきます。そのために各席にパソコン端末の配置された教室を使用します。各回に扱うテーマの詳細は改めて連絡します。

Teaching plan :
The first half of the class focuses on reading assignments, with special emphasis on computer terminology and expressions. The latter half will be devoted to the actual use of the services discussed in the textbook. A detailed class schedule will be announced later.

〔教　材〕
- Internet English. Oxford University Press, 2001 刊
- コース・ウェブページを設置予定。

Course materials :
- Internet English. Oxford University Press, 2001
- Other readings will either be handed out in class or posted on the course webpage.

〔成績評価の方法・基準〕
出席、宿題、レポートで総合的に評価します。

Criteria of grading :
Attendance/class participation, assignments, and term paper.

〔履修のポイント・注意点〕
本講義では、情報処理についての特別な知識は前提としません。何よりも英語の知識を生かして、情報化社会の楽しさ、可能性、そして危険を感じ取ってもらうことが大切だと考えています。ですから決して苦手意識を持つことのないよう、何でも質問し議論しましょう。

受講者への連絡やよくある質問への回答をコース・ウェブページに掲示する予定なので、予習の際の参考にしてください。

Hints :
This course dose not presuppose any special knowledge of the computer or networking. But by the end of the course, you should be able to realize how your knowledge of English will broaden through the perspectives of cyberspace, and also what risks you may be exposed to when you go online.

〔科目内容の位置付け〕
一年次配当英語科目の応用。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特にありません。

C 34	現代情報科学	2単位	樋口和彦

〔講義目的〕
高度ネットワーク社会において、情報機器・情報ネットワークの活用能力は必修となっている。合理的意思決定や効果的なプレゼンテーションなどを実現していくためのツールであるコンピュータの実践的活用能力を高めることを目的とする。

〔講義内容〕
インターネット上などにある豊富なデータにアクセスし、それを収集（ダウンロード）・加工・分析してそれに基づく発表資料を作成し実際にプレゼンテーションを行う。

〔講義のすすめ方〕
以下の様なスケジュールで授業を進めていく予定である。
1．スプレッドシートの基本機能
2．スプレッドシートの関数（計算）機能
3．スプレッドシートのグラフ作成機能
4．スプレッドシートのマクロ機能
5．コンピュータを活用したプレゼンテーション
6．プレゼンテーションの実施
7．インターネットによる情報発信法
8．コンピュータネットワーク活用したコミュニケーション

〔教　材〕
電子化教材
図　書：「情報科学入門」師　啓二他著　同友館

〔成績評価の方法・基準〕
(1) 実習の成績　毎回の課題、レポートや宿題、プレゼンテーションの内容などを評価し点数化する。
(2) 実習を中心とした試験も行う。
合格の基準：
＊上記(1)と(2)の成績を合わせた平均点が60点以上であること。
＊やむを得ない理由を除いて欠席がないこと。
＊無断欠席がないこと。
＊未提出のレポートなどがないこと。

〔履修のポイント・注意点〕
コンピュータを道具として活用していくための基礎知識・技能を身につけるための必修科目であり、実践的な実習を中心とした展開をしていく授業である。コンピュータシステムのオープン利用、自宅での使用も含めて積極的に、具体的目標を持って、コンピュータを使って行くことが重要である。

〔科目内容の位置付け〕
この科目は本学科における入門基礎科目として非常に重要な科目である。「英語・情報リテラシー」と合わせて、これらの科目での理解度はこの先のいろいろな専門科目の学習に大きな影響を与える。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
科目の位置づけからするとあらゆる科目と深い関連性をもっていると言える。
様々な分野・科目におけるツールとしての重要な共通的要素を持っている。

C 35	計 数 管 理 論	4単位	黒 澤 和 人

〔講義目的〕
　C言語による数値処理プログラミングの実際とその基礎理論を学習する。

〔講義内容〕
　まずC言語によるプログラミングの基礎を学習した後、アルゴリズムとデータ構造、ファイルアクセスと処理効率、数値計算法などについて学習する。

1）C言語入門
- 数値および文字の処理
- 制御構造
- 配列とポインタ
- 関数と記憶クラス
- 構造体

2）データ構造とアルゴリズム
- 基本データ型
- アルゴリズムの解析
- 基本アルゴリズム
- 応用的アルゴリズム

3）数値処理プログラミング
- 入力画面と出力帳票の設計
- ファイルアクセスと処理効率
- データの検索と抽出
- 数値計算法

〔講義のすすめ方〕
1）講義、問題演習、コンピュータ実習の3つを織り交ぜながらすすめてゆく。
2）コンピュータ実習では、DOS／Vパソコンを使って、プログラム開発を実際に体験する。使用する処理系は、Microsoft社の Visual C++ である。C言語の学習もこのシステム上で実施可能である。

〔教　材〕
教 科 書：追って指示する。
参考図書：その都度指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期テスト、課題の提出状況、自作プログラムの完成度、出席状況等により判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
　半期完結・週2回・4単位の授業である。コンピュータ実習を含む授業であり、遅刻・欠席は学習の能率に特に響くので注意されたい。

〔科目内容の位置付け〕
　経営情報分野に位置付けられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目：現代情報科学。
関連科目：数学、情報処理演習、情報管理論、経営統計学、決定の科学など。

C 36	情報管理論 Ⅰ	2単位	舩田眞里子

〔講義目的〕

本講義では収集したデータから目的とする「情報」をどのように抽出するかについて、多変量解析の中の数量化理論について講義を行い、同時にコンピュータを用いた演習を行います。手法の背景にある、ものの見方・考え方を理解し、目的に応じたデータの収集や解析法の選択が可能となるようにしましょう。また、演習を通して、経営統計学Ⅰ・Ⅱが目指した「使える統計学」をより発展させることも本講義の目的です。

〔講義内容〕

講義内容は以下の通りです。

(1) 多変量解析とは
(2) 数量化理論とは
(3) 数量化Ⅰ類とは
(4) 数量化Ⅰ類を利用した演習
(5) 数量化Ⅱ類とは
(6) 数量化Ⅱ類を使用した演習
(7) 数量化Ⅲ類とは
(8) 数量化Ⅲ類を使用した演習

〔講義のすすめ方〕

まず、多変量解析・数量化理論とは何かの概要を講義した後、各具体的な解析手法の講義を行います。その際、コンピュータを使用しながら、簡単な演習を行います。その後、データ数の多い場合のデータ解析を実際のデータを対象に行います。データの検索などはインターネットを活用して行います。受講者数が少ない場合は学生参加型のディスカッション方式で授業を進めます。

〔教　材〕

教科書　なし。
　　毎時間資料を電子的に配布。
指定図書　「統計解析入門」
　　篠崎信雄著、サイエンス社
参考書　「多変量解析の実践　下」
　　菅　民郎著、現代数学社

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価の方法と基準は以下の通りです。

(1)試験は1回とし、60点以上を合格とします。
(2)出席は講義回数の2/3以上を必要とします。
(3)出席は1回点で加算することもあります。
(4)レポート提出が数回あります。全レポート提出が単位の条件となります。

レポートの提出を忘れることのないように気をつけてください。

〔履修のポイント・注意点〕

(1) 経営統計学Ⅰ・Ⅱ終了後の受講が望ましい科目です。従って3年次以降の受講が適切です。
(2) 情報処理演習A－Ⅰ・A－Ⅱ等を受講して、Visual Basicなどのプログラミング言語がある程度使用可能となっていることも望ましい科目です。
(3) レポートの提出を忘れることのないようにしましょう。

〔科目内容の位置付け〕

データや統計量の行列表現に慣れ、行列の固有値の意味や計算方法など数学的な基礎知識をもってから受講したい科目です。統計数学Ⅰ・Ⅱ、特に経営統計学Ⅰを終了してから、受講してください。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：現代情報科学、経営統計学Ⅰ・Ⅱなどの受講後にぜひ受講してください。

関連科目：情報処理演習A－Ⅰ・A－Ⅱは関連科目です。数学Ⅰ・Ⅱ、決定の科学、情報処理特論A・Bなども関連科目です。特に情報管理論Ⅱは本講義の延長上にある科目で、本講義の解析法を使用した実験データ処理などを行いますので、ぜひ続いて受講してください。

C 37	情報管理論 II	2単位	舩田 眞里子

〔講義目的〕

情報管理論IIは、経営統計学I・IIや情報管理論Iの講義・実習内容をベースとします。講義の中で、コンピュータとヒトとの間の情報交換（Human Computer Interaction）法や、コンピュータ作業中のヒトに関する生態情報の変動について考えます。その考えや知識に基づいてヒトに優しいコンピュータ作業環境を提言することを目的とします。具体的には、予備実験を通じてHCIの問題点を明かにし、その問題点に基づくコンピュータ作業実験を設計します。さらに設計した一連の実験を実際に行い、実験中の生態情報や作業情報を計測し、測定されたデータの統計的解析を行って、ヒトに優しい作業環境について考えていきます。最後にその結果を論文形式でまとめる予定です。

〔講義内容〕

講義内容は以下の通りです。

(1) Human Computer Interaction
(2) 生体情報とは
(3) コンピュータ作業と生体情報
(4) コンピュータ実験の設計
(5) コンピュータ実験用のプログラムの作成
(6) コンピュータ実験
(7) 実験結果の解析
(8) 論文のまとめ方
(9) 論文作成
(10) 研究成果の発表

〔講義のすすめ方〕

講義は前半に一般的な知識や理論に関して学習し、後半でその知識を生かした実験を行い、生体情報の特徴を把握し、その応用について考察します。自分達で実験を計画し、そのデータを解析する楽しさを味わってもらいたいと考えています。

〔教　材〕

関連論文や書籍などです。講義中に配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

(1) コンピュータ実験が成功し、作成した論文形式のレポートと研究成果の発表とで評価します。
(2) 講義中に論文の作成までに至らない場合には、試験を行います。試験の場合は60点以上の取得により合格とします。
(3) 出席は講義回数の2/3以上を必要とします。
(4) 出席は1回1点で加算することもあります。

〔履修のポイント・注意点〕

(1) 経営統計学I・II、情報管理論Iを受講後に受講してください。さらに情報処理演習A、B等を受講することをお勧めします。
(2) 講義中にPower Pointを使用した報告会を繰り返します。経営情報科学でPower Point など発表用のソフトウエアの使用法など十分に習得しておいてください。
(3) 欠席をしないようにしましょう。
(4) 自分の考えを持つことが大切で、オリジナリティのある発想が必要です。頭の中を柔軟にしておきましょう。

〔科目内容の位置付け〕

専門性の高い科目です。研究に取り組むような心構えで取り組みましょう。

2年次以降、特に3年次または4年次の受講が望ましいと考えられます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：現代情報科学、情報管理論I、経営統計学I・II、情報処理演習A－I、A－II。
ただし、経営統計学I・II、情報処理演習A－I、A－IIは並行受講可。

関連科目：情報管理特論、演習。

C 38	管 理 工 学 Ⅰ	2単位	三 浦 達 司

〔講義目的〕

管理工学は、AIIE（American Institute of Industrial Engineers）の示した定義にもあるように、経営システムにおける人、物、情報の統合されたシステムの設計・改善・設定を行なおうとするものである。

〔講義内容〕

この講義では、方法技術（工程分析、作業分析、動作研究等）や作業測定技術（時間研究、稼動分析、PTS法等）並びに、管理の技術（生産管理、品質管理、原価管理等）をベースとして、経営の意思決定に役立つべく、ＣＡＤ（Computer Aided Design）ＣＡＭ（Computer Aided Manufacturing）を組み込んだＣＩＭ(Computer Integrated Manufacturing)からＦＡ(Factory Automation）化、ＯＡ(Office Automation）化への展開を考慮して、統合されたシステムへのアプローチにより、企業におけるシステムの設計・改善を体系的に行おうとするものである。

管理工学のシステムへのアプローチ並びに、その過程で用いられる各種技法の存在とその意義を、種々のシステム思考を組み合わせながら概説するものである。

〔講義のすすめ方〕

1．ガイダンス（経営工学の概要、授業の進め方）
2．管理工学の意義と考え方
　1）Industrial Engineeringについて
　2）Production（物づくり）について
3．マネジメントと管理工学の歴史的背景
　1）管理工学の発生とマネジメントへの発展
　2）科学的管理法（ティラー・システム）からフォード・システムへの展開
　3）オートメーション＆ロボット
　4）ＦＭＳ,ＦＡからＯＡ化、ＣＩＭ化への展開
4．管理工学における種々の技法とその関連の解説
5．工程分析とその演習
6．方法設計と改善
7．管理工学とＰＬ法
　1）ＰＬ法を考慮した安全設計
　2）ＰＬ法を考慮した衛生設計
　3）ＰＬ法を考慮した電気設計

〔教　材〕

「あたらしいワーク・スタディ」
横溝克己著　技報堂出版

【参考文献】

「インダストリアル・エンジニアリング」
秋庭雅夫著　日科技連出版社
「Work Design」
G. Nadler著　R.D.IRWIN Inc.

〔成績評価の方法・基準〕

テ ス ト　1回（定期試練期間中）
レポート　2～3回を総合的に判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

出来る限り出席し、授業中に話したこと、板書したことをノートを用意して記録し、復習しておくこと。

〔科目内容の位置付け〕

経営学における基礎的科目であり、今日の我が国の発展に最も寄与した学問の領域の1つである。従って、管理工学Ⅰでは、その歴史的背景から個々の管理の技術との関係を入門的・導入レベルで講義する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目：生産管理論Ⅰ・Ⅱ、経営管理総論
品質管理論、原価管理論Ⅰ・Ⅱ

C 39	管 理 工 学 II	2単位	三浦達司

〔講義目的〕
この講義では、経営システムにおける人、物、情報の統合されたシステムの設計・改善に対する工学的アプローチの基礎的な考え方を理解してもらうことを目的としている。

〔講義内容〕
この講義では、経営におけるシステムへのアプローチ、並びにその過程で用いられる各種技法の存在とその意義を、種々のシステム思考を組み合わせながら概説するものである。
また、現実の社会における事務業務や工場における経営・管理の実務についても、ビデオやフィルム等を活用して解説する。

〔講義のすすめ方〕
1．ガイダンス（経営工学の概要、授業の進め方）
2．標準時間の設定とその活用
　1）直接時間測定法（ストップウォッチ法、ＶＴＲ法等）とその演習
　2）間接時間測定法（ＰＴＳ法）とその演習
　3）余裕と余裕率（ワーク・サンプリング法）の設定
3．標準時間の設定と標準原価への展開
4．業務の評価方法
5．製品設計、工程設計と生産準備活動
6．工程設計と生産方式
7．システマティック・レイアウト・プラニング（S.L.P.）
8．システムの設計と改善
　1）Methods Design (Industrial Approach)
　2）Work System design

〔教　材〕
「あたらしいワーク・スタディ」
横溝克己著　技報堂出版

【参考文献】
「インダストリアル・エンジニアリング」
秋庭雅夫著　日科技連出版社
「Work Design」
G. Nadler著　R.D.IRWIN Inc.

〔成績評価の方法・基準〕
テ ス ト　1回（定期試練期間中）
レポート　2～3回を総合的に判定する。

〔履修のポイント・注意点〕
出来る限り出席し、授業中に話したこと、板書したことをノートを用意して記録し、復習しておくこと。

〔科目内容の位置付け〕
経営学における基礎的科目であり、管理工学Ⅰで学んだことをベースに、経営・管理システムの設計のための基本的なことを講義する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：生産管理論Ⅰ・Ⅱ、経営管理総論
品質管理論、原価管理論Ⅰ・Ⅱ

C 40	情報処理演習Ａ－Ⅰ	2単位	舩 田 眞里子

〔演習目的〕

本演習では、プログラミング言語Javaの文法を中心に学習をします。Javaはネットワークやマルチメディアに対応した新しい言語です。情報発信の基礎知識、基礎力を養うことが本演習の目的です。

〔演習内容〕

演習内容は以下の通りです

1．レポートの作成法
2．プログラミング言語Javaの学習
   (1) Java言語の特徴
   (2) Javaによるプログラムの例
   (3) 文法の基礎
   (4) 演算と式
   (5) 制御構造
   (6) クラス
   (7) 配列
   (8) 例外
   (9) アプレットとアプロケーション
   (10) スレッド
   (11) GUI

〔演習の進め方〕

(1) 文法に関しての講義をはじめに行います。
(2) 次に(1)の文法に関する演習を行います。
(3) 最後に結果をレポートにして提出します。

(1)～(3)を1サイクルとして繰り返す方式で学習を進めます。

〔教　材〕

教科書はなしとしますが、Javaの文法に関しては参考書の「はじめてのJavaプログラミング」に準拠して講義や演習をすすめます。教科書が必要な学生はこの書籍を準備してください。

教科書　なし。
　　電子的にネットワークを介して資料や課題を配布。
参考書　三浦憲二郎著、はじめてのJavaプログラミング、朝倉書店、1998
　　川西朝雄著、Java入門、技術評論社、最新版

〔成績評価の方法・基準〕

試験は1回とし、数回のレポート提出が必要です。必要に応じて小テストを行うこともあります。評価基準は以下の通りです。

(1) 出席は講義回数の2/3以上。
(2) 合計が60点以上。
(3) 全レポートの提出。

ただし、出席は1回1点で加算することもあります。

〔履修のポイント・注意点〕

(1) 経営情報科学程度の基本的知識が必要です。
(2) プログラミング言語の文法は覚えるしかありませんので、欠席しないようにしましょう。
(3) 受講前の復習が効果的です。前週の講義・演習で何をしたか必ず目を通しておきましょう。

〔科目内容の位置付け〕

情報処理演習Ａ－Ⅱに続く内容をもちます。情報化社会の中で特に情報発信という作業を迫られる皆さんの基礎的知識としてぜひとも学習が必要な内容です。経営情報科学程度の基本的学習終了後にぜひ選択してほしい科目の1つです。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：現代情報科学。
関連科目：情報処理演習Ａ－Ⅱ、数学，決定の科学Ⅰ・Ⅱ、情報処理特論Ａ－Ⅰ・Ⅱ、情報処理演習Ｂ－Ⅰ・Ⅱ。

特に、情報処理演習Ａ－Ⅱの内容は本科目の応用を行いますので、ぜひ受講してください。

C 41	情報処理演習Ａ－Ⅱ	2単位	舩 田 眞里子

〔演習目的〕

本演習は、情報処理演習A-Ⅰに続く内容を持ちます。ネットワークやマルチメディアに対応した新しいプログラミング言語Javaを使用して、アンケート等を作成して情報を収集し、収集したデータを解析するプログラムの作成を行います。プログラミングによりコンピュータの限界や精度、基本統計量・多変量解析に関する理解を深めることを目的としています。

〔演習内容〕

演習内容は以下の通りです

1．レポートの作成法
2．プログラミング演習
   (1) アンケートの設計
   (2) アンケートの作成
   (3) 回帰分析プログラムの作成
   (4) 重回帰プログラムの作成
   (5) 判別分析プログラムの作成
   (6) 解析結果のまとめ
   (7) 解析結果の発表

〔演習の進め方〕

(1) 演習の内容に関しての講義をはじめに行います。
(2) 次に(1)の文法に関する演習を行います。
(3) 最後に結果をレポートにして提出します。

(1)～(3)を１サイクルとして繰り返す方式で学習を進めます。

〔教　材〕

教科書はなしとしますが、Javaの文法に関しては参考書の「はじめてのJavaプログラミング」に準拠して講義や演習をすすめます。教科書が必要な学生はこの書籍を準備してください。また、統計学の知識を必要とする場合は「多変量解析」に関する書籍を参考にしてください。

教科書　なし。
　　電子的にネットワークを介して資料や課題を配布。
参考書　三浦憲二郎著、はじめてのJavaプログラミング、朝倉書店、1998
　　川西朝雄著、Java入門、技術評論社、最新版

〔成績評価の方法・基準〕

試験は１回とし、数回のレポート提出が必要です。必要に応じて小テストを行うこともあります。評価基準は以下の通りです。

(1) 出席は講義回数の２/３以上。
(2) 前後期の合計が60点以上。
(3) 全レポートの提出。

ただし、出席は１回１点で加算することもあります。

〔履修のポイント・注意点〕

(1) 情報処理演習Ａ－Ⅰ、数学および統計学の基礎知識が必要です。
(2) 授業の連続性が強いので欠席しないようにしましょう。
(3) 受講前の復習が効果的です。前週の講義・演習で何をしたか必ず目を通しておきましょう。
(4) 経営統計学Ⅰ・Ⅱの復習も行いましょう。

〔科目内容の位置付け〕

シミュレーションや統計量の算出・多変量解析用のプログラミングを行います。これらの知識の上にプログラムを作成するので、経営統計学Ⅰ・Ⅱなどの関連科目をすでに受講している方に相応しい科目です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：情報処理演習Ａ－Ⅰ、現代情報科学、経営統計学Ⅰ・Ⅱ。
　　特に情報処理演習Ａ－Ⅰ、経営統計学Ⅰ・Ⅱは必ず受講しておいてください。
関連科目：数学B，決定の科学Ⅰ・Ⅱ、情報処理演習Ｂ－Ⅰ・Ⅱ、情報処理特論Ａ－Ⅰ・Ⅱ、情報処理特論Ｂ－Ⅰ・Ⅱ等。

C 42	情報処理演習Ｂ－Ⅰ	2単位	山 下 勇 一

〔講義目的〕
　表計算ソフト「Excel」の応用問題を学習し、表計算ソフトが自由に利用できるようになることを目標にします。

〔講義内容〕
「Excel応用」の内容
1 データ入力
2 編集機能の学習
3 ファイル機能の学習
4 書式機能の学習
5 ツール機能の学習
6 関数の学習
7 ＶＢＡ基礎の学習

〔講義のすすめ方〕
　コンピュータを使った演習形態で進めます。１年次に操作の基礎を学習したとの前提で始めます。基礎の復習をやりながら、徐々に応用問題を解いていきます。約１ヶ月毎に理解度テストを行います。

〔教　　材〕
　別途、掲示します。フロッピーディスク（サイズ＝3.5インチ、２ＨＤ）を１枚用意して下さい。（なお、テキストを購入しない人は、授業が分からなくなります）

〔成績評価の方法・基準〕
　１ヶ月に１回程度、理解度テストをします。定期試験は、試験期間外の通常の授業時間に行います。これは、停電やウィルスによってコンピュータが使用できなくなる時があるからです。これら、すべての試験の総合評価で成績を付けます。

〔履修のポイント・注意点〕
　試験を多くする為に、皆さんの実力がかなり正確に把握できます。欠席をすると内容がわからなくなります。運動部で、毎日の練習が重要なように、またピアノ等の楽器も毎日練習する事が重要なように、コンピュータの学習でも毎日の練習が必須です。授業中は、お互いに相談して進めます。質問は歓迎します。質問した内容は、必ずノートにまとめて、何度も同じ質問をしないように協力願います。ホワイトボードに書くことは、すべてノートに写しましょう。欠席が３回以上になると成績が出ません。

〔科目内容の位置付け〕
　「Excel」は、応用レベルの学習です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　コンピュータの操作ができることを前提としています。また「Excel」と「Word」の基礎を終了している人を対象にしています。

C 43	情報処理演習Ｂ－Ⅱ	2単位	山 下 勇 一

〔講義目的〕
　データベースソフト「ACCESS」と表計算ソフト「Excel」のプログラムを学習し、データの相互利用ができるようになることを目標にします。

〔講義内容〕
「ACCESS」の内容
　1　テーブルの作成
　2　クエリーの作成
　3　フォームの作成
「Excel　VBA」の内容
　1　マクロの作成
　2　ＶＢＡの文法
　3　マクロのエラーと修正
　4　マクロの応用問題の学習

〔講義のすすめ方〕
　コンピュータを使った演習形態で進めます。1年次に操作の基礎を学習したとの前提で始めます。基礎の復習は行いません。実際に役立つ問題を解きます。約1ヶ月毎に理解度テストを行います。

〔教　　材〕
　別途、掲示します。フロッピーディスク（サイズ＝3.5インチ、２ＨＤ）を１枚用意して下さい。（なお、テキストを購入しない人は、授業が分からなくなります）

〔成績評価の方法・基準〕
　1ヶ月に1回程度、理解度テストをします。定期試験は、試験期間外の通常の授業時間に行います。これは、停電やウィルスによってコンピュータが使用できなくなる時があるからです。これら、すべての試験の総合評価で成績を付けます。

〔履修のポイント・注意点〕
　試験を多くする為に、皆さんの実力がかなり正確に把握できます。欠席をすると内容がわからなくなります。運動部で、毎日の練習が重要なように、コンピュータの学習でも毎日の練習が必須です。授業中は、お互いに相談して進めます。質問は歓迎します。質問した内容は、必ずノートにまとめて、何度も同じ質問をしないように協力願います。ホワイトボードに書くことは、すべてノートに写しましょう。欠席が3回以上になると成績が出ません。

〔科目内容の位置付け〕
　「ACCESS」は初級、「Excel」は、中級レベルの学習です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　コンピュータの操作ができることを前提としています。また「Excel関数」と「Word」の基礎を終了している人を対象にしています。

C 44	情報処理特論Ａ－Ⅰ	2単位	森 川 信 男

〔講義目的〕
経営へのコンピュータの活用において最も重要なことは、どのような問題に対して、どのような形でコンピュータを活用すれば良いかということである。本講義では、経営における情報化の進展についての、より高度な知識と理解を深める。特に、パソコンを活用した情報処理能力と情報蓄積能力、さらには情報分析能力と情報思考能力の育成・向上を図ることを目的とする。

〔講義内容〕
1.経営情報とワークシート
2.ワークシートによる情報処理
3.ワークシートの概要
4.ワークシートの設計
5.ワークシートの活用
6.Excel応用１（基本操作）
7.Excel応用２（ワークシートの作成と編集）
8.Excel応用３（グラフの作成と編集）

〔講義のすすめ方〕
授業は、基礎的な講義並びに課題提示と、パソコンによるその課題実習という形を繰り返して行なう。実習は、課題ごとに小グループを構成して共同作業という形で実施する。ソフトは Excel（表計算ソフト）を使用する。

〔教　　材〕
教材用プリントを配布するが、授業時に参考書を指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回出席を取る。特に授業への出席と参加を重視し、実習課題と期末レポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
経営情報科学の受講を終了していること。授業は、課題ごとに小グループを構成して共同作業という形で実施するので、毎回の分担作業を確実に実行してくることが不可欠である。

〔科目内容の位置付け〕
現代の情報化社会において、経営を情報的に理解しより実践的に対応していくための科目であり、経営情報科学のアドバンス科目のひとつとして位置づけられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
Windows、Word（ワープロソフト）、Excel（表計算ソフト）の基礎的な知識と操作技術を有すること。

C 45	情報処理特論Ａ－Ⅱ	2単位	森 川 信 男

〔講義目的〕
経営へのコンピュータの活用において最も重要なことは、どのような問題に対して、どのような形でコンピュータを活用すれば良いかということである。本講義では、経営における情報化の進展についての、より高度な知識と理解を深める。特に、パソコンを活用した情報処理能力と情報蓄積能力、さらには情報分析能力と情報思考能力の育成・向上を図ることを目的とする。

〔講義内容〕
1．経営情報とデータベース
2．データベースによる情報処理
3．データベースの概要
4．データベースの設計
5．データベースの活用
6．Access入門１（基本操作）
7．Access入門２（データベースの作成と編集）
8．Access入門３（データの検索と活用）

〔講義のすすめ方〕
授業は、基礎的な講義並びに課題提示と、パソコンによるその課題実習という形を繰り返して行なう。実習は、課題ごとに小グループを構成して共同作業という形で実施する。ソフトは Access（データベースソフト）を使用する。

〔教　　材〕
教材用プリントを配布するが、授業時に参考書を指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回出席を取る。特に授業への出席と参加を重視し、実習課題と期末レポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
経営情報科学の受講を終了していること。授業は、課題ごとに小グループを構成して共同作業という形で実施するので、毎回の分担作業を確実に実行してくることが不可欠である。

〔科目内容の位置付け〕
現代の情報化社会において、経営を情報的に理解しより実践的に対応していくための科目であり、経営情報科学のアドバンス科目のひとつとして位置づけられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
Windows、Word（ワープロソフト）、Excel（表計算ソフト）の基礎的な知識と操作技術を有すること。

C 46	情報処理特論Ｂ－Ⅰ	2単位	山 下 勇 一

〔講義目的〕
　インターネットを利用した情報検索、情報収集や情報発信ができるようにします。

〔講義内容〕
「Internet Explorer」を使用。
1 インターネットの歴史
2 インターネットの利用方法（検索）
3 インターネットのホームページの作成（ＨＴＭＬ）
4 Tableタグ、Frameタグの利用
5 画像ファイルの利用
6 仮想会社のホームページの作成

〔講義のすすめ方〕
　コンピュータを使った演習形態で進めます。すでにコンピュータの基礎を学習している人を対象に始めます。

〔教　　材〕
　別途、掲示します。フロッピーディスク（3.5インチ、２ＨＤ）を１枚用意して下さい。（テキストを購入しない人は、授業が分からなくなります）

〔成績評価の方法・基準〕
　月１回程度、理解度テストをします。定期試験は、試験期間外の通常の授業時間に行います。これは、停電やウィルスによってコンピュータが使用できなくなる時があるからです。

〔履修のポイント・注意点〕
　試験を多くする為に、皆さんの実力がかなり正確に把握できます。欠席をすると内容がわからなくなります。運動部で、毎日の練習が重要なように、またピアノ等の楽器も毎日練習する事が重要なように、コンピュータの学習でも毎日の練習が必須です。欠席が３回以上になると成績が付きません。質問は歓迎します。質問した内容は、必ずノートにまとめて、何度も同じ質問をしないように協力願います。ホワイトボードに書くことは、すべてノートに写しましょう。

〔科目内容の位置付け〕
　情報教育科目の応用分野です。ＨＴＭＬの基礎から応用までを学習します。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　コンピュータの操作ができることを前提としています。また「Excel」と「Word」の基礎を終了している人を対象にしています。コンピュータの基礎につては復習をしません。初めてコンピュータを操作する人は、基礎科目を履修後に、参加することが望ましい。なぜなら、初めての人の大半が途中で棄権してしまうからです。

C 47	情報処理特論Ｂ－Ⅱ	2単位	山 下 勇 一

〔講義目的〕
　インターネットを利用した情報検索、情報収集や情報発信ができるようにします。

〔講義内容〕
「Internet Explorer」を使用。
1 JavaScriptの基礎
2 JavaScriptを使ったホームページ
3 JavaScriptの例題作成
4 JavaScriptの実際の利用

〔講義のすすめ方〕
　コンピュータを使った演習形態で進めます。すでに「HTML」の基礎を学習している人を対象に始めます。

〔教　　材〕
　別途、掲示します。フロッピーディスク（3.5インチ、２ＨＤ）を１枚用意して下さい。（テキストを購入しない人は、授業が分からなくなります）

〔成績評価の方法・基準〕
　月１回程度、理解度テストをします。定期試験は、試験期間外の通常の授業時間に行います。これは、停電やウィルスによってコンピュータが使用できなくなる時があるからです。

〔履修のポイント・注意点〕
　試験を多くする為に、皆さんの実力がかなり正確に把握できます。欠席をすると内容がわからなくなります。運動部で、毎日の練習が重要なように、またピアノ等の楽器も毎日練習する事が重要なように、コンピュータの学習でも毎日の練習が必須です。欠席が３回以上になると成績が付きません。質問は歓迎します。質問した内容は、必ずノートにまとめて、何度も同じ質問をしないように協力願います。ホワイトボードに書くことは、すべてノートに写しましょう。

〔科目内容の位置付け〕
　ホームページ作成に関する情報処理関係の分野です。ＨＴＭＬの基礎をすでに学習した学生を対象にしています。かなり難しくなります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　コンピュータの操作ができることを前提としています。また「HTML」と「Word」の基礎を終了している人を対象にしています。ＨＴＭＬについては復習をしません。

C 48	決定の科学 I	2単位	樋口和彦

〔講義目的〕
意思決定、主として企業における意思決定問題を、数量モデルを用いて分析・解決していくための理論・技法（コンピュータの活用ならびにプログラムの開発を含む）に関して、考察していく。

〔講義内容〕
1．Linear Programming（LP.）線形計画法
ある制約（原材料等の制約、人的資源等）のなかで、目的（利益の最大化等を達成するための最適な生産計画等を立案・検討するための理論
2．Game Theory ゲームの理論
競合者の行動（戦略）を考慮しながら自己の最適な行動（戦略）を決定するための理論

〔講義のすすめ方〕
・線形計画法とは何か？どの様な意思決定に活用できるのか？
・図解法、代数法、シンプレックス法の理解と活用
・双対問題とは何か？
・感度分析によって、何が解るのか？
・ゲームの理論とは何か？
・行動基準は？、意思決定基準は？
・相手の行動の予測と自己の最適行動の選択はどの様にするのか？

これらのテーマに関して、出来る限り簡単な数値例を用いて具体的に考えて行く。またコンピュータを活用して、実証的考察もして行く。

〔教　材〕
教科書、指定図書、参考書に関しては、後に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。
レポートは、原則として各テーマ（各項目）に対して提出する。
レポートは、半年に10回程度を予定。

〔履修のポイント・注意点〕
企業における意思決定問題を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。
【決定の科学 I（経営数学（OR）I）】
【決定の科学 II（経営数学（OR）II）】は両方履修することが望ましいが，それぞれ別個に履修することも可とする。

〔科目内容の位置付け〕
内容が意思決定のための数量モデルなので数学的考察も当然必要であるが、数学そのものでなく数学は“道具”として活用する。あくまでも企業における意思決定問題に関連した科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目：特に関連が深い科目として、統計学、数理統計学、財務管理論、資本市場論、計量経済学等があげられる。
またコンピュータの活用（学んだ意思決定モデルをコンピュータを用いて、具体的に活用・処理してみる）も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

C 49	決定の科学 II	2単位	樋口和彦

〔講義目的〕
意思決定、主として企業における意思決定問題を、数量モデルを用いて分析・解決していくための理論・技法（コンピュータの活用ならびにプログラムの開発を含む）に関して考察していく。

〔講義内容〕
1．Decision Theory　決定理論
①主観的確率と客観的確率を統合するためのベイズの定理、Decision Tree Model
②リスク下での意思決定基準
③不確実性下での意思決定基準
2．Decision Making with Uncertain Demand
主として在庫意思決定に関わるモデルを取り上げる。（離散型ならびに連続型）のモデル

〔講義のすすめ方〕
先のテーマに関して、出来る限り簡単な数値例を用いて具体的に考えて行く。またコンピュータを活用して、実証的考察もして行く。
つまり、意思決定のモデル、主として数量モデルの内容を分析していく。そのときにそのモデルを抽象的にみていくのではなく、実際にそのモデルを操作してみて（コンピュータを活用して）具体的に確認していく。

〔教　材〕
教科書、指定図書、参考書に関しては、後に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。
レポートは、原則として各テーマ（各項目）に対して提出する。
レポートは、半年に10回程度を予定。

〔履修のポイント・注意点〕
企業における意思決定問題を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。
【決定の科学Ⅰ（経営数学(OR) Ⅰ）】
【決定の科学Ⅱ（経営数学(OR) Ⅱ）】は両方履修することが望ましいが，それぞれ別個に履修することも可とする。

〔科目内容の位置付け〕
内容が意思決定のための数量モデルなので数学的考察も当然必要であるが、数学そのものではなく数学は“道具”として活用する。あくまでも企業における意思決定問題に関連した科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：特に関連が深い科目として、統計学、数理統計学、財務管理論、資本市場論、計量経済学等があげられる。
またコンピュータの活用（学んだ意思決定モデルをコンピュータを用いて、具体的に活用・処理してみる）も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

C 50	経営統計学 I	2単位	舩田 眞里子

〔講義目的〕
本講義では、理論だけには終わらない「使える統計学」の修得を目標とすると同時に、統計学IIや情報管理論I・IIへと続く理論の基礎固めを目的としています。
最初に統計学で必要とする行列・ベクトルの演算や性質などの学習を行い、その後で、コンピュータを用いた演習を行いながら講義を進めます。
将来、皆さんが統計的に処理しなければならない具体的なデータを手にした時、コンピュータを道具として「データが語る事実」を誤りなく把握できるようになるための基礎固めをしましょう。

〔講義内容〕
講義内容は以下の通りです。
1．行列・ベクトルとその応用
(1) 行列とは
(2) 行列の演算
(3) 行列式の定義
(4) 行列式の展開
(5) 逆行列
(6) 連立1次方程式の解法
(7) ベクトルとは
(8) ベクトルの1次独立性
(9) 基底の変換
(10) 固有値と固有ベクトル
2．微分とその応用
(1) 微分の定義
(2) 微分の応用
(3) 偏微分の定義
(4) 偏微分の応用
3．統計学の基礎
(1) 度数分布
(2) 母集団と標本
(3) 基本統計量
(4) 統計量の分布

〔講義のすすめ方〕
主に講義形式で授業を進めます。演習を十分取り入れ、学生参加型の授業とする予定です。但し、コンピュータ室が利用可能な場合は電子的に資料を提供し、演習問題も電子的に提供します。その場合は自分のペースで演習問題が消化可能なように準備します。

〔教　材〕
教科書はなしとしますが、行列やベクトルに関しては参考書の「基礎　線形代数学　ー教養課程24講義ー」に準拠して講義や演習をすすめます。教科書が必要な学生はこの書籍を準備してください。
教科書　なし。
プリントを配布。（コンピュータ室使用の場合は電子的に配布）
参考書　「統計解析入門」、篠崎信雄著
サイエンス社
「基礎　線形代数学　ー教養課程24講義ー」
小林　厳、宇内　泰編　朝倉書店
「情報科学のための数学入門」
道脇義正編、舩田眞里子他著
東京図書

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法と基準は以下の通りです。
(1) 試験は1回とし、60点以上を合格とします。
(2) 必要に応じて小テストを行うこともあります。
(3) 出席は講義回数の2／3以上を必要とします。
(4) 出席は1回1点で加算することもあります。
(5) 演習問題解答の提出が数回あります。原則的に全演習解答提出が単位の条件となります。

〔履修のポイント・注意点〕
(1) 経営情報科学での実習経験を前提としています。そのため2年次以降の学生が対象です。その他の予備知識は不要です。
(2) 講義の内容に関する演習問題を充分に行う必要があります。演習問題は講義中に提示します。必ず解答を作成してください。
(3) 作成した演習解答の提出を忘れない様にしましょう。

〔科目内容の位置付け〕
本科目の内容は比較的基礎的なものですが、定量的にものを扱う場合の基礎理論ですから非常に重要な講義です。専門的な関連科目の数学的な根拠を与える土台となる講義ですからぜひ受講することをお勧めします。特に統計学を深く理解したい・定量的専門科目への基礎を作りたい・高校での数学の学習に不十分なものを感じている、そのような方に相応しい科目です。
ひきつづき、経営統計学II、情報管理論I・IIを受講してください。また決定の科学、計数管理論、情報処理演習A・B，情報処理特論A・Bなどの受講もお勧めします。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目：現代情報科学。
関連科目：経営統計学II、情報管理論I・IIは本講義受講後ぜひ、受講してください。決定の科学、計数管理論、情報処理演習A・B，情報処理特論A・Bなどは関連科目です。
将来、ある条件下で利益を最大にするような制約条件下で何かを最大や最小にするような問題を定量的に解く必要が生じたりする場合、商品の需要予測、生産計画などについて定量的に扱いたい場合の基礎知識となります。

C 51	経営統計学 II	2単位	舩田 眞里子

〔講義目的〕

使える統計学を目指した統計学の学習が本講義の目的です。過去に生じたデータを解析して「対象データに含まれる本質」「データが語る事実」を把握するのに役立つ理論とその応用について学習します。

講義と演習を交互に行う形式で、理論を実践しながら全体の講義をすすめます。講義や演習に必要な資料はすべてコンピュータを介して電子的に提供します。また必要に応じてデータはインターネットを介して収集してもらいます。

ネットワークされたコンピュータを利点を充分に活用しながら、講義をすすめる予定です。

〔講義内容〕

講義内容は以下の通りです。

(1) データ測定の尺度
(2) データの記述
(3) 2変量データの記述
(4) 回帰分析（微分・偏微分）
(5) ロジスティック回帰分析
(6) 判別分析
(7) 主成分分析
(8) 因子分析

〔講義のすすめ方〕

講義のはじめにデータ測定の尺度と種類に関する講義を行い、多変量解析とは何かについて講義を行います。その後、毎回電子的に資料を配布し、その資料を活用して論理的な説明を行い、簡単な演習を行い、その後、データ数の多い場合の解析を実際のデータを対象にコンピュータを用いて行います。この際、データはインターネットを介してそれぞれ検索して入手することも行います。

〔教　材〕

教科書は特に使用しません。また、多変量解析については、自分で分かりやすい書籍を探し参考にしてください。

教科書　なし。
　　毎回、資料は電子的配布します。
指定図書　「統計解析入門」
　　篠崎信雄著、サイエンス社
参考書　「多変量解析の実践　上」
　　菅　民郎著、現代数学社

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価の方法と基準は以下の通りです。

(1) 試験は1回とし、60点以上を合格とします。
(2) 出席は講義回数の2/3以上を必要とします。
(3) 出席は1回1点で加算することもあります。
(4) レポート提出が数回あります。全レポート提出が単位の条件となります。

レポートの提出を忘れることのないように気をつけてください。

〔履修のポイント・注意点〕

(1) 基本的には経営統計学Iを受講後に受講してください。従って2年次以降、特に2年次の受講が望ましいと思います。
(2) コンピュータ室で講義と演習を行います。
(3) 復習に力点をおいて、授業時間内に終了しなっかた課題は必ず次の週までに終了し、提出しましょう。
(4) レポートの提出忘れがないようにしましょう。

〔科目内容の位置付け〕

本科目は比較的高度な内容をもっております。分かり難いものではありませんが、理解するには多少の努力が必要です。

本科目は、制約条件下で目的とする変量を最大／最小にする問題、需要や売上などの予測問題や現状の分析など、現象を定量的に把握・理解したり、それをグラフなどに表示して他人に説明したい場合（上司や顧客への提案等）などに役立つ内容です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：現代情報科学、および経営統計学Iの終了後の受講が望ましい科目です。

関連科目：情報管理論Iは本科目に続く内容を含む科目です。本科目受講後にぜひ受講してください。また、決定の科学、計数管理論、情報処理演習A・B，情報処理特論A・Bなどは関連科目です。

C 52	情報通信システム論Ⅰ	2単位	菅谷　実

〔講義目的〕
　ケータイ電話、電子メールに代表されるようなメディア・サービスは情報通信ネットワークを経由して提供される。近年　われわれの生活は情報通信ネットワークなしには過ごすことができないほどに、情報通信ネットワークは日常生活においても身近なものになっている。本講義では、コンピュータ・システムとしての情報通信システムという狭い範囲ではなく、社会システムとしての情報通信システムを情報通信技術、メディアの融合、ネットワーク、産業構造というキーワードから明らかにする。

〔講義内容〕
講義は以下の4部から構成される
1．情報通信システム論の歴史
　政策論的アプローチ
　文明論的アプローチ
　経済論的アプローチ
2．情報通信基盤
　空間系情報
　活字系情報
　電子系情報
3．情報通信システムと産業構造
　通信事業
　放送事業
　ケーブルテレビ事業
　衛星放送事業
　携帯電話事業
　マルチメディア事業
4．メディアの融合
　コンピュータと通信
　通信と放送
　放送とコンピュータ

〔講義のすすめ方〕
　指定した参考書、プリント、ＯＨＰ、ビデオ、パソコンによるプレゼン等を含めた多様なメディアを用いた講義を進める。

〔教　　材〕
情報通信ハンドブック2001年版
その他　通信白書、情報メディア白書等の関連資料

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験　80%
　平 常 点　20%

〔履修のポイント・注意点〕
　ＣＳデジタル、衛星放送、インターネット等の新しいメディアに興味をもつ学生諸君は
　この講義を受講して情報通信システムと企業戦略、メディアと社会との関係を体系的に学んで欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
　本講義ではパソコンによる情報検索はしないが、受講者は情報処理関連科目の単位を取得していることが望ましい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　特になし（科目内容の位置付けを参照）

C 53	情報通信システム論II	2単位	菅谷　実

〔講義目的〕
　ケータイ電話、電子メールに代表されるようなメディア・サービスは情報通信ネットワークを経由して提供される。近年　われわれの生活は情報通信ネットワークなしには過ごすことができないほどに、情報通信ネットワークは日常生活においても身近なものになっている。本講義では、コンピュータ・システムとしての情報通信システムという狭い範囲ではなく、社会システムとしての情報通信システムを情報通信技術、グローバル化、経営戦略というキーワードから明らかにする。

〔講義内容〕
講義は以下の4部から構成される
1．情報通信産業の発展
　伝統的情報通信産業
　システム間競争
　ボーダレス化と融合
2．情報通信システムのグローバル化
　オンライン専用システム
　ネットワークのグローバル化
　インターネットとボーダレス化
3．情報通信システムのグローバル化（事例研究）
　ＮＴＴ
　ＢＴ（英国）
　ＡＴ＆Ｔ（米国）
　欧州連合
　ワールドコム（米国）
　ＩＢＭ（米国）
　アジアの情報通信システム
4．ボーダレス・システムの行方
　グローバル戦略と企業間関係

〔講義のすすめ方〕
　指定教科書を中心とし、その他にもＯＨＰ、ビデオ、パソコンによるプレゼン等を含めた多様なメディアを用いた講義を進める。

〔教　　材〕
テキスト　菅谷実・高橋浩夫・岡本秀之編著
　『情報通信の国際提携戦略』
　中央経済社、1999年

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験　80%
　平 常 点　20%

〔履修のポイント・注意点〕
　インターネット、企業のグローバル戦略等に興味をもつ学生諸君は　この講義を受講して情報通信システムのグローバル化、情報通信産業における国際経営戦略を体系的に学んで欲しい。

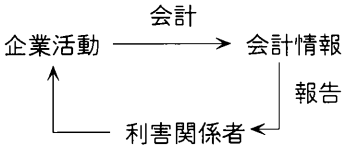
〔科目内容の位置付け〕
　本講義ではパソコンによる情報検索はしないが、受講者は情報処理関連科目の単位を取得していることが望ましい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　情報通信システム論Ｉを受講していることが望ましい。

C 54	会　　計　　学	4単位	紺野　剛

〔講義目的〕

企業経営活動を計量的に貨幣価値を中心として記録、計算、そして理解するために、一定のルールに従って情報を処理し報告するのが会計である。会計の目的は、企業に関する情報を利害関係者に報告することにある。



企業会計全般にかかわる基本的概念および課題を総合的にかつ簡潔にとりあげ、できる限りわかりやすく解説する。

〔講義内容〕

主な講義内容と講義順は概ね次のとおりである。

1．会計の意義と役割
2．簿記会計の基礎概念
3．簿記一巡の手続
4．商業における会計
5．製造業における会計
6．会計のルール
7．会計の制度
8．経営成績と損益計算書
9．財政状態と貸借対照表
10．連結財務諸表と国際会計
11．財務諸表の読み方（経営分析）
12．監査制度
13．企業の税金
14．資金の役割
15．経営管理のための会計
16．原価計算、原価管理

〔講義のすすめ方〕

次の順序で進める予定である。

1．前回の復習
2．要点講義
3．計算・事例・課題演習
4．重要事項の確認
5．質疑応答

〔教　　材〕

教 科 書　『最新会計学』　渡辺金愛編著
中央経済社　2,900円
参考図書　『ゼミナール現代会計入門』
伊藤邦雄著
日本経済新聞社　3,500円

〔成績評価の方法・基準〕

テ ス ト　定期試験中共通試験
レポート　6月
ワープロ又は原稿用紙使用
判定基準　（テスト100点、レポート10点、平常点10点を加味して評価する）

〔履修のポイント・注意点〕

教科書を丹念に読むこと。
自分自身の考えを論理的に文章にすること。
積極的に議論に参加すること。
提出用ノートを使用する。

〔科目内容の位置付け〕

会計学領域の最も基本レベルの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

関連科目：簿記論（会計をささえる基本的な計算技術であるから同時に履修することが大変役に立つ）

C 54	会　　計　　学	4単位	鷹野宏行

〔講義目的〕

会計という行為は、何かを表現するという行為の１つである。私達は、何かを表現する場合に、言葉というものを用いるが、会計には会計固有の言葉がある。言葉は、一定のルール（文法）にしたがって文字や記号などを連ね、それによって何かを表現するものである。私達は、会計固有の言葉を用いることによって、主として企業の経済活動を表現する。

言葉は情報を伝える手段である。会計においては、企業の経済活動にかかわる情報が会計固有の言葉で表現されたからたちでもって伝えられる。この情報のことを一般に会計情報という。

会計学は、会計情報が、どのように生み出されるのか、どのように伝えられるのか、どのように使われるのか、といった内容を考える学問である。

〔講義内容〕

1．会計の意義と役割
2．簿記会計の基礎概念
3．簿記一巡の手続き（1）
4．簿記一巡の手続き（2）
5．商業における会計
6．製造業における会計
7．会計のルール
8．会計の制度
9．経営成績と損益計算書
10．損益計算書の作成
11．財政状態と貸借対照表
12．貸借対照表の作成
13．連結財務諸表と国際会計
14．財務諸表の読み方(経営分析)
15．監査制度
16．企業の税金
17．資金の役割
18．経営管理のための会計
19．原価計算
20．原価管理

〔講義のすすめ方〕

なるべく一方通行の授業にならないように、計算演習や質疑応答などを取り入れて、双方向の授業となるように配慮する。

〔教　　材〕

教 科 書　『最新会計学』　渡辺金愛編著
中央経済社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験期間中に会計学担当者５人の共通試験を行う。試験結果（100点満点）に出席点・レポート点・授業内試験点（上限20点）を加味して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

会計学は好き嫌いがはっきり別れる科目であるといわれる。特に簿記を全く受け付けないという学生もたまに見受けるが、習うより慣れろを心がけて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

会計学について、入門的、序説的な手引きをするのが本講義の目的である。会計学全般にわたる的確な理解の促進のための手助けをし、２年次以降に履修されるであろう財務会計論、原価会計論等の諸科目への橋渡しの役割も果たす。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目：簿記論、会計情報システム論、財務会計論、経営分析論、
経営学科科目：
戦略会計論、税法論、中級簿記論、高等簿記論、原価計算論、国際会計論、原価会計論、資金管理論Ⅰ・Ⅱ、監査論Ⅰ・Ⅱ

C 54	会　　計　　学	4単位	山田　覚

〔講義目的〕

「会計は企業の言葉である」といわれ、会計学の知識は、企業経営者や職業会計人はいうまでもなく、企業の経済活動に関心をもつすべての人々が身につけておかなければならない常識となっている。

本講では、「会計理論は簿記によって具体化され、簿記は会計理論の助けを得て機能する」もので、簿記と会計とは不可分であるという立場で、会計学の基本的な思考方法と計算構造を理解することを目的としている。

〔講義内容〕

1．会計の意義と役割
2．簿記会計の基礎概念
3．簿記一巡の手続き（1）
4．簿記一巡の手続き（2）
5．商業における会計
6．製造業における会計
7．会計のルール
8．会計の制度
9．経営成績と損益計算書
10．損益計算書の作成
11．財政状態と貸借対照表
12．貸借対照表の作成
13．連結財務諸表と国際会計
14．財務諸表の読み方（経営分析）
15．監査制度
16．企業の税金
17．資金の役割
18．経営管理のための会計
19．原価計算
20．原価管理

〔講義のすすめ方〕

講義内容は、普遍的・基本的なことを重視し、論理的な整合性よりは、むしろ学習者にとっての分かり易さを優先しようと考えている。

〔教　　材〕

教 科 書　『最新会計学』渡辺金愛編著
中央経済社

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験期間中に会計学担当教員5人の共通試験を行う。試験結果（100点満点）に出席点、レポート点、授業内試験点等（上限20点）を加味して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

教科書は指定するが、教科書だけを教えるつもりはないから、積極的に講義に参加されることを期待する。

〔科目内容の位置付け〕

どのような言語を習得する場合でも、その第一歩はその言語のルールと意味を学ぶことから始まる。本講はそのステップ1として、会計と呼ばれる言語の基礎的ルールと用語を中心に学習する。その後のステップでは、この基礎知識をもとにして会計学系列の諸科目が体系的に学習できるように編成されている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

「簿記論」は、会計学の系列科目の体系的学習上、前提をなすものであるから、1年次に履修しておくことが望ましい。

C 54	会　　計　　学	4単位	渡辺金愛

〔講義目的〕

会計学は大きく分けると財務会計と管理会計から構成されているが、その前に、会計上の原理、原則を考察する学問としての会計学原理の研究が必要である。

それにしても、現代は、国際化・情報化の時代であることに鑑み、単に企業の個別的・断片的知識の説明に終わるのではなく、今日の経営の性格を考慮した上で、企業会計の根本理念や会計理論の基礎構造を理解しなければならない。

そして、会計固有の技術的性格は尊重すべきであり、いわゆる経済事象の会計処理を企業目的との関連のもとに有機的に把握することが必要である。

つまり、ここでは、会計学の基本について講義する。

〔講義内容〕

会計学の授業内容は、おおむねつぎのとおりである。

会計の意義と役割
簿記会計の基礎概念
簿記一巡の手続き(1)
簿記一巡の手続き(2)
商業における会計
製造業における会計
会計のルール
会計の制度
経営成績と損益計算書
損益計算書の作成
財政状態と貸借対照表
貸借対照表の作成
連結財務諸表と国際会計
財務諸表の読み方(経営分析)
監査制度
企業の税金
資金の役割
経営管理のための会計
原価計算
原価管理

〔講義のすすめ方〕

上記の授業内容によってすすめるが、できるだけ会計学に興味がもてるよう、さまざまの経済、経営、法務情報などもあわせ講義する。

〔教　　材〕

教科書　「最新会計学」　渡辺金愛編著
中央経済社　2,900円

参考図書　「現代会計学」　新井清光著
中央経済社　2,400円
「資金繰りの実務がわかる事典」
渡辺金愛著
日本実業出版社　2,400円
「原価計算用語事典」
渡辺金愛他著
同文舘　3,000円
「管理会計学大辞典」
渡辺金愛他著
中央経済社　23,000円

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験期間中に会計学担当教員5人の共通試験を行う。試験結果（100点満点）に出席点、レポート点、授業内試験点等（上限20点）を加味して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

・授業に真面目に出席し、ポイントをつかむ。
・教科書をよく読み、意味内容をよく理解する。
・遅刻厳禁（遅刻3回で欠席1回）

〔科目内容の位置付け〕

会計学と簿記論は表裏の関係にあるので、簿記を修得しているか、あるいは簿記論を同時に履修すること。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目：簿記論、財務会計論、商法、経営分析論、会計情報システム論
経営学科科目：
中級簿記論、高等簿記論、税法論、原価会計論、原価計算論、資金管理論

C 55	簿　記　論	4単位	山田　覚

〔講義目的〕
本講では、学生諸君に財務諸表（貸借対照表、損益計算書など）を見る目を養って欲しいという意図のもとに、そのために必要と思われる事柄を、できるだけ簡潔明瞭に解説することに努めたい。簿記会計は一つの技術であるから、基本を身に付けることは、もちろん大切である。しかし、それに負けず劣らず、そのことの持つ意味を考えることも大事であることを常に念頭に置いて頂きたい。

〔講義内容〕
① 企業会計の基本的な前提
② 財政状態と貸借対照表
③ 財政状態の変化と損益計算書
④ 費用の認識：原価配分
⑤ 収益の認識と収益・費用の繰延・見越計算
⑥ 決算整理と会計組織
⑦ 売上原価と棚卸商品
⑧ 有形固定資産とその減価償却
⑨ 無形固定資産と繰延資産
⑩ 貨幣性資産の評価と引当金
⑪ 製造原価計算
⑫ 株式会社の資本と利益
⑬ 株式会社の財務諸表と連結決算

〔講義のすすめ方〕
講義の順序としては、歴史的発展に照合して、貸借対照表から出発し、貸借対照表上で自己資本の増減として損益を説明し、その内容を示すのが損益計算書で、貸借対照表と損益計算書とを日常記録から誘導的に作成するためには、実在勘定と名目勘定とを体系化するのが便利であると説き、仕訳の解説は、勘定記入の方法を習得してから（あるいは勘定記入の学習と同時に）行おうと考えている。

〔教　材〕
教科書　『簿記会計の基礎』
小川洌・小澤康人編　創成社

〔成績評価の方法・基準〕
・テスト　2回　……90%
・講義への取り組み姿勢　……10%

〔履修のポイント・注意点〕
教科書は指定するが、教科書だけを教えるつもりはないから、積極的に講義に参加されることを期待する。

〔科目内容の位置付け〕
「簿記論」は、会計学の系列科目の体系的学習上、前提をなすものであるから、1年次に履修しておくことが望ましい。

C 56	財 務 会 計 論	4単位	鷹 野 宏 行

〔講義目的〕

会計学は、企業の経済活動の記録・計算・報告に関する研究分野である。今日では、その企業会計のあり方というものが、国民経済に様々な意味で大きな影響を与え、経済社会の形成に深く関与するまでに至っている。さらには、企業の活動範囲が国際化している現状では、企業会計が国際的経済秩序の形成にまで必然的に関連してくることとなった。それにつれて、会計学の意義も増大していることはいうまでもない。

本講義では、会計学の対象領域である企業における「会計」にしくみについて考察する。我が国の企業会計には、商法・税法の影響も極めて大きい。したがって、会計制度そのものも重要であるが、特に、その根底にひそむ会計そのものの論理についても究明していきたい。

〔講義内容〕

(1)会計の基礎概念
(2)会計制度
(3)個人企業と株式会社企業の相違
(4)資産に関する会計処理
(5)負債に関する会計処理
(6)資本に関する会計処理
(7)収益に関する会計処理
(8)費用に関する会計処理

〔講義のすすめ方〕

なるべく一方通行の授業にならないように、計算演習や質疑応答などを取り入れて、双方向の授業となるように配慮する。

〔教　材〕

教 科 書　『財務会計概論』加古宜士著　中央経済社
参 考 書　『財務諸表論の基礎［三訂版］』守永誠治　編著　税務経理協会

〔成績評価の方法・基準〕

年1回のテスト（定期試験）に出席点を加味して成績評価を行う。なお、日商簿記検定3級及び2級合格者に対しては、若干の加点を行うので、積極的に検定試験を受験するよう心がけてもらいたい。

概ね次の割合で評価を行う。テスト点（70%）、出席点（20%）、簿記検定点（10%）。

〔履修のポイント・注意点〕

授業の前提として、初歩的な簿記の知識を必要とするが、授業中に簿記の復習を行う予定はない。簿記を苦手と感じているものは、あらかじめ簿記の復習をしておくこと。

〔科目内容の位置付け〕

財務会計論は、1年次に「会計学」及び「簿記論」を履修した学生対象の科目であり、会計学という学問体系の中でも基幹科目として位置付けられているのである。また、3・4年次配当の「国際会計論」や「監査論Ⅰ Ⅱ」や「税法論」の入門科目としても位置付けられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：会計学、簿記論
関連科目：会計情報システム論、経営分析論、
経営学科科目：
戦略会計論、税法論、中級簿記論、高等簿記論、原価計算論、監査論Ⅰ・Ⅱ、原価会計論、資金管理論Ⅰ・Ⅱ、国際会計論

C 57	経営分析論 I	2単位	紺野　剛

〔講義目的〕
企業経営活動の実態をできる限り計量的に解明し、より効率的な経営管理に役立てる方法を学習する。企業は経営資源（人、金、物、情報等）をどれくらい投入し、どれだけの経営成果を上げているかを理論的かつ実践的に修得する。

経営資源 ——効率——→ 経営成果

就職先を選択するときの分析的視点をも養う。

〔講義内容〕
主な講義内容と講義順は概ね次のとおりである。
1．経営資源の本質
2．経営資源の測定
3．経営資源の分析評価
4．人的資源の測定と分析
5．資金的資源の測定と分析

〔講義のすすめ方〕
次の順序で進める予定である。
1．前回の復習
2．要点講義
3．事例分析演習
（キリンビール、アサヒビール）
4．重要事項の確認
5．質疑応答
6．自由選択企業の分析演習

〔教　材〕
教科書　『新・経営資源の測定と分析 増補改訂版』
紺野　剛著　創成社　3,600円
指定図書　有価証券報告書
参考図書　『テキストブック経営分析』
後藤幸男・山上達人編
有斐閣　2,000円
『定性要因による経営分析』
藤森三男著
有斐閣　4,200円

〔成績評価の方法・基準〕
レポート　7月
ワープロ又は原稿用紙使用
判定基準　（レポート100%、平常点20%）

〔履修のポイント・注意点〕
教科書を丹念に読むこと。
毎週30分の課題演習をやること。
積極的に議論に参加すること。
各人が自由に企業を選択し、有価証券報告書等を利用して分析し、レポートにまとめる。
提出用ノートを使用する。

〔科目内容の位置付け〕
会計・経営領域の専門レベルの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：会計学
関連科目：〈経営学科科目〉
戦略会計論 I・II（経営分析に基づいて戦略会計を展開可能であるから）
その他の会計系列の科目

C 58	経営分析論 II	2単位	紺野　剛

〔講義目的〕
企業経営活動の実態をできる限り計量的に解明し、より効率的な経営管理に役立てる方法を学習する。企業は経営資源（人、金、物、情報等）をどれくらい投入し、どれだけの経営成果を上げているかを理論的かつ実践的に修得する。

経営資源 ——効率——→ 経営成果

就職先を選択するときの分析的視点をも養う。

〔講義内容〕
主な講義内容と講義順は概ね次のとおりである。
1．物的資源の測定と分析
2．情報的資源の測定と分析
3．経営資源の総合的測定と分析
4．企業グループ経営資源の測定と分析
5．企業セグメント別経営資源の測定と分析

〔講義のすすめ方〕
次の順序で進める予定である。
1．前回の復習
2．要点講義
3．事例分析演習
（キリンビール、アサヒビール）
4．重要事項の確認
5．質疑応答
6．自由選択企業の分析演習

〔教　材〕
教科書　『新・経営資源の測定と分析 増補改訂版』
紺野　剛著　創成社　3,600円
指定図書　有価証券報告書
参考図書　『テキストブック経営分析』
後藤幸男・山上達人編
有斐閣　2,000円
『定性要因による経営分析』
藤森三男著
有斐閣　4,200円

〔成績評価の方法・基準〕
レポート　冬期休暇中
ワープロ又は原稿用紙使用
判定基準　（レポート100%、平常点20%）

〔履修のポイント・注意点〕
教科書を丹念に読むこと。
毎週30分の課題演習をやること。
積極的に議論に参加すること。
各人が自由に企業を選択し、有価証券報告書等を利用して分析し、レポートにまとめる。
提出用ノートを使用する。

〔科目内容の位置付け〕
会計・経営領域の専門レベルの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：会計学、経営分析論 I
関連科目：〈経営学科科目〉
戦略会計論 I・II（経営分析に基づいて戦略会計を展開可能であるから）
その他の会計系列の科目

C 59	会計情報システム論	2単位	山田　覚

〔講義目的〕

近年のコンピュータの普及によって会計組織（帳簿組織や勘定組織も含めて、会計の記録・計算・報告に必要な用具・方法およびそれにたずさわるものを一体として、会計組織と呼ぶ）は、伝統的な手作業簿記を前提としたもとは、大きく変わってきている。しかし、取引情報の収集→分類・集計→報告という会計作業の過程の本質は、手作業簿記とコンピュータ簿記とで変わるところはない。

本講の目的は、手作業簿記にも共通する簿記の基本原理の修得の上に、コンピュータ・プログラムの基本的思考を学習することにより、将来の実務の発展に適合しうる基礎能力を養成することにある。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕

1．システム開始準備処理
　—会社情報登録
　　総勘定科目登録
　　部門登録etc.

2．日常業務処理
　—伝票処理
　　元帳処理(総勘定・補助・部門)etc.

3．管理資料作成
　—日計表
　　合計残高試算表
　　補助科目明細表・集計表
　　現預金明細表
　　科目別推移表
　　部門科目明細表
　　部門管理資料
　　摘要管理資料
　　資金繰実績表
　　財務諸表（貸借対照表・損益計算書・製造原価報告書）
　　決算報告書etc.

4．データ分析
　—推移表
　　経営分析
　　損益分岐点分析
　　補助科目ABC分析
　　構成グラフ（財務構成・損益構成・原価構成）
　　月次推移グラフ
　　予算実績管理etc.

〔教　材〕

必要な資料を適宜配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

講義への取り組み姿勢、提出物に基づいて評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

科目の性格上、遅刻・無断欠席は厳禁とする。やむを得ず欠席した場合も、十分穴埋め作業を行なって、講義に臨むこと。

〔科目内容の位置付け〕

簿記論・中級簿記論・原価会計論等、会計学系列科目の講義は、基本的にはいずれも伝統的手作業を前提とするものであった。これに対し、本講はコンピュータを使用した会計として位置付けられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

中級簿記論・原価会計論（経営学科科目）等の会計学系列科目の履修者、あるいは履修済みの学生であることが望ましい。

C 60	マーケティングⅠ	2単位	藤井信之

〔講義目的〕

マーケティングは様々な形で我々の日常生活に係わり合いをもち影響を与える。マーケティングへの関与は、企業のマーケティング業務に参加したり、標的市場の顧客である消費者であったりという様に、様々な角度からとらえられる。しかしこのマーケティングという概念は研究者の数だけあるといわれるように使い方も多様である。

本講座ではマーケティングに関する様々なテーマを個別のテーマとして理解するのではなく、全体像の理解を図った上でそれぞれの個別テーマがどう関わりあっていくのかを説明していく。競争環境を含めた様々な要因が激しく変化している過程では、個別テーマに振り回されることなく全体像を理解した上で、どこを、どう、どのように調整するかによって、変化に対応する（reactive）だけでなく、変化の傾向を読み、変化を先取り（proactive）して、自社の競争優位に結び付けていくことが、重要な戦略的意思決定のカギとなる。

本講座は、価値創造的な経営に、一人でも多くの学生が参加できることを目指し開講するものである。

〔講義内容〕

予定している内容は以下のとおり。

Ⅰマーケティングの仕組み
マーケティングの基本
戦略マネジメントにおけるマーケティングの役割
マーケティング・プロセスの理解
マーケティングの変遷

Ⅱ市場分析と顧客分析
マーケティング環境とグローバル・ディメンション
マーケティング・リサーチと情報システムの管理
消費財市場と顧客の購買動向
ビジネス市場と顧客の購買動向
標的市場の選定
市場、競合企業の分析と市場機会の創出

〔講義のすすめ方〕

この分野は社会現象や経済環境の変化等と密接な関連をもつ。したがって、毎日の新聞記事、ニュース報道などを頭に入れておくこと。

〔教　材〕

関連書籍は非常に多い。講義でその都度指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席・課題・試験（20、20、40%予定）で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

以下の事情を守れない学生は退席を命ずる。
①講義時間中は静粛にすること。
②飲食は禁止する。

〔科目内容の位置付け〕

マーケティングはそれ自体独立している学問ではない。経営学、経済学、心理学、会計学などの周辺分野とも密接な連関がある。その点を理解した上で履修していただきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前項参照

C 61	マーケティングII	2単位	藤井信之

〔講義目的〕

マーケティングは様々な形で我々の日常生活に係わり合いをもち影響を与える。マーケティングへの関与は、企業のマーケティング業務に参加したり、標的市場の顧客である消費者であったりという様に、様々な角度からとらえられる。しかしこのマーケティングという概念は研究者の数だけあるといわれるように使い方も多様である。

本講座ではマーケティングに関する様々なテーマを個別のテーマとして理解するのではなく、全体像の理解を図った上でそれぞれの個別テーマがどう関わりあっていくのかを説明していく。競争環境を含めた様々な要因が激しく変化している過程では、個別テーマに振り回されることなく全体像を理解した上で、どこを、どう、どのように調整するかによって、変化に対応する（reactive）だけでなく、変化の傾向を読み、変化を先取り（proactive）して、自社の競争優位に結び付けていくことが、重要な戦略的意思決定のカギとなる。

本講座は、価値創造的な経営に、一人でも多くの学生が参加できることを目指し開講するものである。

〔講義内容〕

予定している内容は以下のとおり。

III マーケティング戦略とマーケティング・ミックスの役割

1．製品戦略
　ポジショニング
　製品の決定
　ブランド戦略
　製品開発とライフサイクル管理

2．チャネル戦略
　流通チャネルの機能
　ロジスティクス・マネジメント
　クローバル・チャネル戦略
　リテーリングとオンライン／ダイレクト・マーケティング

3．プロモーション戦略
　マス・コミュニケーション
　アドバタイジング
　セールス・プロモーション

4．価格戦略
　価格設定に与える要因
　価格設定のとらえ方
　グローバル価格戦略

〔講義のすすめ方〕

この分野は社会現象や経済環境の変化等と密接な関連をもつ。したがって、毎日の新聞記事、ニュース報道などを頭に入れておくこと。

〔教　材〕

関連書籍は非常に多い。講義でその都度指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席・課題・試験（20、20、40%予定）で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

以下の事情を守れない学生は退席を命ずる。
①講義時間中は静粛にすること。
②飲食は禁止する。

〔科目内容の位置付け〕

マーケティングはそれ自体独立している学問ではない。経営学、経済学、心理学、会計学などの周辺分野とも密接な連関がある。その点を理解した上で履修していただきたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前項参照

C 62	広　告　論　Ⅰ	2単位	根 本 昭二郎

〔講義目的〕

広告は時代の風俗、世相を描きだす万華鏡と言われている。過去の年代、その時代に多くの広告が集積され、広告の歴史を築きあげてきた。人類の歴史の中で広告がコミュニケーションの世界を広めてきたといえよう。

広告の歴史は、長くて古いが広告論は経営学、商学、マーケティングなど関連諸科学をとり入れた新しい学問分野である。広告教育は、高等学校をはじめ全国の各大学で講座が置かれている。1996年度より「広報・広告」のビジネス・キャリア制度が発足した。

前期では、広告の基礎理論を中心に広告コミュニケーションの基本的問題をとりあげ学習、理解することを目的とする。

〔講義内容とすすめ方〕

前期

広告コミュニケーションの基本的問題を中心に下記内容で講義を予定している。

オリエンテーション

1．コミュニケーションと広告の歴史
 (1)コミュニケーションと文字の発明
 (2)広告のルーツを尋ねて
2．広告コミュニケーションの幕あけとアドバタイジング
 (1)印刷機の発明、発達と印刷広告の登場
 (2)アドバタイジング、広告の語源と根拠
 (3)日本における沿革、ひろめ、アドウルチスメント広告の誕生
 (4)広告定義の変遷と広告関連基本用語
3．広告業の起源とあゆみ
 (1)世界の広告業の生い立ち
 (2)日本の広告業のあゆみ
4．広告コミュニケーション・メディアの動向
 (1)現代社会と広告コミュニケーション・メディア
 (2)広告コミュニケーション・メディアの概念と分類
5．新聞広告の歩みと発達
6．雑誌広告の歩みと現況
7．ラジオ広告の歩みと現況
8．テレビ広告の歩みと現況
9．マルチメディア時代のニューメディア
 (1)ニューメディアとＣＡＴＶ
 (2)通信衛星と放送衛星
 (3)パンドラの箱、マルチメディアとインターネット

〔教　　材〕

「広告コミュニケーション新論」
　日本経済新聞社

その他参考図書に関しては、授業時に随時指示したい。

〔成績評価の方法・基準〕

前期テスト（60%）(年２回定期試験）と出席（20%)、授業態度（20%）から評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

セメスター制をとるが広告論Ⅰ、Ⅱ通年の受講が望ましい。

講義ノートがテスト時に重要となる。そのため授業中は、迷惑となる私語は厳禁、十分に講義内容を記録しておいて欲しい。

〔科目の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

コース必修科目のほか、経営学、商学総論Ⅰ・Ⅱ、会計学、マーケティングⅠ・Ⅱ、流通論Ⅰ・Ⅱなど。

C 63	広　告　論　II	2単位	根 本 昭二郎

〔講義目的〕

21世紀に入って広告界は、時代の転換、変革期にある。大きな革新の波が押し寄せている。ＩＴ革命、デジタルメディアの革新、大競争時代がはじまっている。

後期では、こうした動きに対応する広告の基礎理論から広告実務と展望についてとりあげて行きたい。

広告教育は、'96年度より広告のビジネスキャリア制度が開始された。講義にはこの広告の資格認定講座の内容を取り入れ、専門的な広告教育を行なうことを目的とする。

〔講義のすすめ方〕

後期

広告コミュニケーションの広告実務や専門的問題を中心に下記内容で講義を予定している。

1．新企業戦略と広告戦略、広告計画

(1)経営戦略と企業戦略
(2)グローバリゼーションと新企業戦略
(3)企業戦略とオーダリーコミュニケーション戦略
(4)広告戦略と広告計画の展開法

2．広告計画と広告費予算の設定法

(1)広告費予算の戦略的意味
(2)広告費予算の設定方法
(3)広告費予算の実行化と管理
(4)広告費予算設定の実例

3．効果的媒体計画の基本と評価

(1)媒体計画と媒体配分
(2)媒体計画と媒体評価の問題
(3)効果的媒体計画の媒体評価基準
(4)広告媒体計画とメディア・ミックス

4．広告表現戦略と広告キャンペーン

(1)広告表現とキャッチフレーズ時代相
(2)表現戦略開発のための７戦略
(3)広告表現・クリエーティブの世界
(4)広告キャンペーンの種類と特長

5．広告ビジネスと広告組織

(1)広告主企業の広告組織
(2)広告会社の業務と組織
(3)広告媒体社の広告部門
(4)広告製作関係会社の形態

6．スポーツイベントと広告コミュニケーション

(1)スポーツ・イベントとコミュニケーションメディア
(2)五輪競技大会と関係組織
(3)企業戦略とスポーツ・イベント
(4)スポーツ産業とスポーツイベント

7．広告規制と広告法規

(1)広告の社会的問題と広告規制
(2)広告法規の概要
(3)改正・広告法規の内容、ほか

〔教　材〕

「広告コミュニケーション新論」
日本経済新聞社

その他参考図書に関しては、授業時に随時指示したい。

〔成績評価の方法・基準〕

後期テスト（60%)(年２回定期試験）と出席（20%)、授業態度（20%）から評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

広告論Ｉの受講が望ましい。講義ノートがテスト時に重要となる。そのため授業中は、迷惑となる私語は厳禁、十分に講義内容を記録しておいて欲しい。

〔科目の位置付け〕
〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

コース必修科目のほか、広告論Ｉ、経営学、商学総論Ｉ・II、マーケティングＩ・II、流通論Ｉ・IIなど。

C 64	商学総論 I	2単位	柳川高行

〔講義目的〕

商学総論とは、**商業活動（商人の活動）**を主たる研究対象とするものであり、**製造業**を対象とする**経営学**とは基本的内容を異にする。

商学総論は、さらに商業活動が円滑に営まれる為に必要な補助的活動（金融、保険、物流、倉庫、宣伝広告、貿易実務等）をも幅広く取り上げる科目である。

商学総論 I では、講義者の講義能力の限界と学生の理解を深めたいという 2 つの理由から「**日本**」の「**流通**」と「**流通企業**」の「**理論的・実証的分析**」を行なう。本年度は、「第 2 次大戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成」という統一テーマで講義を行なうこととしたい。それによって商業学の面白さを受講生に十二分に納得してもらうことを最終的に目指したい。

〔講義内容〕〔講義のすすめ方〕

1．商業の誕生と発展
1－1．商業の歴史的発生
1－2．商業の語源的考察
　－ 「あきない」とは何か －
1－3．商業（問屋、小売り）の社会的機能
　－ 運送・貯蔵・取引回数の節約 －
1－4．日本の商業の現状
　－ 圧縮された発展とJapanization －
2．戦後の小売業の革新と集団勝利ゲームの形成
2－1．百貨店と商店街の時代
2－2．メーカーによる流通革命
　a)家電系列店
　b)化粧品チェーン店
2－3．家電系列店から家電量販店そして家電ディスカウント店への推移
　ケース・スタディー　コジマ（宇都宮市）
2－4．百貨店の現状と未来
　a)上野さん（宇都宮市）はなぜ倒産したのか
　b)百貨店の欠点を明らかにした郊外型紳士服専門店チェーン
　c)百貨店の新しい在り方――ケース・スタディー　ノードストローム百貨店
2－5．大型スーパーマーケットによる流通革命
　a)林周二による流通革命論
　b)大型スーパーの価格破壊とスーパーと消費者の集団勝利ゲームの形成
　c)ケース・スタディー　ダイエーの隆盛と没落
2－6．食品スーパーマーケットの誕生と成長
　a)ケース・スタディー　ヤオコー（埼玉県）
2－7．コンビニエンスストアと新流通革命
　a)品揃え便利性と情報小売業
　b)ケース・スタディー　セブンイレブン
補論 1．ヤマト運輸の宅急便ビジネス
補論 2．すかいらーくのファミリーレストランビジネス
3．マーケティングへの招待（時間に余裕がある場合のみ取り扱う）

〔教　材〕

『商学総論講義ノート（改訂増補版）』
上岡一嘉・柳川高行共著　1995年
白鷗大学出版局

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験70%：提出レポートは30%で評価する。成績評価に際して個人的事情は一切考慮しない。

〔履修のポイント・注意点〕

1．商学総論 I のみを受講してもよろしい。
2．講義は 1 回毎に 1 つのトピックで完結するスタイルで行なう。
3．1 回の講義の理解に必要なキーワードを講義開始時に提示し、講義中に分かり易い説明を与える。
4．“Be quiet or get away” policy
私語する学生は教室から引きずり出すので予め承知しておくこと。
5．授業は定刻通りに開始される。教師・学生ともに遅刻しないことを共通のルールとしたい。
6．試験は学生間のうわさ通りに相対的に厳しく、論述式で試験時間一杯かかる位の分量である。楽勝科目とは正反対の辛勝科目である。きちんと勉強すれば得るものが多いことは保証するが、単位に相応する学習コストは学生に負担してもらう。そのことを十分認識して受講を決定して欲しい。

C 65	商学総論 II	2単位	根本昭二郎

〔講義目的〕

わが国の商業、経営学の先駆的文献を取りあげ紹介しながら講義を進める。

本講義では、商学総論Ⅰに続いて商学総論Ⅱとして企業経営における市場調査を中心に学習する。

上岡一嘉先生「マーケティング」の歴史的研究書から近代経営とマーケティング、市場調査と市場分析の概要を学習することを目的とする。

市場調査は、マーケティング調査として企業のマーケティング活動の効果、マーケティング意志決定や問題解決のため活用されている。

〔講義内容〕、〔講義のすすめ方〕

本講義では、近代経営とマーケティング、マーケティングリサーチと市場分析の役割をとりあげ、リサーチ、サーベイ、アナリシスの概念を明らかにする。さらに企業経営におけるマーケティング調査、調査の実施方法についても取り上げ、各企業で頻発に利用されているメディア調査、視聴率調査・広告調査など具体的な内容事例をとりあげて行きたい。

1．近代経営とマーケティング
2．上岡マーケティングの概要
3．上岡マーケティングの今日的意義
4．市場分析の研究
5．マーケティング調査と実態調査
6．日本企業の調査実施状況と問題点
7．マーケティング調査実施の方法
8．企業におけるメディア調査と広告調査
9．主要調査の種類と内容
 (1)コミュニケーション効果調査
 (2)媒体接触効果調査
 (3)キャンペーン効果調査
 (4)販売効果調査とホームスキャン調査
 (5)イメージ効果調査
 (6)広告表現効果調査
 (7)広告効果調査の事例
10．テレビ視聴率調査とは
 各視聴率の意味するもの（平均視聴率から最高視聴率とは）
11．ミノル・メータによる視聴率、ＰＭとは
12．視聴率とは
13．1997年度より開始されたＰＭ式個人視聴率調査
14．視聴率３冠王とは、タレント調査からのタレント人気度
15．広告調査の実際例
 (1)米国でのコミュニケーション効果の例
 (2)日本の新聞広告・雑誌広告の事例
 (3)テレビＣＭ効果評価システム
 (4)テレビＧＲＰの関連分析
 (5)広告の累積効果とブランド・エクィティ
16．米国調査界の将来と市場規模、など

〔教　材〕

「マーケッティング―近代経営技術としての市場開拓」―浜野毅・上岡一嘉共著
「商学総論講義ノート（改訂増補版）」
 上岡一嘉・栁川高行著　1995年
 白鷗大学出版会
「新世紀へのマーケティング研究発展史」
 白鷗大学論集第13巻１号、２号

〔成績評価の方法・基準〕

後期テスト（60%）と出席状況（20%）、受講態度（20%）から判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

講義ノートがテスト時に重要となる。そのため授業中は迷惑となる私語は、厳禁、十分に講義内容を記録しておいて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

コース必修科目のほか、商学総論Ⅰ

C 66	金　　融　　論	2単位	今井　　澂

〔講義目的〕
　金融システムと金融メカニズムについて、順を追って体系的に解説。金融機関に就職してエキスパートを目指そうとする学生への道しるべとしたい。

〔教　　材〕
参 考 書　「金融入門（島村高嘉）」
　　「図解日本版ビックバン（今井澂）」
　　（共に東洋経済新報社刊）
ただし毎回その日の新聞（日本経済新聞）を持参のこと。教材として使うことが多い。

〔講義内容〕
　必ず間近の経済ニュースの読み方、将来自分で就職する折の時代の流れ、社会人になったあとでは遅い。学生時代に勉強しておくべき知識、など10～15分話をしてから本題に入る。出来るだけレジュメをプリントにして配布。

〔成績評価の方法・基準〕
　年２回のテスト。それに毎回でないがたまに行なう出席カードも参考にして成績は評価。ただしあく迄も参考程度。

〔講義のすすめ方〕
　最低の金融知識でも持っていないと、金融ビックバンの進行によるグローバルスタンダード化で社会が激しく変化している現在。極端な表現をとると生き延びられない。基礎的なファンダメンタルな知識と変化してゆく現在を理解するのが目的。なお私の講義は希望した聴講生が真剣に聞くことを前提とするので私語はつつしんで頂く。

C 67	流　通　論　Ⅰ	2単位	根 本 昭二郎

〔講義目的〕

マーケティングは、欧米企業の部門名をはじめ国際機関ＩＯＣでもマーケティングが重要な役割を果している。日本のマーケティング導入は、1955年10月日本生産性本部の米国派遣トップマネジメント視察団報告だった。これを契機に日本は、マーケティングに開眼し、各企業でマーケティングの導入、採用がなされた。

ところがこの視察団報告より２年前に日本で初めてマーケティングの書名の学術研究書第１号が出版された。1953年、浜野毅（東芝副社長、東芝商事社長を歴任）上岡一嘉先生共著「マーケッティング」である。この単行本は日本最初のマーケティング歴史的文献の栄誉を担った経営学不朽の名著書となった。

現在、日本全国の多くの大学でマーケティング講座が開設され、多大のマーケティング本が出版されている。上岡一嘉先生は言うまでもなく本学初代理事長・学長であった。上岡先生がいかに先見性と予知性、そして進取精神と行動力のある理事長であったかが分る。筆者は、上岡先生から出身大学院で指導を受けた者である。本講義はその不朽の名著（国会図書館に一冊あるだけ）を紹介しながらマーケティングと流通問題をとりあげて行きたい。

〔講義内容とすすめ方〕

マーケティングと流通問題を中心に下記内容の講義を予定している。

オリエンテーション

１．日本のマーケティング導入期に果した先達

近代経営技術としての市場開拓、マーケッティングについて、販売機構とは。

２．マーケティングと流通、流通の機能と流通産業

３．流通産業としての主要小売業

百貨店、スーパーマーケット、ＧＳとＧＭＳ、コンビニエンスストア、ＤＩＹ、ボックスストアなど

無店舗小売業の種類

組織化小売業の種類

代理商と代理店

主要小売業を要約すると

４．仕入と商品管理

⑴仕入管理

⑵仕入と商品計画

⑶仕入システム

⑷仕入先関係

５．商品管理

⑴商品管理の意義

⑵商品管理の内容など。

〔教　　材〕

「マーケッティング―近代経営技術としての市場の開拓―」

浜野毅・上岡一嘉共著　丸善

「現代マーケティング」

原田俊夫著　前野書店

「新小売マーケティング」　宇野政雄編著　実教出版

「新世紀へのマーケティング研究発展史」

白鷗大学論集第13巻１号、２号

〔成績評価の方法・基準〕

前期テスト（60%）と出席状況（20%）、受講態度（20%）から判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

セメスター制をとるが「流通論Ⅰ・Ⅱ」通年の受講が望ましい。講義ノートがテスト時に重要となる。そのため授業中は迷惑となる私語は厳禁、十分に講義内容を記録しておいて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

コース必修科目のほか特にない。

C 68	流　通　論　II	2単位	根 本 昭二郎

〔講義目的〕

生産と消費の間には、場所的、時間的、人的へだたりがある。これらを結びつける流通の働きとして輸送、保管、売買という諸機能があげられる。これら売買活動の遂行機関としての流通業、小売業の機能高度化問題をとりあげる。マーケティングと流通問題について政策的、専門的な問題をとりあげ、これら問題を学習、実習することを目的とする。

〔講義内容とすすめ方〕

流通業、小売業の高度化問題を中心に下記内容の講義を予定している。

1．販売計画と販売管理
　販売計画、販売管理の意義
2．販売計画
　(1)販売計画立案の前提要件
　(2)売上予算の算定プロセス
　(3)固定費と変動費
　(4)季節変動
3．販売管理の諸問題
4．販売員管理と能力開発
　(1)販売員の役割と重要性
　(2)販売の概念
　(3)小売の四要素
　(4)販売員の重要性
　(5)販売員による販売プロセス
5．販売員管理、その目的と範囲
　(1)販売員管理の目的と重要性
　(2)販売員の募集と選考
　(3)販売員の採用基準
　(4)能力開発と販売員訓練
　(5)能力開発の意義
　(6)販売員訓練の必要性
　(7)販売員の報酬
6．流通近代化とセールスイベント
　(1)活性化と商業集積事業
　(2)流通近代化をはばむネック
　(3)近代化のための街づくりマーケティング
　(4)近代化、高度化のためのマーケティングイベント
7．商店街セールスイベントの展開法
　(1)商店街イベントをどう考えるか
　(2)商店街イベントをどう展開するか
　(3)商店街イベント展開の留意点と評価法
　(4)イベントのタイプとセールスイベントの実際
　(5)年間イベントをどう活用するか
　(6)セールスイベントとクーポン
8．物的流通システムと管理問題
　物流と物流機能など
9．流通機構と流通政策
　流通政策と流通系列化
10．ビックバンと規制緩和、流通政策の変化
　(1)米国、英国では……
　(2)構造協議と規制緩和
　(3)規制緩和と流通政策の変化
11．21世紀の流通ビジョンを考える
　(1)小売業はどうなるか
　(2)流通での技術革新
　(3)流通情報システムと電子マネー
12．21世紀の流通ビジョン課題と展望
　(1)電子商取引
　(2)流通・物流の将来像

〔教　　材〕

流通Ⅰの参考書のほか授業時に指示したい。

〔成績評価の方法・基準〕

後期テスト（60%）、出席状況（20%）、受講態度（20%）から判定する。

〔履修のポイント・注意点〕

セメスター制をとるが「流通論Ⅰ」の受講が望ましい。講義ノートがテスト時に重要となる。そのために授業中は迷惑となる私語は厳禁、十分に講義内容を記録しておいて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「流通論Ⅰ」など。

C 69	保　険　論　Ⅰ	2単位	戸出正夫

〔講義目的〕

保険はハムラピ時代から存在したという。人類の知恵が産んだ理論の商品である。現在、われわれの周りを見ると、健康保険、雇用保険、厚生年金保険のような社会保険があるかと思えば、人の生死に関する生命保険もある。また、自動車保険、火災保険、海上保険に代表される損害保険もあれば、最近では各種の共済も保険たる資格を持つものが多い。研究の過程にあっては、精緻な理論に出くわす難しさは否めないが、実際に生じた生々しい事件も登場し、興味は尽きないであろう。そして、無形の商品である保険の研究を通じて、論理的思考を身に着けることが本講座の最終目的である。

〔講義内容〕

(1) 保険に関する学問……保険の学問にはどのようなものがあるのか。研究手法はどうか。独仏流の研究と英米流のそれとはどう違うのか。
(2) 保険の語義……「保険」という言葉はどこから来たのか。その語義は……？
(3) 保険の必要性……保険の必要性を理論立ててみるとどうなるのか。
(4) リスクマネジメント論……リスクマネジメント論の内容を紹介し、保険論との関係を探る。米国のそれと米国以外の国のリスクマネジメント論とはどう違うのか。
(5) 保険の本質……ある経済施設が「保険」であるための要素は何か。
(6) 保険類似制度……保険類似制度にはどのようなものがあるのか。その研究を通じて保険の理解を深める。
(7) 保険の限界……「リスク在るところ保険在り」といわれるが、正しいのか。
(8) 保険の経済的効用……ミクロ的効用とマクロ的効用とに分けて考えてみよう。今まで考えもしなかった保険の効用が浮き彫りにされる。
(9) 保険学説……保険とは何か！　未だに定説がない。19世紀末から現在に至る保険の定義論争を概観する。
(10) 保険の分類……分類学は学問の基礎である。あらゆる角度から保険の分類を試みる。
(11) 保険の歴史……前史、海上保険・火災保険・生命保険・社会保険の生成。
(12) 保険関係法……主として保険業法について考える。

〔講義のすすめ方〕

本講座では多様な保険の中身（いわゆる保険商品）そのものを研究するのではなく、経済社会における制度としての保険を経済学、経営学、法学それぞれの立場から分析し、保険の源流にまでさかのぼって、その意義を明らかにすることを目的とする。その意味で本講座は独仏流の「保険総論」である。

〔教　材〕

教科書　教科書は用いない。講義要綱を出席受講生にのみ配布する。
指定図書　「保険論［第八版］」鈴木辰紀編　成文堂発行　3,150円
「保険入門」木村・近見・安井・黒田著　有斐閣新書　979円
「保険総論」亀井利明著　同文舘発行　2,884円
「ロイズ・オブ・ロンドン」1,200円　木村栄一著　日本経済新聞社発行
参考図書　「損害保険概論」木村栄一・高木秀卓著　有斐閣発行　2,400円
「現代の生命保険」刀禰俊雄・北野実著　東京大学出版会発行　2,575円

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価はテストによる。（定期試験期間中１回）

〔履修のポイント・注意点〕

本講座はテキストを用いないので、ノートを上手にとらなければならない。板書されたものを単に引き写すだけではノートとはいえない。複雑な理論や箇所は口述速記方式でノートを完成するようにする。

〔科目内容の位置付け〕

保険の学問は総合科学である。経済学、経営学、商学、法学のみか、数学、工学、医学等にも及ぶ。本講座では問題を絞り、保険の経済学、経営学的基礎を取り扱う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

総合科学であることから、あらゆる学問が関係してくる。問題を絞っても、交通論や貿易論、金融論、マーケティング、民法等は修得しておくことが望ましい。また、同時に保険論Ⅱを履修することが望ましい。

C 70	保　険　論　II	2単位	戸出正夫

〔講義目的〕

一般に保険は『商品』と表現されることが多い。例えば、新しい保険が誕生すれば、それは「新商品」といわれるし、商品固有の言葉である『販売』も「○○保険の販売」というように用いられる。しかし、保険を経済学の立場でみれば一種の経済「施設」であり、これを経営学の立場でみれば金融「制度」であり、法学の立場でみれば保険「契約」そのものであって、軽々に商品というのは間違っていることが分るであろう。保険がそのような施設であり、制度であり、契約であるとしたならば、そこには自ずから一定の法則ないし保険という世界における規範のようなものが存在するはずである。その法則ないし規範のよって来たる所以と内容とを契約論の形式により研究するのが本講座の目的である。研究の過程にあっては、精緻な理論に出くわす難しさは否めないが、実際に生じた生々しい事件も登場し、興味は尽きない。そして、保険の研究を通じて、論理的思考を身に着けることが目的である。

〔講義内容〕

(1)国家による保険の監督　(2)損害保険の分類　(3)保険法の特色　(4)保険法の法源　(5)保険約款の拘束力　(6)保険契約の性質　(7)保険契約の当事者　(8)保険契約の関係者　(9)他人のためにする保険契約　(10)告知義務　(11)保険の目的　(12)保険事故　(13)保険期間　(14)保険料期間　(15)被保険利益　(16)保険価額　(17)保険金額　(18)超過保険(重複保険を含む)　(19)一部保険　(20)保険料支払義務　(21)保険代位　(22)契約当事者・関係者の義務　(23)保険契約の終了

〔講義のすすめ方〕

本講座は、保険論Ⅰと同様、保険の中身(いわゆる保険商品)そのものを研究するのではない。その基礎となる保険の各要素を契約論的アプローチにより、掘り下げようというのである。諸君が十分それらを理解したときは、諸君はそれぞれの保険の「契約のしおり」ないしパンフレットを読むだけで、その保険の内容を把握する能力を身に着けているであろう。以上の研究項目に従い、実際に生じた事件や判例を渉猟しつつ講義を進めて行くが、講義当日までに日本経済新聞に登載された保険記事、保険関連記事(社会面を除く)を解説する。経済界の動きを単に知るだけではなく、また新聞記事を鵜呑みにするのではなく、ニュース・ソースやニュース・レリースに至った経緯も推察しつつ新聞記事を読み込んで行く習慣を身に着けて欲しいからである。

〔教　材〕

教科書　講義要綱を二・三回に分けて、出席受講生にのみ配布する。

指定図書　「新版保険業法」石田満著
損害保険事業総合研究所出版
5,000円
「新版現代保険法」田辺康平著
文眞堂出版 4,800円
「保険法［新版］」西嶋梅治著
悠々社出版 3,700円
「商法Ⅳ(保険法)」石田満著
青林書院出版 4,000円
「分りやすい失火責任法の理論と実務」戸出正夫著
保険研究所出版　2,000円

参考図書　「損害保険概論」
木村栄一・高木秀卓著
有斐閣発行　2,400円
「現代の生命保険」
刀禰俊雄・北野実著
東京大学出版会発行　2,575円

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価はテストによる(定期試験期間中1回)。

〔履修のポイント・注意点〕

本講座は30頁程度の講義要綱を用いるだけなので、ノートを上手にとらなければならない。板書されたものを単に引き写すだけではノートとはいえない。複雑な理論や箇所は特に注意して講義内容をノートしなければ、理論の誤解や消化不良を起こしてしまう。

〔科目内容の位置付け〕

保険の学問は総合科学である。経済学、経営学、商学、法学のみか、数学、工学、医学等にも及ぶ。本講座では問題を絞り、保険契約論(商学)の立場で保険契約の中身を検証する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保険の学問が総合科学であることから、あらゆる学問が関係してくる。しかし、契約論の立場からいうと保険論Ⅰ、保険契約法(商法Ⅳ部)、民法、貿易論、金融論等と深く関わりあいを持つ。

C 71	ネットワーク社会の経済学 I	2単位	大内秀明

〔講義目的〕
ポスト工業化社会をネットワーク社会、ないし知識社会として捉え、その経済理論を解明する。

〔講義内容〕
日本経済もアジアの工業化などにより、ポスト工業化の新しいステージを迎えた。ポスト工業化による日本経済のサービス化・ソフト化の新しい現実を明らかにするとともに、その課題について、経済理論の再検討を試みつつ、多角的に分析する。

〔講義のすすめ方〕
講義は以下のような順序ですすめる。
(1) 世界経済と日本経済の新しい動き（概観）
(2) 産業構造のソフト化と経済循環
(3) 情報化と市場メカニズムの変容
(4) サービス資本と企業社会の転換
(5) 機械から知識集約化へ
(6) 労働者から生活者へ
(7) 労働組合からボランティア組織へ
(8) 高まる女性労働力の役割
(9) 老人力の経済学
(10) 生活水準の高度化と時間消費型消費
(11) 知識社会と生涯教育の時代

〔教　材〕
教科書　『知識社会の経済学』
大内秀明著　日本評論社
『東アジア地域統合と日本経済』
大内秀明著　日本経済評論社
参考書　講義の中で適宜指示する。
参考資料　関連した資料をプリントして適宜配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
試験は、前期・後期それぞれ1回づつ行う。
試験の成績および出席状況、学習態度などにより総合的に評価のうえ単位を認定する。

〔履修のポイント・注意点〕
教科書を使用して講義を進めるが、教科書通りの内容ではなく、新しいデータ、資料などを配布して講義をおこなう。したがって、講義には必ず出席し、教科書を自習して、講義をきくことが望ましい。講義は、できるだけ解り易く説明するが、ノートをとる訓練も大切である。ノートを準備し教室に必ず持参すること。

〔科目内容の位置付け〕
経済学の基礎的な知識をふくめて講義をおこなうので、高校の政治・経済、現代社会などの教科内容の知識があれば、十分理解できる内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
ネットワーク社会の経済学IIとは、セットになった講義であり、ぜひ両方を履修することが望ましい。

C 72	ネットワーク社会の経済学 II	2単位	大内秀明

〔講義目的〕
ポスト工業化社会をネットワーク社会、ないし知識社会として捉え、その経済理論を解明する。

〔講義内容〕
日本経済もアジアの工業化などにより、ポスト工業化の新しいステージを迎えた。ポスト工業化による日本経済のサービス化・ソフト化の新しい現実を明らかにするとともに、その課題について、経済理論の再検討を試みつつ、多角的に分析する。

〔講義のすすめ方〕
講義は以下のような順序ですすめる。
(1) 世界市場の変容と国際経済システム
(2) ソフト化社会と地域空間
(3) 競争社会から協創時代へ
(4) 金融寡頭システムの崩壊と生活者金融
(5) 租税国家の破綻と地域主権共同体
(6) 景気循環の消滅とニューエコノミー
(7) 世界史の大転換と経済学のパラダイムシフト

〔教　材〕
教科書　『知識社会の経済学』
大内秀明著　日本評論社
『東アジア地域統合と日本経済』
大内秀明著　日本経済評論社
参考書　講義の中で適宜指示する。
参考資料　講義に関連した統計資料などをプリントして適宜配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
試験は、前期・後期それぞれ1回づつ行う。
試験の成績および出席状況、学習態度などにより総合的に評価のうえ単位を認定する。

〔履修のポイント・注意点〕
教科書を使用して講義を進めるが、教科書通りの内容ではなく、新しいデータ、資料などを配布して講義をおこなう。したがって、講義には必ず出席し、教科書を自習して、講義をきくことが望ましい。講義は、できるだけ解り易く説明するが、ノートをとる訓練も大切である。ノートを準備し教室に持参すること。

〔科目内容の位置付け〕
経済学の基礎的な知識をふくめて講義をおこなうので、高校の政治・経済、現代社会などの教科内容の知識があれば、十分理解できる内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
ネットワーク社会の経済学Iとは、セットになった講義であり、ぜひ両方を履修することが望ましい。

C 73	経　　済　　学	4単位	沖津　直

〔講義目的〕
　経済の考え方・見方を修得するために経済の基本原理を学習する。このような原理を束ねた経済原理を一通り学ぶことによって、現実の経済現象やその動きがわかってくる。充分に学んでおけば、自ずとテレビの報道や新聞の経済記事を読んで内容が理解でき、また、進学や公務員・就職試験に非常に役立つ。

〔講義内容〕
　前半に、ミクロ経済学（価格理論）を学習する。ミクロ経済学は、市場経済下における消費者および企業の合理的経済行動を体系化した学問である。市場において、個々の経済主体の合理的経済行動を通じて形成される経済社会は、優れた経済効率性を発揮する。その経済効率性とはどういうものか。また、市場経済の機能と限界とは何か。
　後半では、マクロ経済学（所得理論）を学習する。ここでは、国民所得決定の理論が中心となる。1936年に初めてＪ．Ｍ．ケインズによって明らかにされました。それは、「有効需要の原理」と呼ばれている。マクロ経済学は、経済全体の集計量の動きに関心を集中する学問である。

〔講義のすすめ方〕
　授業は以下の順序で進めるが、現実に関連付けてなるべくわかりやすく説明する。
1　需要・供給
2　消費者行動の理論
3　企業行動の理論
4　完全競争市場と効率性
5　資源配分とパレート最適
6　不完全競争市場（独占、寡占、独占的競争）
7　公共財、外部性
8　不確実性、不完全情報の経済学
9　ＧＤＰ、国民所得の諸概念
10　均衡国民所得決定の理論
11　乗数理論
12　政府、外国貿易と国民所得
13　貨幣の需要と供給
14　ＩＳ－ＬＭ曲線
15　経済政策と国民所得
16　景気循環と経済成長
17　インフレーションとデフレーション

〔教　　材〕
教 科 書　開講時に指示する。
指定図書　「入門マクロ経済学」
　　中谷巌著　日本評論社
「ミクロ経済学」
　　伊藤元重著　日本評論社
「入門・ミクロ経済学」
　　井堀利宏著　新世社
「入門経済学」
　　伊藤元重著　東洋経済
「入門経済学」
　　スティグリッツ著　東洋経済

〔成績評価の方法・基準〕
　年２回の定期試験の結果　75％
　出席状況等　25％

〔履修のポイント・注意点〕
　授業を休まないこと。
　私語をしないこと。
　また、グラフを念頭において理解していって下さい。練習問題も数多く解いてみて下さい。

〔科目内容の位置付け〕
　理論経済学であり、経済学の基本的な内容である。経済や経営の多くの科目と関連する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　履修を前提とする科目は特にないが、具体的に練習問題を解く時は数学を使うので、数学がわかっていると理解の助けになる。

C 73	経　　済　　学	4単位	吉川　薫

〔講義目的〕
　この講義では経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察します。これにより現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える目を養います。

〔講義内容〕
　経済学とはどのような学問かを概説した後、ミクロ経済学（価格理論）、マクロ経済学（所得理論）を講義する。
1．経済学とは何か
2．経済学的な考え方
3．取引と貿易
4．需要・供給と価格
5．需要・供給分析の応用
6．時間とリスク
7．公共部門と経済学
8．マクロ経済学と完全雇用
9．経済成長
10．失業と総需要
11．インフレーション

〔講義のすすめ方〕
　なるべく現実の経済問題や日本経済の現状に関連付けて、経済学の基礎理論を講義します。テキスト等にしたがって複雑な経済の動きや現実の経済問題をミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論からどのように考えればよいかできるだけ分かりやすく説明するようにします。

〔教　材〕
教科書　「入門経済学」（第2版）
　　J．E．スティグリッツ著
　　東洋経済新報社
参考書　「入門／経済学」
　　伊藤元重著　　日本評論社
　　「ゼミナール経済学入門」
　　福岡正夫著　　日本経済新聞社
　　「ゼミナールミクロ経済学入門」
　　岩田規久男著　　日本経済新聞社
　　「入門マクロ経済学（第4版）」
　　中谷　巌著　　日本評論社
　　「経済学をまなぶ」（中公新書）
　　岩田規久男著　　中央公論社
　　「ケインズ」（ちくま新書）
　　吉川　洋著　　筑摩書房

〔成績評価の方法・基準〕
・定期試験およびレポート等の結果：80%
・出席状況：　　20%

〔履修のポイント・注意点〕
　テキストを十分読むとともに、自分自身でよく考えるため復習問題、練習問題を解いてみること。
　講義中の私語は厳禁。

〔科目内容の位置付け〕
　経済学の入門編であり、経済を見る目を養うため身につけておくべき基礎科目です。他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも基礎となるものです。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：特にありませんが、数学（関数・微分など）がわかっていると理解が容易になります。
関連科目：現代経済など経済関連科目

C 74	財　　政　　学	4単位	吉 川・(浅 羽)

〔講義目的〕

本講義では、受講者が、仕組みや内容、果たしている役割など、財政について、基本的な理解ができるようになることを第一の目的とする。また、より深い研究を志す者にはそのきっかけを与えられるように、財政に関するさまざまな問題点や課題を取りあげる。さらに、国の一般会計に限らず、地方財政や財政投融資制度などにもふれることで、各種試験にも対応可能な幅広い知識を得られるようにする。

〔講義内容〕

1．財政学とは何か
　財政の意味と目的、財政の範囲と分類、予算編成から決算までの流れ、経済と財政の関係、生活と財政
2．国家財政の使いみち
　歳出の内訳、公共事業関係費、社会保障関係費、国債費、特別会計の歳出、財政投融資の仕組みと使途
3．国家財政の資金繰り
　歳入の内訳、国債、特別会計の歳入、財政投融資の原資、財政収支・政府債務残高、財政赤字の問題点
4．税制の特徴と実態
　税の構成と特徴、所得税・住民税、法人所得課税、消費税、資産課税
5．地方財政
　地方の予算の枠組みと決まり方、地方歳出の規模と内訳、普通建設事業費、地方歳入の内訳、地方税、地方交付税・国庫支出金、地方債、地方自治体の財政状況
6．財政に期待される役割と今後の課題
　財政政策の目的・手段・功罪、財政再建はなぜ成功しないのか、税制改革の行方、地方分権と地方財政、公会計のバランス・シート

〔講義のすすめ方〕

まず、財政の基本的な仕組みと基礎的な知識を概説する。そのうえで、現在の日本財政の抱える具体的な問題などを紹介することにより、受講者の問題意識の涵養や自分なりの解決策の模索につながるようにする。国の一般会計に限らず、地方財政や財政投融資制度など財政全般について取り扱う。

〔教　　材〕

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参 考 書：井堀・土居（2000）『財政読本』東洋経済新報社
小村　武（1992）『予算と財政法〔改訂版〕』新日本法規
浅羽隆史（2001）『手にとるように財政のことがわかる本』かんき出版

〔成績評価の方法・基準〕

学期末試験により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

教科書を用いないので、欠席すると該当部分の履修が困難となる。必らず出席して、講義内容や配布資料を理解することが肝要である。

〔科目内容の位置付け〕

基礎科目のひとつと位置付けられる。ただし、講義内容には応用課題も含まれる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提となる科目はとくにない。経済原論をあわせて履修していると理解の助けになる。

C 75	経 済 地 理 学	4単位	奥 澤 信 行

〔講義目的〕

経済地理学は、地球上の経済活動のすべて、つまり農業・林業・水産業・鉱業・工業・商業などをその対象としているが、常に日本あるいは世界の具体的な地域を取り上げて、その分布の状況と成立要因を考察することを主眼としている。本講では、主として商業活動の地域的な展開を分析すると共に、工業生産についても触れてみたい。また商業活動・工業生産に不可欠な交通機関についても言及する。

授業では、都市における生産・消費活動を通じての地域の変容を論じるが、講義の中から「なぜこの地域では、このような経済活動が成立するのか？」と考える姿勢を学び取り、自分に関わりのある地域の存立要因を地理学的視点から考えてもらいたい。

〔講義内容〕

Ⅰ経済地理学の基本的課題
①経済地理学の位置付け
②立地の適応と決定
Ⅱ商業活動
①卸売業と小売業の分類
②小売業の形態の変容
③商圏の設定と競合部分の考察
Ⅲ工業生産
①工業生産の歴史的変遷
②立地条件の変容
③日本の工業構造と地域的展開の変容
Ⅳ輸送手段としての交通
①陸上交通（鉄道・自動車）
②水上交通（内陸水路・海上輸送）
③航空交通
④交通ネットワークの変容

〔講義のすすめ方〕

授業内容の順に従って講義するが、商業活動に関する内容は、時々刻々変化するので、最新の話題を取り上げる関係上、項目が前後することもある。

〔教　材〕

教科書は特に使用しない。地図帳を持っている学生は、これを持参し、授業で取り上げた地名をその場で確認することが望ましい。また必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書　『立地と空間－経済地理学の基礎理論－』上・下
Peter Dicken,Peter E. Lloyd著
伊藤喜栄　監訳　古今書院
『地域と産業－経済地理学の基礎－』
富田和暁著　大明堂

〔成績評価の方法・基準〕

年2回の定期試験の成績と出席状況で評価する。出席については、毎時間出席カードを1枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は3～4題を全問、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。年間授業時数の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

かなりの早口で講義するので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、しっかりと講義録を作成すること。また授業中に意見を求められた時、自分なりの考えをきちんと表明できることが望ましい。然るべき理由のない10分以上の遅刻は認めず、90分きちんと受講できる真面目な学生を希望する。

〔科目内容の位置付け〕

経済学と地理学の中間に位置するような科目であるが、地域性を重視した地理学にウェイトのかかった内容となっている。高校で地理を履修していない受講生にも考慮し、基礎的レベルである。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

地理学的なものの見方・考え方については、一般教育科目（教養科目）の地理学Ａ・Ｂで扱うので、これを履修済み、または履修中であることが望ましい。また教職課程の履修者は、地理学概論・地誌学概論と併せて本講を受講することで、中学校社会科地理の重要な指導項目である「地域の見方」をより深く理解することが可能であろう。

C 76	経　済　原　論	4単位	沖津　直

〔講義目的〕
　市場経済における消費者と企業および政府の経済活動と、それに関連する基本的な考え方や理論を学ぶと共に、経済社会における集計量としての消費、投資、所得などの循環的な構造と相互依存関係を学習する。経済理論を一通り学べば、現実の経済現象や経済問題がだんだんわかってくる。充分学んでおけば、どんな職業に就いても役立ち、今後の人生において社会をみる眼ができるであろう。

〔講義内容〕
　市場経済における消費者および企業の合理的な経済行動を体系化したミクロ経済学と経済全体の集計量の動きに関心を集中するマクロ経済学を講述する。前者では、消費者および企業の合理的な経済行動とそれを通じて形成される社会秩序のもとで、極めて優れた経済効率性が達成されること、そして、その経済効率とはどのようなものかについて学習する。また、市場経済の限界とは何かなどについて学んでいく。後者では、ケインズの『有効需要の原理』に基づく国民所得決定の理論を中心に学習する。

〔講義のすすめ方〕
　具体的には、ミクロ経済学では消費者行動理論、企業行動の理論を中心に、また、マクロ経済学では国民所得決定の理論を中心に授業を進めていく予定だが、現実の経済に則して、あるいは身の回りの経済行為を例にとってなるべくわかりやすく講述するつもりである。また、内容の適確な理解を身に付けていくために、各章ごとに練習問題や、就職・公務員試験の問題を解くなどの演習を取り入れていく。

〔教　材〕
教 科 書　開講時に指示する。
指定図書　「入門マクロ経済学」
　　中谷巌著　日本評論社
「ミクロ経済学」
　　伊藤元重著　日本評論社
「入門・ミクロ経済学」
　　井堀利宏著　新世社
「入門経済学」
　　伊藤元重著　東洋経済
「入門経済学」
　　スティグリッツ著　東洋経済

〔成績評価の方法・基準〕
　年２回の定期試験の結果　75%
　出席状況等　25%

〔履修のポイント・注意点〕
　経済原論は体系的学問なので、前に習ったことがわかっていないと後の理解が困難になる。その意味で継続性が要求されるため、授業を休まないこと。また、それなりの成果を得るには年単位の期間が必要なので、そのつもりで取り組むこと。
　問題を解く時は数学も使う。

〔科目内容の位置付け〕
　欧米の資本主義諸国で発達した近代経済学の原理的な内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　履修を前提とする科目は特にないが、経済関連の科目はもちろんのこと、広く全ての社会科学に関連しているとも言える。

C 77	現　代　経　済	4単位	吉川　薫

〔講義目的〕
　新聞等の経済記事の内容を正しく理解し、自分なりの判断ができるように、現代の日本経済について戦後を中心としたその軌跡、現状・課題を経済統計と基本的な経済理論に基づき総合的に把握することを目的とする。それにより、現在の日本経済の抱える諸問題についてその背景、対応の方向を考察し、自分の考えをまとめられるようにする。

〔講義内容〕
1．日本経済の現状と世界経済に占める位置
2．90年代の景気低迷と戦後の景気循環
3．ＧＤＰと経済成長の要因
4．物価問題…インフレ・デフレと内外価格差
5．高齢化時代の財政…政府の役割とその変化
6．バブル崩壊と日本的金融制度改革のゆくえ
7．国際経済と日本の貿易
8．為替レート変動と国際金融
9．変わる産業構造…情報通信革命と規制緩和
10．経営革新と雇用問題
11．地球環境時代の人・政府・企業
12．日本経済の将来…持続的発展への課題

〔講義のすすめ方〕
　日本経済の現状や直面する経済問題について、それぞれのテーマ毎に現状・課題、歴史・理論、統計を総合的に講義する。その際、テキストに加え、白書や各種報告書など最新の情報や統計も利用するとともに、重要な経済用語、経済統計の見方も解説する。

〔教　材〕
教科書　「ゼミナール日本経済入門」（最新版）　日本経済新聞社編　日本経済新聞社
参考書　「入門・日本経済」（第2版）　浅子・篠原編　有斐閣
「初歩から学ぶ経済入門」　篠原・野間・入谷著　有斐閣
「現代日本経済」（有斐閣アルマ）　橋本・長谷川・宮島著　有斐閣

〔成績評価の方法・基準〕
- 定期試験およびレポートの結果：75％
- 出席状況等：　25％

〔履修のポイント・注意点〕
　新聞等の経済記事や論説など現実の経済問題に関心をもつこと。ただし、記事を鵜のみにするのではなく自分の頭で考えるようにする。テキスト・参考書等をよく読んでおくこと。
　定期試験以外にレポートを提出させることがある。

〔科目内容の位置付け〕
　日本経済を中心に現実の経済問題を読み解くための基礎を学ぶ科目である。経済学を踏まえ、経済統計等を使って現実の経済問題を考えていく。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：特になし
関連科目：経済学、経済政策、金融論など経済関連の科目

C 78	地域経済論	2単位	樋口兼次

〔講義目的〕
いま、「地方の時代」に関心が集まっている。経済のグローバリズムの進展は、一方でローカリズムの確立を促す。ヨーロッパの市場統合は「ユーロ」という統一通貨を生みだし、経済の一体化を急速に進展させているが、一方では地域主義の自覚を生み出している。日本も環太平洋と東アジアの2つのグローバルな市場統合の流れのなかで「地域経済」の自立が大きな課題になりつつある。
本講義は、こうしたグローバリズムの進展のなかで地域経済がどのように変貌してゆくか、自立のシナリオはどのようなものか、という問題を「北関東地域」をモデルとして考えたい。

〔講義内容〕
1．グローバリズムとは何か？
2．グローバリズムと市場統合…環太平洋経済圏と東アジア経済圏の流れ
3．ローカリズム、リージョナリズムとはなにか？
4．「地方」としての北関東地域の特質の北関東
5．資本蓄積構造と北関東地域の産業集積の特徴
6．　〃　　小山市の産業集積の特徴
7．「地方」から「地域」へ…自立の模索
8．北関東地域の産業集積の有利性
9．北関東地域の生産条件
10．地域情報、ＮＰＯ、市民参加と地域ネットワークの構築

〔講義のすすめ方〕
授業内容の1項目について、約2時限ずつの頻度で講義を進める。各項目について、参考図書、文献を紹介するので自主的に問題意識をもって勉強してほしい。

〔教　材〕
参 考 書　講義のなかで適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
中間レポート、定期試験などによる。
なお、前年の成績評価は、Ｓ５％人、Ａ20％、Ｂ35％、Ｃ20％、Ｄ10％，Ｈ10％であった。

〔履修のポイント・注意点〕
講義は諸君の勉強の一部分に過ぎず、勉強する主体は学生である。したがって、講義のなかでさらに勉強してみたいテーマを探して自主的に勉強してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
地域経済論は、経済学の実証的分野であり、理論研究、政策論研究、経営論研究、歴史的研究、国際比較研究などの学際的分野である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前 提 科 目：経済学
並行履修科目：経済地理学

C 79	国 際 経 営 論	4単位	張　承玖

〔講義目的〕

経済活動のボーダーレス化が急速に進んでいる昨今です。このように国際ビジネス環境がめまぐるしく変化する中、企業は，グローバル化・多国籍化を押し進め、複雑な「協調と競争」関係を内外で展開しつつ、さらなる発展を追い求めようとしています。

そこで、この授業では、国際経営論の基礎知識の解説から話を始め、具体的な事例を示しながら、国際経営論を考えることにいたします。また，さまざまな国際経営問題に関する「考え方や方法論の習得」と「国際経営知見の獲得」を目的といたします。

〔講義内容〕

前半：企業がなぜ海外に進出するのだろうか、つまり多国籍企業の活動を説明します。(WHY)

1．国際経営と多国籍企業とは何か
2．多国籍企業の理論展開
3．海外直接投資
4．日本企業のグローバル化

後半：企業はどのような方法でグローバル市場に参入すればよいのか、つまりいかに有効なグローバル戦略を構築すべきかを説明します。(HOW)

1．企業活動の評価基準と経営戦略
2．戦略と組織
3．ナレッジ・マネジメント
4．戦略的提携とマネジメント

[注] 講義回数の制約により、上記の講義内容に若干の変更もありえます。

〔講義のすすめ方〕

本講義は、国際経営の企業主体である多国籍企業の本質の検討をもとに、国際経営の戦略と組織面の学習に力点が置かれます。講義内容は全体としてやや抽象的な理論的側面が強いが、理論的な解説に終始せず、できる限り具体的なケースも進んで取り上げて、理論をベースとした実践的知識を受講者に与えるよう努めたいと思います。また、日本企業のグローバル化、その問題点と今後の課題についても考えます。

〔教　材〕

教 科 書　開講の際に指示します。
指定図書　『ボーダレス・ワールド』
大前研一著　田口統吾訳
プレジデント社
参 考 書　『国際経営』吉原英樹著
有斐閣アルマ

その他の参考書については、随時、必要であれば私の方から紹介していきます。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は、講義時間中の理解度小テスト（3回程度）、定期試験、出席率（授業への積極的参加度）などから総合的に判断します。出欠は毎回必ずとり、真面目な姿勢を評価します。

なお、以上の所定の水準をクリアすることが単位取得の条件です。

〔履修のポイント・注意点〕

本講義は理論と実際のケースを取り上げながら、全体として基礎的な考え方を深めることに重点を置きます。したがって、受講者には理論の学習と同様に、現実の企業を取り巻く経営環境に関心を持ち、新聞、雑誌などの関係記事に親しむことを期待します。

C 79	国際経営論	4単位	高橋浩夫

〔講義目的〕

近年の日本企業の海外進出は著しく進展している。特に、1985年以降の急速な円高は欧米諸国への企業進出はもとよりアジア諸国へも飛躍的な発展をみせている。このように企業が数ケ国で経営活動を行っている形態を多国籍企業と言う。多国籍企業がその経営活動を海外においてどうマネジメントを行うかを研究することが国際経営論の主要テーマである。本講義では歴史的に多国籍企業の発展を最初にみたアメリカ企業の海外展開やその戦略・マネジメント、そして日本の多国籍企業の歴史や特徴、今後の展望について学ぶ。

〔講義内容〕

①国際経営論の研究対象
②海外直接投資と多国籍企業
③多国籍企業の生成と発展
④海外進出戦略と所有戦略
⑤現地ナショナリズムと多国籍企業
⑥現地経営資源の活用と管理
⑦現地社会環境と企業危機管理
⑧企業のグローバル化と広報
⑨米国市場と日本企業
⑩欧州市場と日本企業
⑪アジア市場と日本企業
⑫中国市場と日本企業
⑬日本市場と外資系企業
⑭ケース・スタディー
キッコーマン、キャノン、本田技研工業、東レ、中堅中小企業等

〔講義のすすめ方〕

9月の第一回講義の時間に、年間の講義内容の計画を詳しく書いたものを配布する。講義はそれに従って日程通りに進めてゆく。

講義が一方的にならないように、受講者とのディスカッションも行ないたい。またケース・スタディーとしてビデオやOHPによる講義も行う。授業中の私語、遅刻、退席は厳禁である。

〔教　材〕

教科書　『研究開発のグローバルネットワーク』　高橋浩夫　文眞堂　￥2,800
参考書　『国際経営への招待』
吉原英樹編著　有斐閣
『国際事業の企業家精神』
高橋浩夫編著　中央経済社

〔成績評価の方法・基準〕

◇毎回の出席を重視する
◇年数回行う授業中での国際経営用語等に関するテスト
◇定期試験で評価する

C 79	国際経営論	4単位	藤井　健

〔講義目的〕

交通や通信手段の発達によって、情報やヒト、カネ、モノは、短時間で世界中を移動できるようになった。その結果、世界は、政治・経済をはじめ、あらゆる面で密接な関係を持つようになった。企業もこのような世界の動きと無関係ではいられなくなり、その活動は、あらゆる面でグローバルなつながりを考慮せざるをえなくなる。

本講義では、国際政治・経済の動きを大まかに把握し、それをもとにして、企業の国際活動がどのように行われ、どのような問題をもっているのかを解説し、今後、日本および日本企業はどのような方向に進んでいけばよいかを考える。

〔講義内容〕

①東西関係、南北問題、南南問題
②貧しい国はどうすれば豊かになるか
③世界経済に果たす企業の役割
④グローバル時代の国際ビジネス
⑤日本企業の国際化の展開
⑥躍進するアジアと日系企業
⑦アメリカ市場に挑戦する日本企業
⑧ヨーロッパの統合と日系企業
⑨国際貿易から直接投資へ
⑩貿易の実務
⑪日本的経営とグローバル経営
⑫人的資源のグローバル管理
⑬国際経営と文化
⑭ガンホー
⑮激変する政治環境と危機管理
⑯金融の国際化と多国籍企業
⑰国際財務と為替リスク管理
⑱地球環境問題と企業倫理
⑲在日外資系企業の経営
⑳日本企業の国際ビジネスの課題

〔講義のすすめ方〕

今、世界中でおきている出来事が企業活動にどのような影響を与えているか、また企業活動が世界中にどのような影響を与えているのかを具体的に事例を示しながら解説する。

〔教　材〕

教科書　『図説ガイドブック・国際ビジネス』
桑名義晴、他著　中央経済社

指定図書　『炎熱商人』深田裕介　文芸春秋
『大地の子』山崎豊子・文芸春秋
（夏休みが終わるまでに読んでおくこと）

参考書　『ビジュアル世界経済の基本』
日経文庫
『ベーシック貿易入門』日経文庫
『現代ビジネス用語』朝日出版社

〔成績評価の方法・基準〕

テスト　年2回
レポート　講義内容の理解を確認したり、予習の意味で、随時提出を求める。
判定基準　テスト（100点×2）、レポート（20点×2）の合計点に出席状況を加味して最終的な成績評価をする。

〔履修のポイント・注意点〕

国際経営は、今現在、世界中でおきている出来事と密接な関わりを持っているので、テレビや新聞のニュースに目を通しておくこと。それがそのまま授業の予備知識として必要になります。

また、教員の言ったことをただ写して覚えるだけでなく、自分ならばどう思うか、どう判断するかという意識を常に持ってもらいたい。授業の中に諸君の疑問や意見を盛り込む工夫をして、全員が積極的に参加する授業をめざす。

〔科目内容の位置付け〕

通常の「国際経営論」という科目は企業の国際戦略の問題を専門に扱う3・4年次に配当される専門科目であるが、（本学では「多国籍企業論」がこれに相当する）、本学の場合は、1年生が経営学に関係する国際問題を広く理解することを目的としており、そのため、扱う範囲は国際関係、国際政治・経済・貿易、国際金融、国際経営と多岐にわたる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

もともと国際経営は学際的な科目であるが、本学の国際経営論はさらにその色彩が強い。したがって、専門科目のみならず、語学、一般科目すべてが関連科目と考えてもらいたい。

C 80	国際関係論(概論)	2単位	波多野 裕造

〔講義目的〕

東西冷戦終結後すでに約10年が経過したが、未だ新しい国際秩序が確立されたとはいえない。各国間の相互依存関係が深まる半面、民族紛争や内戦が各地で多発している。安全保障や環境保護などの問題について地球規模の相互協力が不可欠となっている現在、国際関係を律している諸原理を理解することなしに国際社会の一員として生きていくことはむずかしい。かかる観点から「国際関係論とは何か」を概論的に説明、国際関係を構成している諸要素を分析・検討し、国際政治経済の本質を解明する。本講義の目的は国際関係の基本原理の理解に資することにある。国際問題の正しい理解・認識を得ることは、国際化時代を生きる人材に広く期待されているところであろう。

〔講義内容〕

国際関係の諸要素を理解する上で不可欠の基本的概念の講義と解説に力点を置いて以下の諸問題を考察する。

〔講義のすすめ方〕

講義は概ね以下のラインに沿って進められる。

1. 国際社会の基本的性格（主権国家／民族国家）
2. 絶対王政期の国際関係（ナショナリズムと自由主義／近代国家の成立）
3. 帝国主義時代の国際関係（帝国主義諸国の対立／国際平和と国際組織）
4. 第一次世界大戦（大戦の原因と結果／ヴェルサイユ体制の確立）
5. 戦間期の国際関係（ワシントン体制／ロカルノ体制／新たな対立）
6. アジアの変革（中国革命と満州／欧米列強への挑戦）
7. 第二次世界大戦（ヴェルサイユ体制の瓦解／ナチスの興亡／太平洋戦争の原因と結果）
8. 国際関係の主体（国家の要素と国家の目標／国家以外の主体／対外政策の決定と実行）
9. 国際関係の動態原理（バランス・オブ・パワーの効用と限界／ナショナリズムの力学／帝国主義とマルクス・レーニン主義）
10. 国際関係の組織化（国際法の特質と効力／国際連盟と国際連合／地域的機構／非政府組織）
11. 国際平和の維持（紛争の平和的解決／集団安全保障の問題点／自衛権／軍縮と軍備管理）
12. 第二次世界大戦後の諸問題（冷戦の展開／共産圏の動向／南北問題／冷戦の終結と国際関係の多様化）

〔教　　材〕

特定の教科書は用いない。講義に関連した参考書や文献資料等はその都度、授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

期末に行なう筆記試験と出席率（授業への参加度）を勘案して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

本講は基本的概念の解説に重点を置くが、過度に抽象的にならないよう、国際社会における具体例を引いて、できるだけわかりやすく説明するつもりであるので、国際関係を理解する上で必要不可欠な基礎知識としてその習得に努めてもらいたい。また限られた時間内の講義であるので、できるだけ欠席や遅刻をせず、意欲的に学習することを望む。

〔科目内容の位置付け〕

関連科目は国際法（国際関係の法的側面）、国際政治学（各国間の政治的事象の研究）、国際経済学（各国間の経済関係の分析）、外交史（国家間の外交交渉の経緯の解明）等であるが、国際関係論はすぐれて学際的な学問であるので、広範な知識が要求される。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

新カリキュラムでは法学、経済学両学部の国際関係論8科目が“相互乗り入れ”の形で、いずれの学部の学生であっても自分に興味のあるものを履修できることになった。しかし本講は各地域研究の基礎となるものであるので、地域研究科目に進む前に履修することが望ましい。

C 81	国際関係論(西欧)	2単位	波多野 裕 造

〔講義目的〕

現在ヨーロッパでは1992年の欧州連合条約(マーストリヒト条約)、97年の新ＥＵ条約(アムステルダム条約)のめざす欧州統合に向けて、関係諸国間の調整が進められており、1999年１月からは加盟国中11ヶ国で欧州単一通貨ユーロによる資本取引や銀行間決済が行なわれるようになった。2002年にはユーロの一般流通が始まる。さらにＥＵは、外交・安全保障といった政治面でも共通政策で結ばれた強力で安定した共同体としてのヨーロッパ建設を段階的に達成しようとしている。このヨーロッパの動きはアメリカは勿論のこと、日本にとっても極めて重要な意味を持っている。

本講座の目的は、現在、西欧諸国が中心になって進めている政治・経済・社会・文化といった広範な領域におけるヨーロッパの統合という世界史上未曾有の壮大な試みの社会思想史的背景や端緒を探り、これまでの過程を跡づけ、現代ヨーロッパの行方を解明することにある。

〔講義内容〕

主として第二次世界大戦後のヨーロッパの動向を分析し、これを通して欧州統合の齎す成果とその影響を解明するため、以下の諸問題を取り上げて行く。

1．ヨーロッパの源流
2．二度の世界大戦とヨーロッパ
3．第二次大戦後の世界とヨーロッパの再建
4．東西冷戦とヨーロッパの対応
5．新生ドイツの歩み
6．統合への様々な動き：欧州会議、OEEC、シューマン計画
7．冷戦の激化：朝鮮戦争のヨーロッパへの影響、西ドイツの再軍備、北大西洋条約機構、西欧連合
8．ローマ条約とイギリスの動向
9．福祉国家の建設と政治的安定
10．ヨーロッパ社会の変貌：1968年の学生運動、反核団体、フェミニズム、人種差別と極右勢力の台頭、ユーロコミュニズム
11．ブレトン・ウッズ体制の崩壊：石油危機と景気後退、マネタリズムの登場、社会福祉政策の破綻
12．ＥＵの拡大と深化：周辺地域の動向、連帯の強化、政治的統合への展望

〔講義のすすめ方〕

まずヨーロッパとは何かを考え、欧州統合への歩みを考察し、戦後体制の崩壊、新秩序の模索などを検証する予定であるが、時間的余裕があれば地域研究としてイギリス、フランス、ドイツなどヨーロッパ主要国を国別に取り上げることも考えている。

〔教　材〕

教科書　『第二次大戦後の世界－21世紀を考えるために』　波多野裕造他　北樹出版

参考書　『統合と分化のなかのヨーロッパ』　宮島喬・梶田孝道編　有信堂
『ＥＣ統合の深化と拡大』　日本ＥＣ学会編　有斐閣
『ヨーロッパ』上下　フローラ・ルイス、友田錫一訳　河出書房新社
『戦後再建期のヨーロッパ経済－復興から統合へ』　広田功、森建資編著　日本経済評論社
『ヨーロッパ統合と日欧関係－国際共同研究Ⅰ』　高柳先男編著　中央大学出版部

ほかにもヨーロッパ関係の刊行物は無数にあるので適宜参照のこと。

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験期間中に行なう筆記試験の結果と、日頃の授業への参加度（出席率や受講態度も学習意欲の指標として重視する）を勘案して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

「ヨーロッパとは何か」を知るためには、第二次大戦後に本格化したヨーロッパ統合への動きの背後にあるものを知る必要がある。それには政治・経済、社会、文化などあらゆる分野にわたる総合的な知識が要求される。欧州統合は現在も試行錯誤を繰り返しながら進行中のプロセスである。受講者は旺盛な知的好奇心を持って新聞やテレビで報道される関連ニュースにも十分注意し、絶えずＥＵの新しい動きをフォローするように心掛けることが大切である。

〔科目内容の位置付け〕

本講座は内容的にはEUの国際関係論的研究であり、総論的国際関係論を履修した者がさらに各論的に西欧の地域研究へ進むのに対応しようとするものである。従って、受講者は国際関係論(概論)の既履修者であることが望ましい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

政治思想史、ヨーロッパ史、なかでもイギリス史、フランス史、ドイツ史は本講座の内容と密接な関係がある。また国際コースの選択必修科目である「国際法」及び「EU法」は本講座と相互補完的な関係にあるので併せて履修することが望ましい。

C 82	国際関係論(東欧)	2単位	佐野　真

〔講義目的〕
一口に欧州と言っても“中欧”(ポーランド、チェコなど)、“バルカン”(旧ユーゴスラビア、ルーマニアなど)の範疇で呼ばれるように地理的に複雑、多岐にわたっている。本講座で扱う「東欧」という呼称は本来地政学的概念に由来するものであり、具体的には第二次大戦後ソ連の“衛星国家”となった中欧とバルカンの社会主義諸国を指す。本講座ではこの“東欧”社会主義諸国がどのようにしてソ連の勢力圏に組み込まれていき、どのようにしてソ連の支配圏から解放を勝ち取っていったかの軌跡を講師の現地取材を交えて講義する。

〔講義内容〕
本講座の内容は以下の通りである。
(1) 序論(戦後冷戦の開始と東欧の関わり)
(2) 第二次大戦と東欧諸国
(3) 東欧におけるスターリン体制の確立
(4) ソ連支配に抵抗する東欧諸国の歩み
(5) 東欧社会主義圏の崩壊の過程

〔講義のすすめ方〕
本講座の基本的フレームは旧東欧社会主義圏の生成、発展、崩壊の分析におかれている。まず序論として国際関係論とはどんな学問なのかについて体系的かつ歴史的に講義し、次に戦後の米ソ冷戦がどのようないきさつで開始され、それがソ連の東欧支配にどのように関わっていったかを軸に戦後国際政治史を概観する。こうした国際関係論、国際政治の基礎知識を講義した後本論の旧東欧社会主義圏の生成、発展、崩壊の分析に移る。

〔教　材〕
教科書　「第二次大戦後の世界－21世紀を考えるために－」
佐野真・波多野裕造・平山健太郎・掘宏共著　(㈱ 北樹出版)

〔成績評価の方法・基準〕
基本的には定期試験期間中のレポート提出によって評価するが、定期試験期間中の筆記試験の実施もあり得る。

〔履修のポイント・注意点〕
国際関係論は激変の可能性を秘めた国際政治、経済、社会を対象とする実践的学問であり、したがって流動する世界の動向への受講生の鋭敏な感覚と関心が要求される。真摯な取り組み方が切に望まれる。

〔科目内容の位置付け〕
国際関係論は国と国との関係、広い意味での政治、経済、文化が相互に交錯する場である国際関係のありようを分析する実証的、総合的社会科学の範疇に区分される学問である。したがって国際関係論には政治、経済、社会、宗教、科学、文化などの分野からの多角的なアプローチが可能な、いわば“学際的”な性格が付与されているのが特徴。このほか近年、国際関係論の新分野として「地域研究」がクローズアップされてきている。本講座はこの「地域研究」の側面から旧東欧社会主義圏の分析に重点を据えている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
本講座で扱うのは主として戦後の旧東欧社会主義圏であり、戦前の“中欧”、バルカンと戦後の“東欧”との歴史的連鎖を捉える上からも第一次大戦あたりからの欧州史を繙いておくことが望ましい。

C 83	国際関係論(ロシア)	2単位	佐野　真

〔講義目的〕

1917年のロシア10月社会主義革命で人類最初の社会主義国家として誕生したソ連邦は74年後の1991年12月に崩壊した。米国と世界覇権を競った社会主義超大国ソ連邦がかくももろく崩れ去るとは誰が予想し得たであろうか。ゴルバチョフ大統領のペレストロイカ（立て直し）路線によって蘇生し得るかに思えたソ連邦がなぜ短期間のうちに解体へ転げ落ちていったのか。

本講座ではこうした設問を踏まえてロシア革命から1930年代にかけてのソ連型社会主義体制の確立までの歩みをたどりながらソ連邦崩壊の原因を多角的に解明し、同時にソ連邦の“後継国家”としてのロシア連邦共和国における民主化、市場経済システム移行への現状分析、問題点などを明らかにする。

〔講義内容〕

本講座の講義内容は以下の通りである。

(1) 序論（戦後米ソ冷戦の歩みとソ連）
(2) 第一次大戦とロシア
(3) 帝政ロシアの崩壊から10月革命へ
(4) ソ連邦の結成からソ連型社会主義体制の成立へ
(5) ソ連型社会主義の行き詰まり、ソ連邦の崩壊へ

〔講義のすすめ方〕

本講座の基本的フレームはレーニンのロシア革命から説き起こし、ソ連邦の崩壊過程までを講義する点におかれている。序論として国際関係論とはどんな学問なのかについて体系的かつ歴史的に講義し、次に戦後米ソ冷戦の開始のいきさつとソ連の対応などを軸に戦後国際政治史を概観する。

〔教　材〕

教科書　「第二次大戦後の世界－21世紀を考えるために－」
佐野真・波多野裕造・平山健太郎
掘宏共著　（北樹出版）

〔成績評価の方法・基準〕

基本的には定期試験期間中のレポート提出によって評価する。定期試験期間中の筆記試験の実施も除外しない。

〔履修のポイント・注意点〕

国際関係論は激変の可能性を秘めた国際政治、経済、社会を対象とする実践的学問であり、したがって流動する世界の動向への受講生の鋭敏な感覚と関心が要求される。真摯な取り組み方が切に望まれる。

〔科目内容の位置付け〕

国際関係論は国と国との関係、広い意味での政治、経済、文化などが相互に交錯する場である国際関係のありようを分析する実証的、総合社会科学の範疇に区分される学問である。したがって国際関係論には政治、経済、社会、宗教、文化、科学などの分野からの多角的なアプローチが可能な、いわば“学際的”な性格が付与されているのが特徴だ。本講座は国際関係論の一分野である「地域研究」の側面から旧ソ連邦を取り上げ、ロシア革命、ソ連型社会主義体制の確立、そしてソ連邦崩壊からロシア時代に至るまでの分析に重点を据えている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

本講座では第一次大戦からロシア革命、レーニン、スターリン時代などを主として扱う関係上、少なくともロシア史の基本的知識を習得しておくことが望ましい。

C 84	国際関係論(イスラム世界)	2単位	平 山 健太郎

〔講義内容〕

イエス・キリスト生誕2000年。「ミレニアム」の行事が各地で盛んに行われているが、キリスト教に次ぎ、世界第2の信徒数を誇るイスラムは、国連加盟国の4分の1を越える50か国が「イスラム諸国会議」に加盟しているほか、隣国である中国にも1800万人という多数のイスラム教徒がいる。世界の平和を保ち、異文化圏との理解と協調を深めるため、私たちは、私たちの属する仏教、儒教圏や、私たちと従来接触の多かったキリスト教世界とはいろいろな面で大きな相違点を持つイスラムについて、その世界観や人生観、社会システム、生活面でのタブーなどについて知っておく必要がある。講義はユダヤ教やキリスト教など「一神教」の系列に属するイスラムが、どのような歴史的な背景の下に生まれ、発展していったかを、ユダヤ教やキリスト教との関係、イスラムがその生い立ちから背負っている政治性、社会規範性などを見てゆく。更に礼拝、断食、巡礼などイスラム教徒にとっての義務や、飲食物にかかわる戒律、我々とはひどく違う男女関係や婚姻の在り方、民法、商法、刑法など法律制度にも強い影響を与えているイスラム法（シャリア）。イスラムと近代化への課題、国際的なテロ事件などで注目されているいわゆる「イスラム原理主義」など、実例を見ながら学んでゆく。キリスト教がカトリック、プロテスタント、東方教会などさまざまな宗派に分かれているように、イスラムにも主流であるスンニ派（サウジアラビア、トルコ、エジプト、インドネシアなど）と少数派であるシーア派（イランなどペルシャ湾岸）の二つの大きな流れがあり、現在の国家間の対立にもかげを落としている。その相違点などにも目を向ける。イスラムはアラビア半島など西アジアに生まれ、北アフリカや中央アジア、バルカン半島、東南アジアなどに広がっているが、近年は移住を通じアメリカやヨーロッパにも数百万人規模のイスラム教徒が住み、ヨーロッパではさまざまな文化摩擦も起きているし、アメリカでは黒人開放運動にも近年強い影響力を及ぼすようになっている。それらの実状も実例に即しながら見てゆく。私はＮＨＫのカイロ支局長として4年現地に生活した体験を含め、イスラム圏の取材歴が20年余りに亙っており、私自身が製作に加わったテレビ・ドキュメンタリー番組などを多用して分かりやすく講義を進め、教室でのアンケート用紙の配布などを通じて、学生諸君のすべての質問に回答する。

〔教　　材〕

波多野、佐野、堀の諸先生と私の共著「第二次大戦後の世界」（北樹出版）をテキストに使い、その他随時参考書を指定する。

〔成績評価の方法・基準〕

テスト

マークシートと記述式を組み合わせて出題する。

C 85	国際関係論(中東湾岸)	2単位	平 山 健太郎

〔講義内容〕

ユダヤ教、キリスト教、イスラムという、同じルーツを持つ三つの一神教のうち、ユダヤ教とキリスト教が生まれたパレスチナ（イスラエル）は、イスラムにとっても聖地である。同じ聖地を奪い合って中世にはヨーロッパから遠征した十字軍とイスラム教徒が戦い、現在はユダヤ教徒の国であるイスラエルと地元のイスラム教徒であるパレスチナ人や周辺のアラブ諸国の紛争が今も続いている。目を少し東に向けると、サウジアラビアやクゥエート、イラン、イラクなど、日本が輸入する石油の80%近くを産出する国々がペルシャ湾を囲んでいる。半世紀足らずの間に急激に開発された石油の富は、イラン革命、イラン・イラク戦争、イラクのクゥエート占領とこれにともなうあの「湾岸戦争」など、さまざまな動乱をもたらし、国際的な緊張の舞台になっている。それらの緊張関係は、中東のアラブ・イスラエル紛争とも密接にかかわりあっている。ペルシャ湾岸産油国にすぐ隣接するアフガニスタンでは、70年代の末から80年代にかけてのソビエト軍の侵攻による激しい内戦が続き、ソビエト軍の撤退後は、部族間の内戦が、周辺諸国のさまざまな利害ともつながる形で続いている。そのアフガニスタンの南隣にあるパキスタンは、98年、ヒンドゥー教徒の国である東隣のインドの核実験に対抗して核実験を行ったが、イスラム圏の国による初の核兵器開発は、アラブ・イスラエル紛争にも核兵器の存在という新たな危機の要因を持ち込むことになった（イスラエルが核兵器を既にもっているので)。これら西アジアのイスラム諸国のすぐ北には、旧ソビエト領の中央アジアや外カフカス諸国が新たな独立国として拡がっており、これらのうちとりわけ内陸の巨大な湖であるカスピ海の周辺では、石油や石油系ガス資源の開発や、これらの資源を運び出すパイプラインの敷設ルートをめぐる利権も絡んで、周辺国や欧米の大国が複雑に絡み合った協力と競争の舞台になっている。中東や湾岸の政治紛争と連動する兆しも見えている。講義は、資源開発と平和維持という課題を抱えたこれらの地域を個別に見ながら、それぞれの関連性、日本との関係などを、実例に即して見てゆく。私はＮＨＫ在勤中、中東や湾岸のさまざまな紛争を現地で取材（イラン12回、イラク７回、サウジアラビア４回など）しているほか、旧ソビエト圏の中央アジアやカスピ海沿岸も取材旅行しており、直接取材に参加したテレビ・ドキュメンター番組などを多用して、学生諸君の理解を助けたい。また講義の時点で進行中の大きな事件なども随時取り上げ、背景を掘り下げたい。教室でのアンケート用紙の配布などを通じ、学生諸君のすべての質問に答える。

〔教　　材〕

波多野、佐野、堀の諸先生と私の共著「第二次大戦後の世界」(北樹出版）をテキストに使い、その他随時参考書を指定する。

〔成績評価の方法・基準〕

テスト

マークシートと記述式を組み合わせて出題する。

C 86	国際関係論(東北アジア)	2単位	堀　　宏

〔講義目的〕

東北アジアでは、去年6月、南北朝鮮の首脳会談が実現したことで、第二次大戦後半世紀に及んだ分断の歴史にも、ついに終止符が打たれるか、との強い期待を抱かせる事態とはなった。

しかし、希望的観測ばかりではない。一般的には冷戦終結後の世界では、地域紛争の激化が国家や地域の細分化の道を辿る一方で、巨大経済ブロックが同時期に発足するなど、政治的・経済的に両極分化の傾向が顕著となっている。

一方、九十年代を通じて「ポスト・バブル」の経済後遺症に悩んだ日本は、今や政治的にも深い混迷に陥っている。今夏の参議院選挙を軸に国内政局の変動はもう一波乱も二波乱もあろう。

加えて、歴史上最も新しい強大国を目指す中国の動向も絡んで、東アジア全域にわたって、第二次大戦後初めてともいえるドラスティックな状況の変化が想到されるなど、始まったばかりの二十一世紀の姿は実に予測が難しい。本講では、学生諸君がこれからの世界像を理解する上でのお手伝いが出来れば幸いである。

〔講義内容〕

多数コマある「国際関係論」のうち、本講の管掌地域は「東北アジア」をメインとするので、勢い日本と地域諸国との関係の歴史、とりわけ朝鮮半島や中国大陸との関係に多くの時間を割かざるをえない。具体的には第二次大戦終了後の諸問題として、◎民族解放闘争と独立◎社会主義化◎冷戦構造下での分断国家などについて、現状の理解と将来の展望を指し示す。

〔講義のすすめ方〕

教師本人の自作にかかるテキストを最初に配布するが、これは「総論」であって「国際関係論」全般の基本的な知識・用語にまず習熟してもらうためのものに過ぎず、可及的早急に通覧して理解してほしい。

また、二、三のアンケートを実施して幅広い視点から「世界の中の個としての自分」を認識する機会を提供する。さらにはニュース記者だった前職の経験を活かして、現代史の節目となる各種の事象について、自作のＶＴＲレポートを多く観てもらい、理解の資とするが、その都度レポートを課す。したがって、提出物は相当数に上る、と覚悟してほしい。

〔教　　材〕

本学内共通テキストとして、担当4教員の共著にかかる「第二次大戦後の世界－21世紀を考えるために－」(北樹出版)を指定する。そのほか、講義冒頭に二百冊ほどの参考書目を配布する。一冊でも多く読むことで、自分の認識を広め、かつ深め得よう。

〔成績評価の方法・基準〕

「永遠の相下」の壮大な現象についての理解度を、幾許かのテストで評価するのは難事で、平常の学習態度を基準とするほかはない。従って累次のレポートを遅滞なく、真摯に、正しい日本語文章で記すことを最低限の要請としたい。テーマからずれた事典やインターネットからの引き写しなどはすぐばれる旨を前もって申し渡しておく。

〔履修のポイント・注意点〕

新聞は外電欄だけでなく、日本国内の政治・経済面も必ず精読してほしい。また、歴史年表、世界地図はハンディなものでよいから、毎時持参するように。

〔科目内容の位置付け〕

現在、国際連合には186の国と地域が加盟している。つまり、有限な地球上に、これだけの数の国が犇めき、残念ながら多くの場合、互いに仲良くない。この厳然たる事実を認識した上で、新しい解決法を探すという精密な作業を要するのが、国際関係論の困難な一面であるが、その努力は今世紀の知性ある全ての世界市民に求められるものとなろう。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特にはないが、政治・経済・軍事から体育・疫病・犯罪に到る諸事万般が関連する分野である、と述べておこう。

C 87	国際関係論(東南アジア)	2単位	堀　　宏

〔講義目的〕

インドネシア、フィリピン、カンボジア、インド、パキスタン・・・とここ数年、講義対象となる「東南アジア」地域の諸国は・政治的な不安定のみならず、世界的な経済・金融危機の奔流に押し流され、改めて途上国の苦悩を味わい直している。それでも核兵器を所有して潜在敵国に対し優位に立とう、というのは人間が造る権力国家に伴う、まこと悲しい性（さが）かも知れない。

一方、九十年代を通じて「ポスト・バブル」の経済後遺症に悩んだ日本は、今や政治的にも深い混迷に陥っている。今夏の参議院選挙を軸に国内政局の変動はもう一波乱も二波乱もあろう。

加えて、歴史上最も新しい強大国を目指す中国の動向も絡んで、南北の如何に関わりなく東アジア全域にわたって、第二次大戦後初めてともいえるドラスティックな状況の変化が想到されるなど、始まったばかりの二十一世紀の姿は実に予測が難しい。本講では、学生諸君がこれからの世界像を理解する上でのお手伝いが出来れば幸いである。

〔講義内容〕

多数コマある「国際関係論」のうち、本講の管掌地域は「東南アジア」をメインとするので、勢い日本と地域諸国との関係の歴史、とりわけ過ぐる大戦で日本軍の軍靴が踏み歩いた諸国や中国大陸との関係に多くの時間を割かざるをえない。具体的には第二次大戦終了後の諸問題として、◎民族解放闘争と独立◎社会主義化◎冷戦構造とその下での分断国家などについて、現状の理解と将来の展望を指し示したい。

〔講義のすすめ方〕

前期の対象となる「東北アジア」を受講した上で、本講に進んでもらうのが望ましいが、そうでない向きには教師本人の自作にかかるテキストを最初に配布する。ただし、これは「総論」であって「国際関係論」全般の基本的な知識・用語にまず習熟してもらうためのもので、可及的早急に通覧しておいてほしい。

また、二、三のアンケートを実施して幅広い視点から「世界の中の個としての自分」を認識する機会を提供する。さらにはニュース記者だった前職の経験を活かして、現代史の節目となる各種の事象について、自作のＶＴＲレポートを多く観てもらい、理解の資とするが、その都度レポートを課す。したがって、提出物は相当数に上る、と覚悟してほしい。

〔教　　材〕

本学内共通テキストとして、担当４教員の共著にかかる「第二次大戦後の世界－21世紀を考えるために－」（北樹出版）を指定する。そのほか、講義冒頭に二百冊ほどの参考書目を配布する。一冊でも多く読むことで、自分の認識を広め、かつ深め得よう。

〔成績評価の方法・基準〕

「永遠の相下」の壮大な現象についての理解度を、幾許かのテストで評価するのは難事で、平常の学習態度を基準とするほかはない。従って累次のレポートを遅滞なく、真摯に、正しい日本語文章で記すことを最低限の要請としたい。テーマからずれた事典やインターネットからの引き写しなどは立ち所に露見する。

〔履修のポイント・注意点〕

新聞は外電欄だけでなく、日本国内の政治・経済面も必ず精読してほしい。また、歴史年表、世界地図はハンディなものでよいから、毎時持参するように。

〔科目内容の位置付け〕

現在、国際連合には186の国と地域が加盟している。つまり、有限な地球上に、これだけの数の国が犇めき、残念ながら多くの場合、互いに仲良くない。この厳然たる事実を認識の上に、新しい解決法を探すという精密な作業を要するのが、国際関係論であり、その努力は今世紀の知性ある全ての世界市民に求められるものとなろう。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特にはないが、政治・経済・軍事から体育・疫病・犯罪に到る諸事万般が関連する分野である、と述べておこう。

C 88	国際関係論(アメリカ)	2単位	高畑昭男

〔講義目的〕
冷戦後の国際関係と21世紀を迎えた世界の中で、米国の動向は日本も含めて世界で最も重要な要素の一つである。その米国では、ベトナム戦争時代に青春を迎えた「ベビーブーマー世代」が政治の主導権を握り、大統領や議会、ビジネス界などの指導者層の中枢を形成しつつある。
本講座では、国際関係論の一環として米国が世界に占める役割や新世代が掲げる民主主義、自由、人権、環境といった価値観がどのように政治に反映しているかを探る。また米外交の伝統である「力の均衡」「力による外交」の現状と変化を研究する。その背景として、現代米国政治の仕組みや成り立ちと現状を学び、2000年大統領選を題材として米国型民主主義の要素についても理解を深める。合わせて日米安全保障関係のあり方についても考えたい。

〔講義内容〕
1．はじめに（米国のなりたち）
2．アメリカの政治（大統領選を含めて）
3．アメリカの外交と世界
4．日本とアメリカ（主に安全保障問題）

〔講義のすすめ方〕
まずはアメリカがどのようにしてできたか、その特色や政治制度の概要をつかむ。現代アメリカ政治の構造、要素、価値観、有権者と指導者像などの問題を米大統領選と平行して、なるべく身近なニュースやテーマに即して考える。次に、冷戦崩壊の前後に米外交がどのように変化してきたか、いまの米外交がどのような原則や価値観に立っているかを学び、世界の中で米国が占める位置づけを検討する。さらに、こうした米国とつきあっていく上で日本にとって大切な安全保障問題についても検討する。講義は一方通行の話ではなく、随時、模擬ゲームやシミュレーション、討論会などをまじえ、立体的に全員参加の形で進めたい。

〔教　材〕
教科書として『現代アメリカの政治』阿部斉、久保文明共著（ＮＨＫ出版）を使用する。全員必携。また個人別に新聞スクラップ帖を作り、講義に関連する記事を切り抜くよう指導する。講義でも最新の情勢に親しむために、新聞の切抜きを多用する方針。

〔成績評価の方法・基準〕
論文、感想文形式のレポートを定期試験とし、合わせて出席状況、研究発表など学生の参加度を総合評価する。欠席はマイナス点として計算する。

〔履修のポイント・注意点〕
講義内容をわかりやすくするために、新聞記事やニュースなど具体的実例を多く活用する。アメリカに関するニュースに目を光らせること。討論や研究発表にも積極的に参加する。自分の考えや意見、疑問を活発に述べることが何よりも大切だ。静かに語ってもよいし、にぎやかに意見発表してもよい。全員参加によって主体的に楽しく学ぶよう心がけたい。
またインターネットの利用と基礎的な英語読解力は必須である。研究発表に用いる資料には、英文のものも少なくない。

〔科目内容の位置付け〕
アメリカの全体像を多角的に関連づけて理解することが必要である。日本や世界との関わり、自分自身の身の回りに見聞する米国の政治をもう一度、とらえ直すつもりで「アメリカって、なーに？」「それが私の人生にどう関係するの？」という日常的で自然な視点が欲しい。その方がずっと自分のためになる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
英語の基礎知識があると、アメリカの問題はきわめてわかりやすく、理解が多角的に広がっていく。日本の流行語、外来語、アメリカ文化、風俗などの背景や理由もよくわかって面白いので、そうした理解を深めるためにも英語に親しんでもらえると大きな参考になる。米国について学ぶ中で、ついでに英語の理解力やインターネットの活用にも役立つはずだ。積極的に取り組んでほしい。

C 89	国際金融論	2単位	今井　澂

〔講義目的〕

国内金融について基礎的な知識をすでに履修した学生に対し、国際的な経済活動の基礎であり日常生活にまで多大の影響を与える為替市場から入って、国際金融取引、国際資本移動、通貨制度など多岐にわたる分野を理解していただく。

〔講義内容〕

必ず間近の経済ニュースの読み方、将来自分で就職する折の時代の流れ、社会人になったあとでは遅い。学生時代に勉強しておくべき知識、など10～15分話をしてから本題に入る。出来るだけレジュメをプリントにして配布。

〔成績評価の方法・基準〕

年2回のテスト。それに毎回でないがたまに行なう出席カードも参考にして成績は評価。ただしあく迄も参考程度。

〔講義のすすめ方〕

最低の金融知識でも持っていないと、金融ビックバンの進行によるグローバルスタンダード化で社会が激しく変化している現在。極端な表現をとると生き延びられない。基礎的なファンダメンタルな知識と変化してゆく現在を理解するのが目的。なお私の講義は希望した聴講生が真剣に聞くことを前提とするので私語はつつしんで頂く。

C 90	多国籍企業論	2単位	藤井　健

〔講義目的〕
　経済活動のボーダーレス化が進み、その主たる担い手である多国籍企業への関心が高まっている。本講義では、多国籍企業の実態、企業戦略、世界の政治・経済・文化に与える影響、またそれらが多国籍企業に与える影響について事例と理論に基づいて考察する。

〔講義内容〕
①グローバリゼーションと多国籍企業
②日本の多国籍企業
③異文化マネジメントⅠ
④国際戦略提携
⑤国際ビジネスと文化
⑥多国籍企業と国家
⑦国籍企業とリージョナリズム
⑧異文化マネジメントⅡ
⑨多国籍企業と経営倫理
⑪異文化マネジメントⅢ
⑫グローバル競争戦略
⑬異文化マネジメントⅣ
⑭国際経営組織のマネジメント
⑮異文化マネジメントⅤ
⑯多国籍企業とフィランソロピー
⑰多国籍企業の経営理念
⑱日本的経営と国際経営

〔講義のすすめ方〕
　具体的な事例を基に、多国籍企業のどのような戦略を策定し行動したかを検証し、それが正しい判断であったかどうかを検討する。また、自分が当事者であったなら、どのような意思決定をしたかを常に考える機会を提供する。

〔教　材〕
教科書　『多国籍企業論』
　　江夏健一編著　八千代出版
　『異文化マネジメント』
　　G フェラーロ著　同文舘
参考書　『国際戦略提携』
　　江夏健一編著　晃洋書房
　『日本型グループ経営の戦略と手法』
　　寺本義也編著　中央経済社
　『国際ビジネスクラシック』
　　ベーカー他編　文眞堂
　『現代ビジネス用語』朝日出版社

〔成績評価の方法・基準〕
テスト　年1回（100点）
発　表　適宜（1回10点）
レポート　適宜（10点）
判定基準　テストと発表とレポートの合計点

〔履修のポイント・注意点〕
　企業戦略に正解はありません。刻々と変化する外部環境と自社（自分）の持っている経営資源を考慮して何が他社（他者）に対して強みとなりうるか、何が不足しているのか、どう行動すれば良いかといった問題を自ら判断する機会を提供します。正解を聞きにくるのではなく、自分の考えを発表する気持ちで履修してください。発表レポートなどを通して、履修者の意見を授業に反映させたい。

〔科目内容の位置付け〕
　本講義は企業の国際戦略の問題を専門に扱う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：国際経営論、経営学
関連科目：国際関係論、貿易商務論、
　　国際金融論

C 91	貿易商務論 I	2単位	塚越千由

〔講義目的〕
貿易取引（輸出ビジネス、輸入ビジネス）をいかに円滑に遂行するかについての方策を研究します。貿易取引は貿易経営、貿易商品、海外市場の三要素によって構成されるが、その組合せの原理を究明する国際マーケティングと、組合わせの実践である国際取引契約、国際商事慣習、貿易実務を研究します。

〔講義内容〕
風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないか。国際売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱います。
講義は貿易売買論（国際売買契約論）を中心に行い、国際売買の遂行に必要とされる輸出入取引実務（下記第3項）については、貿易実務者としての立場から、定型貿易条件および売買契約主要条項に含めて考察します。また国際的経営活動がますます活発化、多様化している現在、これについてもその実施面を担当する国際契約の観点から（下記第4項）、時間の許すかぎり考察していくつもりです。

1．貿易取引の概要
①貿易取引の現状と課題（最近の世界貿易、最近の日本貿易、国際収支）
②貿易取引形態（取引当事者、特殊貿易）
③貿易制度（輸出管理、輸入管理、国際条約、国際規則）
④貿易取引のプロセス（取引先選定、引き合い、取引一般条件協定、申し込み、承諾、売買契約成立、契約履行）

2．国際売買契約
①定型貿易条件（インコタームズ）
FOB、CIF、FCA、EXW、CIP、DES、その他
②売買契約主要条項
品質条件（品質決定基準、品質決定時点）
数量条件（単位、数量決定時点、過不足容認条件）
価格条件（建値条件、決済通貨）
船積条件（引渡し時期、不可抗力、分割船積）
保険条件（担保危険、保険引受形態）
決済条件（荷為替決済、信用状）
紛争解決条件（クレームの提起、仲裁条項）

3．輸出入取引実務
国際運送（海上運送、航空運送、複合運送）
海上保険（運送契約・貿易契約と貨物保険）
国際決済（貿易決済、荷為替信用状、貿易金融）

4．国際契約
国際的経営活動の態様、技術ライセンス契約、プラント輸出契約、合弁契約

〔講義のすすめ方〕
授業全般に亘ってOHPを使用し、また適宜教材プリントやビデオを使用して、できるだけ判りやすく講義するつもりです。教科書を使用しないので、下記参考書や授業内で紹介する文献を参考に受講して下さい。

〔教　材〕
教科書　使用しない
参考書　「貿易売買」新堀　聡著　同文館
「貿易取引の基礎知識」
八尾　晃著　東京経済情報出版
「最新貿易実務」
浜谷源蔵著　同文館

〔成績評価の方法・基準〕
テスト　1回（学期末定期試験期間中）
平常点　（レポート、小テスト、出席率）
（テスト50%、平常点50%）

〔履修のポイント・注意点〕
テレビ・新聞などを通じ、日本の国際ビジネス活動に注意を払い、どのような現状を呈し、問題点が生じているかを常に考えてほしいと思います。

〔科目内容の位置付け〕
貿易商務論は貿易に関する研究の一分科であり、私経済的立場より貿易の実証的・実際的研究を行い、貿易取引の指針となるべきものです。下記関連科目の導入となる内容です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
商学総論Ⅰ、流通論Ⅰ・Ⅱ、商法Ⅰ、貿易商務論Ⅱ、国際経営論、マーケティング論、経営戦略論、国際金融論、国際運送論、海上保険論、また国際ビジネス実践のためにはコミュニケーション技術が必須ですから、商業英語は特に重要な関連科目です。

C 92	貿易商務論 II	2単位	塚越千由

〔講義目的〕

貿易取引（輸出ビジネス、輸入ビジネス）をいかに円滑に遂行するかについての方策を研究します。貿易取引は貿易経営、貿易商品、海外市場の三要素によって構成されるが、その組合せの原理を究明する国際マーケティングと、組合わせの実践である国際取引契約、国際商事慣習、貿易実務を研究します。

〔講義内容〕

商品の生産の場から、海外における消費の場に至るまでの経路において、どの様な問題を解決しなければならないかを検討します。

すなわち、どのような市場にたいして、どのような商品を販売していくべきか。商品の生産の場から、目標海外市場における消費の場に至るまで、どのような流通経路を選択し、利用すべきか。海外のチャネル・メンバーや最終消費者への売買価格はいかに決定すべきか。海外向けプロモーションをどのようにすべきか。以上の諸問題を検討します。また輸入マーケティングとして同じ問題を検討します。

1．国際マーケティングの理論と実務
　①国際マーケティングの概念
　②わが国の国際マーケティング
2．国際マーケティングの実務
　①輸出マーケティング
　　海外市場調査・目標市場の選定
　　輸出商品計画
　　輸出流通計画
　　輸出価格計画
　　輸出プロモーション計画
　②輸入マーケティング
　　輸入マーケティングの基本概念
　　輸入商品調査
　　輸入商品の流通
　　輸入ビジネスの形態

〔講義のすすめ方〕

授業全般に亘ってＯＨＰを使用し、また適宜教材プリントやビデオを使用して、できるだけ判りやすく講義するつもりです。教科書を使用しないので、下記参考書や授業内で紹介する文献を参考に受講して下さい。

〔教　材〕

教科書　使用しない
参考書　「グローバルマーケティング」
　　城座良行、他著　税務経理協会
　　「国際マーケティング」
　　鈴木典比古著　同文館

〔成績評価の方法・基準〕

テスト　1回（期末定期試験期間中）
平常点（レポート、小テスト、出席率）
　（テスト50%、平常点50%）

〔履修のポイント・注意点〕

テレビ・新聞などを通じ、国際社会と日本との関係、特に日本の国際ビジネス活動に注意を払い、どのような現状を呈し、問題点が生じているかを常に考えてほしいと思います。

〔科目内容の位置付け〕

貿易商務論は貿易に関する研究の一分科であり、私経済的立場より貿易の実証的・実際的研究を行い、貿易取引の指針となるべきものです。下記関連科目の導入となる内容です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

商学総論Ⅰ、流通論Ⅰ・Ⅱ、商法Ⅰ、国際経営論、マーケティング論、経営戦略論、国際金融論、国際運送論、海上保険論、また国際ビジネス実践のためにはコミュニケーション技術が必須ですから、商業英語は特に重要な関連科目です。

C 93	外書講読A	4単位	山田徳彦

〔講義目的〕
英語で書かれた論文を読むことになれるとともに、諸外国から見て、日本経済がどのように評価され、日本企業の経営がどのように受け止められているかについての理解を深める。英文で専門的な領域を学習する、これが外書講読の目的である。

〔講義内容〕
経済・社会情勢の変化に伴い、経営環境が大きく変わる中で、かつてその強さの秘密が分析のテーマとなった日本企業もその新しいあり方を模索しはじめている。本講義ではこのようなことを念頭におきながら、日本経済に対する評価、日本企業のあり方について論ぜられた論文を中心に読破していく予定であるが、受講者の希望を入れて修正する。

〔講義のすすめ方〕
具体的な進め方やペースは参加者の意見を聞きながら進めて行くが、基本的には一つ一つの文章を丁寧に訳し、言っている内容を確認する形で進めたい。

〔教　材〕
一番はじめの講義で、参加者の興味の対象を確認して決定する。また、参考文献については適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
講義への貢献度を中心として評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
内容的には、すでに学んできたことに照らして理解可能であるので、後はどの程度「英文」に取り組むかの問題である。参加者には、毎回きちんと予習してきていただきたい。また講義の場での積極的な発言を求めたい。

〔科目内容の位置付け〕
これまでに学んだことの復習となる、あるいは理解を深めるような内容としたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提・関連科目：経営学関連の科目全般、企業論

C 94	外書講読 B	4単位	安藤満生

〔講義目的〕

近年のビジネス社会では「英語」は日本語と同じ位、重要になって来ている。それはただ単に事業経営に限らず、多くの事柄がグローバル化しているからである。

この講義は新しい世界の情報を外書講読を通して習得するのが狙いであり、特に今世界で注目されている事柄について、それらを翻訳する事によって、その深い意味をくみ取る事を目的とする。

一般論として、英文書物を講読する場合、二つの利点がある。1）最新の情報と知識が得られる。　2）比較的ゆっくり、構文などを考えて読むので、その意味が深く理解され、頭に残る。

尚、1年生、2年生の受講も歓迎される。

〔講義内容〕

教科書はオーストラリアのシドニィー市に関する「Sydney's Future」である。

都市の経済や都市の経営戦略などを勉強する。

内容の一部は以下のようである。

1　Introduction
2　The Challenge
3　Future Population
4　Vision & Goals
5　Key Directions
6　Strategy Details
7　The System
8　The Way Forward
9　List of Maps

その他に、ロンドンの「Tomorrow's Tourism」の翻訳を行う。

〔講義のすすめ方〕

懇切丁寧に、時間をかけて講読する。新しい知識を得ると同時に、その深い意味を理解し、くみ取るように試みる。最初の45分は教科書「Sydney's Future」の講読、後半の45分はロンドンの「Tomorrow's Tourism」に関する小冊子又はこれらに関するプリントの翻訳をする。

そして、これらを一冊の「レジメ」として提供する。

〔教　材〕

教科書：プリントを配布する。
参考書：ロンドンの「Tomorrow's Tourism」
　　その他　プリント

〔成績評価の方法・基準〕

以下に記載された重要ポイントを総合的に加味して判断する。

1　学期末試験の成績
2　授業回数の3分の2以上の出席と、出席回数
3　授業の勉強態度
4　豆テスト

〔履修のポイント・注意点〕

この外書講読の受講にあたって、予備知識の必要はないが、大学生として誇りを持って勉学に努め、新しいことに対するチャレンジ精神と努力を惜しまないこと。

〔科目内容の位置付け〕

外書講読としては「入門的・導入レベル」の内容である。従って、都市の経済やその戦略についての基礎的な“ものの考え方・見方”の理解度が重要視される。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし
関連科目：英語

C 94	外書講読B	4単位	平山健太郎

〔講義目的〕
時事英語より歯ごたえのある文章の読解力を高めるとともに、テキストの背景についての知識を得る。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕
講読時間中3人ないし4人の学生が分担して訳読したあと、教師が訳読。補足のコメントを加える。テキスト内容にない背景やエピソード、ビデオ映像なども使い、関心を高めるようつとめる（教師はジャーナリスト（NHK）として20年を越える中東現地取材歴がある。）

〔教　材〕
War and peace in the Middle East（中東に於ける戦争と平和)。英国オックスフォード大学のAvi Shalaim教授（イスラエル国籍）の著作。オスマン・トルコ帝国の崩壊から現代に至る中東やペルシャ湾岸地域の複雑な紛争の歴史と今後の平和への展望を要領よく、興味深く叙述している。Penguin社発行約150ページの半分の抜粋を印刷し、有料（1000円前後）で配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末テスト。テキストの中から短文3問を出し、このうち2問の和訳（辞書使用OK)。また内容についても日本語で出題し、日本語で解答を求める。

〔履修のポイント・注意点〕
長い文節を分解しながら自然な日本語に意訳してゆくコツを覚える。日本語の参考書（開講時に指定する）を読んでおくと理解が容易になるはず。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：英語、時事英語、国際関係論

C 94	外書講読B	4単位	堀　宏

〔講義目的〕

敗戦この方、日本中が英語らしきものに浸りっ切りで、さらには「国際化の必要」が叫ばれるようになってからも久しいが、日本人全体の英語力は一向に上がらないようである。

遣唐使の昔から外国の文物、とりわけ知識や思想は異（と）つ国の言語を読解することでしか得られなかった。

ましてや謂うところの「国際化時代」である。街角で道順を教えたりするのに毛の生えた、お座成りな会話なんかよりも、きちんと辞書を引きながらでいいから、知的な英語国民の知的な論文を正しく理解し、行く行くはそういった論者と論理的な対話が交わせる程度の英語力は身に付けておきたい。

〔講義内容〕

講義ではこのような観点から、英語使用国の本格的な外交・経済関係の論文を一年かけて終始を読み下すことで、国際的な同時代感覚を養いつつ、また語学の習得上極めて意義のある「一冊こなした」という成就感・達成感を持ってもらいたい。

〔講義のすすめ方〕

過去数年では、「国連難民高等弁務官事務所」がまとめた「世界難民白書」や、米国の著名な外交専門誌「フォーリン・アフェアーズ」からのタイムリーなテーマを扱った論文を取り上げた。

いずれも透徹し、一貫した論理構成の上、推敲を重ねた文章で、「時事英語」で扱う新聞記事よりは遙かに難解であったが、今年度においても、ほぼ同じような選択を踏襲することになろう。

その意味では、全うに高校卒業程度以上の英語力を有しない学生には、実力的にもクラス全体のバランスや授業の進行上も推奨し難いものがある。

また、単に英語力に止まらず、現今の国際社会の態様や、そこで多用される熟語・略語など、慣用のキーワードについても、前以て相当の予備知識を要求しておく。

授業の進め方といっても取り立てて変哲があろう筈がない。文法的には「格」の支配関係を正しく把握し語彙については最適の訳語を尋ね宛てて、そこで語られている意味内容を理解する、というに尽きる。

〔成績評価の方法・基準〕

人数の多寡にもよるが、例年比較的少人数なので、平常の出席率や学習態度、予・復習の出来具合などで総合的に判断することにしたい。仮に多数受講者の場合は、定期試験を課することも余儀なかろう。

〔履修のポイント・注意点〕

いずれにせよテキストについては、学年の始めに配布され、十二分に予習の時間が得られる筈であるから授業当日に必死になって辞書を引く、といった不様な光景だけは見せて欲しくない。

〔科目内容の位置付け〕

鬼面人を驚かす体の文学的な戯文は別として、本講座で取り扱うであろうような論理的文書では、訳出にあたっても必ず「首尾照応の原則」が働く。ある程度の常識があり、一定以上の読解力があれば、百八十度方向の捻じ曲がった解釈にはなりようがない。原典校訂の作業はなおざりにすべきではないが、「木に入って森を見ざる」弊にだけは陥らないように、望んでおく。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

かかる観点から本講では、専攻の如何をもとより問わないが、「国際関係論」の新規履修者、あるいは国際問題全般に関心を持つ学生諸君にはとりわけ役立つものとなるよう心掛けたい。

講義の性質上、前提の置きようがないのが事実だが、授業に入ってから改めて初歩文法の手ほどきに時間を割きたくない。その辺りは顧慮なく進める。結果を考量の上で選択してもらいたい。

C 95	ネットワーク関連法	2単位	岡 本 幹 輝

〔講義目的〕
〔講義内容〕
　インターネットの急速な普及とともに、多種類の情報コンピュータを用いて瞬時に国境を越えて自由に伝達されあうといういわゆる情報の産業革命の時代に入ってきています。このような時代に対応するためには、情報等を管理する法律はいかにあるべきかについて、最新のテーマとして勉強します。

〔講義のすすめ方〕
　はじめに、情報を管理する中心となる著作権法や商標法など知的財産法を学びます。それとともに他の関連する基本的法律にも触れます。さらに、ＷＩＰＯなど、情報に関する国際的な条約にも対象を広げていきます。

〔教　　材〕
　用意します。

〔成績評価の方法・基準〕
　テスト

〔履修のポイント・注意点〕
・出席すること（講義を聴いていないととけないような問題がテストに出題されます。）
・講義で提示するキイワードを復習すること。
・指定する判例を自ら調べること。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　民法
（法学部科目：知的所有権法、国際取引法）

C 96	民　　法	4単位	蘇田三千穂

〔講義目的〕

民法とは、市民対市民という自由で平等な対等者間の生活関係を規律する法律です。それらの生活関係のうち、金銭の貸し借りや物品の売り買いといった財産的な生活関係については民法のうちの「財産法」と呼ばれる部分が、結婚や養子縁組などの家族的な生活関係については民法のうちの「家族法」と呼ばれる部分が規律しています。

本講では、経営学部の学生諸君が将来、主として実業界で活躍されることを想定して、「財産法」を中心に講義を進めたいと考えています。「家族法」については、本講の後半に簡潔に触れる予定です。何れも、許された時間との関係で細部にわたって講義することは困難ですが、民法を学んだ者と言えるに値する程度に、民法全体を広く網羅的に解説する予定です。

〔講義内容〕

1．日常生活と民法
2．民法の指導原理
3．契約の成立
4．契約の効力
5．売買契約
6．賃貸借・使用貸借契約
7．金銭消費貸借契約
8．委任・請負契約
9．債務の履行
10．債権の担保
11．不法行為
12．企業責任
13．所有権とその他の物権
14．団体
15．取得時効と消滅時効
16．夫婦・親子の法
17．相続
18．遺言

〔講義のすすめ方〕

講義内容の順に進めます。受講者がテキストをあらかじめ読んでいるものとして講義します。講義の要点については、そのつどレジュメを用意しますので、それに従ってノートを整理してください。

〔教　材〕

教科書　「民法入門」幾代通・遠藤浩編（有斐閣）

参考書　「新版民法概説 (1)・(2)・(3)」甲斐・乾他編（有斐閣）
「民法講義１～８」大学叢書（有斐閣）
「ポケット六法」（有斐閣）
「デイリー六法」（三省堂）
「岩波コンパクト六法」（岩波書店）

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験またはレポートによって行います。

〔履修のポイント・注意点〕

出版社を問わず、六法全書を携帯して受講して下さい。

〔科目内容の位置付け〕

初学者のための入門程度。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

法学を受講していることが望ましいでしょう。

C 97	経　　済　　法	2単位	川 越 憲 治

〔講義目的〕

独禁法を中心に経済と法律の関係を勉強していきたい。独禁法は自由経済システムの根幹をなす法律で、これを理解しておくことは社会に出てからも役にたつと思う。

経済法をマスターするもっともよい方法は、経済の原点から筋道をたててものごとを考えていくことである。そこで、講義にあたっては独禁法の基本的な考え方をかみくだいて話すつもりであるが、企業が実施しているマーケティングや現実に発生した事件の解説等も行い、応用力をつけるようにして行きたい。

経済法を勉強するメリットの１つは、われわれが暮らしている経済社会を理解できるようになることである。商品はどのように生産され、どのように消費されるのか。企業はどのように行動し、政府はどのような政策を打ちだすのか。価格はどのようにして決まり、流通はどのように流れていくのか。法律と経済の仕組みを解説したい。

話をわかりやすくするために、最近の話題や新聞記事をとりあげたり、ヴィデオで企業や行政の実際の姿をみせたりすることも考えているが、講義が終了した段階では、理論的な興味や歴史的な関心を持つようなものにしたいと考えている。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

1　独禁法の理解の仕方、歴史、体系
2　私的独占
3　合併、その他の企業結合
4　不当な取引制限Ⅰ
5　不当な取引制限Ⅱ
6　事業者団体
7　適用除外
8　不公正な取引方法
9　再販売価格維持行為、ボイコット、不当廉売
10　優越的地位の濫用、その他の行為規制類型
11　取引の規制、流通システムの規制
12　排除措置、課徴金、民事事件、刑事事件
13　独占禁止法と日本の社会

〔教　　材〕

教 科 書　「独占禁止法」(第３版) 川越憲治
きんざい　3,600円

参 考 書　「独占禁止法」(新版) 今村成和
有斐閣　5,850円
「全訂独占禁止法Ⅰ、Ⅱ」正田彬
日本評論社　Ⅰ　5,000円
〃　Ⅱ　5,800円
「独占禁止法」(新版) 実方謙二
有斐閣　4,120円
「独占禁止法」(現代裁判法体系22巻)　川越憲治編
新日本法規　3,800円
「独占禁止法の上手な対処法」(実務法律学全集16巻)　川越憲治編
民事法研究会　3,500円
「経済法概説」松下満雄
東京大学出版会　3,400円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト　年１回

評価は筆記試験、授業の出席状況等を総合的に考慮して決める。

試験の結果は60点以上を合格とする。

〔履修のポイント・注意点〕

問題意識をもって授業にのぞむこと

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前　　提：特に設けない。

関連科目：民法、商法、国際経済法(法学部科目)、経済学

C 98	商　　法　　I	2単位	遠山　聡

〔講義目的〕
　我々の日常生活は「経済」を抜きにしては考えられない。そしてその経済を支えているのが株式会社をはじめとする企業である。その意味では大企業から個人商店までの企業経営者はもとより、そうでない全ての人々にとって商法は無縁ではないのである。そして、企業間での取引にはトラブルがつきものであり、その解決にあたっては取引のルール、すなわち商法の知識がとくに必要不可欠である。本講義は、商法の入門科目として、企業活動に対する法規整の基本的な理解を目的とする。

〔講義内容〕
　以下の内容での講義を予定している。
（詳細は、初回の講義において概要を配布し、説明を行う。）
　1．商人とは？～商法の基本概念
　2．企業の物的要素～商号、商業帳簿など
　3．企業の人的要素～使用人、代理商など
　4．営業活動に関するルール
　5．商取引に関するルール

〔講義のすすめ方〕
　できるかぎり実際の事例に則して、商法に関するルールの説明を行いたい。毎回レジュメを配布して、問題の所在を明らかにする。また、一方的な講義にならないように質問をして理解度を確かめつつ、講義を進めたい。

〔教　　材〕
　未定。追って掲示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験（筆記試験）が中心となるが、その他、出席状況など平常点を加味しつつ、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
・六法を用意して、必ず持参すること。
・法律の専門用語などが頻繁に出てくるため、わからない部分についてはその都度質問をするなどして正確に理解していくことが必要である。
・講義は断片的なものでなく、前回の講義で取り扱った内容がその後も密接に関わってくるため、当然のことではあるが、講義を欠席すると講義内容についていけなくなる。その点を肝に銘じておくこと。

〔科目内容の位置付け〕
〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　民法の各科目の知識が前提となる部分が多いため、それらを履修した上での受講が望ましい。また、企業関係法、商法II（手形・小切手法）とも当然深く関連しているので、並行履修を勧める。

C 99	商　　法　　II	2単位	遠山　聡

〔講義目的〕
　企業活動を円滑に行う上で、手形・小切手はとくに重要である。これなくして企業活動は行えないといっても過言ではないであろう。売買等の決済手段としてはもちろん、銀行等の金融機関からの融資を受ける場合にも、手形が利用される場合が少なくない。本講義は、手形・小切手の商取引における役割とその機能について理解することを目的とする。

〔講義内容〕
　以下の内容での講義を予定している。
（詳細は最初の講義において概要を配布し、説明を行う。）
　1．手形・小切手の役割と機能
　2．手形の振出に関する法的問題
　3．手形の裏書に関する法的問題
　4．手形の支払に関する法的問題

〔講義のすすめ方〕
　できるかぎり実際の事例に則して、手形・小切手に関するルールの説明を行いたい。毎回レジュメを配布して、問題の所在を明らかにする。また、一方的な講義にならないように質問をして理解度を確かめつつ、講義を進めたい。

〔教　　材〕
　未定。追って掲示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験（筆記試験）が中心となるが、その他、出席状況など平常点を加味しつつ、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
・六法を用意して、必ず持参すること。
・法律の専門用語などが頻繁に出てくるため、わからない部分についてはその都度質問をするなどして正確に理解していくことが必要である。
・講義は断片的なものでなく、前回の講義で取り扱った内容がその後も密接に関わってくるため、当然のことではあるが、講義を欠席すると講義内容についていけなくなる。その点を肝に銘じておくこと。

〔科目内容の位置付け〕
〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　民法の各科目の知識が前提となる部分が多いため、それらを履修した上での受講が望ましい。また、商法Ⅰ、企業関係法とも当然深く関連しているので、並行履修を勧める。

C 100	企業関係法	4単位	河原文敬

〔講義目的〕
企業（会社）をめぐる法制度の理解を目的とする。経営学部の学生にとっては、「企業制度」の経済学的・経営学的な側面は他の科目で学ぶはずである。そこで得られた知識は、本講にとっても有益でありかつ本講の理解の助けとなる。
講義の到達目標は、基本的な法制度、法律概念の理解である。

〔講義内容〕
講義の内容の概略は以下を参照。多くの時間を、株式会社の法制度の説明に当てます。
1．はじめに
2．日本型資本主義の特徴
3．会社の種類
　合名・合資・有限・株式会社について
4．商法改正の動向
5．会社の設立
　株式会社を中心として
6．株式制度
　社債等との対比も含む
7．株式会社の機関
　株主総会、取締役、取締役会、監査役他

〔講義のすすめ方〕
上記の講義内容に従って、解説する。

〔教　材〕
教科書　「日本の会社法〈新訂第3版〉」
　河本・岸田・森田・川口著
　商事法務研究会　3,400円
参考文献　「会社法入門〔第六版〕」
　前田庸著　有斐閣　1997年
「現代会社法　新訂〔第八版〕」
　河本一郎著　商事法務研究会
　1995年
「会社法　弟二版」
　永井和之著　有斐閣　2000年
「現代企業法入門」
　森田章著　有斐閣　1995年
「会社法の経済学」
　三輪・柳川他著
　東大出版会　1998年

〔成績評価の方法・基準〕
試験により評価する。定期試験期間中に実施する。
受講生が少ない場合は別の方法も検討する。この場合も講義中に伝える。

〔履修のポイント・注意点〕
六法（開講時の紹介）を持参して出席のこと。
文献を正確に読む粘り強さを要求する。
講義中に、携帯電話、ＰＨＳ、ポケベル等を鳴らした者は「失格」（Ｈ評価）の対象とする。

〔科目内容の位置付け〕
〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
講義は基本事項の説明です。内容は、基本的なものです。経営学部では、法律科目は必修となっていませんが、この講義は、民法を前提科目といたします。従って、民法の単位取得者あるいは同時履修者が受講してもらいたい。
商法Ⅰ・Ⅱ、経済法は関連科目と考えて下さい。また、経営学・会計学・金融論の知識は本講の理解にとって有益です。
当然のことながら、経営学部の中心科目は、広い意味での関連科目です。

C 101	時 事 英 語 Ⅰ	2単位	平 山 健太郎

〔講義目的〕
英字新聞が読めるようになる。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕
テキストにしたがって訳読を学生に割り当てる。社会常識として必要なニュースのキーワードを毎日いくつかずつ覚えてゆく。時にはＣＮＮ，ＢＢＣなど外国テレビニュースの最新ビデオを視聴しヒアリングの能力を身に着ける。

〔教　　材〕
学年内に消化が可能なテキストを指定する。時々、その時点でのホットニュースを伝える外国紙の記事のコピーを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末テストによる。　辞書使用ＯＫ

〔履修のポイント・注意点〕
英字新聞の読解力を増やしながら、世界で今何が起きているかについての常識をひろげる。(就職試験に役立つ)

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：英語、国際関係論、国際経営関連の諸科目など

C 101	時事英語 I	2単位	堀　宏

〔講義目的〕

敗戦この方、日本中が英語らしきものに浸りっ切りで、近年では「国際化の必要」が叫ばれるが、日本人全体の英語力は一向に上がらないようである。

遣唐使の昔から外国の文物、とりわけ知識や思想は異（と）つ国の言語を読解することでしか得られなかった。世界標準の「今」を知るには、やはり時事英語への理解は不可欠とせざるを得ない。

〔講義内容〕

ましてや謂うところの「国際化時代」である。街角で道順を教えたりするのに毛の生えた、お座成りな会話程度でなく、きちんと辞書を引きながらでいいから、知的な英語国民の知的な論文を正しく理解し、行く行くはそういった論者と論理的な対話が交わせる程度の英語力は身に付けておきたい。

それには内外の政治・経済・社会・文化・地理・歴史などについて、幅広い関心と情報が勢い必要となって来よう。

〔講義のすすめ方〕

〔教　材〕

講義ではこのような観点から、英語使用国の政・財・官界の要路者の発言テキストや、国内で発行されている英字紙・誌などのコピーを随時配布して発言の背を会得しながら、読解力を高めるよう指導できれば、と計画している。従って時事的な英語文章の全てが教科書、指定図書、参考書になりうる訳だが、できるだけホットな話題を取捨選択して、手作りのテキストを提供する方針だ。

〔成績評価の方法・基準〕

正直言って、履修者数の規模による。比較的多人数であれば定期試験期間中のテストのほか、授業中に復習を兼ねた小テストを随時試みることになろうが、少人数であれば、平常の学習態度で十分に評価可能だ。

〔履修のポイント・注意点〕

テキストは十分に予習の時間が得られるよう、前の週までに配布するよう心掛けるので、授業当日になって、当方の説明を聞かばこそ、必死になって辞書に当たる姿は余り目にしたくない。

ただ、それ以前の問題として、所持する辞書は中学入学以来の薄っぺらなコンサイス一冊、という状態だけは解消しておいて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

記者・キャスターの期間を通じて、通勤の電車内で英字紙を、極めてざっとだが、一応主な項目を読み切る訓練をした。見栄や伊達では勿論なく、目的を四点ほどに置いた。

①邦字紙と比べた場合のトップ・ニュースや脇トップの違い。

②同じ項目でもキャリーするスペースの違い。

③日本の国内ニュースの扱いの違いーといった、つまり読者である在日外国人（あるいは世界のといってもよかろう）の平均的な関心事の所在を知り得る（中東和平とイチローのどちらが、世界にとつて重要なニュースなのか）。其処には事実相当なギャップがある。

④電波・活字を問わず、日本の国内メディアを通して既に熟知している現象を英字紙に当たることで、辞書が手許になくても正確な語彙や表現を比較的容易に増やすことが出来る。（その分野が政治でも経済でもスポーツでも構わない）。訓練の成果は少なからずあった。敢えて参考に供する次第。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

こういう意味から本講では、もとより専攻の如何を問わないが、「国際関係論」の履修（希望）者、あるいは国際問題全般に関心を持つ学生諸君には、とりわけ役立つものとなるよう、心掛けるつもりだ。

講義の性格上、前提の置きようがないのが事実だが、授業に入ってから改めて中学初級程度の文法の手ほどきはしたくないし、他の受講者にも失礼であろうから、その辺りは顧慮なく事を進める。結果を考量の上で選択してもらいたい。

C 102	時 事 英 語 II	2単位	平 山 健太郎

〔講義目的〕
英字新聞が読めるようになる。

〔講義内容〕
〔講義のすすめ方〕
テキストにしたがって訳読を学生に割り当てる。社会常識として必要なニュースのキーワードを毎日いくつかずつ覚えてゆく。時にはＣＮＮ，ＢＢＣなど外国テレビニュースの最新ビデオを視聴しヒアリングの能力を身に着ける。

〔教　　材〕
学年内に消化が可能なテキストを指定する。時々、その時点でのホットニュースを伝える外国紙の記事のコピーを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末テストによる。　辞書使用ＯＫ

〔履修のポイント・注意点〕
英字新聞の読解力を増やしながら、世界で今何が起きているかについての常識をひろげる。(就職試験に役立つ)

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
関連科目：英語、国際関係論、国際経営関連の諸科目など

C 102	時事英語 II	2単位	堀　宏

〔講義目的〕
敗戦この方、日本中が英語らしきものに浸りっ切りで、近年では「国際化の必要」が叫ばれるが、日本人全体の英語力は一向に上がらないようである。
遣唐使の昔から外国の文物、とりわけ知識や思想は異（と）つ国の言語を読解することでしか得られなかった。世界標準の「今」を知るには、やはり時事英語への理解は不可欠とせざるを得ない。

〔講義内容〕
ましてや謂うところの「国際化時代」である。街角で道順を教えたりするのに毛の生えた、お座成りな会話程度でなく、きちんと辞書を引きながらでいいから、知的な英語国民の知的な論文を正しく理解し、行く行くはそういった論者と論理的な対話が交わせる程度の英語力は身に付けておきたい。
それには内外の政治・経済・社会・文化・地理・歴史などについて、幅広い関心と情報が勢い必要となって来よう。

〔講義のすすめ方〕
〔教　材〕
講義ではこのような観点から、英語使用国の政・財・官界の要路者の発言テキストや、国内で発行されている英字紙・誌などのコピーを随時配布して発言の背を会得しながら、読解力を高めるよう指導できれば、と計画している。従って時事的な英語文章の全てが教科書、指定図書、参考書になりうる訳だが、できるだけホットな話題を取捨選択して、手作りのテキストを提供する方針だ。

〔成績評価の方法・基準〕
正直言って、履修者数の規模による。比較的多人数であれば定期試験期間中のテストのほか、授業中に復習を兼ねた小テストを随時試みることになろうが、少人数であれば、平常の学習態度で十分に評価可能だ。

〔履修のポイント・注意点〕
テキストは十分に予習の時間が得られるよう、前の週までに配布するよう心掛けるので、授業当日になって、当方の説明を聞かばこそ、必死になって辞書に当たる姿は余り目にしたくない。
ただ、それ以前の問題として、所持する辞書は中学入学以来の薄っぺらなコンサイス一冊、という状態だけは解消しておいて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
記者・キャスターの期間を通じて、通勤の電車内で英字紙を、極めてざっとだが、一応主な項目を読み切る訓練をした。見栄や伊達では勿論なく、目的を四点ほどに置いた。
①邦字紙と比べた場合のトップ・ニュースや脇トップの違い。
②同じ項目でもキャリーするスペースの違い。
③日本の国内ニュースの扱いの違いーといった、つまり読者である在日外国人（あるいは世界のといってもよかろう）の平均的な関心事の所在を知り得る（中東和平とイチローのどちらが、世界にとつて重要なニュースなのか）。其処には事実相当なギャップがある。
④電波・活字を問わず、日本の国内メディアを通して既に熟知している現象を英字紙に当たることで、辞書が手許になくても正確な語彙や表現を比較的容易に増やすことが出来る。（その分野が政治でも経済でもスポーツでも構わない）。訓練の成果は少なからずあった。敢えて参考に供する次第。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
こういう意味から本講では、もとより専攻の如何を問わないが、「国際関係論」の履修（希望）者、あるいは国際問題全般に関心を持つ学生諸君には、とりわけ役立つものとなるよう、心掛けるつもりだ。
講義の性格上、前提の置きようがないのが事実だが、授業に入ってから改めて中学初級程度の文法の手ほどきはしたくないし、他の受講者にも失礼であろうから、その辺りは顧慮なく事を進める。結果を考量の上で選択してもらいたい。

C 103	異文化コミュニケーション論Ⅰ	2単位	佐野　真

〔講義目的〕
　世界各国間の紛争の主要要因の一つとして相手国の「認識上のギャップ（perception gap）」が挙げられる。太平洋戦争において日米開戦へとエスカレートした遠因は米国の政治的、経済的状況に加え文化的、社会的諸事情への日本側の理解不足に基づく一方的思い込みに合った。
　この基本認識を踏まえて本講義では当該相手国との政治的、経済的、文化的、社会的ギャップを埋めるための客観的アプローチを試みることとする。

〔講義内容〕
　英語力の向上を目指すビジネス・コミュニケーション（ＢＣ）学科の目標に鑑みて本講義では特に英語圏の英米両国との政治的、経済的、文化的、社会的差異を克服するための異文化間コミュニケーションをどう確立するかの方法論に重点をおく。

〔講義のすすめ方〕
　国際化がますます進む今日の時代状況の中で日本人が外国へ行ったり、外国人が日本を訪れる機会が飛躍的に増えている。こうした国際的コミュニケーションは単に国家間、各種団体間にとどまらず、個人間の接触場面にまで及んできている。本講義では外国人との接触場面を想定し、当該相手国の文化的、社会的事情への知識不足、理解不足に起因する誤解の解消を目指す。

〔教　材〕
　異文化間コミュニケーション論を扱った英文テキストを予定している。

〔成績評価の方法・基準〕
　基本的には定期試験期間中の筆記試験の成績によって評価する。そのほか通常の授業時間中の筆記試験の実施もあり得る。出欠状況も評価の基準になる。

〔履修のポイント・注意点〕
　国際化の進展の著しい現在、異文化コミュニケーション論は各国の生の社会、文化を対象とする実践的学問であることから、流動する世界の動向と決して無関係ではなく、したがって受講生の時代状況への鋭敏な感覚と関心が要求される。

〔科目内容の位置付け〕
　異文化間コミュニケーション論は、各国の政治、経済、社会、文化などの多角的な研究・分析を行う実証的な学問である「国際関係論」の範疇に入れられることから、「国際関係論」の一分野である「地域研究」の研究対象とも相互関連性を有している。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　カリキュラム上英語力の向上に重点をおいているＢＣ学科の性格から英語圏の英米諸国の諸事情の研究を主要目標の一つにしており、したがって英米両国の政治・経済システムの基本的知識、さらに両国の歴史を基本的に捉えておくことが望ましい。

C 104	異文化コミュニケーション論II	2単位	上岡條二

〔講義目的〕
ボーダレス化が進む現代社会においては、私達が、世界的な情報や各国間の問題を正確に理解するためには、異なった文化を背景に持った人々との、相互理解を進める問題意識が必要である。
この講義では、その文化差を知ること、それを越えて理解する方法を学ぶことを目的とする。

〔講義内容〕
具体的には、以下の5点について学ぶ。
① 日本人の「集団主義」
② アメリカ人の「個人主義」
③ 各「主義」の比較論
④ 物事のイメージの違いを文化差から考える。
⑤ 「言語」の背景にある人々の意思を考える。

〔講義のすすめ方〕
教員側からの一方的な講義ではなく、学生一人ひとりが考えディスカッションできる授業を目指している。
毎回テーマに関する資料を用意するが、そのトピックスについては自分の頭で考え、自分の言葉で発表できるように心がけてほしい。

〔教　材〕
毎回プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
授業出席2／3以上の学生を評価の対象とする。出席は毎回とり、かつ重視する。
各テーマ別にレポートもしくはノート提出あり。

〔履修のポイント・注意点〕
受講者数によるが、翌週までに指定した本の講読やビデオの視聴を求めることがある。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
異文化コミュニケーション論Iは、ヨーロッパの国々を取り上げる。それに対し、本論IIでは、アメリカとアジアが対象である。できればI・II通しての受講が望まれる。

C 105	特　講　I	2単位	高橋節子
副題	ことばと人間		

〔講義目的〕
「ことば」に関した様々な人間の精神活動をみていくことを通して、あなた方の知的関心領域が広がるようにすること。

〔講義内容〕
(1) チンパンジーの言語学（人間のことばと動物のことばは根本的にどこが違うのか？）
(2) バイリンガルの言語学（帰国子女や外国人子女の言語修得をめぐって）
(3) 性の数の言語学（太陽は男性か女性か？sheepはなぜ複数形にならないのか？）
(4) ヘレンケラーの言語学（Water!と叫んだとき彼女は一体何を掴んだのか？）
(5) 言語の創造（クレオールと手話言語）
(6) ストーリーとヒストリー（文字をもたない声の文化における歴史とはなにか？）
(7) メタファーの言語学（語り得ないことをいかに語るか？）
(8) 日本語の文字表記（人類史上唯一の文字表記法）
(9) その他（うさこちゃんと色の言語学、定家の言葉遊び、等）

変更があるかもしれませんがほぼ上記のようなテーマを柱にするつもりです。カッコの中は、それぞれのテーマに関してのアプローチの仕方を示しています。それぞれのテーマに関してはたくさんのアプローチの仕方〈問題意識のあり方、切り口〉があり、限られた時間の中でどのような切り口で見せるか、まだ決めかねているものもあります。

〔講義のすすめ方〕
授業はだいたい次のような順序で進めるつもりです。（〔成績評価の方法・基準〕を参照のこと）
①前回の授業に関して受講生から寄せられた感想、疑問点の紹介、それに対する私のコメント
②今回のテーマに関する講義（提出された課題にコメントしながら話を進める）
③次回のテーマに関しての課題
一つのテーマはできるだけ1回の授業で終わるようにするつもりですが、場合によっては2回に渡るものもあります。

〔教　材〕
前もって購入すべき教材はありません。参考文献は授業中に指示します。

〔成績評価の方法・基準〕
各授業ごとに受講生には次のタスクを課します。
①授業をうけての感想（興味を持ったところ、疑問に思ったところ、よく分からなかったところ、等）を原稿用紙1枚程度にまとめる。
②次の授業のテーマに関する課題（「人間のことばとチンパンジーのことばはどこが違うと思うか」、等）について原稿用紙1枚程度にまとめる。
①②とも授業日の二日前までに提出してもらいます（電子メールも可）。この講義は知的関心を広げてもらうことが目的で、知識の量を問うことが目的ではないので、試験は行いません。

〔履修のポイント・注意点〕
タスクは毎回の講義ごとに課されるので、出席して課題を提出することが最低条件になります。
授業には白紙の状態で来ないで下さい。そのために前もってテーマに関して簡単な課題を出して考えて来てもらうのです。自分の考えと高橋の説明が同じか違うか、それに納得するかどうかいつも吟味しながら授業に参加して下さい。そうでなければ授業の内容に関する感想なんてもつことはできないでしょう。（面白かった、つまらなかった、程度の感想ならもてるかもしれませんが。）

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特にありません。

C 105	特　講　I	2単位	山本 厚太郎 (山本コウタロー)
副題	地球環境論		

〔講義目的〕

異常気象の多発、オゾンホールの拡大etc.。地球環境問題はまさに一刻の猶予もないところまで来てしまった。企業サイドもいままでのような責任回避の姿勢はとれず、それが企業責任を明確にした「容器包装リサイクル法」にも表われている。また企業などの「環境マネジメントシステム」を評価する国際的環境監査（ＩＳＯ１４０００シリーズ）に積極的に参加する日本企業も続出している。

こうして、あたかも常識となった「地球環境問題」であるが、その本質の理解はまだまだ不十分ではないだろうか。ゴミ問題ひとつをとっても、多少の差はあれ「地球環境問題」と関連してくるのだが、そうした我々のライフスタイルと「地球環境問題」との密接な関わりについては、十分認識されていないように思える。

私の講義では、この市民（地球人）の常識となるべき「地球環境問題」について、我々の日常生活との深い関連の部分から説き起こしていきたい。

そして、最終的には企業は、自治体は、国は、また一人ひとりの個人はどう地球（自然）と接していけば良いかを考えていきたい。

〔講義内容〕

- 地球環境問題とは
- 地球の歴史、人間の歴史
- 地球のしくみ。循環するということ。
- 地球環境問題を生みだしたもの
- 解決策は？精神と技術
- リサイクルについて
- 企業と環境問題
- 〝豊さ〟と〝進歩〟の幻想

〔講義のすすめ方〕

レジメを用意するつもりである。今年で4年目の開講だが、半期という時間的制約のなかで最善のスタイルを創り出していきたい。一方通行の講義ではなく、質問も投げかけていく。そのつもりで緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。

〔教　材〕

参考書　「ぼくのエコロジー・ライフ」
山本コウタロー著(労働旬報社)
「破壊の伝説」
ジョン・Ａ・リヴィングストン
(講談社学術文庫)
「地球環境キーワード辞典」
環境庁地球環境部編
(中央法規出版)

〔成績評価の方法・基準〕

レポート１回。講義中の発表、発言など積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

出席は判定基準としないが、一回休むと次の講義にはついていけないことになる。これまでは後期のみの開講で多人数であったが、本年は前後期の授業となる。人数によっては、学外へ出て見学、自然観察なども行いたいと考えている。

〔科目内容の位置付け〕

「地球環境問題」を肌で理解することが目標。実社会で、特に企業などで環境問題を考えるときに、十分役立つ基礎知識を身につけてもらうつもりである。.

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

一般教養さえあれば、前提としての知識は不要。

C	特　講　I	2単位	J．ムルアカ
105			
副題	アフリカ地域研究		

〔講義目的〕
　現代社会において、今日ほど社会構造、価値観、ライフスタイルが、急激に変化している時代はありません。こうした時代に我々は、どう対処すべきか。これらを考え、特に国際社会における未知のアフリカの現状を地域研究を通して、我々がもつ社会・文化的尺度の単位を再認識したいと考えています。

〔講義内容〕
第II期日程
　9月　アフリカの基礎知識
　10月　アフリカの政治・経済
　11月　アフリカの歴史
　12月　アフリカの文化と社会
　1月　日本との関係・総括

〔講義のすすめ方〕
　講義は、テキストは使用せず、資料等で進めていく。

〔教　材〕
　授業中に資料を配布。

〔成績評価の方法・基準〕
　授業出席3分の2以上の学生を評価の対象とする。
　最終レポート提出とする。

〔履修のポイント・注意点〕
　特になし。

〔科目内容の位置付け〕
　特になし。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　なし。

C 105	特　　講　　Ⅰ	2単位	高橋浩夫　根本昭二郎　舩田眞里子　鷹野宏行 （担当者が一部変更することあり）
副題	現代企業行動論		

〔講義目的〕

経営学部の専門科目はそのドイツとアメリカに於ける発生当初から「実学」、「実践的応用科学」として企業実践とは深い有機的関係を結んできた。それにも拘わらず日本の経営学教育には、企業の実践から学ぼう、事業実践に携っておられる方々の実体験から学ぼう、という姿勢が著しく欠けていたと思われる。

白鷗大学ビジネス開発研究所（ＩＢＲ）では、そのような現状に楔を打ち込み、本学学生にビジネス現場の経験と叡智とを学習する機会として研究所主催講座、特殊講義「現代企業行動論」を今年度も開講する。

〔講義内容〕

まず栃木県内中堅・中小企業の経営者の方々をゲスト・スピーカーとしてお迎えし、企業経営の実態を話していただく。教員は常に臨席し、随時質問し、一種のチーム・ティーチングを行う。さらに教員は素材となっている企業の講演の事前・事後の調査・研究成果を基に１回の経営者講演会を経営学的に再整理する。

〔講義のすすめ方〕

３週間を１タームとして始めの２週を経営者の方２名に講義をしていただいて、３週目に担当教員がまとめを行うという形で講義をすすめる。

〔教　　材〕

教科書は使用しない。毎回資料の配布がある。

〔成績評価の方法・基準〕

数回のレポート提出と学年末試験などによって総合評価する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はないが、必要最低限の経営学の知識を有した学生の受講が望ましい。生きた経営学を吸収するチャンスであるので、意識の高い学生の受講を希望する。

全ての専門科目は関連科目と考えられる。

D. 教職課程科目・随意科目　　目　次

区　分		No.	授　業　科　目　名	単位	掲載頁	備　考
教職に関する科目	教職科目	—	教師論	2	—	
		1	教育本質論	2	277	
		2	教育心理学	2	278	
		3	教育制度論	2	279	
		4	教育工学	2	280	
		—	社会科教育法Ⅰ	2	—	
		—	社会科教育法Ⅱ	2	—	
		—	社会科教育法Ⅲ	2	—	
		—	公民科教育法	4	—	
		—	英語科教育法Ⅰ	2	—	
		—	〃　Ⅱ	2	—	
		—	〃　Ⅲ	2	—	
		5	道徳教育の研究	2	281	
		—	学級経営・特別活動の研究	2	—	
		—	生徒指導Ⅰ（生徒指導の理論）	2	—	
		—	生徒指導Ⅱ（学校カウンセリングの実際）	2	—	
		—	総合演習	2	—	
		—	事前事後指導	1	—	
		—	教育実習（中）	4	—	
		—	教育実習（高）	2	—	
	教科科目	6	政治学原論	4	282	
随意科目		—	海外研修	2	—	
		7	スタディスキルをみがこう	2	283	
		—	適性・適職発見講座	2	—	
		—	ソーシャルスキルⅠ	2	—	
		—	ソーシャルスキルⅡ	2	—	

D 1	教育本質論	2単位	中谷陽子

〔講義目的〕

いま教育に危機感を抱く人が多い。

平成12年3月、教育改革国民会議（内閣総理大臣の下）が発足した。すでに、またこれからつぎつぎと様々な改革が打ち出されていくであろうが、この新しい時代に私達が満足できるような教育が実現できるのか、それは未知数である。より教育現場の混乱が深刻化しないとも限らない。

このような時こそ、私達は身近な声を集め、日々変化する事態を積極的に見つめて判断する力を育てなければならない。講義では（受講生の人数にもよるが）教育の本質について最も新しい課題を設定して、資料研究・輪読・討議などをして教育の本質を考察できる授業としたい。

〔講義内容〕

Ⅰ子どもの歴史
Ⅱ　生涯発達の考え方
Ⅲ　家庭・学校・地域社会という構図
Ⅳ　過去5年間の教育資料を読む
Ⅴ　教育の危機が教えるもの
Ⅵ　多様な教育とその機会
討義：学生による教育の本質への提言

〔教　　材〕

特に指定しない。
資料は多く作成し、討議の参考とする。
また、参考書は授業中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験或はレポート。
その他普段の努力や出席状況。

D 2	教育心理学	2単位	神戸文朗

〔講義目的〕
教育心理学は基礎的心理学の知識を教育場面へ応用するための学問とされています。ここでは人間の発達がどのように進行するかを講義の基本に置き、誤った発達理解に基づく教育に陥ることのないように皆さんの注意を喚起したいと思います。特に乳児期における母子相互交渉とそれに基づく絆の形成の重要性、及び（認知的）発達における自発的活動の重要性について強調したいと思います。この講義が様々な場面で皆さんが直面するであろう少年達の危機にどう向かい合うべきかを考える指針としたいと思います。

〔講義内容〕
1．教育心理学とは何か
2．認知的発達
①乳児の感覚発達能力
②ピアジェの認知的発達説
3．人格発達
①フロイトの人格構造論及び精神・性的発達段階説
②エリクソンのライフサイクル説
4．母子関係
①絆の源
②愛着・養護行動
5．社会化
①自我の発生
②能力感と社会的規制
③道徳意識の発生
6．学習の過程
①学習の原理
②個人差と学習
7．思春期・青年期の危機
①無気力と不登校
②攻撃行動といじめ
③非行

〔講義のすすめ方〕
講義の開始にあたりこの要項とは別に講義梗概を配布しようと思います。授業ではこの梗概に従って進行する予定です。授業方法は主として黒板への書き込みと口頭での説明になります。

〔教　材〕
教科書は指定しません。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔履修のポイント・注意点〕
多岐にわたる内容なので口頭による説明が多くなると思います。熱心にノートをとることが肝要です。

〔科目内容の位置付け〕。教育心理学自体は応用的学問と考えられますが、この講義の理解のために特別な知識は必要ありません。基本的には入門的科目と考えています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
この科目を受講する際の前提科目はありません。

D 3	教育制度論	2単位	萩原元昭

〔講義目的〕
教育は一般に 1）無定型（informal） 2）非定型（non-formal） 3）定型（formal）の3つの形態に分けられる。
「無定型」は家庭におけるしつけのように、意識しないまま行われている教育であり、「非定型」は人々を集めて行う。例えば公民館などで行われる家庭教育学級、高齢者学級などがあり、最後の「定型」は意図がありかつ組織的に行われる教育で学校での教育がその代表である。本論では1）2）にふれながらも現代社会における学校制度を中心に考察する。

〔講義内容〕
授業内容は概略、次のようである。
1．教育の3つの形態
2．制度化された教育
3．現代社会の学校制度
4．学校の社会的起源
5．学校教育の普及
6．日本の学校教育制度
7．現代社会と学校制度
8．計画と教育システム
9．学校系統の形態
10．生涯学習とリカレンルト
11．大学像の変貌
12．生涯学習社会の到来
13．諸外国の学校制度
14．これからの日本の学校教育制度

〔講義のすすめ方〕
参考書、資料などをもとに、講義、討論、レポートなどをまじえながら、授業を進めて行く。

〔教　材〕
参考文献として、以下のものを参考にする。
天野郁夫「日本の教育システム、構造と変動」（東京大学出版会）
祖父江孝男「日本の教育力」（金子書房）

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法は3～4回のレポートを課するので、見逃しのないように必ず提出のこと。

〔履修のポイント・注意点〕
履修のポイントとしてはこの際、日本の教育システムについて資料などを重ねて読み、ノートにまとめることをすすめたい。

〔科目内容の位置付け〕
科目内容の位置付けとしては、これから自己の学習歴を創ってゆく諸君に教養としても役立つと思われている科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目としては別にない。関連科目としては「教育学」がある。

D 4	教　育　工　学	2単位	樋口和彦

〔講義目的〕
　教育の各要素に対して、コンピュータをどのように役立てればよいのかを考えていく。教育パフォーマンスをどのようにして、定量把握するのか、教育データの分析と評価の仕方、コンピュータを活用した教育の在り方、マルチメディア教材活用、ＤＴＰＲ．等を考察する。

〔講義内容〕
　次の内容に関して、コンピュータの活用も含めて学んで行く。
　教育とコンピュータとの関わり
　教育データの把握と情報処理
　教育データの基本統計量の処理
　教育データ間の関連性
　教育データ間の因果性
　マルチメディア教材とＤＴＰＲ．

〔講義のすすめ方〕
　情報化社会の特徴、教育への影響などの現実を先ず認識する。
　つぎにコンピュータを教育のいろいろな場面にいかに活用していくかについての基本的知識技術を学ぶ。
　このときに実際にコンピュータを操作し、その内容・考え方を確認しながらすすめていく。

〔教　　材〕
　教科書、指定図書、参考書に関しては、後に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。レポートは、原則として各テーマ（各項目）に対して提出する。レポートは、半年に10回程度を予定。
　これらに定期試験の結果を加えて総合的に判断する。未提出のレポートがひとつでも有る場合には単位は認定しない。単位認定時のウエイトは以下の様である。
　毎回の授業への取り組み姿勢＋レポート　：60%
　定期試験　：40%

〔履修のポイント・注意点〕
　具体的数値例を多く用いて、授業を進めていくので、各自計算用具を準備し、必ず計算をして、確認しながらまとめていくこと。
　将来教職に就くことを希望している諸君に必要な科目であることは当然だが、教育データのコンピュータによる処理と分析を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。

〔科目内容の位置付け〕
　教員資格の取得を目指している学生にとっての必修科目であり、また今日の教育現場において、教員に対してその理解と実際の能力が益々大きく要求されている事に深い関連がある内容を取り上げる科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
　特に関連が深い科目として、経営数学、統計学、数理統計学等があげられる。
　またコンピュータの活用（プログラムを開発して、教育データを具体的に処理してみる）も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。

D 5	道徳教育の研究	2単位	須永日信

〔講義目的〕

この科目は、小・中学校の教員免許を取得するために修得が必要とされる教職に関する科目の中の「道徳教育に関する科目」に当たる。

学校における道徳教育は、人間教育の根幹であり、最も重要視されている教育である。

このことは、小学校・中学校学習指導要領第1章総則の中で、「学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間をはじめとして各教科、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。」と明示されているところからも明らかである。

この科目では、現在小・中学校において推進されている道徳教育の現状に即しながら、道徳教育の目標・指導計画・指導内容・指導方法等について研究し、併せて、道徳教育を実践する指導者としての資質能力の育成と実践意欲の醸成を目指すものである。

〔講義内容〕

⑴導入

①道徳の意義

道徳・倫理の意義について理解する。

②道徳思想の歴史的変遷

日本や西欧における社会の変遷とそれに伴う道徳について概観する。

⑵道徳教育の意義

学校における道徳教育の意義について考える。

⑶道徳教育の歴史

明治期から第二次大戦までの日本における道徳教育から現在の道徳教育に至る過程を概観する。

⑷学校における道徳教育

学習指導要領などにもとづいて、小・中学校における道徳教育について考察し、道徳教育の本質・在り方について理解を深める。

①道徳教育の目標

②小・中学校における道徳教育

③道徳教育の指導

- 指導内容（「四つの視点」を中心として）
- 指導方法
- 評価の仕方
- 各教科における道徳教育の指導
- 特別活動における道徳教育の指導
- 総合的な学習の時間における道徳教育の指導

〔講義のすすめ方〕

・講義は、教科書・参考図書を中心とし、関連資料のプリントなども十分活用して、学習効果を高めていく。

・受講生自身が、各自の小・中学校で体験してきた道徳教育に触れながら講義を進めていきたい。

〔教　材〕

教科書　「中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 —— 道徳編 ——」
文部省（大蔵省印刷局）

参考図書　「小学校　生命を尊ぶ心を育てる指導」　文部省（大蔵省印刷局）
「道徳教育推進指導資料（中学校読み物資料とその利用）」
文部省（大蔵省印刷局）

〔成績評価の方法・基準〕

①試験

②レポート必要に応じて提出を求める。

③出席状況

①、②、③を総合して評定する。

〔履修のポイント・注意点〕

- 道徳教育の指導者にとって最も大切なものは何であるかをよく理解すること。
- 小学校と中学校における道徳教育のつながりをよく理解すること。（小・中の一貫）
- 受講生一人一人が、道徳教育を自分自身の生き方と関連させて学習すること。

〔科目内容の位置付け〕

小・中学校において道徳教育を指導・実践するに当たっての初歩的・入門的内容の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

関連科目：教養科目
倫理学概論、哲学概論、心理学
：教職過程科目
教師論、教育本質論、公民科教育法、教育心理学、生徒指導

D 6	政治学原論	4単位	神吉尚男

〔講義目的〕
われわれは社会的動物であり、他の人間となにごとかを取り決め、それに従って生きていく以外にない。そこに政治の原点がある。政治は種としての人間が滅びない限り、絶対になくならない基本的な問題なのだ。従って、政治などドウデモヨイと心の底から思っている人間は、自分のことに責任をもたない（もてない）小児か奴隷と同じ精神状態であり、政治の話は無縁である。本講は、この「政治」とは何かについてこだわり続ける大人（士大夫）ための、あるいは大人（士大夫）になるための持久力を養成するものであると認識していただきたい。

〔講義内容〕
下記のような構成で政治の仕組みと取り組み方について講義する予定である。

序　章　政治学とはどのような学問か
　政治学とは、何を目的とする（何を期待されている）学問か、他の学問とどういう関係を持っているか、どのような領域を射程に収めているか、を考える。

第１章　政治とは何か
　政治とはほんとうに薄汚い行為なのか、それならなぜ無くならないのか、政治とは、そもそも誰が・いつ・どこで・どのようなことをするときに考えられる行為か、を考える。

第２章　権力
　政治と権力は切っても切れない関係にあるのか、「権力」と「権威」の違い、権力が容認されるのはなぜか、権力の悪魔的性格、を考える。

第３章　国家とは何か
　国家とはどのようなものなのか、何のためにあるのか、我々に奉仕する公共団体？我々が命を捧げて尽くさねばならない尊いもの？私たちの郷土？祖国？運命共同体？誕生の歴史とそのメカニズムや操作法について考える。

第４章　この国のかたち
　日本という国がどのような設計で造られたか、作動のメカニズム、維持・管理のチェックポイント、バージョンアップの可能性、必要性を考える。

〔講義のすすめ方〕
高額の学費を負担し、なおかつ最高学府である大学で学ぶという厳然たる事実を勘案すれば、入門から始まるとしても、ある程度の応用へ発展させていくことが、知性を高めようと志しているはずの履修者に対する誠実な態度であろう。

〔教　材〕
（教科書は使用しない）
参考書：多田真鋤著『政治理論と政治思想』（慶應通信）
佐藤正志・中原喜一郎・三浦信行編著　『政治学講義』（早稲田大学出版部）
その他、初回の講義時に詳細な参考文献のリストを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常の講義への主体的参加を評価を受ける前提条件とし（但し、出席日数を評価に加味するような子供扱いはしない）、履修者が自分の頭でどれだけ論理的に政治の問題を考えられるようになったかを問う授業内試験の成績にもとづいて評価する。なお、講義中に２、３回程度指示する参考図書の書評またはレポートを「保険」として、最低１回は提出されることを推奨する（ただしこの保険で補填される割合は、レポートの質による）。

〔履修のポイント・注意点〕
形式的に出席して単位を掠取しようという品性下劣な履修生にはご遠慮願いたい。たんなる一方的な講義ではなく、双方向的な授業形態にしてゆきたいからである。したがって、平常から社会のさまざまな問題に関心を持ち、錯綜する現象の要点を捉えるように努めること、自分の意見を臆せず述べること、当方の売った「口喧嘩」は必ず買うこと、「もの分かり」が良くないこと、常に「なぜ？」と問い続けること、以上のような姿勢を常に心がけてもらいたい。そのためには、最低週３時間程度の各人の予習・復習は絶対不可欠であろうし、さらに文献を渉猟する根気と、課題図書を購入する資力も必要である。

〔科目内容の位置付け〕
政治学原論は、政治学のきわめて原理的な諸問題を扱うものであるが、高等学校までの社会科の知識がもっぱら「どうように」であったのに対して、「なぜ？」という各人の問いかけに応答しようとするものである。さもなければ、「政治」の恐ろしさ、汚さ以外に、「政治」のもっている無から有を生み出す創造的な力とそのみごとさを、いつまでたっても理解できないからである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本講を履修するにあたって有益であろうと思われるという意味で、「政治学」、「政治思想史」、「憲法」、「社会学」、「国語表現」、「論理学」、「哲学」、「倫理学」、「日本史」、「西洋史」などを前提・関連科目として顧慮されたい。

D 7	スタディスキルをみがこう	2単位	髙橋節子　渡辺　忠

〔講義目的〕
あなたは自分の読解力に自信がありますか。筋道を立てて物事を考えたり表現するのは得意ですか。相手が納得するように自分の考えを述べることができますか。論理的な思考や複雑な思考を表現し得るほどの語彙を自分のことばとしてもっていますか。

〔講義内容〕
この授業は、論理的な文章を徹底的に読み尽くし、その内容や語彙を完全に自分のものにすることを通じて、上記のような高度な言語能力を身につけることを目指すものです。

〔講義のすすめ方〕
調べる・読む・議論する・書くというリテラシー能力の育成を目的として、徹底した演習を行います。授業は次のような内容で行います。

①日本語の短い論説文の読解トレーニング
②口頭による意見発表と質疑応答のトレーニング
③メモ、レジュメ、レポートの作成トレーニング
④本学教育資源(教員、図書館、情報機器等)の活用法のトレーニング

10数名程度の小人数クラスとし演習形式で行います。前期を高橋が、後期を渡辺が担当します。後期は別科目『批判的思考』の演習篇という性格ももっています。

〔教　材〕
プリント教材を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点で評価します。具体的には、課題をきちんと提出したか、出席状況はどうか、授業の参加態度はどうかを総合的に判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
ただ椅子に座って教員や他の学生の話を聞いているだけでは受動的な言語能力しか身に付きません。また、そうした受け身の態度はこの授業では歓迎されません。ここで目指すのは、お互いにいろいろな考え方を出し合って、より適切な考え方や表現を皆で探っていこうとする積極的な姿勢です。あなたの考えが他の人の考えの触媒になり、他の人の考えがあなたの触媒になるような、インタラクティブな授業を目指します。

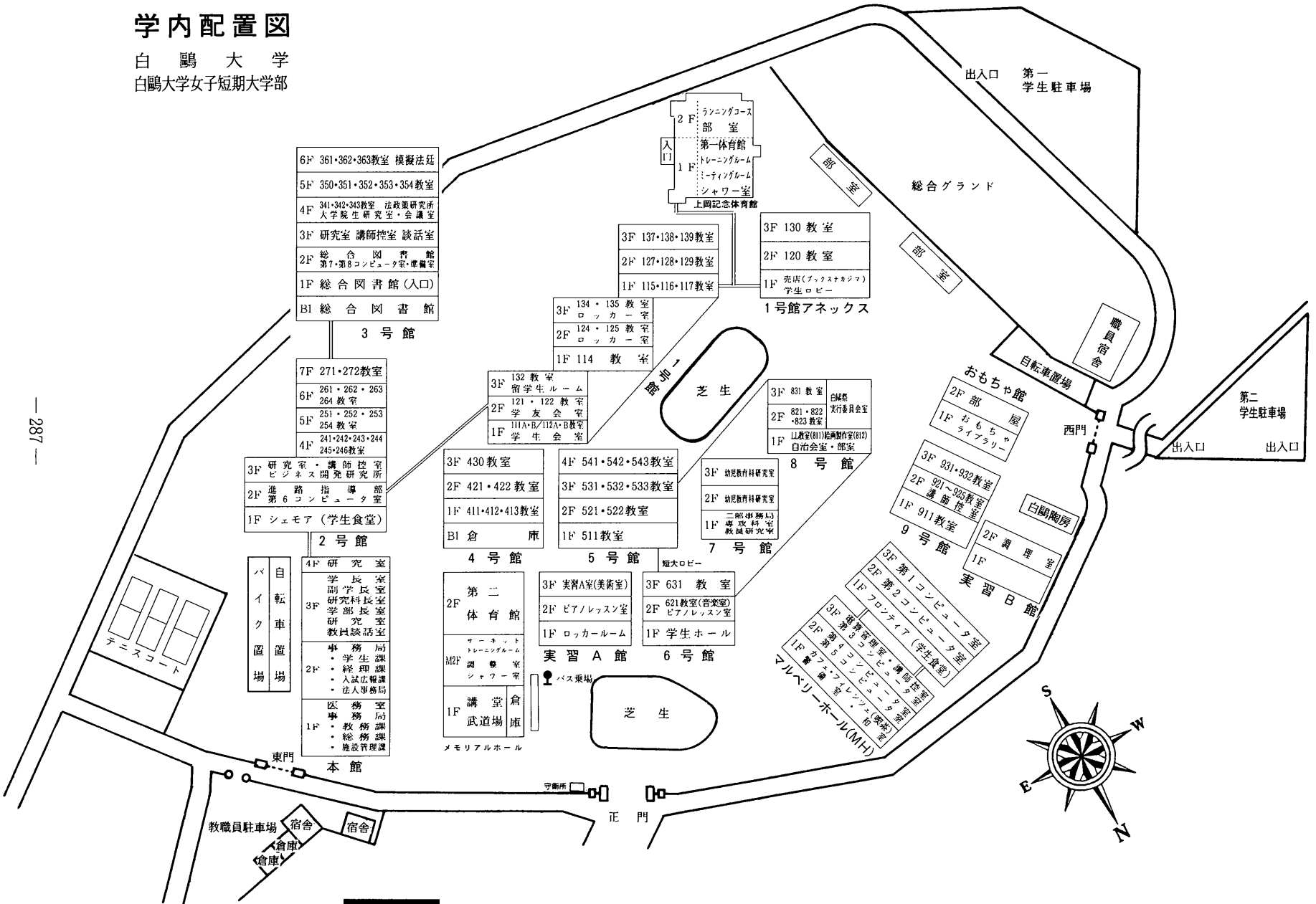
〔科目内容の位置付け〕
全学年が対象です。ただ、リテラシー能力の向上という、いわばあらゆる科目の前提となる基礎能力の開発が目的ですから、できれば1、2年生が多く受講することを望みます。大学における知的生活の土壌を培ってほしいと思います。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
前提科目はありません。
全ての科目が関連科目となります。

Ⅳ　学内配置図

学内配置図

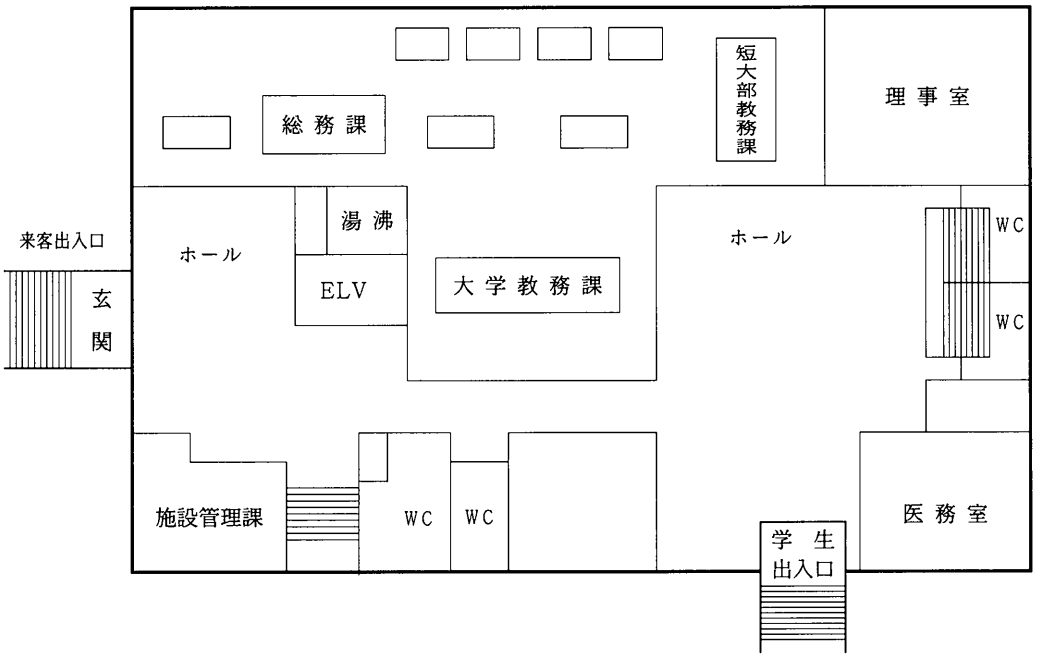
白　鷗　大　学
白鷗大学女子短期大学部



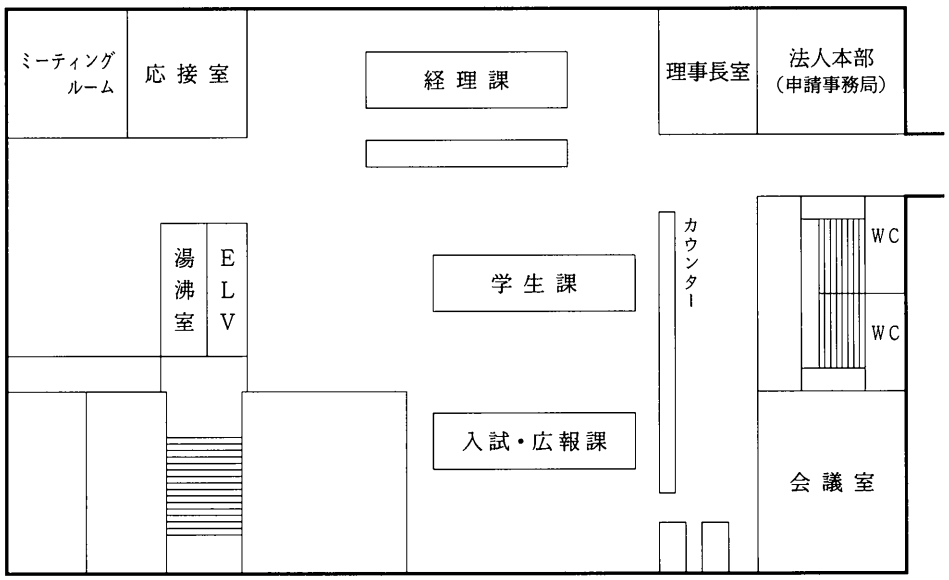
教　室

(1)　大学本館

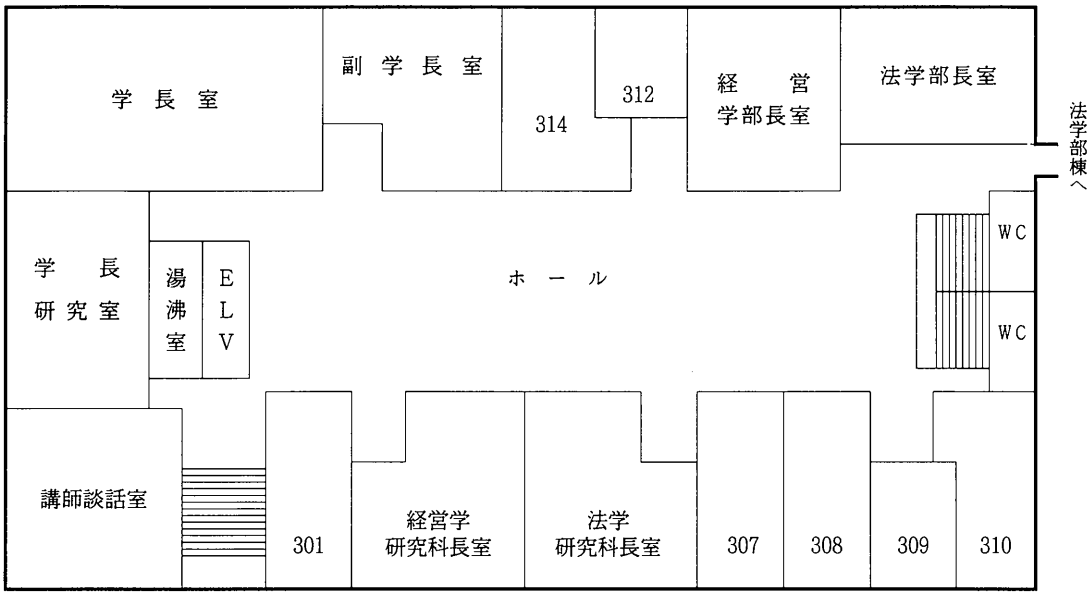
1Ｆ：事務局



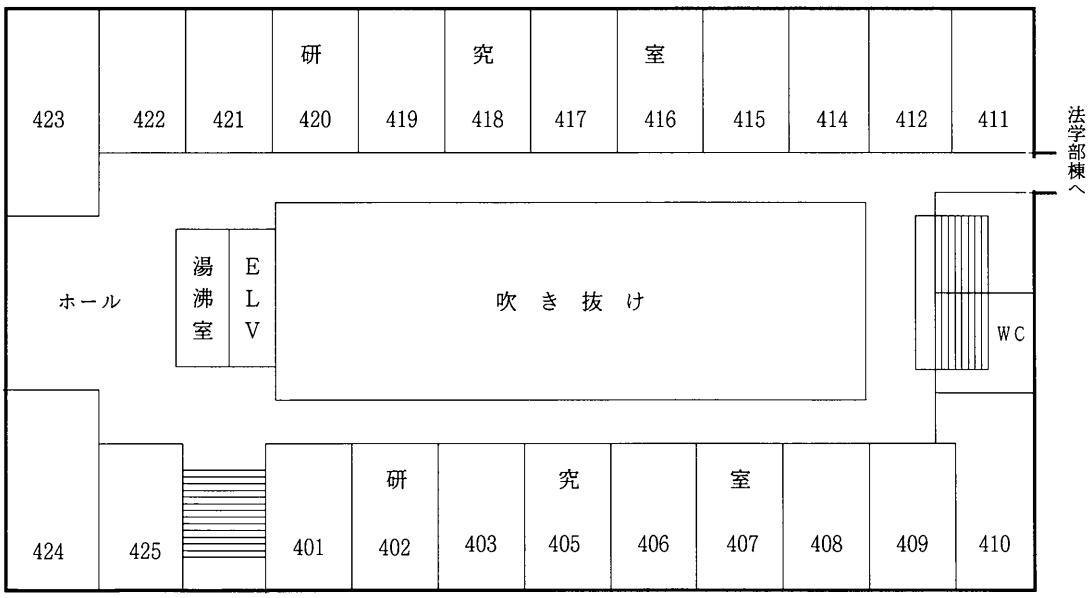
2Ｆ：事務局



3 F


学 長 室
副 学 長 室
314
312
経 営
学部長室
法学部長室
法学部棟へ
学 長
研 究 室
湯
沸
室
E
L
V
ホ ー ル
WC
WC
講師談話室
301
経営学
研究科長室
法学
研究科長室
307
308
309
310

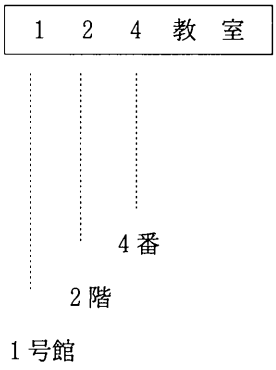
4 F


423
422
421
研
420
419
究
418
417
室
416
415
414
412
411
法学部棟へ
ホール
湯
沸
室
E
L
V
吹 き 抜 け
WC
424
425
401
研
402
403
究
405
406
室
407
408
409
410

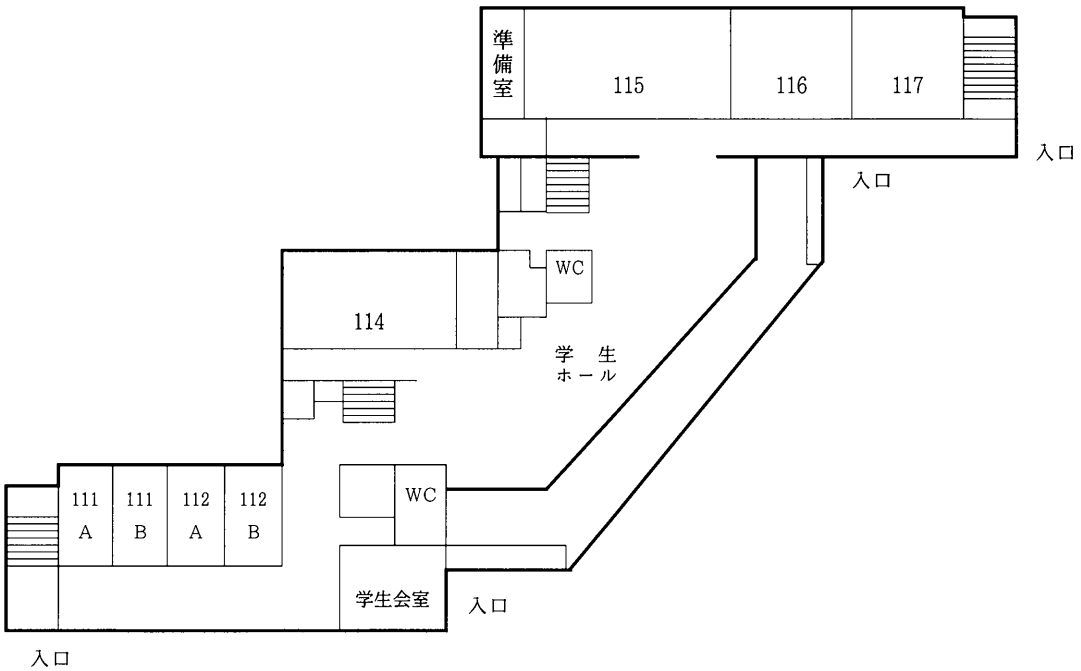
(2) 大学１号館

教室にはそれぞれ次のように教室番号が付されています。

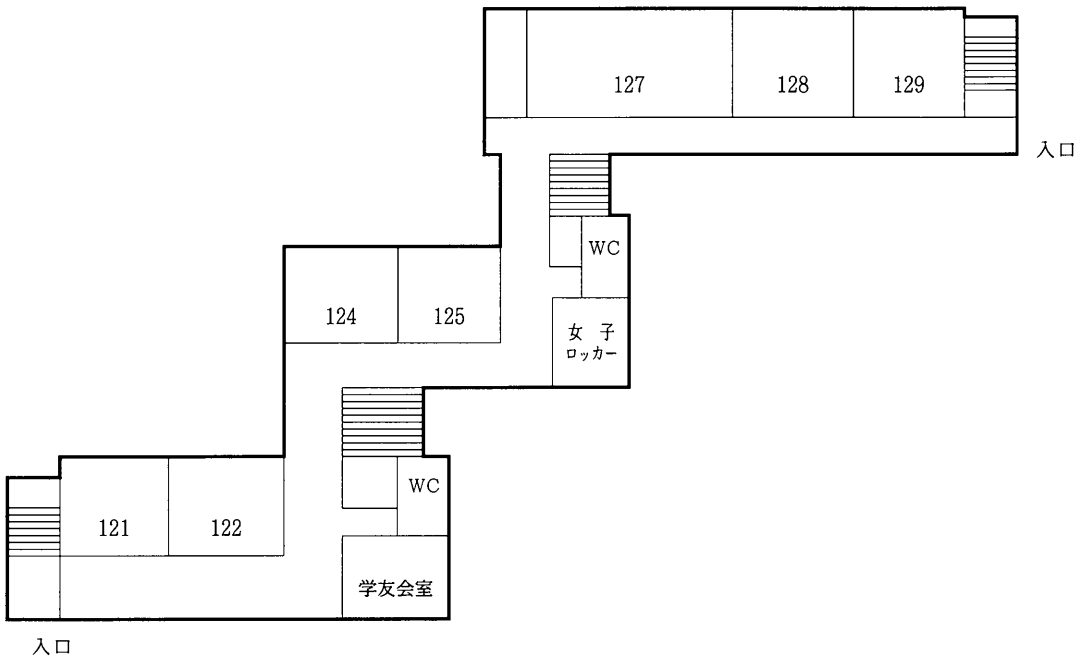
【教室番号の見方】



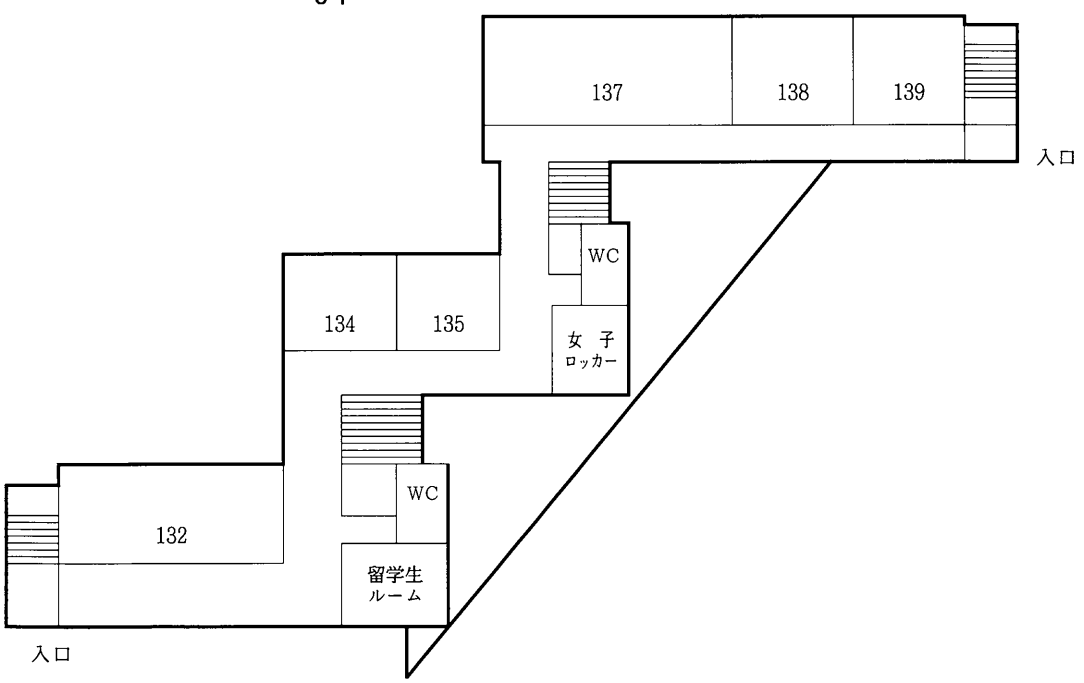
１Ｆ



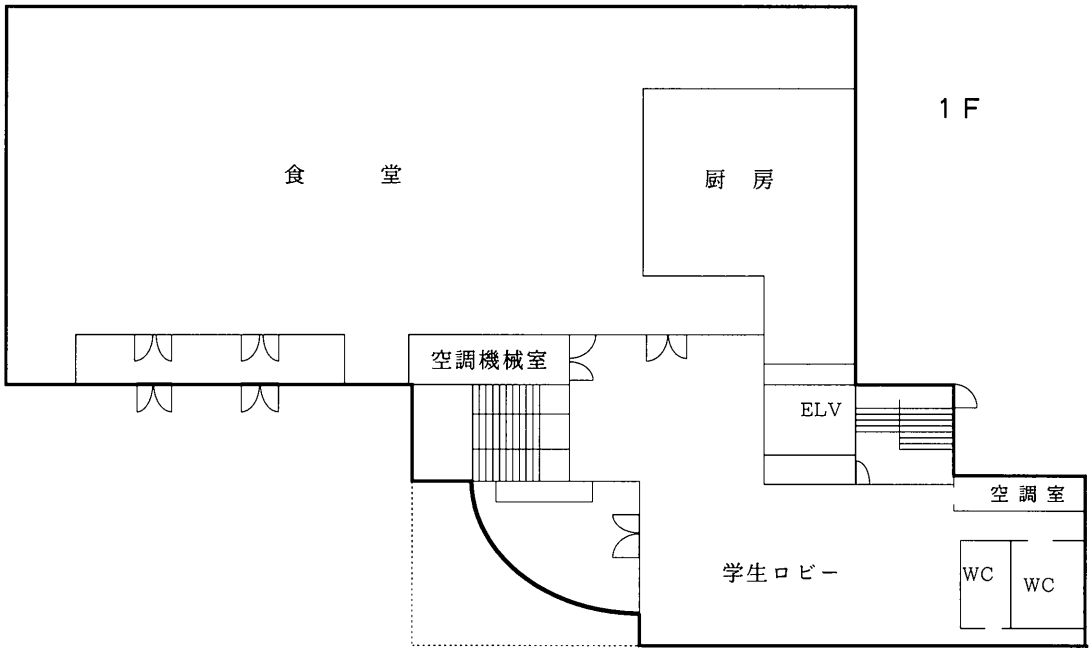
2 F


127
128
129
入口
WC
124
125
女 子
ロッカー
WC
121
122
学友会室
入口

3 F


137
138
139
入口
WC
134
135
女 子
ロッカー
WC
132
留学生
ルーム
入口

(3) 大学２号館


1 F
食　　堂
厨　房
空調機械室
ELV
空 調 室
学生ロビー
WC
WC

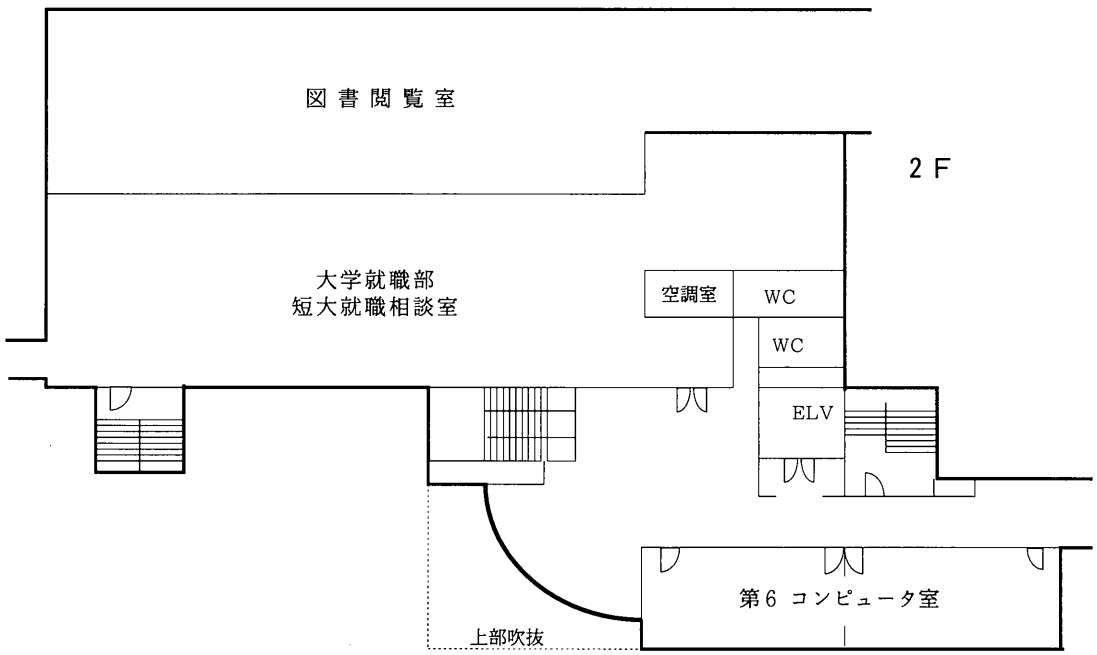
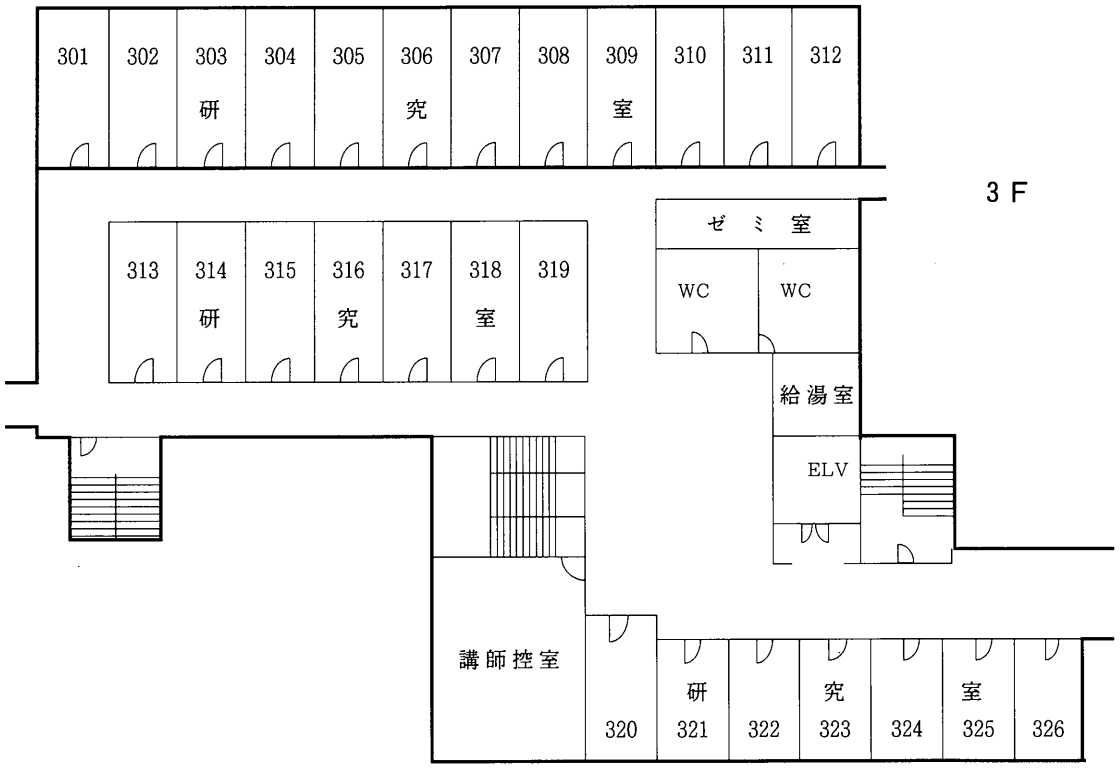
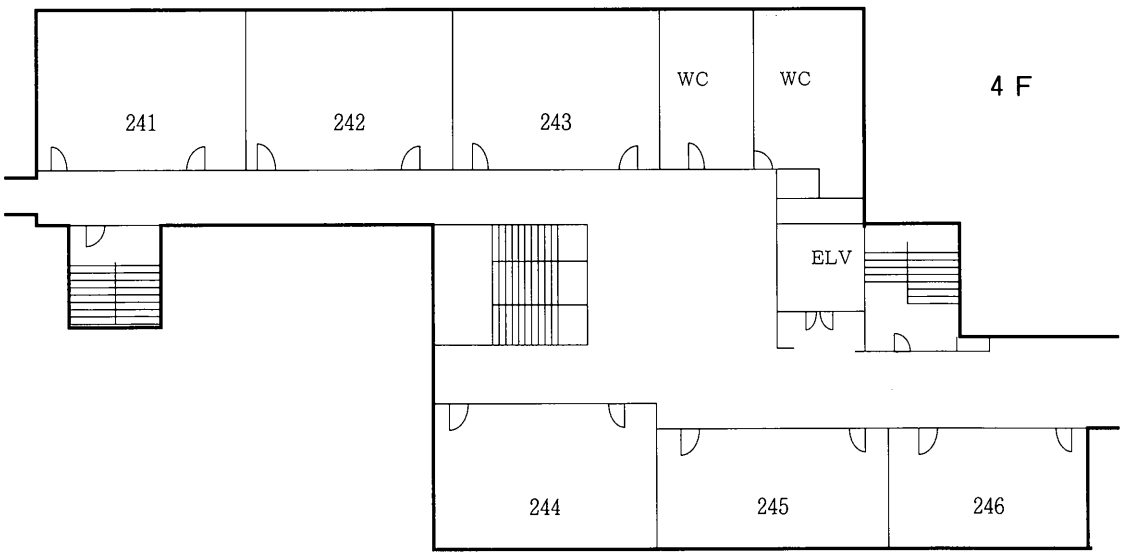
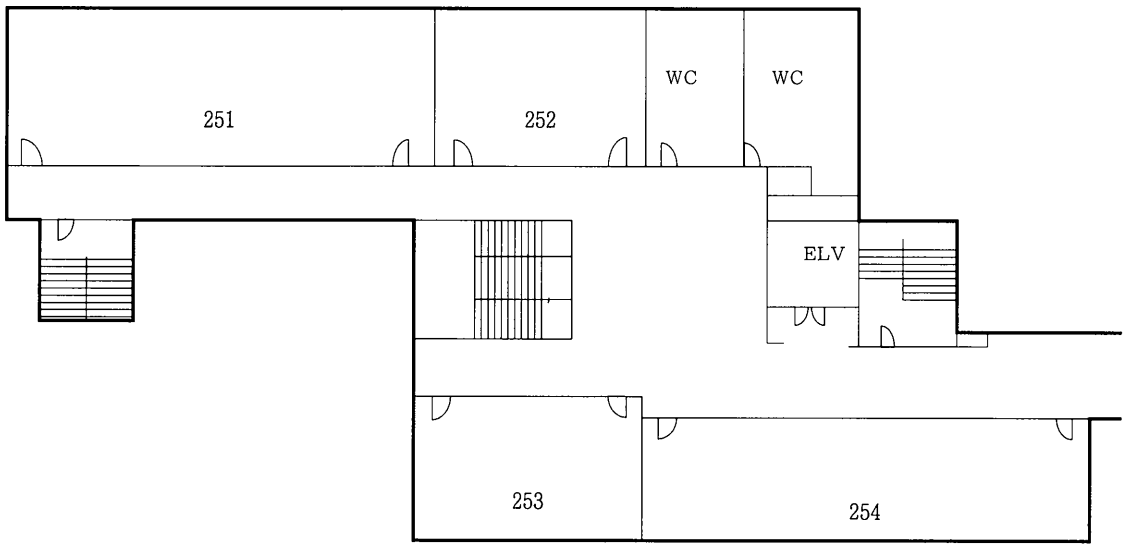


図 書 閲 覧 室
2 F
大学就職部
短大就職相談室
空調室
WC
WC
ELV
第6 コンピュータ室
上部吹抜

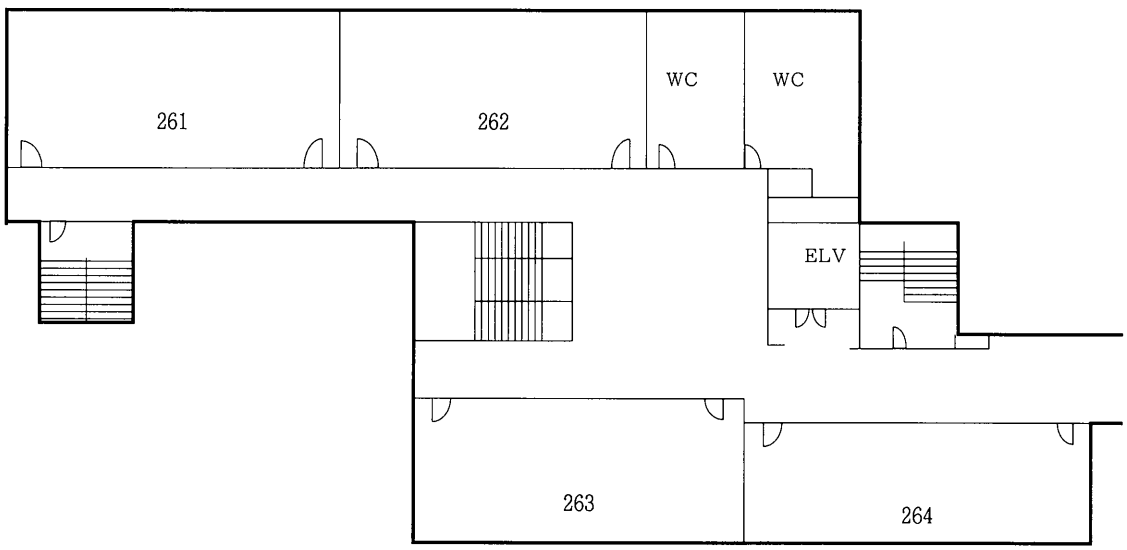

301
302
303
研
304
305
306
究
307
308
309
室
310
311
312
3 F
313
314
研
315
316
究
317
318
室
319
ゼ ミ 室
WC
WC
給湯室
ELV
講師控室
320
研
321
322
究
323
324
室
325
326


241
242
243
WC
WC
4 F
ELV
244
245
246

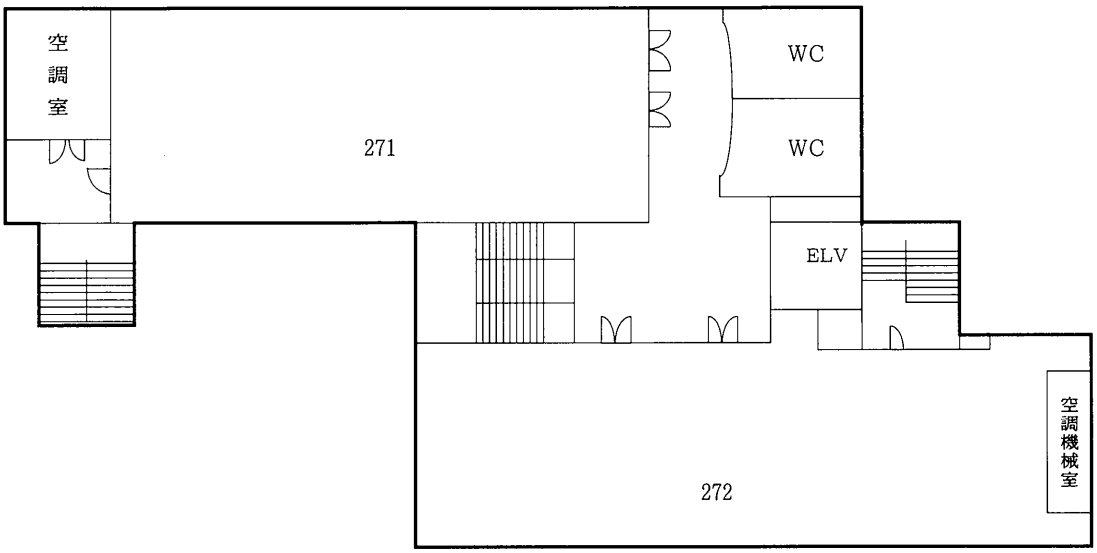
5 F



6 F

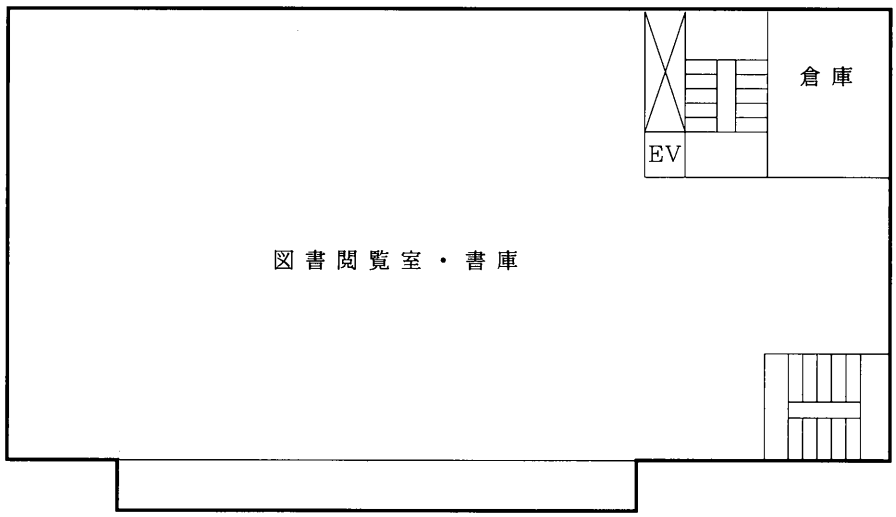


7 F

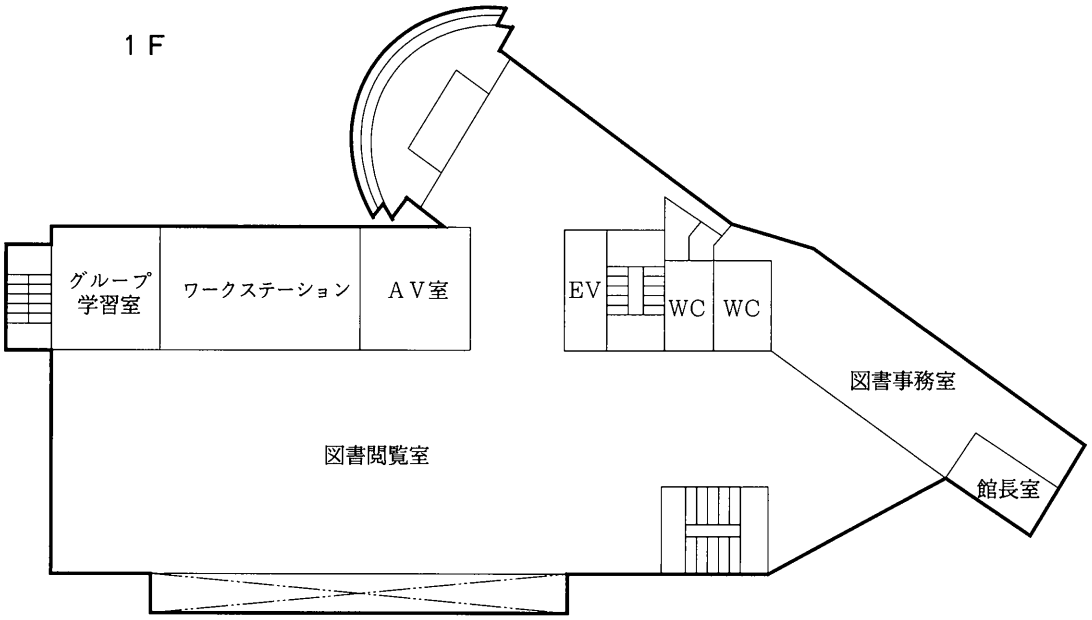


(4) 大学３号館

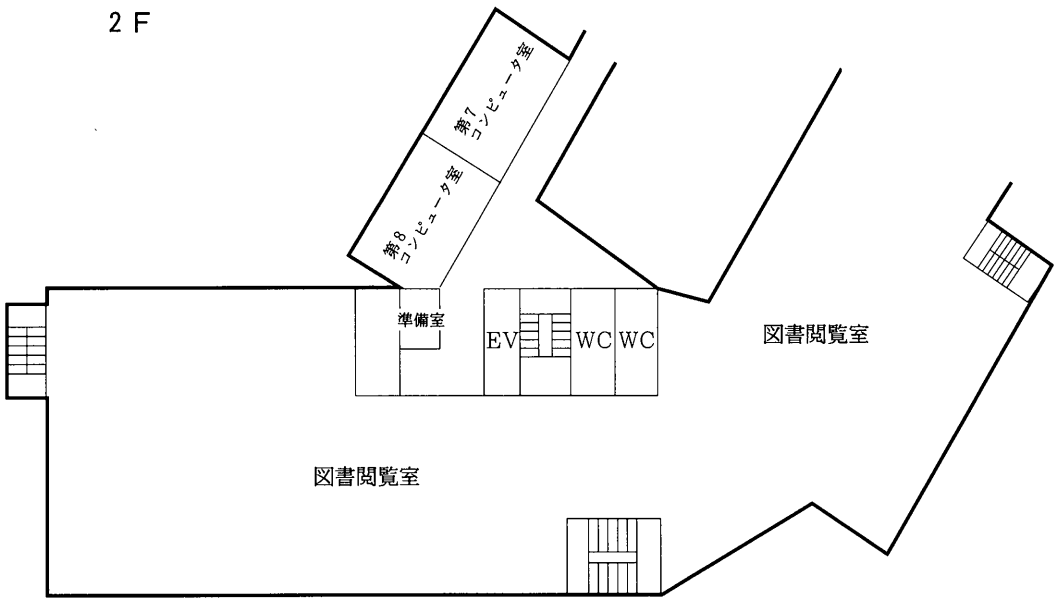
B１F



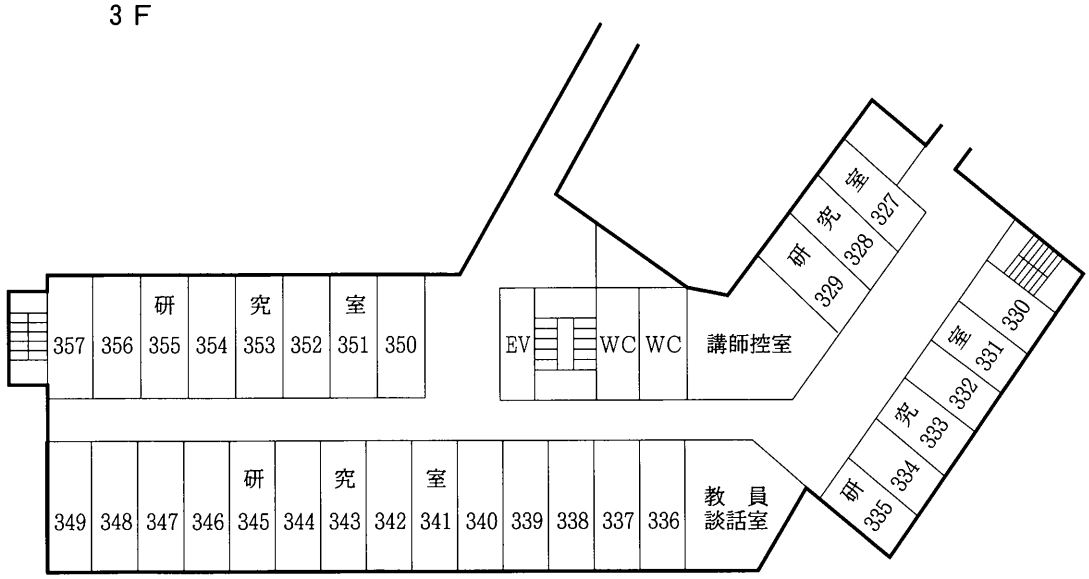
１F



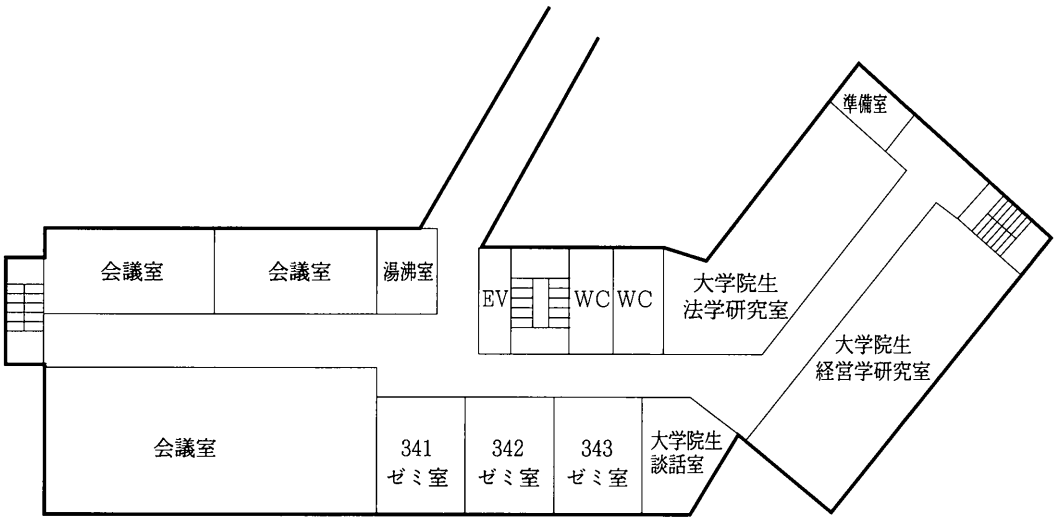
2 F


第7コンピュータ室
第8コンピュータ室
準備室
EV
WC
WC
図書閲覧室
図書閲覧室

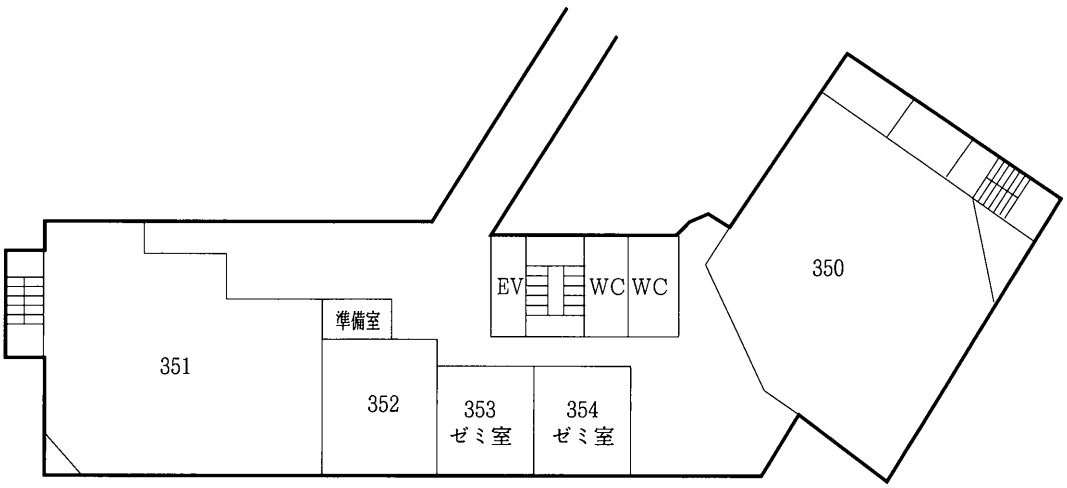
3 F


357
356
研究室
355
354
353
352
351
350
EV
WC
WC
講師控室
研究室
329
328
327
研究室
330
331
332
研究室
333
334
335
349
348
347
346
研究室
345
344
343
342
研究室
341
340
339
338
337
336
教員談話室

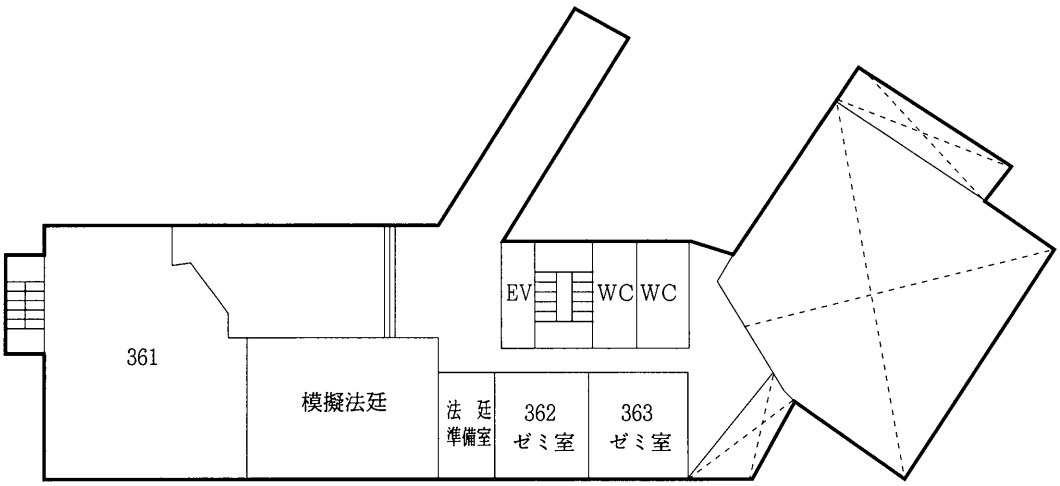
4 F


会議室
会議室
湯沸室
EV
WC
WC
大学院生
法学研究室
準備室
大学院生
経営学研究室
会議室
341
ゼミ室
342
ゼミ室
343
ゼミ室
大学院生
談話室

5 F

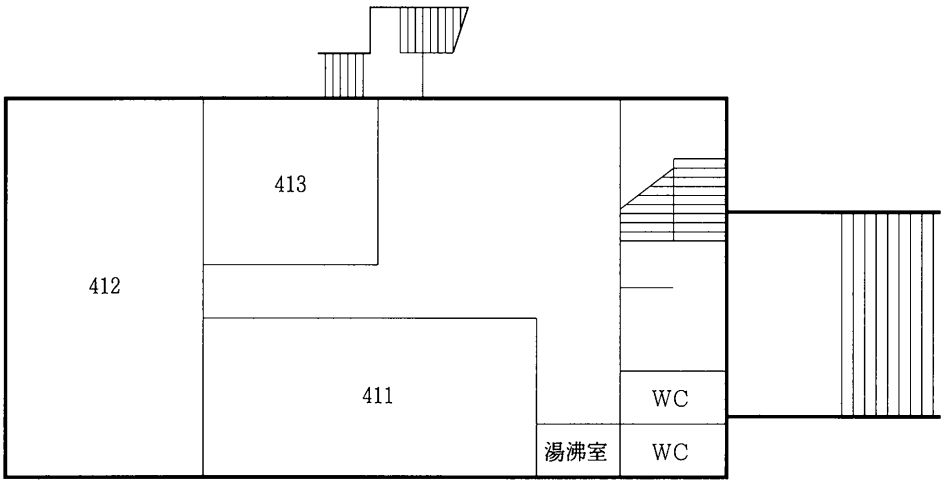

EV
WC
WC
350
準備室
351
352
353
ゼミ室
354
ゼミ室

6 F

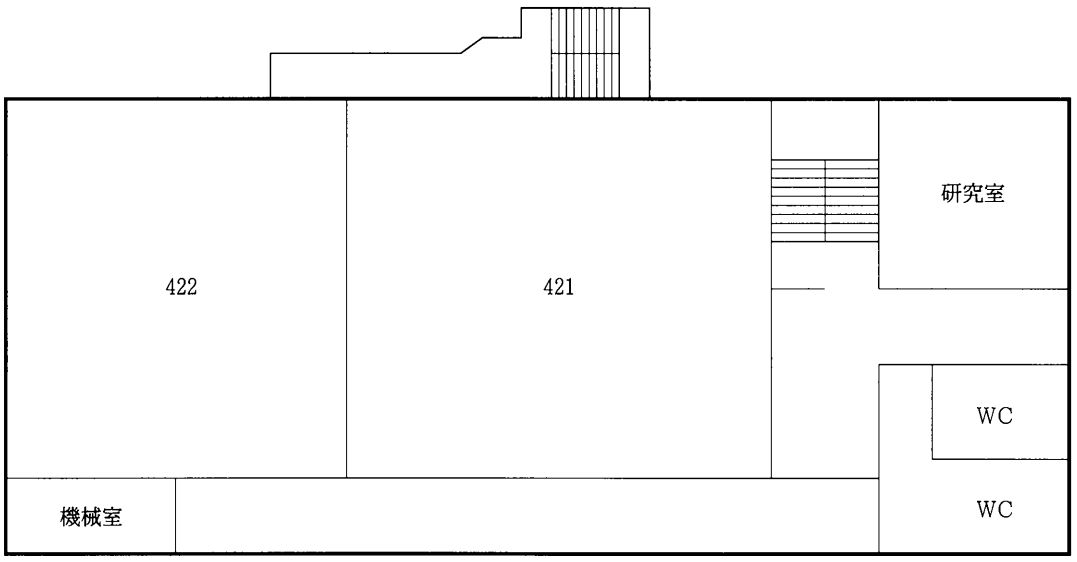


(4) 大学4号館

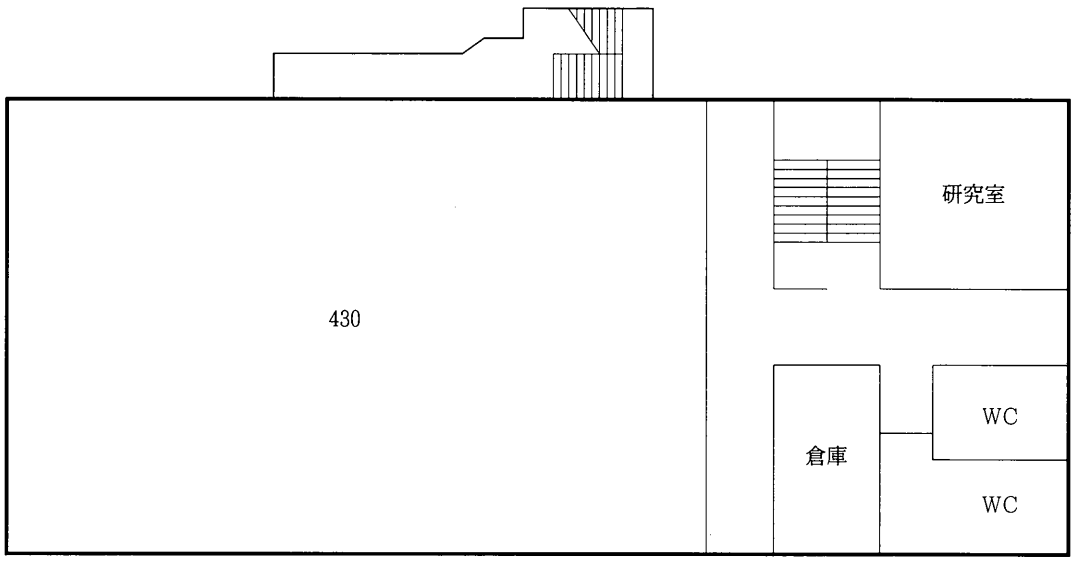
1F



2F



3 F

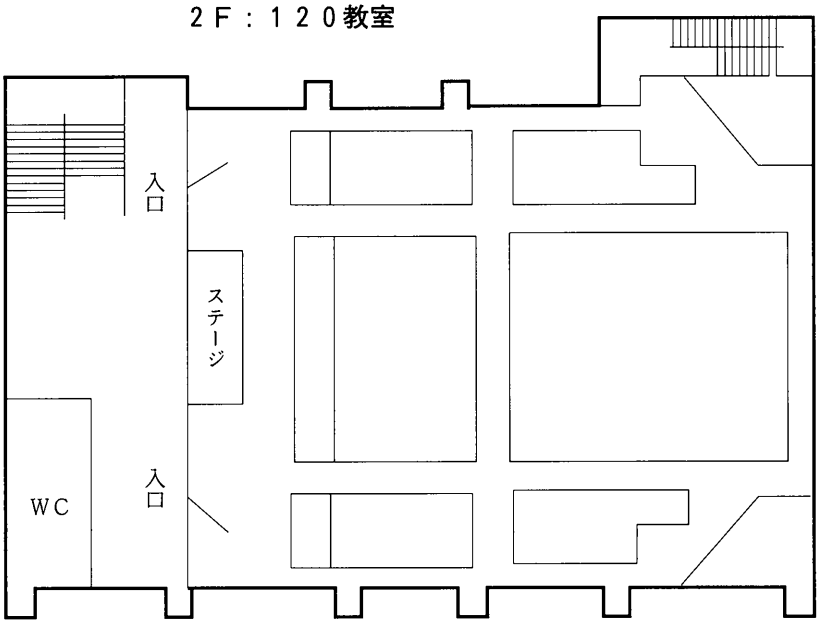


(5)　1号館アネックス（共通校舎）

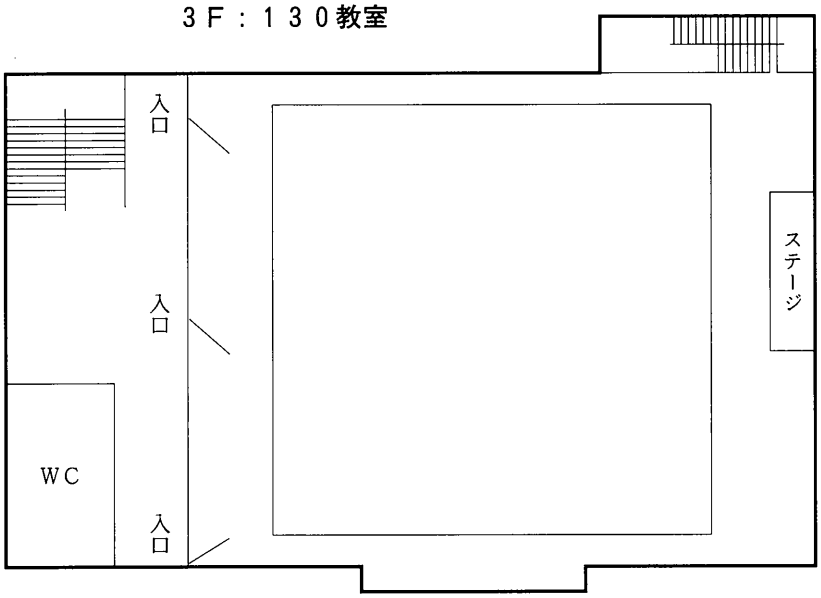
1号館アネックスは、平成2年3月に竣工された大学及び短大の共通校舎です。

1階が売店及び学生ホール。2階及び3階がそれぞれ大教室となっています。

2F：120教室



3F：130教室



V 索　　引

講義内容索引

【外国語科目】

講義内容	担当教員名	頁
基礎ゼミナール	藤井　健(他)……	58
英語 I (Oral)	M.シャック(他)……	60
英語 II (英文法)	藤森吉之……	61
英語 III (Reading)	M.シャック……	62
英語 IV (Writing)	新川清治(他)……	63
英語 VII (Vocabulary)	新川清治……	64
英語 VIII (英語の音声)	松井・藤森……	65
ドイツ語 I	的場哲朗……	67
フランス語 I	C.アマン……	68
中国語 I	陳　順和……	69
スペイン語 I	髙橋節子……	70
日本語 I	山田あき子……	71
日本語 II	山田あき子……	72
日本語 III	坂本悦子……	73
日本語 IV	山田あき子……	74
日本語 V	金柿玲子……	75
日本語 VI	金柿・坂本……	76
日本語 VII	金柿玲子……	77

【教養科目】

歴史学 A	三浦顕一郎……	80
歴史学 B	三浦顕一郎……	81
歴史学 A	村尾元忠……	82
歴史学 B	村尾元忠……	83
日本史概論(前)	村尾元忠……	84
日本史概論(後)	村尾元忠……	85
外国史概論	松嶌・(清水)……	86
地誌学概論	奥澤信行……	87
地理学 A	奥澤信行……	88
地理学 B	奥澤信行……	89
地理学概論(前)	奥澤信行……	90
地理学概論(後)	奥澤信行……	91
倫理学 A	的場哲朗……	92
倫理学 B	的場哲朗……	93
倫理学概論(前)	的場哲朗……	94
倫理学概論(後)	的場哲朗……	95
哲学 A	渡辺　忠……	96
哲学 B	渡辺　忠……	97
応用倫理	渡辺　忠……	98
哲学演習	渡辺　忠……	99
哲学概論(前)	渡辺　忠……100	
哲学概論(後)	渡辺　忠……101	
文学 A	向井千代子……102	
文学 B	針生　進……103	
論理学	渡辺　忠……104	
批判的思考	渡辺　忠……105	
国語表現法 A	青柳好信……106	
国語表現法 B	青柳好信……107	
美学 A	塚原哲夫……108	
美学 B	塚原哲夫……109	
比較文化論 A	小山宙丸……110	
比較文化論 B	小山宙丸……111	
社会学 A	山本厚太郎……112	
社会学 B	山本厚太郎……113	
社会学 A	今野裕昭……114	
社会学 B	今野裕昭……115	
法学 A	鋤本豊博……116	
法学 B	鋤本豊博……117	
統計学 A	沖津　直……118	
統計学 B	沖津　直……119	
心理学 A	神戸文朗……120	
心理学 B	神戸文朗……121	
心理学 A	中谷陽子……122	
心理学 B	中谷陽子……123	
社会心理学 A	細田一秋……124	
社会心理学 B	細田一秋……125	
政治学 A	福岡政行……126	
政治学 B	福岡政行……127	
情報社会科学 A	森川信男……128	
情報社会科学 B	森川信男……129	
教育学 A	萩原元昭……130	
教育学 B	萩原元昭……131	
環境科学 A	石倉洋子……132	
環境科学 B	石倉洋子……133	
物理学 A	師　啓二……134	
物理学 B	師　啓二……135	

講義内容	担当教員名	頁
化学A	石倉洋子	136
化学B	石倉洋子	137
生物学A	上田高嘉	138
生物学B	上田高嘉	139
科学史A	石倉洋子	140
科学史B	石倉洋子	141
数学A	黒澤和人	142
スポーツ演習A	竹島克己	143
スポーツ演習A	野間明紀	144
スポーツ演習B	竹島克己	145
スポーツ演習B	野間明紀	146
健康科学	竹島克己	147
健康科学	野間明紀	148
日本事情Ⅰ(社会・経済)	樋口兼次	149
日本事情Ⅱ(歴史・政治)	蔡柱國	150
日本事情Ⅲ(文化・文学)	坂本悦子	151
日本事情Ⅳ(生活・風物)	堀眞由美	152

【専門科目】

経営基本論Ⅰ	森本・鷹野	156
経営基本論Ⅱ	沖津・藤井	157
経営学	黒田勉	158
経営学	柳川高行	159
経営戦略論	柳川高行	160
経営学史Ⅰ	柳川高行	161
経営学史Ⅱ	柳川高行	162
経営史Ⅰ	片岡豊	163
経営史Ⅱ	片岡豊	164
日本経営史Ⅰ	片岡豊	165
日本経営史Ⅱ	片岡豊	166
ベンチャー起業論	鹿住倫世	167
ベンチャー経営論	鹿住倫世	168
マネジメントコミュニケーションⅠ	藤井健	169
秘書学	堀眞由美	170
NPO論	樋口(兼)・山岸	171
中小企業論	樋口兼次	172
企業ネットワーク論	山田徳彦	173
公益事業論Ⅰ	蟻生俊夫	174
公益事業論Ⅱ	蟻生俊夫	175
企業論	山田徳彦	176
企業論	蟻生俊夫	177
交通論	山田徳彦	178
経営管理総論	黒田勉	179
労務管理論	張承玖	180
財務管理論	樋口和彦	181
生産管理論Ⅰ	三浦達司	182
生産管理論Ⅱ	三浦達司	183
産業・組織心理学	岸田孝弥	184
品質管理論	安藤満生	185
クオリティマネジメントⅠ	安藤満生	186
クオリティマネジメントⅡ	安藤満生	187
メディアコミュニケーション	菅谷実	188
ネットワークコミュニケーション	菅谷実	189
英語・情報リテラシー	藤森吉之(他)	190
現代情報科学	樋口和彦	191
計数管理論	黒澤和人	192
情報管理論Ⅰ	舩田眞里子	193
情報管理論Ⅱ	舩田眞里子	194
管理工学Ⅰ	三浦達司	195
管理工学Ⅱ	三浦達司	196
情報処理演習A－Ⅰ	舩田眞里子	197
情報処理演習A－Ⅱ	舩田眞里子	198
情報処理演習B－Ⅰ	山下勇一	199
情報処理演習B－Ⅱ	山下勇一	200
情報処理特論A－Ⅰ	森川信男	201
情報処理特論A－Ⅱ	森川信男	202
情報処理特論B－Ⅰ	山下勇一	203
情報処理特論B－Ⅱ	山下勇一	204
決定の科学Ⅰ	樋口和彦	205
決定の科学Ⅱ	樋口和彦	206
経営統計学Ⅰ	舩田眞里子	207
経営統計学Ⅱ	舩田眞里子	208
情報通信システム論Ⅰ	菅谷実	209
情報通信システム論Ⅱ	菅谷実	210
会計学	紺野剛	211
会計学	鷹野宏行	212

講義内容	担当教員名	頁
会計学	山田　覚	213
会計学	渡辺金愛	214
簿記論	山田　覚	215
財務会計論	鷹野宏行	216
経営分析論Ⅰ	紺野　剛	217
経営分析論Ⅱ	紺野　剛	218
会計情報システム論	山田　覚	219
マーケティングⅠ	藤井信之	220
マーケティングⅡ	藤井信之	221
広告論Ⅰ	根本昭二郎	222
広告論Ⅱ	根本昭二郎	223
商学総論Ⅰ	柳川高行	224
商学総論Ⅱ	根本昭二郎	225
金融論	今井　澂	226
流通論Ⅰ	根本昭二郎	227
流通論Ⅱ	根本昭二郎	228
保険論Ⅰ	戸出正夫	229
保険論Ⅱ	戸出正夫	230
ネットワーク社会の経済学Ⅰ	大内秀明	231
ネットワーク社会の経済学Ⅱ	大内秀明	232
経済学	沖津　直	233
経済学	吉川　薫	234
財政学	吉川・(浅羽)	235
経済地理学	奥澤信行	236
経済原論	沖津　直	237
現代経済	吉川　薫	238
地域経済論	樋口兼次	239
国際経営論	張　承玖	240
国際経営論	高橋浩夫	241
国際経営論	藤井　健	242
国際関係論(概論)	波多野裕造	243
国際関係論(西欧)	波多野裕造	244
国際関係論(東欧)	佐野　真	245
国際関係論(ロシア)	佐野　真	246
国際関係論(イスラム世界)	平山健太郎	247
国際関係論(中東湾岸)	平山健太郎	248
国際関係論(東北アジア)	堀　宏	249
国際関係論(東南アジア)	堀　宏	250
国際関係論(アメリカ)	高畑昭男	251
国際金融論	今井　澂	252
多国籍企業論	藤井　健	253
貿易商務論Ⅰ	塚越千由	254
貿易商務論Ⅱ	塚越千由	255
外書講読　A	山田徳彦	256
外書講読　B	安藤満生	257
外書講読　B	平山健太郎	258
外書講読　B	堀　宏	259
ネットワーク関連法	岡本幹輝	260
民法	蘇田三千穂	261
経済法	川越憲治	262
商法Ⅰ	遠山　聡	263
商法Ⅱ	遠山　聡	264
企業関係法	河原文敬	265
時事英語Ⅰ	平山健太郎	266
時事英語Ⅰ	堀　宏	267
時事英語Ⅱ	平山健太郎	268
時事英語Ⅱ	堀　宏	269
異文化コミュニケーション論Ⅰ	佐野　真	270
異文化コミュニケーション論Ⅱ	上岡條二	271
特講Ⅰ(ことばと人間)	髙橋節子	272
特講Ⅰ(地球環境論)	山本厚太郎	273
特講Ⅰ(アフリカ地域研究)	J.ムルアカ	274
特講Ⅰ(現代企業行動論)	ビジネス開発研究所	275

【教職課程科目】

教育本質論	中谷陽子	277
教育心理学	神戸文朗	278
教育制度論	萩原元昭	279
教育工学	樋口和彦	280
道徳教育の研究	須永日信	281
政治学原論	神吉尚男	282

【随意科目】

スタディスキルをみがこう	髙橋(節)・渡辺(忠)	283

担当教員別索引（50音順）

【あ　行】

担当教員名	講義内容	頁
青柳好信	国語表現法A	106
	国語表現法B	107
(浅羽)・吉川	財政学	235
蟻生俊夫	公益事業論Ⅰ	174
	公益事業論Ⅱ	175
	企業論	177
安藤満生	品質管理論	185
	クオリティマネジメントⅠ	186
	クオリティマネジメントⅡ	187
	外書講読B	257
石倉洋子	環境科学A	132
	環境科学B	133
	化学A	136
	化学B	137
	科学史A	140
	科学史B	141
今井澂	金融論	226
	国際金融論	252
W.スミダ	英語Ⅰ(Oral)	60
	英語Ⅳ(writing)	63
上田高嘉	生物学A	138
	生物学B	139
大内秀明	ネットワーク社会の経済学Ⅰ	231
	ネットワーク社会の経済学Ⅱ	232
岡本幹輝	ネットワーク関連法	260
沖津直	統計学A	118
	統計学B	119
	経営基本論Ⅱ	157
	経済学	233
	経済原論	237
奥澤信行	地誌学概論	87
	地理学A	88
	地理学B	89
	地理学概論(前)	90
	地理学概論(後)	91
	経済地理学	236

【か　行】

担当教員名	講義内容	頁
鹿住倫世	ベンチャー起業論	167
	ベンチャー経営論	168
片岡豊	経営史Ⅰ	163
	経営史Ⅱ	164
	日本経営史Ⅰ	165
	日本経営史Ⅱ	166
金柿玲子	日本語Ⅴ	75
	日本語Ⅵ	76
	日本語Ⅶ	77
上岡條二	異文化コミュニケーション論Ⅱ	271
川越憲治	経済法	262
河原文敬	企業関係法	265
神吉尚男	政治学原論	282
神戸文朗	心理学A	120
	心理学B	121
	教育心理学	278
岸田孝弥	産業・組織心理学	184
C.アマン	フランス語Ⅰ	68
黒澤和人	数学A	142
	計数管理論	192
黒田勉	経営学	158
	経営管理総論	179
小林正人	基礎ゼミナール	58
	英語・情報リテラシー	190
小山宙丸	比較文化論A	110
	比較文化論B	111
紺野剛	会計学	211
	経営分析論Ⅰ	217
	経営分析論Ⅱ	218
今野裕昭	社会学A	114
	社会学B	115

【さ　行】

担当教員名	講義内容	頁
蔡柱國	日本事情Ⅱ(歴史・政治)	150
坂本悦子	日本語Ⅲ	73
	日本語Ⅵ	76
	日本事情Ⅲ(文化・文学)	151
佐野真	国際関係論(東欧)	245

担当教員名	講義内容	頁
佐野　真	国際関係論(ロシア)	246
	異文化コミュニケーション論Ⅰ	270
(清水)・松嶌	外国史概論	86
張　承玖	基礎ゼミナール	58
	労務管理論	180
	国際経営論	240
J.ミラー	英語・情報リテラシー	190
J.ムルアカ	特講Ⅰ(アフリカ地域研究)	274
新川清治	基礎ゼミナール	58
	英語Ⅳ(Writing)	63
	英語Ⅶ(Vocabulary)	64
菅谷　実	メディアコミュニケーション	188
	ネットワークコミュニケーション	189
	情報通信システム論Ⅰ	209
	情報通信システム論Ⅱ	210
鋤本豊博	法学　A	116
	法学　B	117
須永日信	道徳教育の研究	281
蘇田三千穂	民法	261

【た　行】

鷹野宏行	経営基本論Ⅰ	156
	会計学	212
	財務会計論	216
髙橋節子	スペイン語Ⅰ	70
	特講Ⅰ(ことばと人間)	272
高橋浩夫	国際経営論	241
高畑昭男	国際関係論(アメリカ)	251
竹島克己	スポーツ演習A	143
	スポーツ演習B	145
	健康科学	147
陳　順和	中国語Ⅰ	69
塚越千由	貿易商務論Ⅰ	254
	貿易商務論Ⅱ	255
塚原哲夫	美学　A	108
	美学　B	109
遠山　聡	商法Ⅰ	263
	商法Ⅱ	264

担当教員名	講義内容	頁
戸出正夫	保険論Ⅰ	229
	保険論Ⅱ	230
D.ワタナベ	英語Ⅰ(Oral)	60
	英語Ⅳ(Writing)	63

【な　行】

中谷陽子	心理学　A	122
	心理学　B	123
	教育本質論	277
根本昭二郎	広告論Ⅰ	222
	広告論Ⅱ	223
	商学総論Ⅱ	225
	流通論Ⅰ	227
	流通論Ⅱ	228
野間明紀	スポーツ演習A	144
	スポーツ演習B	146
	健康科学	148

【は　行】

萩原元昭	教育学　A	130
	教育学　B	131
	教育制度論	279
波多野裕造	国際関係論(概論)	243
	国際関係論(西欧)	244
針生　進	文学　B	103
樋口和彦	現代情報科学	191
	教育工学	280
	財務管理論	181
	決定の科学Ⅰ	205
	決定の科学Ⅱ	206
樋口兼次	基礎ゼミナール	58
	日本事情Ⅰ(社会・経済)	149
	地域経済論	239
	中小企業論	172
樋口・(山岸)	NPO論	171
ビジネス開発研究所	特講Ⅰ(現代企業行動論)	275
平山健太郎	国際関係論(イスラム世界)	247
	国際関係論(中東湾岸)	248

担当教員名	講義内容	頁
平山健太郎	外書講読 B	258
	時事英語 I	266
	時事英語 II	268
福岡政行	政治学 A	126
	政治学 B	127
藤井　健	基礎ゼミナール	58
	経営基本論 II	157
	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ I	169
	国際経営論	242
	多国籍企業論	253
藤井信之	マーケティング I	220
	マーケティング II	221
藤森吉之	基礎ゼミナール	58
	英語 II（英文法）	61
	英語 VIII（英語の音声）	66
	英語・情報リテラシー	190
舩田眞里子	情報管理論 I	193
	情報管理論 II	194
	情報処理演習Ａ－I	197
	情報処理演習Ａ－II	198
	経営統計学 I	207
	経営統計学 II	208
H.マルヤマ	英語 I（Oral）	60
	英語・情報リテラシー	190
細田一秋	社会心理学 A	124
	社会心理学 B	125
堀　宏	国際関係論(東北ｱｼﾞｱ)	249
	国際関係論(東南ｱｼﾞｱ)	250
	外書講読 B	259
	時事英語 I	267
	時事英語 II	269
堀　眞由美	日本事情IV(生活・風物)	152
	秘書学	170

【ま　行】

M.シャック	英語 I（Oral）	60
	英語 III（Reading）	62
松井恭子	英語VIII(英語の音声)	65
松井恭子	英語VIII(英語の音声)	66
的場哲朗	ドイツ語 I	67
	倫理学 A	92
	倫理学 B	93
	倫理学概論（前）	94
	倫理学概論（後）	95
三浦顕一郎	歴史学 A	80
	歴史学 B	81
三浦達司	生産管理論 I	182
	生産管理論 II	183
	管理工学 I	195
	管理工学 II	196
向井千代子	英語 IV（Writing）	63
	文学 A	102
村尾元忠	歴史学 A	82
	歴史学 B	83
	日本史概論（前）	84
	日本史概論（後）	85
森川信男	情報社会科学 A	128
	情報社会科学 B	129
	情報処理特論Ａ－I	201
	情報処理特論Ａ－II	202
森本三男	経営基本論 I	156
師　啓二	物理学 A	134
	物理学 B	135

【や　行】

柳川高行	経営学	159
	経営戦略論	160
	経営学史 I	161
	経営学史 II	162
	商学総論 I	224
山下勇一	情報処理演習Ｂ－I	199
	情報処理演習Ｂ－II	200
	情報処理特論Ｂ－I	203
	情報処理特論Ｂ－II	204
山田あき子	日本語 I	71
	日本語 II	72

担当教員名	講義内容	頁
山田あき子	日本語 IV	74
山田　覚	会計学	213
	簿記論	215
	会計情報システム論	219
山田徳彦	企業ネットワーク論	173
	企業論	176
	交通論	178
	外書講読 A	256
山本厚太郎	社会学 A	112
	社会学 B	113
	特講Ⅰ(地球環境論)	273
吉川　薫	経済学	234
	現代経済	238

【ら　行】

R. ポーリー	英語 I (Oral)	60
	英語 IV(Writing)	63
L.ラインボールド	英語 I (Oral)	60

【わ　行】

渡辺金愛	会計学	214
渡辺　忠	哲学 A	96
	哲学 B	97
	応用倫理	98
	哲学演習	99
	哲学概論(前)	100
	哲学概論(後)	101
	論理学	104
	批判的思考	105
	スタディ スキル をみがこう	283

年度　**履修届**　年　月　日提出

所属

氏名

住所

e-mail

TEL　携帯

1. マークにはHBかBの黒色鉛筆を使用すること（ボールペン、サインペン、万年筆は不可）。折り曲げたり汚したりしないこと。
2. 訂正する際は、消しゴムできれいに消すか、「無効」欄にマークし、別の欄に記入すること。
3. 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしないこと。

※ 曜日・時限・科目名・教員名・登録番号を記入し、開講形態［通年・前期・後期・集中］・登録番号4桁をマークすること。

学籍番号					
⓪	⓪	⓪	⓪	⓪	⓪
①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

コース
○
○
○
○

本年度履修単位数
単位

1 曜 限	2 曜 限	3 曜 限	4 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪
前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①
後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②
集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③
④④④④	④④④④	④④④④	④④④④
⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤
⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥
この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦
⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧
○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨

5 曜 限	6 曜 限	7 曜 限	8 曜 限	9 曜 限	10 曜 限	11 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪
前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①
後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②
集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③
④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④
⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤
⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥
この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦
⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧
○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨

12 曜 限	13 曜 限	14 曜 限	15 曜 限	16 曜 限	17 曜 限	18 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪
前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①
後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②
集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③
④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④
⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤
⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥
この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦
⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧
○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨

19 曜 限	20 曜 限	21 曜 限	22 曜 限	23 曜 限	24 曜 限	25 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪	通年 ○ ⓪⓪⓪⓪
前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①	前期 ○ ①①①①
後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②	後期 ○ ②②②②
集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③	集中 ○ ③③③③
④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④	④④④④
⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤	⑤⑤⑤⑤
⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥	⑥⑥⑥⑥
この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦	この欄無効マーク→ ⑦⑦⑦⑦
⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧	⑧⑧⑧⑧
○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨	○ ⑨⑨⑨⑨

白鷗大学

年度　# 履修届（教職課程）　年　月　日提出

所属

氏名

住所

e-mail

TEL　携帯

1. マークにはＨＢかＢの黒色鉛筆を使用すること（ボールペン、サインペン、万年筆は不可）。折り曲げたり汚したりしないこと。
2. 訂正する際は、消しゴムできれいに消すか、「無効」欄にマークし、別の欄に記入すること。
3. 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしないこと。

※ 曜日・時限・科目名・教員名・登録番号を記入し、開講形態［通年・前期・後期・集中］・登録番号４桁をマークすること。

学籍番号

教職課程

免許状の種類

- 高等学校「商業」
- 高等学校「公民」
- 高等学校「英語」
- 中学校「英語」
- 中学校「社会」

本年度教職単位数

単位

1 曜 限	2 曜 限	3 曜 限	4 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中
この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→

5 曜 限	6 曜 限	7 曜 限	8 曜 限	9 曜 限	10 曜 限	11 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中
この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→

12 曜 限	13 曜 限	14 曜 限	15 曜 限	16 曜 限	17 曜 限	18 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中
この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→

19 曜 限	20 曜 限	21 曜 限	22 曜 限	23 曜 限	24 曜 限	25 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中	通年 前期 後期 集中
この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→	この欄無効マーク→

白鷗大学

年度　**履修届（訂正用）**　年　月　日提出

所属

氏名

住所

e-mail

TEL　携帯

1. マークにはＨＢかＢの黒色鉛筆を使用すること（ボールペン、サインペン、万年筆は不可）。折り曲げたり汚したりしないこと。
2. 訂正する際は、消しゴムできれいに消すか、「無効」欄にマークし、別の欄に記入すること。
3. 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしないこと。

※ 曜日・時限・科目名・教員名・登録番号を記入し、開講形態［ 通年・前期・後期・集中 ］・登録番号４桁および訂正区分［ 追加 or 削除 ］をマークすること。

学籍番号					
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

コース

1 曜 限	2 曜 限	3 曜 限	4 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0
前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1
後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2
集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3
4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4
5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5
6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6
追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7
削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8
無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9

5 曜 限	6 曜 限	7 曜 限	8 曜 限	9 曜 限	10 曜 限	11 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0
前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1
後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2
集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3
4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4
5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5
6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6
追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7
削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8
無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9

12 曜 限	13 曜 限	14 曜 限	15 曜 限	16 曜 限	17 曜 限	18 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0
前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1
後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2
集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3
4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4
5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5
6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6
追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7
削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8
無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9

19 曜 限	20 曜 限	21 曜 限	22 曜 限	23 曜 限	24 曜 限	25 曜 限
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名	教員名
登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号	登録番号
通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0	通年 ○ 0 0 0 0
前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1	前期 ○ 1 1 1 1
後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2	後期 ○ 2 2 2 2
集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3	集中 ○ 3 3 3 3
4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4	4 4 4 4
5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5	5 5 5 5
6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6	6 6 6 6
追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7	追加 ○ 7 7 7 7
削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8	削除 ○ 8 8 8 8
無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9	無効 ○ 9 9 9 9

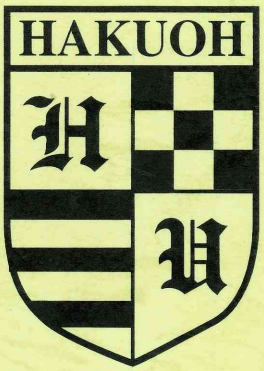
白鷗大学

履修要綱 —経営学部 ビジネスコミュニケーション学科— 2001年度

平成13年３月30日発行

編集・発行 白鷗大学事務局

栃木県小山市大行寺1117
電話(0285)22-1111（代表）



緑のチェッカーは五大陸を、
青いストライプは三大洋を表し、
広く世界を見つめる姿勢を表現しています。

白鷗大学　経営学部
〒323-8585　栃木県小山市大行寺1117
☎(0285)22-1111(代)